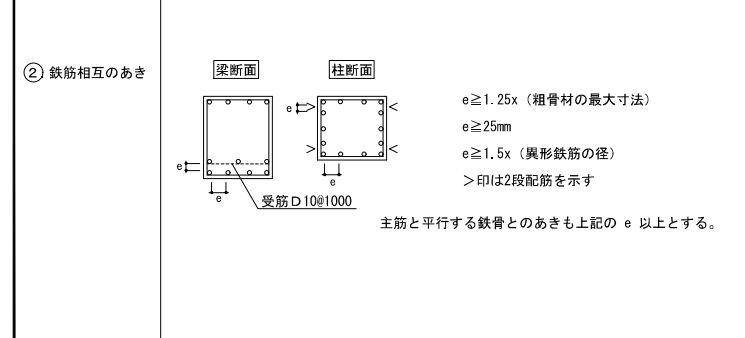
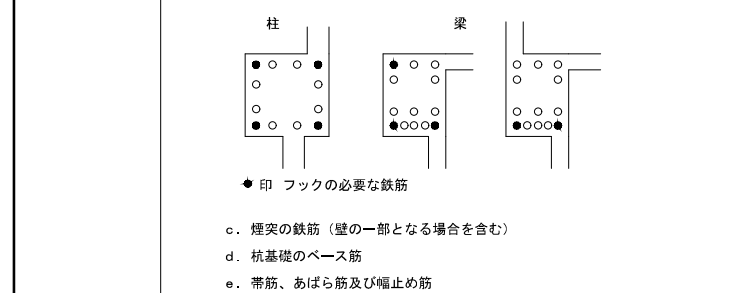


鉄筋コンクリート標準図	
適用	設計図及び構造特記仕様書に記載ある事項のほかは、この鉄筋コンクリート標準図による。 特記されていない事項は JASS5 (2022年版) による。 鉄骨鉄筋コンクリート造もこの標準図を適用する。

① 鉄筋の加工						
① 鉄筋の折曲げ						
折曲げ角度	折曲げ図	SD295 SD345	SD390	SD490	備考	
		D16以下	D19~D41	D25以下	D29~D41	
180°		3d以上	4d以上	5d以上	注) 5	注) 5
135°		3d以上	4d以上	5d以上	注) 5	注) 5
90°		3d以上	4d以上	5d以上	5d以上	6d以上
135° 90° (幅止め筋)		3d以上	4d以上	-	-	-
折曲げ角度	折曲げ図	SD295 SD345, SD390		使用箇所		
		D16以下	D19~D25	D19~D41		
90°以下		3d以上	4d以上	-	あばら筋・帯筋・スパイラル筋	
		4d以上 (5d以上)	6d以上 (6d以上)	8d以上 (8d以上)	その他の鉄筋	

※()内寸法は、SD390に適用する。

注) 1. Dは曲げ内法直径
2. dは呼び名に用いた数値
3. 壁筋の自由端の先端で90° フックまたは180° フックを用いる場合は、余長は4d以上とする。
4. 折曲げ内法直径を上表の数値よりも小さくする場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い支障ないことを確認した上で、監督職員の承認を得ること。
5. SD490の鉄筋を90°を超える曲げ角度で折曲げ加工する場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い支障ないことを確認した上で、監督職員の承認を得ること。
6. 異形鉄筋のフック必要箇所
a. 柱の四すみにある主筋で、重ね継手及び最上階の柱頭にある場合。(丸柱を除く)
b. 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合。
ただし、基礎梁を除く。



② 鉄筋の継手及び定着							
① 鉄筋の継手及び定着の長さ							
鉄筋の種類	設計基準強度 F_c (N/mm ²)	直線定着の長さ			フックあり定着の長さ		
		L1	L2	L3	L1h	L2h	L3h
SD295	18	45d	40d	小梁	スラブ	小梁	スラブ
	21	40d	35d(40d)				
	24 27	35d(40d)	30d(40d)				
SD345	18	50d	40d	注)3. [25d]	10d		
	21	45d	35d(40d)	注)3. かつ	30d	25d	
	24 27	40d	35d(40d)	20d	30d	25d	10d
SD390	18	50d	40d	150mm以上			
	21	50d	40d				
	24 27	45d	40d				

注) 1. L1, L1h: 2.以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ
2. L2, L2h: 割裂破壊のおそれのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ
3. L3: 小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ(基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁を除く)。なお、片持小梁及び片持スラブの場合は、20d及び10dを25d以上とする。
4. L3h: 小梁の下端筋のフックあり定着の長さ
5. フックあり定着の場合は、(2)に示すようにフック部分を含めない。
また、中間部での折曲げは行わない。
6. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

(イ) 直線定着の長さ (ロ) フックあり定着の長さ

(ハ) 折曲げ定着

梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ 小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ

折曲げ定着の鉄筋の定着長さLが、(1)のフックあり定着の長さ確保できない場合は、全長を直線定着の長さ以上とし、かつ余長を8d以上、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さLa又はLbを(3)に示す長さ(かつ、梁主筋の柱内定着においては、原則として柱せいの3/4倍以上)とする。

鉄筋の種類	設計基準強度 F_c (N/mm ²)	La	Lb
SD295	18	20d	15d
	21	15d	15d
	24, 27	15d	15d
SD345	18	20d	20d
	21	20d	20d
	24, 27	20d	15d
SD390	21	20d	20d
	24, 27	20d	20d
	30, 33, 36	20d	15d

(注) 1. La: 梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ(基礎梁、片持梁及び片持ちスラブを含む。)
2. Lb: 小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ(片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。)
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

② 隣合う継手の位置

圧接または溶接の場合	フックのない場合	フックのある場合	機械式の場合
$a \geq 400\text{mm}$	$a = 0.5L_1$	$a \geq 0.5L_1$	$a \geq 400\text{mm}$ かつ、 $a \geq (b+40)\text{mm}$

③ 溶接金網の継手及び定着

継手の重ね長さ 1節半以上かつ 150mm以上

定着の長さ 1節半以上かつ 150mm以上

4. スパイラル筋の継手及び定着

5. 鉄筋の最小かぶり厚さ

構造部分の種類別	最小かぶり厚さ	
	柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは下表に1.0mmを加えた数値を標準とする	20mm
土に接しない部分	スラブ、耐力壁以外の壁	仕上げあり
	柱、梁	仕上げなし
土に接する部分	柱、梁、スラブ、壁	30mm
	基礎、擁壁、耐圧スラブ	40mm
煙突など高熱を受ける部分		60mm

注) 1. *印のかぶり厚さは普通コンクリートに適用する
2. 仕上げありとは、モルタル塗りなどの仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ(仕上塗料、塗装等)のものを除く。
3. スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含めない。
4. 杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭先端からとする。
5. 柱及び梁の主筋に異形鉄筋(D29以上)を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを、径の1.5倍以上として最小かぶり厚さを定める。
6. 塩害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所には、上表は適用しない。

③ 基礎

① 基礎の配筋

(1) 直接基礎の場合 (2) 杭基礎の場合

(3) 布基礎の場合

② 基礎接合部の補強

土に接する柱部分は、増し打ち10mmとする。

注) D**は、柱主筋、梁主筋のうち小さい方と同径

梁幅	n
$b \leq 500$	3
$500 < b \leq 800$	5
$800 < b$	#200

()内はD>1000の場合を示す

④ 基礎梁

① 基礎梁筋の継手及び定着

(1) 独立基礎で基礎梁にスラブがつかない場合

(2) 独立基礎で基礎梁にスラブがつかう場合

(3) 連続基礎及びびた基礎の場合

注) 1. 印は継手位置を示す 印は余長位置を示す
2. 梁主筋のみ込み長さ(La*)は、柱せいの3/4倍以上とする。
3. 印は継手位置を示す。

(1) 連続基礎及びびた基礎の場合

(2) 杭基礎及び独立基礎の場合は、6. 2小梁筋の継手及び定着による

(1) 上記1. 2項目による
(2) 上端主筋の定着はやむを得ない場合、上向きとすることができる。
(3) 梁筋は原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。梁筋を柱内に折り曲げて定着する場合は柱せいの3/4倍以上のみ込ませる。ただし、やむを得ずは内に定着する場合は下図による。

(4) あばら筋の割付け、腹筋及び幅止め筋は6. 梁による。

⑤ 柱

① 主筋

(1) 定着 (2) 継手

かぶり厚さ

重ね継手 1500mm かつ ≥ 500

圧接継手 1500mm かつ ≥ 500

上階の鉄筋が多い場合

下階の鉄筋が多い場合

印は継手位置を示す

重ね継手 $L/2$

$ho/2+15d$

$ho/2+15d$

150mm 150mm

(3) 柱径が異なる場合の定着

(4) 最上階柱頭部の柱主筋定着が不足する場合

② 帯筋

	H形(フック付)	W-I形(溶接)	SP形(スパイラル)	既製溶接閉鎖形
形状				
溶接長さ	両面: 5d以上, 片面: 10d以上とする			

3. 副帯筋

副帯筋本数	1	2	3	
形状				H形(フック付)
形状				W-I形(溶接) SP形(スパイラル)
溶接長さ	両面: 5d以上, 片面: 10d以上とする			
形状				既製溶接閉鎖形

④ 帯筋の割付け

(1) 一般の場合

(2) 壁梁の場合

注) 1. 図示のない事項については一般の場合と同じ
2. 「柱梁接合部」の範囲は、すべての方向の梁せいが重なる範囲とする。

⑥ 梁

① 大梁筋の継手及び定着

(1) ハンチのない場合の定着

(2) ハンチのある場合の定着

注) 1. 印は余長位置を示す。
2. ハンチ沿いの端部下端筋は、原則として引通し、残りの鉄筋は柱内に定着する。
3. 梁内定着の端部下端筋が接近するときは、.....のように引通すことができる。
4. 梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は次による。
上端筋: 曲げ降ろす
下端筋(一般部): 原則として曲げ上げる
下端筋(ハンチ部): 原則として曲げ上げる
柱内定着における梁主筋の投影定着長さ(La※)は、La以上かつ、柱せいの3/4倍以上とし、折り曲げた先の直線部の長さを8d以上とする。

(3) 継手位置

注) 印は継手位置を示す

② 小梁筋の継手及び定着

連続小梁

単独小梁

注) 1. 外端になる場合の四隅の鉄筋は、大梁内に斜めに定着する。
2. 単独小梁の端部も上図外端に準ずる。

(1) 先端に小梁のない場合

注) 1. 先端の折曲げ長さは、梁せいよりかぶり厚さを除いた長さ。
2. 定着部全数引通せる場合でも、上端筋は2本以上を柱に定着する。
3. 梁主筋のみ込み長さ(La※)は、柱せいの3/4倍以上とする。

(2) 先端に小梁がある場合

注) 上端筋は、小梁内に斜めに定着する。

④ 梁筋の定着の共通事項

(1) 上記1~3項目による。
(2) 梁内に定着する場合

注) 上階に柱がある場合の定着長さはLとし、15dは必要ないものとする。

(3) 段違い梁の場合

吊上げ筋は、一般のあばら筋より1サイズ大きい鉄筋又は同径のものを2本重ねたものとする

D>100の場合は鉄筋を柱内に定着する。

⑤ あばら筋

形状	一般		溶接		既製溶接閉鎖型
	(イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)	
形状					
フック位置	交互		スラブのつく側		溶接長さ 両面: 5d以上 片面: 10d以上
備考	L型梁の場合		T型梁の場合		

⑥ ハンチ部

⑦ 副あばら筋

⑧ あばら筋の割付け

(1) 間隔が一樣でハンチのない場合

(2) 間隔が一樣でハンチのある場合

(3) 梁の端部で間隔の異なる場合

注) あばら筋は、柱面の位置から割付ける。

⑨ 腹筋及び幅止め筋

600 ≤ D < 900 900 ≤ D < 1200 1200 ≤ D ≤ 1500

注) 1. 特記外、腹筋は上図による。
2. 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10 @ 1000とする。
3. 腹筋の定着は特記外、柱内に30mm程度とする。
4. 腹筋の継手は特記外、15dとする。
5. 壁梁の腹筋は特記外、2-D13とL@200程度とし、定着は、L2とする。

⑦ 壁

① 壁筋の継手及び定着

(1) 一般壁・耐力壁

継手長さはL1とする。ただし耐力壁の場合は、継手長さをL1とする。

(2) 土圧・水圧を受ける壁

継手長さはL1とする。

② 壁配筋

(1) 一般壁配筋(開口部補強筋は3項による)

種別	厚	縦筋	横筋	備考
W10	100	D10 @ 200 シングル	D10, D13 @ 200 シングル	
W12	120	D10 @ 200 シングル	D10, D13 @ 200 シングル	
W15	150			
W18	180	D10, D13 @ 200 ダブル	D10, D13 @ 200 ダブル	
W20	200	D13 @ 200 ダブル	D13 @ 200 ダブル	
W25	250	D13 @ 200 ダブル	D13 @ 200 ダブル	
W30	300	D13, D16 @ 200 ダブル	D13, D16 @ 200 ダブル	
W35	350	D13, D16 @ 200 ダブル	D13, D16 @ 200 ダブル	
W40	400	D13, D16 @ 200 ダブル	D13, D16 @ 200 ダブル	

(2) 片持ち階段を受ける壁(開口部補強筋は3項による)

種別	厚	縦筋	横筋	備考
KW18	180	D13 @ 200 ダブル	D10, D13 @ 200 ダブル	

注) 縦筋は、横筋の外側に配筋する。

(3) 耐力壁配筋

種別	厚	縦筋	横筋	開口部補強筋
EW18	180	D10, D13 @ 200 ダブル	D10, D13 @ 200 ダブル	(A) 4-D16 (B) 4-D16 (C) —

注) KEWの縦筋は、横筋の外側に配筋する。

(1) 配筋要領

注) 縦筋は原則として上・下梁又はスラブに定着すること。

③ 壁開口部の補強

公立大学法人 滋賀県立大学
高専開設準備局 総務・施設整備課



株式会社 東畑建築事務所
TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.

設計番号 20240631-2
一級建築士 NO.272847
石井 康彦

一級建築士 NO.248486
構造設計一級建築士 NO.4009
木下 隆嗣

一級建築士 NO.334956
設備設計一級建築士 NO.4756
工藤 征志

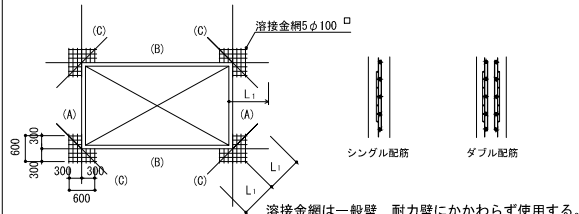
工事名称 滋賀県立高等専門学校
新築工事(第2工区)

図面名称 鉄筋コンクリート標準図 その2

縮尺 A1: -
A3: -

図面番号 S002

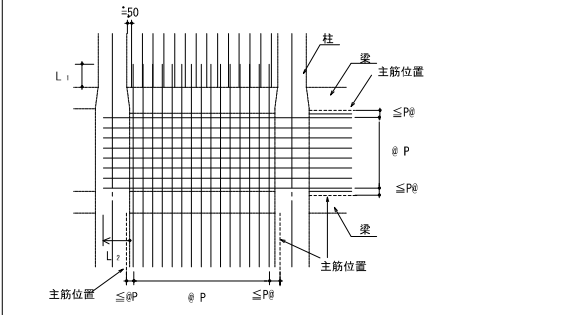
(2) 開口部補強筋



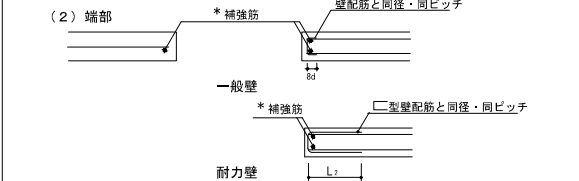
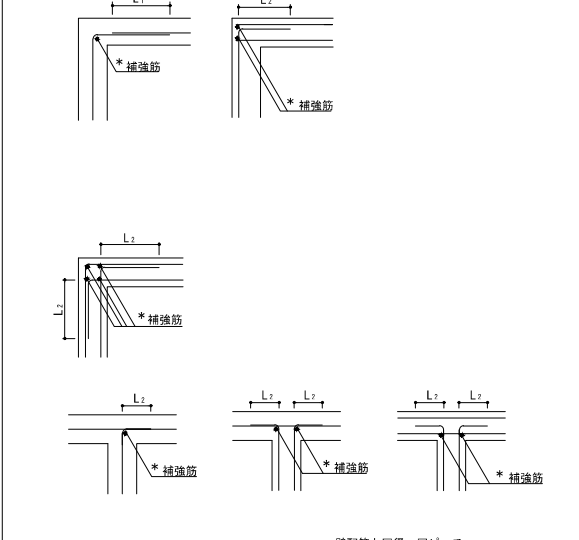
溶接金網は一般壁、耐力壁にかかわらず使用する。
溶接金網の1箇所当りの使用枚数はシングル配筋の場合には1枚、ダブル配筋の場合は2枚とする。

種別	開口部補強筋		
	縦 (A)	横 (B)	斜め (C)
一般壁			
W15	1-D13	1-D13	—
W18, W20	4-D16	4-D16	—
W25, W30	4-D16	4-D16	4-D16
W35, W40	4-D16	4-D16	4-D16
階段を受ける壁			
KW18	4-D16	4-D16	—

注) 1. 開口部の大きさが 200mm x 200mm 以下の場合で、壁配筋を切断しないとき補強筋は不要とする。(壁配筋を切断した場合の補強は特記による。)



(1) 交差部



注) 1. *補強筋とは、壁主筋の最大径かつ開口部補強筋のうち最大のものを。
2. 垂直及び水平断面を示す。

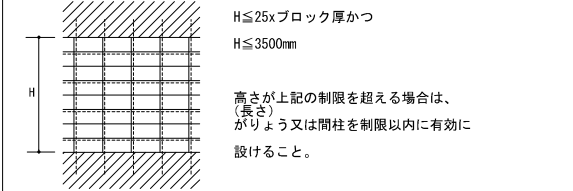
(8) 補強コンクリートブロック積み

適用箇所	重ね継手の長さ	定着の長さ
耐力壁・一般部分の配筋	45d	40d
開口部周囲の配筋、隅角部の横筋	40d	40d
帳壁・ブロックべい	40d	40d*

*帳壁配筋の構造体部分への定着長は 25dとする。
1. 主筋に継手を設けてはならない。ただし、帳壁主筋に両面5d又は片面10d以上のアーク溶接を行う場合は、継手を設けることができる。
2. 鉄筋に対するコンクリート、又はモルタルのかぶり厚さは20mm以上とする。
3. 壁配筋

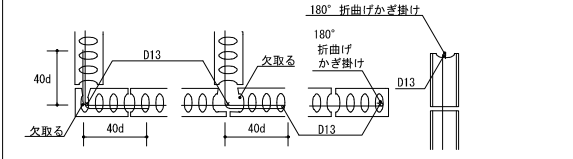
縦筋	横筋	開口部補強筋(縦筋)	端部補強筋
D10@400*	D10 @400	1-D13	1-D13

*外壁縦筋はD13@400とする。

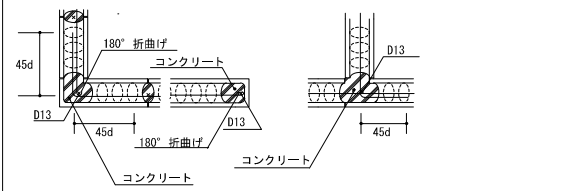


(2) 高さ制限

(3) 交差部、端部、開口部の配筋(帳壁の場合)



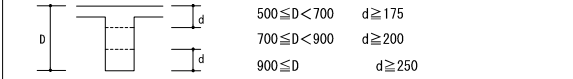
(4) 交差部、端部、開口部の配筋及び取合い部(耐力壁の場合)



(9) 梁貫通孔補強

(1) 共通事項

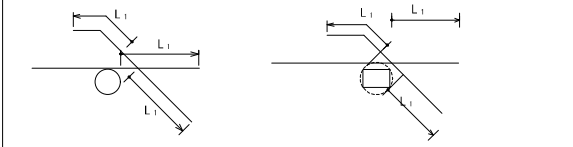
- 孔が円形でない場合は、外接円におきかえる。
- 孔の径は、梁せいの1/3以下とする。
- 孔の上下方向の位置は、梁せいの中心付近とし下記のよう。



- 孔の中心位置は柱面から1.5D以上はなすことを原則とする。

- 孔が並列する場合は、その中心間隔は孔の径の平均値の3倍以上とする。

- 補強筋は原則として主筋の内側とする。
- 鉄筋の定着長さ。



- 縦筋及び上下縦筋はあばら筋の形に配筋する。
- 孔の径が、梁せいの1/10以下かつ150mm未満のものは、補強を省略することができる。但し、スターラップを切断する場合は補強を行うこと。
- 原則として梁貫通孔補強は、2. 梁貫通孔補強要領(1)による。

(2) 梁貫通孔補強要領(1)

- 溶接金網等を用いた既製開口補強金物とする。
- 設計条件：無孔梁の部材せん断耐力をもとに検討する。
せん断終局強度式・min式(0.053)・mean式(0.068)
特記外、せん断スパン比(M/Qd)は下記による。

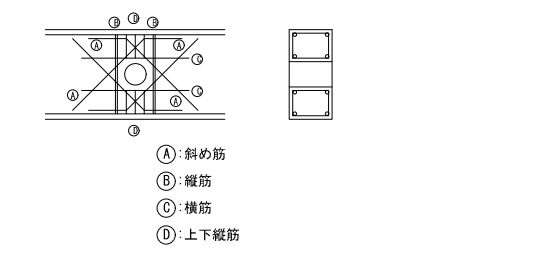
部位	孔径	箇所数	備考
基礎梁・小梁	φ75	4	代表断面：tB55A
	φ100	50	代表断面：tB55A
	φ125	3	代表断面：tB55A
	φ150	30	代表断面：tFG11
		68	代表断面：tFG11

(3) 学生寮

基礎梁	孔径	箇所数	代表断面
φ150	90	2	代表断面：rFG2
	90	2	代表断面：rFG12
地上梁・小梁	φ75	2	代表断面：rB65
	φ100	10	代表断面：rB70
		33	代表断面：r2G2
		33	代表断面：r2G13
φ125	2	代表断面：rRG2	
	2	代表断面：rRG5	
φ150	40	代表断面：r2G2	
	40	代表断面：r2G13	
	40	代表断面：rRG2	
	39	代表断面：rRG13	
φ200	11	代表断面：r2G3	
	10	代表断面：rRG3	

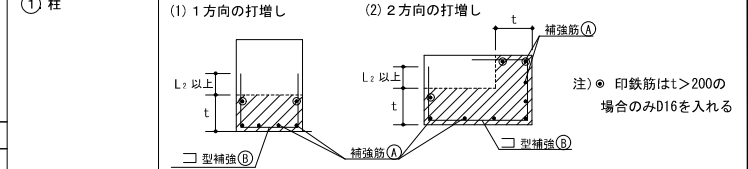
3. 梁貫通孔補強要領(II)

- 鉄筋加工：組立てによる梁貫通孔補強とする。
- 配筋要領図

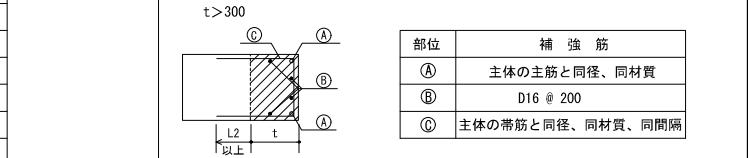


部位	孔径	箇所数	貫通孔補強筋				備考
			(A)	(B)	(C)	(D)	

(10) 柱・梁の増打補強筋



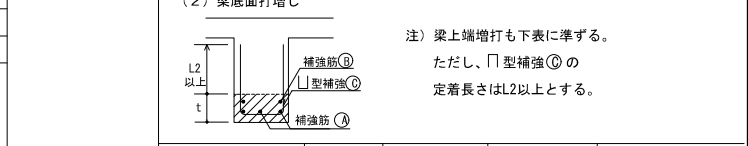
部位	t<70	70 ≤ t ≤ 150	150 < t ≤ 200	200 < t ≤ 300
(A)	補強不要	D13 @ 300	D16 @ 300	D16 @ 200
(B)	補強不要	主体の帯筋と同径、同材質、同間隔		



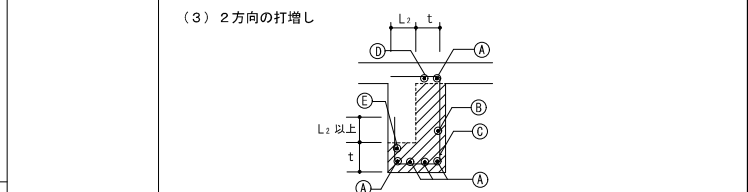
部位	t<70	70 ≤ t ≤ 150	150 < t ≤ 200	200 < t ≤ 300
(A)	補強不要	D13	D16	D16
(B)	補強不要	D10 @ 300	D10 @ 200	D13 @ 200
(C)	補強不要	主体のあばら筋と同径、同材質、同間隔		



部位	t<70	70 ≤ t ≤ 150	150 < t ≤ 200	200 < t ≤ 300
(A)	補強不要	D16 @ 300	D16 @ 300	主体の主筋と同径、同材質、高径質@200
(B)	補強不要	なし	D10	D10 @ 200
(C)	補強不要	主体のあばら筋と同径、同材質、同間隔		



部位	t<70	70 ≤ t ≤ 200	200 < t ≤ 300	300 < t
(A)	補強不要	D16 @ 300	D16 @ 300	主体の主筋と同径、同材質、高径質@200
(B)	補強不要	なし	D10	D10 @ 200
(C)	補強不要	主体のあばら筋と同径、同材質、同間隔		



部位	t<70	70 ≤ t ≤ 200	200 < t ≤ 300	300 < t
(A)	補強不要	D16 @ 200	D16 @ 200	主体の主筋と同径、同材質、高径質@200
(B)	補強不要	6. 梁のφによる		D16 @ 200
(C)	補強不要	主体のあばら筋と同径、同ピッチ	D13 @ 200	主体のあばら筋と同径、同ピッチ
(D)	補強不要	なし	D16	D16 @ 200
(E)	補強不要	なし	D10	D10 @ 200

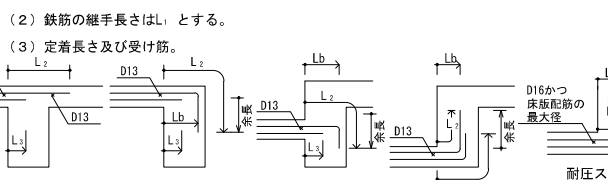
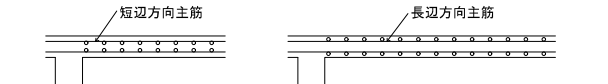
部位	t<50	50 ≤ t ≤ 200	t<200
縦筋	補強不要	D10 @ 200	壁筋と同径、同ピッチ
横筋	補強不要	D10 ピッチは壁横筋に同じ	壁筋と同径、同ピッチ
(A)	補強不要	D13	壁主筋の1サイズアップ

- 補強筋の定着長さはL2以上とする。
- 補強筋の継手長さはL1とする。
- 柱・梁主筋、及び耐力壁配筋は原則として増打部分には定着しないこと。

1. 床版

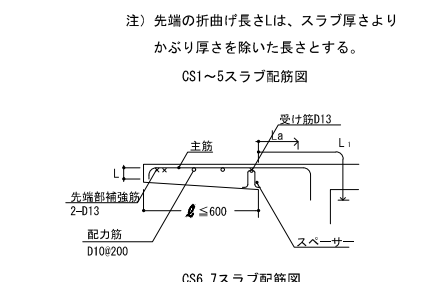
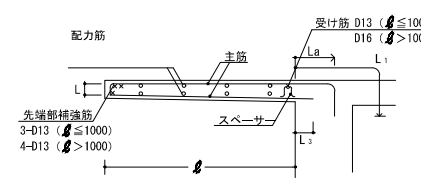
1 S形配筋表

配筋種別	短辺方向・主筋		長辺方向・配力筋		配筋種別	短辺方向・主筋		長辺方向・配力筋	
	全域	全域	全域	全域		全域	全域	全域	
S1	上 下	D13 @100	D13 @100	D13 @100	S9	上 下	D10, D13@150	D10 @200	D10 @200
S2	上 下	同上	D13 @150	D13 @150	S10	上 下	D10, D13@200	D10, D13@200	D10, D13@200
S3	上 下	同上	D10, D13@150	D10, D13@150	S11	上 下	同上	D10 @200	D10 @200
S4	上 下	D13 @150	D13 @150	D13 @150	S12	上 下	同上	D10 @250	D10 @250
S5	上 下	同上	D10, D13@150	D10, D13@150	S13	上 下	D10 @200	D10 @200	D10 @200
S6	上 下	同上	D10 @150	D10 @150	S14	上 下	同上	D10 @250	D10 @250
S7	上 下	D10, D13@150	D10, D13@150	D10, D13@150					
S8	上 下	同上	D10 @150	D10 @150					

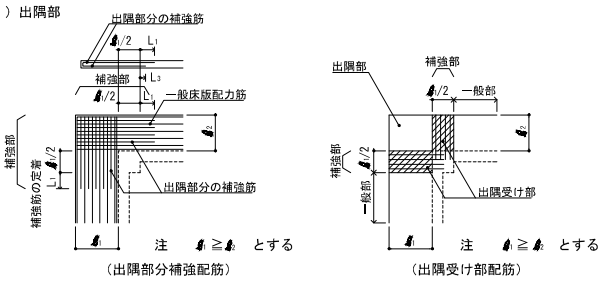


2 C形配筋表

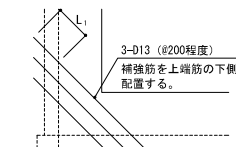
配筋種別	主筋	
CS1	上 下	D13 @100 D13 @200
CS2	上 下	D13 @150
CS3	上 下	D10, D13 @150
CS4	上 下	D10, D13 @200 D10 @200
CS5	上 下	D10 @200 D10 @400
CS6	上 下	D10, D13 @200



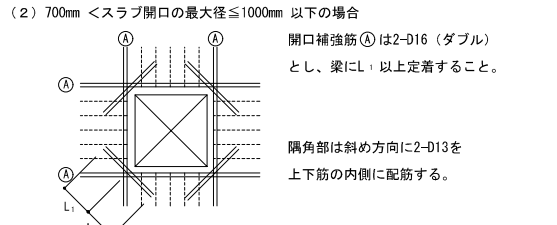
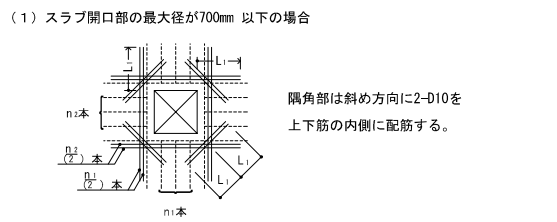
3 片持ちスラブの出隅及び入隅部分の補強



4 片持ちスラブの目地部配筋

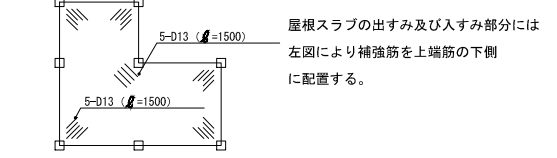


4 スラブ開口部の補強

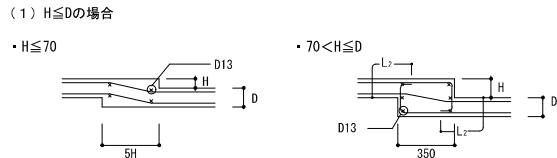


注) スラブ開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強不要とする。

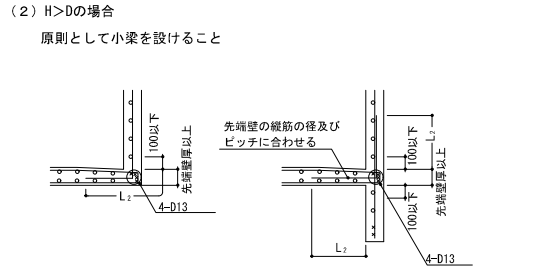
5 屋根スラブの補強



6 スラブに段差がある場合の補強

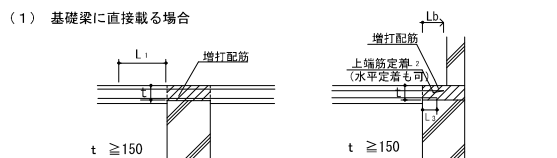


7 先端に壁が付く場合

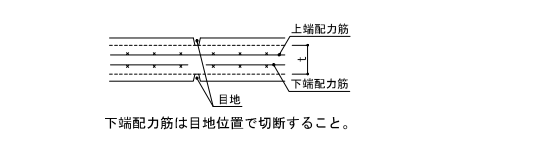


8 土間スラブ等の打ち継ぎ補強

基礎梁とスラブを一体打ちしない場合の補強は下記による。(土間スラブとは、土に接する構造スラブでS形の配筋をするものをいう。)



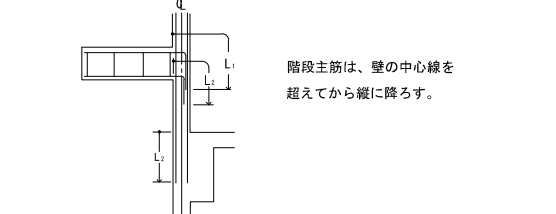
9 片持ちスラブの目地部配筋



2. 階段

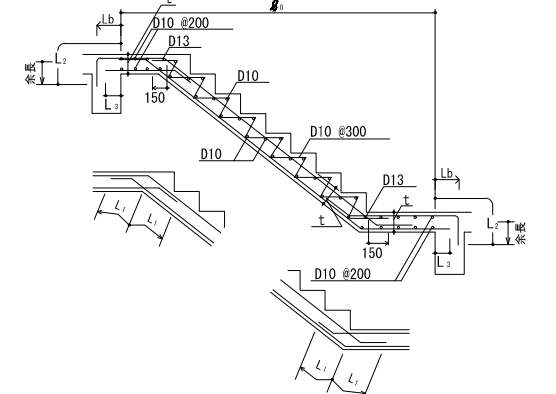
1 片持ち床版形

スパン(mm)	$\ell \le 1500$	$1500 < \ell \le 2000$	備考
配筋種別	KA1	KA2	$t \ge 180$
配筋図			
踊場	D13 @200 ダブル 厚 150	厚	壁配筋は片持ち階段を受ける壁 KW 又は縦筋が D13 @200 ダブル以上とする。
配筋種別	KA3	KA4	
配筋図			
踊場	D13 @200 ダブル 厚 150	厚	



2. 二辺固定床版形

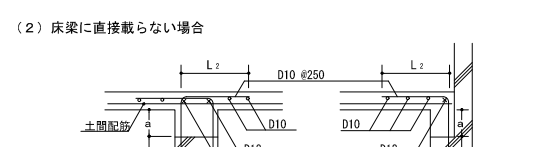
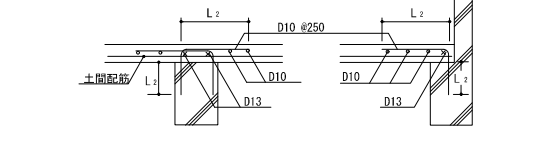
配筋種別	スパン(mm)	床版厚 t(mm)	全域	
			上端筋	下端筋
KB1	$\ell \le 3000$	150	D13@200	D13@200
KB2	$3000 < \ell \le 3500$	150	D13@150	D13@150
KB3	$3500 < \ell \le 4000$	150	D13@100	D13@100
KB4	$4000 < \ell \le 4500$	180	D13, D16@150	D13, D16@150
KB5	$4500 < \ell \le 5000$	180	D16@150	D16@150
KB6	$5000 < \ell \le 5500$	180	D16@125	D16@125
KB7	$5500 < \ell \le 6000$	200	D16@100	D16@100



1.3 土間コンクリート

1. 配筋 特記外、D10 @250 シングル配筋とする。

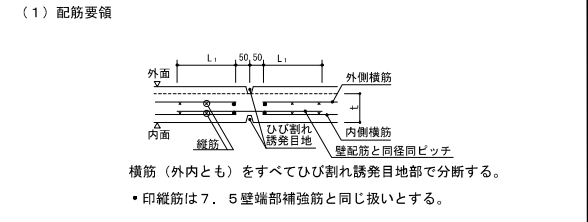
2 補強筋



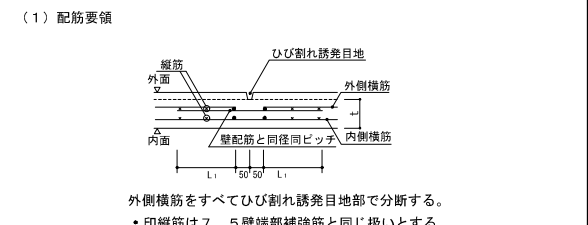
a > 300の場合は10. 増打補強を適用する。

1.4 外壁ひび割れ誘発目地部配筋及び耐震スリット

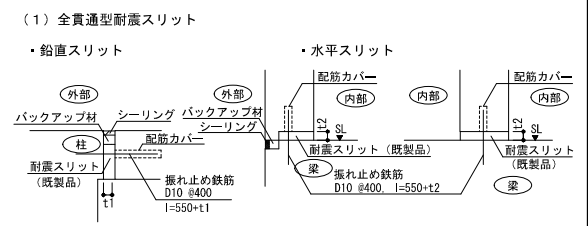
1 一般壁



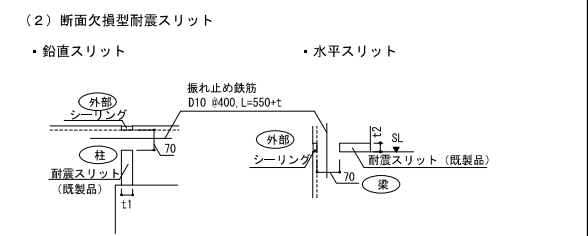
2 耐力壁



3 耐震スリット



t1はスリット高さの1/100以上、かつ、20mmとする。 t2: ※25mm

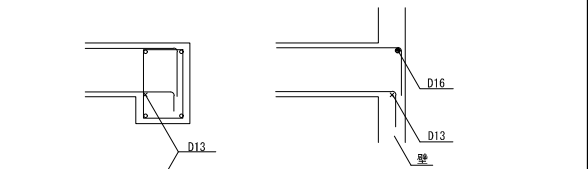


t1は柱内法高さの1/100以上とする。 t2: ※25mm

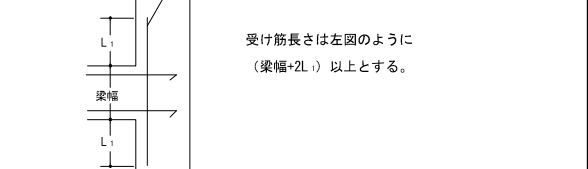
(3) 耐震スリットの仕様
・耐火構造の外壁及び防火区画の壁に設ける耐震スリットは耐火仕様とする。
・外壁に設ける場合は、防水仕様とする。

1.5 受け筋

1 梁の場合



2 スラブの場合



鉄骨標準図

1. 適用
設計図書及び構造特記仕様書に記載ある事項のほかは、この鉄骨標準図による。

2. ボルト及び高力ボルト接合

(1) 縁端距離及びピッチ

ボルト軸径	縁端距離 e (mm)	ピッチ p (mm)
M16	40	60
M20		
M22		
M24	45	70

注) 引張材の接合部において、せん断を受けるボルトが応力方向に3本以上並ばない場合、応力方向の縁端距離はボルト軸径の2.5倍以上とする。

(2) 千鳥打ちのゲージ及び間隔

ゲージ g (mm)	千鳥打ちの間隔 b (mm)	
	使用ボルト軸径 (mm)	
16, 20, 22	16	24
35	50	65
40	45	60
45	40	55
50	35	50
55	25	45
60	-	40

p: ピッチ

(3) 形鋼のゲージ

A 或いは B	g ₁	g ₂	最大軸径	B	g ₁	g ₂	最大軸径	B	g ₃	最大軸径
40	22		10	100	60		16	40	24	10
45	25		12	125	75		16	50	30	12
50	30		16	150	90		22	65	35	20
60	35		16	175	105		22	70	40	20
65	35		20	200	120		24	75	40	22
70	40		20	250	150		24	80	45	22
75	40		22	300	150	40	24	90	50	24
80	45		22	350	140	70	24	100	55	24
90	50		24	400	140	90	24			
100	55		24							
125	50	35	24							
130	50	40	24							
150	55	55	24							
175	60	70	24							
200	60	90	24							

特記外、上表のゲージはビルトアップ材にも適用する。

(4) ボルト類の公称軸径に対する穴径 d: 公称軸径 単位 mm

種別	穴径	適用範囲
高力ボルト	d+2.0	d<27
	d+3.0	27≤d≤30
普通ボルト	d+0.5	-
アンカーボルト	d+5.0	-

溶融亜鉛めっき高力ボルトのめっき前の孔径は大臣認定による。

3. はり貫通孔の補強

SRC梁

(1) 貫通孔の条件

H: 鉄骨せい
D: はりせい
φ: 貫通孔内径寸法
H₁ ≥ 125mm
φ ≤ 1/2 H かつ φ ≤ 1/3 D

(2) 補強プレート法

補強プレート厚 tp は式による
tp ≥ (φ + 2ts) t w / (l₂ - 40 - φ - 2ts)

貫通孔 φ (mm)	鋼管スリーブ (mm)	内径寸法 (mm)	補強プレート (tp)	箇所数	備考
100	φ114.3x4.5	105.3			
125	φ139.8x5.0	129.8			
150	φ165.2x5.0	155.2			
175	φ190.7x5.3	180.1			
200	φ216.3x5.8	204.7			
250	φ267.4x6.6	254.2			
300	φ318.5x6.9	304.7			

注) 特記外鋼管スリーブの材質はSTK400とする。
補強プレートの材質は母材と同材質とする。

(3) 補強トラス法

補強トラス材の幅はフランジ幅とする。

貫通孔 φ (mm)	補強トラス用板厚 (mm)	材質	箇所数	備考

S造梁

(1) 貫通孔の条件

H: 鉄骨せい
φ₁ > 貫通孔内径寸法
H₁ ≥ 125mm
H₂ ≥ 125mm
貫通孔の位置は柱面から1.2 x H以上離すこと

P ≥ (φ₁ + φ₂)
φ₁ ≤ 1/2 H かつ A ≤ 0.16 PH
φ₂ ≤ 1/2 H
A = 1/2 (π/4 φ₁² + π/4 φ₂²)

(2) 補強プレート法

補強プレート厚 tp は式による
tp ≥ φ × t w / (l₂ - 40 - φ)

貫通孔 φ (mm)	補強プレート (tp) (注1)	材質 (注2)	箇所数	備考
【実習工場・実験室様】				
100	9	SN490B	63	代表断面: 2G14
150	9	SN490B	113	代表断面: 2G14
250	12 (両面)	SN490B	42	代表断面: 2G14
300	16 (両面)	SN490B	15	代表断面: 2G14

注1) 特記がない場合片面とする。
上表の補強は、代表断面に補強する場合を示し、実際の貫通孔を設ける梁断面毎に上記の式により tp を算出すること。
注2) 補強プレートの材質は母材と同材質とする。

(3) 補強トラス法

補強トラス材の幅はフランジ幅とする。

貫通孔 φ (mm)	補強トラス用板厚 (mm)	材質	箇所数	備考

4. 鉄筋貫通孔の径

鉄筋径 (mm)	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
貫通孔径 (mm)	21	24	28	31	35	38	43	46

5. アンカーボルト定着要領

アンカーボルト定着要領図

定着長及び形状

フックタイプ

定着板947

ダブルナット
座金
基礎上面
L
Dはd 16以下 3d
d 19以上 4d
※ L=40d ()
・ L=30d ()
・ L=25d ()

定着板 ()
※ L=30d ()
・ L=25d ()
・

座金の穴径は (d+0.5mm)、ベースプレートに溶接のこと

工事名称 滋賀県立高等専門学校
新築工事(第2工区)

図面名称 鉄骨標準図

図面番号 S005

縮尺 A1: -
A3: -

溶接規準図			
適用		設計図書及び構造特記仕様書に記載ある事項のほかは、この溶接規準図による。特記のない事項はJASS6による。	
1. 溶接継手標準			
(1) 突合せ溶接 (単位 mm)			
種別	アーク手溶接・ガスシールドアーク半自動溶接及びノンガスシールドアーク半自動溶接 (H)		サブマーシアーク自動溶接 (A)
	1. 片面溶接	2. 両面溶接	1. 片面溶接 2. 両面溶接
突合せ継手 (B)	$t \leq 6$		$t \leq 12$
	$6 < t \leq 19$		$12 < t \leq 22$
	$19 < t \leq 40$		$22 < t \leq 40$
	$t \leq 6$		$t \leq 12$
	$6 < t \leq 19$		$12 < t \leq 22$
	$19 < t \leq 40$		$22 < t \leq 40$
	$t \leq 6$		$t \leq 12$
	$6 < t \leq 19$		$12 < t \leq 22$
	$19 < t \leq 40$		$22 < t \leq 40$
	$t \leq 6$		$t \leq 12$
$6 < t \leq 19$		$12 < t \leq 22$	
$19 < t \leq 40$		$22 < t \leq 40$	
$t \leq 6$		$t \leq 12$	
$6 < t \leq 19$		$12 < t \leq 19$	
$19 < t \leq 40$		$19 < t \leq 40$	
$t \leq 6$		$t \leq 12$	
$6 < t \leq 19$		$12 < t \leq 19$	
$19 < t \leq 40$		$19 < t \leq 40$	
$t \leq 6$		$t \leq 12$	
$6 < t \leq 19$		$12 < t \leq 19$	
$19 < t \leq 40$		$19 < t \leq 40$	

(2) すみ肉溶接 (単位 mm)	
1. 片面溶接	2. 両面溶接
$t \leq 16$	$t \leq 16$ $16 < t \leq 40$
t 6 9 12 16 S 5 7 9 12	t 6 9 12 16 S 5 7 9 12 t 19 22 25 28 32 36 40 S 11 13 15 17 19 21 24
(3) 部分溶込み溶接 (単位 mm)	
1. 片面溶接	2. 両面溶接
$12 \leq t \leq 40$	$16 \leq t \leq 40$
t 12 16 19 22 25 28 32 36 40 D 10 11 12 13 13 14 15 15 16	t 12 16 19 22 25 28 32 36 40 D 10 11 12 13 13 14 15 15 16
(4) フレア溶接	
1. 片面溶接	2. 両面溶接
$d/2$ $d/2$	$d/2$ $d/2$
d d	$d/2$ $d/2$
$t \geq 3$ のとき $S=t$ $t < 3$ のとき $S=3$	$t \geq 3$ のとき $S=t$ $t < 3$ のとき $S=3$
(5) 鋼管分岐継手詳細	
A 部断面	B 部断面
C 部断面	

(5) 注記事項	
イ) 突合せ溶接	
a 原則として両面溶接とする。	
b 突合せ溶接における両面溶接は、原則として裏はつりを行う。裏はつりは、健全な溶着部分が現れるまではつり取った後、裏溶接を行う。ただし、自動溶接において完全溶込みが得られる場合は、裏はつりを省略してもよい。	
c 片面溶接に用いる裏あて板の溶接は、連続すみ肉溶接とする。裏あて板の材質は、原則として母材と同材質とする。	
裏あて板の厚さ及び溶接	
裏あて板の厚さ (mm)	溶接のサイズ (mm)
溶接工法	t
手溶接	6以上
半自動溶接	9以上
自動溶接	12以上
※下フランジの下側に取付ける裏あて板と柱フランジの接点の溶接はしてはならない。	
ロ) すみ肉溶接	
a 設計図書に表す溶接長さの寸法は、有効長さとし、すみ肉のサイズの10倍以上とする。ただし、有効長さはビードの始点及びクレータを除いた部分の長さとする。	
ハ) 部分溶込み溶接	
a 片面溶接の場合、原則として開先をとらない側にも補強すみ肉溶接を行う。(S)は補強すみ肉溶接のサイズを示す。	
ニ) アンダーカット	
a 溶接部のアンダーカットは 0.3mm以下とする	
2. 溶接施工	
1. エンドタブ	原則としてエンドタブを使用し、材質は母材と同等以上、形状は、母材と同厚・同開先のものを用いる。溶接技能者はAW検定協議会の工場溶接（鋼製エンドタブ）資格保有者とする。但し、代替タブを用いる場合はAW検定協議会の工場溶接（代替エンドタブ）資格保有者とする。
	エンドタブの長さ
	溶接工法
	手溶接
	半自動溶接
	自動溶接
2. スクラップ	(1) 改良スクラップ形式
	$r_1=35$ $r_2=10$
	(2) ノンスクラップ形式
	$r_1=35$ $r_2=10$
	(3) 現場溶接の下フランジ部スクラップ形状
	ロールH
	ビルトH
	寸法 (mm)
	T 25 28 32 36 40
	A 5 5 10 15 15
	(4) スニップカット
	スニップカットの寸法 (単位 mm)
	t 6 9 12 16以上
	S_c 10 12 14 15

4. 余盛り	
突合せ継手・かど継手・すみ肉溶接及びフレア溶接の溶接部には、余盛りを行い、その高さの限度は下表による。	
溶接工法	突合せ継手・かど継手
手溶接	3mm以下
半自動溶接	4mm以下
自動溶接	4mm以下
3mm以下	
5. 溶接板の段差	
突合せ継手において、突合わせる部材の板厚に差があり、段差が10mmを超える場合、クレーンガーダーのように低応力高サイクル疲労を受ける場合には、厚い方の材を1/2.5以下の傾斜に加工し、開先部分で薄い方と同一高さとする。	
	段差: $t-t$ ($t > t$)
6. ハンチ部などの溶接	
ハンチ部などのT形継手において、溶接板が直交しない場合は下図を標準とする。	
	$1/4t \leq S \leq 10$
7. 入熱バス間温度	
溶接金属としての性能とワイヤの規格	
溶接条件	鋼材の種類
入熱 (kJ/cm)	バス間温度 (°C)
400N級	490N級
520N級	400N級STKR BCR及びBCP
490N級STKR及びBCP	
1 ≤ 20	≤ 150
2 ≤ 30	≤ 250
3 ≤ 40	≤ 350
YGM-11, 15, 18, 19	YGM-11, 15, 18, 19
YGM-18, 19	YGM-11, 15, 18, 19
YGM-18, 19	YGM-18, 19
YGM-11, 15, 18, 19	YGM-11, 15, 18, 19
YGM-18, 19	YGM-18, 19
8. その他	
(1) 回し溶接を行うこと。	
(2) 不等脚すみ肉溶接は行わない。	
3. 検査事項	
1. 溶接施工前	(1) はだ付き (2) 開先の形状及び寸法 (3) ルート間隔 (4) 溶接面の清掃の良否
2. 溶接施工中	(1) 溶接順序 (2) 溶接棒の直径と電流 (3) 運棒法・アークの長さ及び溶込みの状態 (4) 各層間のスラッグの清掃 (5) 溶かせ溶接の裏はつり 注) 特に一層目の溶接には注意すること。
3. 溶接終了後	(1) ビード表面の整否 (2) すみ肉の大きさ・突合せ溶接の余盛寸法 (3) スラッグ巻込みの有無 (4) 回し溶接の確認 (5) スパッタの除去 (6) アンダーカット・オーバーラップ・ビッド・われ・クレータの状態

S造向け 型枠用デッキプレート

設計・施工標準

1. 製品・材料

(1) 質量および断面性能

品名	板厚 (mm)	質量 (Z12の場合) Kg/m	質量 (Z12の場合) Kg/m ²	断面二次モーメント I (10 ⁴ mm ⁴ /m)	断面係数 Z (10 ³ mm ³ /m)
SF08	0.8	7.90	12.5	120	18.7
SF10	1.0	9.80	15.6	150	24.4
SF12	1.2	11.7	18.6	180	29.4
SF14	1.4	13.6	21.6	206	34.4
SF16	1.6	15.4	24.4	232	39.3
KP-ES-T	0.8	5.89	10.1	12.2	9.8

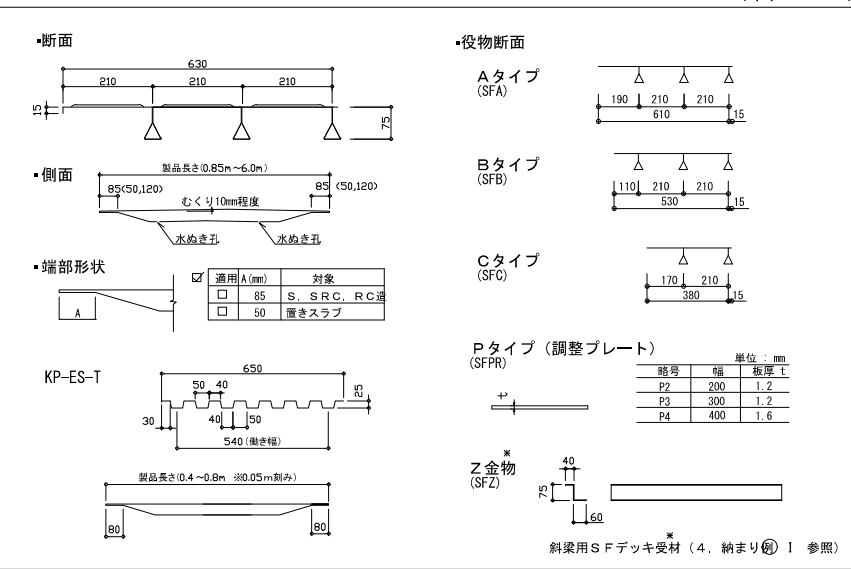
備考 断面二次モーメントは全断面有効の値である。
断面係数は、有効幅 (=50t) を考慮した値である。

(2) 使用材料

表面処理	最小付着量 (g/m ²)	使用材料	適用板厚
Z12	120	SGCC-Z12	1.4mm以下
		SGHC-Z12	1.6mm
Z27	275	SGCC-Z27	1.4mm以下
		SGHC-Z27	1.6mm

*SF1について、Z27をご希望の場合は予め御相談下さい。
*KP-ES-T及びSFZについては、Z27の製品はありません。

(3) 形状寸法

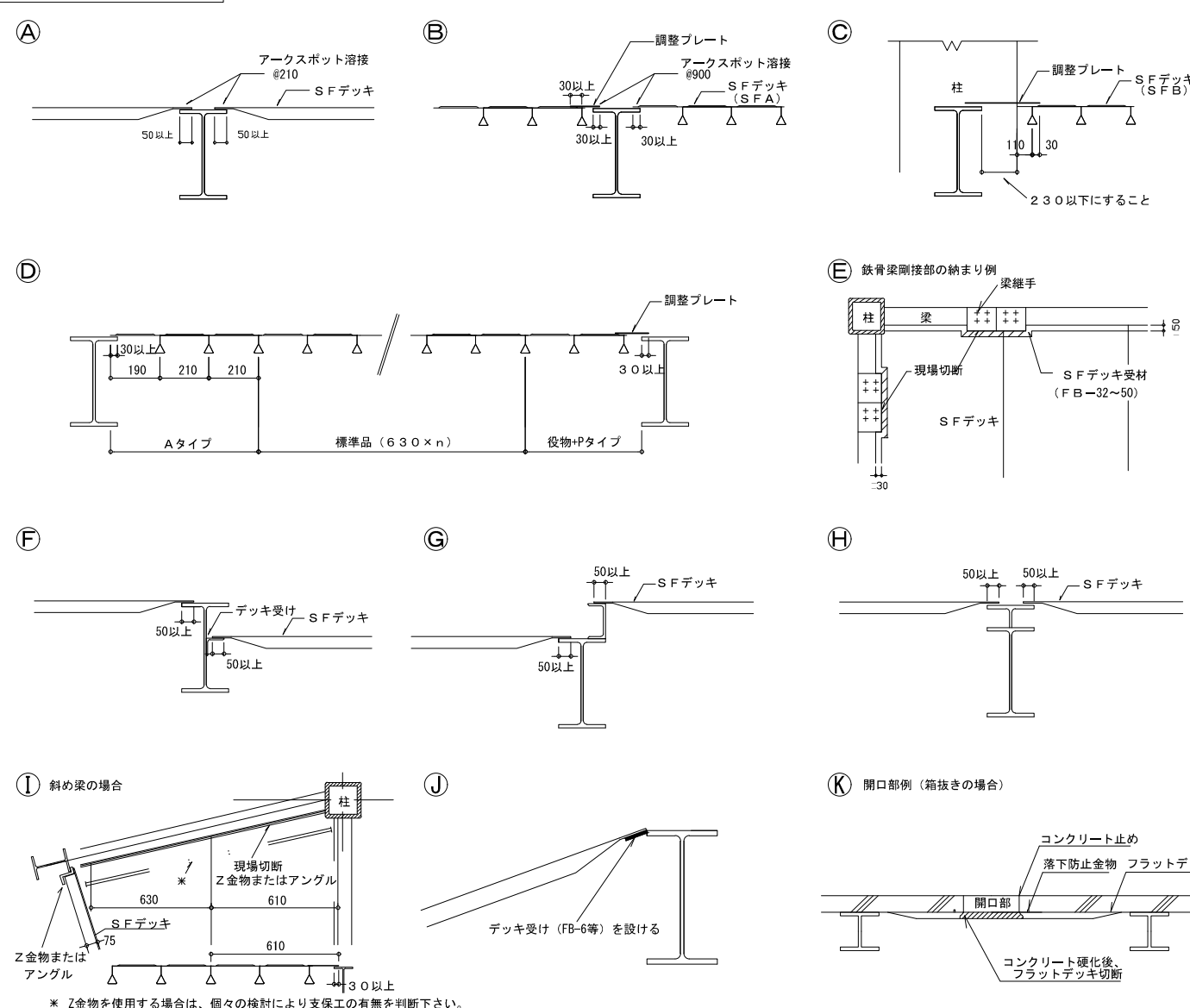


*溝部換算スラブ厚さは、KP-ES-T 12mmです。
※改良等のため予告なく仕様を変更する場合がありますのでご了承下さい。

3. 施工手順

項目	施工要領	項目	施工要領
1. 計画	(1) 工法、応力、たわみを確認し、割付図 (施工図) を作成する。 (2) 鉄骨や型枠の工程を十分考慮して施工計画を立てる。	4. 切断・孔明け	(1) 切断はガス、プラズマ、電動のこ、グラインダー等を、また、孔明けはホールソー、ドリル等を使用してSFデッキの材質・形状を損なわないよう行う。 (2) SFデッキを切断する場合、下部作業の安全、他デッキ・梁等の養生に十分留意する。 (3) スリール等の開口は原則箱抜き型枠とし、コンクリート硬化後にSFデッキを切断する。
2. 搬入・養生	(1) SFデッキにワイヤー傷、あて傷がつかないように、また、SFデッキの形状保持、防錆、安全に十分注意を払って搬入、養生する。 (2) 鉄骨梁や型枠の上に置き置きする場合、過度の荷重がかからないよう分散配置し、また、梁から落下しないよう十分養生する。	5. その他	(1) 中間サポートをする場合、大引きがデッキのむくりに拘束しないよう設置する。 (2) デッキパンが短くスラブが極厚の場合、デッキ端部の強度や中間サポートする場合の大引きに対するデッキリブ底面の支圧強度を事前に確認する。
3. 敷き込み	<S造> (1) 敷込み前に必ず梁上を清掃する。 (2) 柱回り、梁接合部にてデッキ受け材が施工図通り取り付けられているか確認する。 (3) 割付図に従いSFデッキを不陸のないように敷き込む。 (4) SFデッキをアークスポット溶接により梁へ接合する。 (5) SFデッキ (標準品) 相互の接合は差込み方式になるので通常の場合、溶接は必要ないが、スパンが大きい場合や、デッキ相互の馴染みが良くない場合は必要に応じて溶接する。 (6) SFデッキ (標準品) と役物・調整プレートとの接合部はアークスポット溶接する。		

4. 納まり例 (S造)



* Z金物を使用する場合は、個々の検討により支保工の有無を判断下さい。

2. 設計・資料

(1) 断面応力およびたわみの算定

a. 断面応力の算定
フラットデッキに作用する最大曲げモーメント (M) の算定式は下式による。
 $M = (1/8) \cdot W \cdot L^2 \times 10^{-3}$ (N・mm/m)
W: 施工時の鉛直荷重 (N/m²)
L: スパン長さ (m)
断面応力 (σ) の算定式は下式による。
 $\sigma = M / Zt$ (N/mm²)
M: 最大曲げモーメント (N・mm/m)
Zt: 正曲げ用断面係数 (有効幅考慮) (mm³/m)

b. たわみの算定
たわみ (δ) の算定式は下式による。
 $\delta = (C \cdot 5 \cdot W \cdot L^4) / (384 \cdot E \cdot I) \times 10^{-5}$ (mm)
C: たわみ算定用係数 (C=1.6)
E: 鋼材のヤング係数 (205,000N/mm²)
I: 断面二次モーメント (全断面有効) (mm⁴/m)

【スラブ厚さ別許容スパン早見表】

施工時作業荷重 1.470N/m² 単位: mm (ただし10mm単位で切捨て表示)

スラブ厚さ (mm)	支持区分 施工状況の 種類	許容スパン (mm) 【中間支保工なし】						許容スパン (mm) 【中間支保工あり】			
		S造のI類						S造のI類			
	板厚 (mm)	0.8	1.0	1.2	1.4	1.6	KP-ES-T	0.8	1.0	1.2	KP-ES-T
普通 コン クリ ート	120	2,610	2,870	3,040	3,160	3,270	800	4,370	4,900	4,900	800
	130	2,540	2,830	2,990	3,110	3,220	△	4,150	△	△	△
	140	2,480	2,790	2,940	3,060	3,170		3,950			
	150	2,420	2,750	2,900	3,020	3,130		3,770			
	160	2,370	2,700	2,860	2,980	3,080		3,600			
	170	2,320	2,640	2,820	2,940	3,040		3,450			
リ ー ト	180	2,270	2,590	2,790	2,900	3,010		3,310	4,900		
	190	2,230	2,540	2,750	2,870	2,970		3,180	4,750		
	200	2,180	2,490	2,720	2,830	2,940		3,060	4,570		
	250	2,000	2,290	2,500	2,690	2,790		2,570	3,850	4,900	
	200	1,860	2,120	2,330	2,510	2,660	800	2,220	3,330	4,420	800
	24 kN/m ²	300	1,860	2,120	2,330	2,510	2,660	800	2,220	3,330	4,420
軽 量 コン クリ ート	120	2,760	2,980	3,140	3,270	3,390	800	4,900	4,900	4,900	800
	130	2,700	2,930	3,100	3,220	3,340	△	4,670	△	△	△
	140	2,640	2,890	3,050	3,180	3,290		4,450			
	150	2,580	2,850	3,010	3,130	3,250		4,260			
	160	2,520	2,810	2,970	3,090	3,200		4,080			
	170	2,470	2,780	2,940	3,060	3,160		3,920			
リ ー ト	180	2,420	2,750	2,900	3,020	3,130		3,770			
	190	2,380	2,710	2,870	2,980	3,090		3,630			
	200	2,340	2,660	2,840	2,950	3,060		3,500	4,900		
	250	2,150	2,450	2,690	2,810	2,910		2,970	4,430		
	200	2,000	2,290	2,500	2,690	2,790	800	2,570	3,850	4,900	800
	24 kN/m ²	300	2,000	2,290	2,500	2,690	2,790	800	2,570	3,850	4,900

(2) 許容スパン表算定条件

(1) 許容応力度	: fb=205N/mm ²	$\sigma / fb \leq 1/\alpha$
(2) たわみ許容値	: δa=1000・L/180+5.0mm	δ ≤ δa
(3) たわみ算定用係数	: C=1.6	
(4) 断面係数 (Z t)	: 有効幅 (50t) を考慮した値	
(5) 断面二次モーメント (I)	: 全断面有効とした値	
(6) 作業荷重 (W3)	: W3 = 1,470 又は 2,450 (N/m ²) (「労働安全衛生規則」より)	
	* ホッパーやバケット打設工法の場合	
(7) エンドローズ強度: デッキ端部の反力がエンドローズ強度ePaを 上回らないことを確認して下さい	Pe=W×L/2 ≤ ePa	
(8) 許容支圧荷重	: デッキリブ許容支圧荷重は右表の通りとする	
※スパン (L) の取り方		

デッキ板厚 (mm)	0.8	1.0	1.2
許容支圧荷重 (N/m)	9,800	14,700	19,600

※ 詳細は、『床型枠用鋼製デッキプレート (フラットデッキ) 設計施工指針・同解説』による。

※ 「SFデッキ」又は同等する。施工においては、使用する製品の仕様、詳細に従うものとする。

改訂: 2025年4月

ハイベースNEO工法設計施工標準 (ハイベースNEO工法は、S造及びCFT造に適用)

2025/7

大臣認定 M5TL-0566 (Gタイプ用ベースプレート)
 MBLT-0042~0044,0046,0231 (アンカー用ナットセット)
 BCJ評定-ST0058 (Gタイプ)
 BCJ評定-ST0059 (Eタイプ、高強度柱適用タイプ)

本工法の設計・施工は、鋼構造設計規程、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書 JASS 6 鉄骨工事、建築工事標準仕様書・解説書 JASS 5 鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

設計

1. 材質
 (1) ベースプレート・アンカーボルト・ナット・座金・定着板
 エコタイプ (EB型式、EM型式、EH型式)、高強度柱適用タイプ (KB型式)

規格	ベースプレート エコタイプ JIS G3136 又はTMCP鋼	アンカーボルト 高強度柱適用タイプ HAB (大臣認定取得材)	エコナット 大臣認定取得材	ナット JIS B1181 (六角ナット)	座金 JIS G3106	定着板 JIS G3101 (一般構造用 圧延鋼材)
ねじの種類	板厚40mm以下の場合 SN490B 板厚40mm超の場合 TMCP325B,C	TMCP385B,C	メートル並目	メートル並目	メートル並目	—
備考	—	降伏比 70%以下	—	強度区分5	SM490A	SS400

エコタイプ、高強度柱適用タイプのベースプレート上ナットはエコナットを使用する。

Gタイプ (GB型式、GM型式、GH型式)

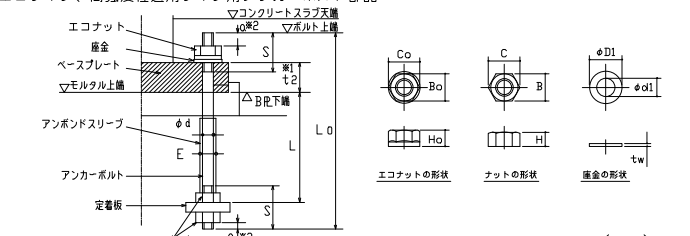
規格	ベースプレート HCW490B (大臣認定取得材)	アンカーボルト HAB (大臣認定取得材)	ナット JIS B1181 (六角ナット)	座金 JIS G3106	定着板 JIS G3101 (一般構造用 圧延鋼材)
ねじの種類	—	メートル並目	メートル並目	—	—
備考	SN490B同等	降伏比 70%以下	強度区分5 (二重ナット時) 強度区分8 (一重ナット時)	SM490A	SS400

※1 国土交通大臣認定 (M5TL-0566) ※2 国土交通大臣認定 (MBLT-0042~0044,0046,0231)
 ※3 M72は細目ねじ ※4 建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定を取得した材料を使用 ※5 電材を使用する場合があります

(2) ベースプレート下面のモルタル
 後詰めモルタル ハイベース工法無収縮モルタルNX-2000、又はクイック3およびこれと同等以上の無収縮性モルタル ※ センクシアが供給するものに限る
 中心塗部分モルタル O無収縮モルタルパッド用又は普通モルタル (NX-2000及びクイック3は使用不可。) O強度はこれに接するコンクリートの強度以上

(3) 基礎・基礎ばり
 コンクリート O日本建築学会「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」に適合する普通コンクリート O設計基準強度は、 $f_c=18\sim36\text{N/mm}^2$
 鉄筋 JIS G 3112「鉄筋コンクリート用棒鋼」に定められる、熱間圧延異形棒鋼
 柱形 へりあき量は、ベースプレート外形寸法のO、1倍以上確保しなければならない。

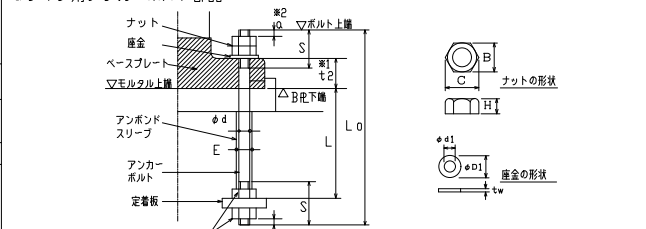
2. アンカーボルトのセット寸法
 エコタイプ、高強度柱適用タイプ用アンカーボルト部品



ねじの呼び	アンカーボルト		アンボンドスリーブ		エコナット		ナット		座金			
	軸径	ねじ長さ	全長	外径	高さ	対角距離	高さ	対角距離	厚さ	内径		
M24	24	305	10	480	645	29	19	36	42	6	25	44
M30	30	35	130	13	600	800	35	24	46	6	31	56
M36	36	4	16	720	720	41	29	55	64	6	37	66
M42	42	45	18	840	840	48	34	65	75	9	43	78
M48	48	5	22	960	960	54	38	75	87	9	50	92
M56	56	55	24	1120	1120	62	45	85	98	9	58	105
M64	64	6	28	1280	1280	70	51	95	110	12	66	115
M72	72	6	250	30	1440	1850	79	58	105	12	74	125

※1 t2 はベースプレート台座厚さを示し、ハイベースNEO型式によって変わります。
 ※2 a寸法は設置誤差を考慮した設計時の最小寸法です。
 施工時は、ねじ山が最低3山ナットの外に出るように余長を確保してください。
 ※3 表中のエコタイプ上段はEB、EM型式のアンカーボルト4本タイプ、エコタイプ下段はEB、EM型式のアンカーボルト8本、12本タイプ及びEHタイプの場合の寸法です。
注意 エコタイプ、高強度柱適用タイプのアンカーボルトはシングルナットとしておりますので、ゆるみ止め処置としてコンクリートスラブで被覆してください。
 コンクリートによる被覆を行わない場合は、二重ナット等のゆるみ止め処置が必要です。
 その場合、せん断耐力が変わる可能性がありますのでセンクシアにご相談ください。
 アンカーボルト上部には必ずエコナットを使用してください。通常のナットでは所定の性能が発揮できません。

Gタイプ用アンカーボルト部品



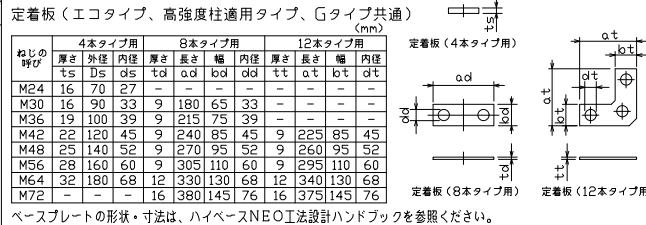
ねじの呼び	アンカーボルト		アンボンドスリーブ		ナット		座金						
	軸径	ねじ長さ	全長	外径	高さ	対角距離	高さ	対角距離					
M24	24	3	105	10	480	645	29	19	36	42	6	25	44
M30	30	35	130	13	600	800	35	24	46	6	31	56	
M36	36	4	16	720	720	41	29	55	64	6	37	66	
M42	42	45	18	840	840	48	34	65	75	9	43	78	
M48	48	5	22	960	960	54	38	75	87	9	50	92	
M56	56	55	24	1120	1120	62	45	85	98	9	58	105	
M64	64	6	28	1280	1280	70	51	95	110	12	66	115	
M72	72	6	250	30	1440	1850	79	58	105	12	74	125	

※1 t2 はベースプレート台座厚さを示し、ハイベースNEO型式によって変わります。
 ※2 a寸法は設置誤差を考慮した設計時の最小寸法です。
 施工時は、ねじ山が最低3山ナットの外に出るように余長を確保してください。
 ※3 上段はGB型式及びGM型式の場合、下段はGH型式の場合の寸法です。

注意 Gタイプのアンカーボルトは二重ナットを標準としていますが、一重ナットでも適用可能です。
 ・一重ナットとする場合は、コンクリートに埋め込む等のゆるみ止め処置が必要です。
 ・一重ナットとする場合は、センクシアにご相談ください。

ベースプレートのアンカーボルト孔径 (mm)

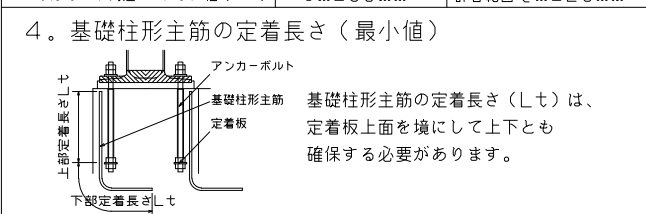
ねじの呼び	M24	M30	M36	M42	M48	M56	M64	M72
エコタイプ	38	44	50	57	-	-	-	-
Gタイプ	38	45	53	61	70	79	87	-



3. ベースプレート下面モルタルの標準寸法

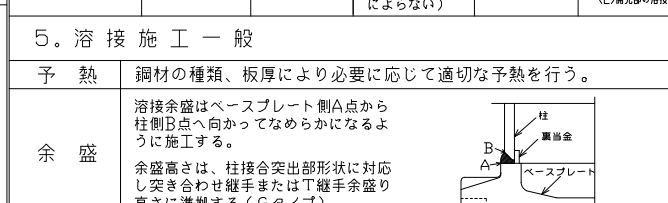
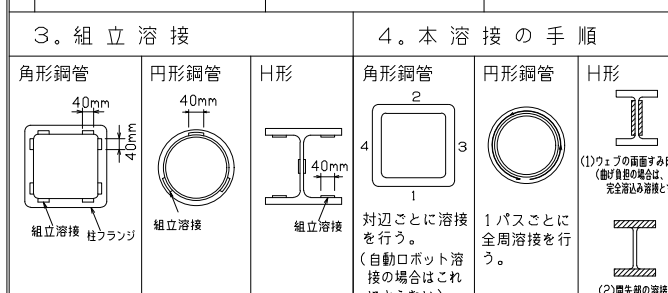
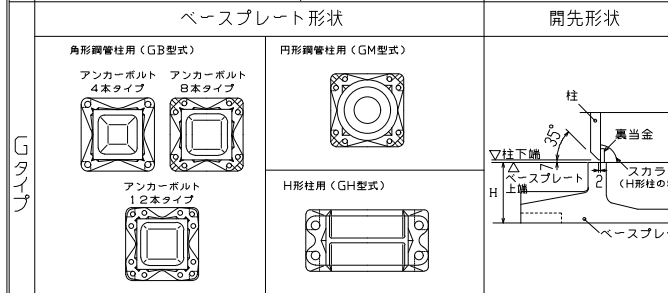
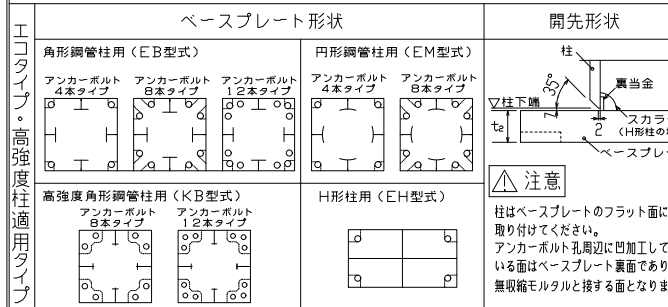
各部名称	寸法	備考
中心塗部分モルタルの厚さ (t)	標準寸法 t=50mm	許容範囲 30 ≤ t ≤ 70mm
ベースプレート周辺のモルタル幅 (em)	em ≥ 30mm	許容範囲 em ≥ 25mm

4. 基礎柱形主筋の定着長さ (最小値)
 基礎柱形主筋の定着長さ (Lt) は、定着板上面を境にして上下とも確保する必要があります。



工場加工

1. 溶接材料
 被覆アーク溶接 JIS Z 3211 (旧JIS Z 3212) に従い選定する (低水素系)
 ガスシールドアーク溶接 JIS Z 3312 又は JIS Z 3313 に従い選定する
 ※ベースプレートと柱のF値が異なる場合は、JASS6や各材質毎に定められた指針に従い溶接材料を選定する。
 2. ベースプレートの鉄骨柱への取付け (柱端部に開先を設ける)
 ※ 柱とベースプレートの溶接は完全溶込み溶接
 開先はMC-TL-1B、GC-TL-1Bによる ※開先形状は参考

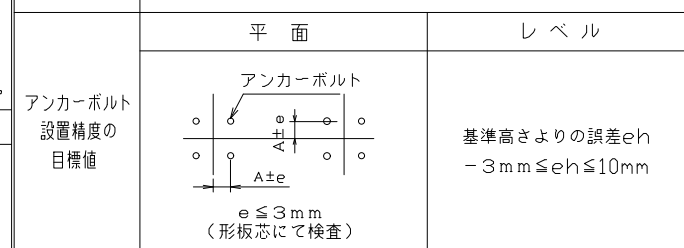
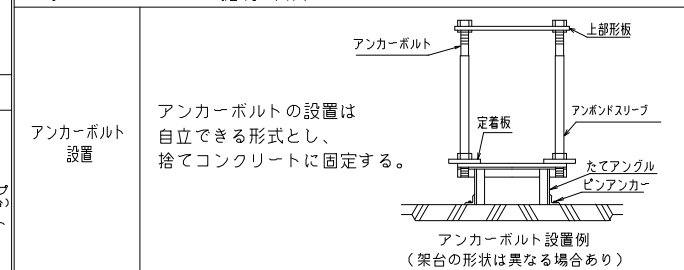


3. 組立溶接
 角形鋼管 円形鋼管 H形
 4. 本溶接の手順
 角形鋼管 円形鋼管 H形
 5. 溶接施工一般
 予熱 鋼材の種類、板厚により必要に応じて適切な予熱を行う。
 余盛 溶接余盛はベースプレート側A点から柱側B点へ向かってなめらかになるように施工する。
 余盛高さは、柱接合突出部形状に対応し突き合わせ継手またはT継手余盛り高さに準拠する (Gタイプ)。
 H形柱の溶接 エンドタブの取付とH形柱ウェブのすみ肉溶接
 6. 検査
 方法 溶接部の検査を行う場合は、超音波探傷検査による。探傷は柱フランジ側から行う。
 不良溶接部の補正 (1) 有害な欠陥のある溶接部は削除して再溶接する。
 (2) 溶接部に割れの入った場合は、割れの入った両端から50mm以上、はつり取り再溶接する。

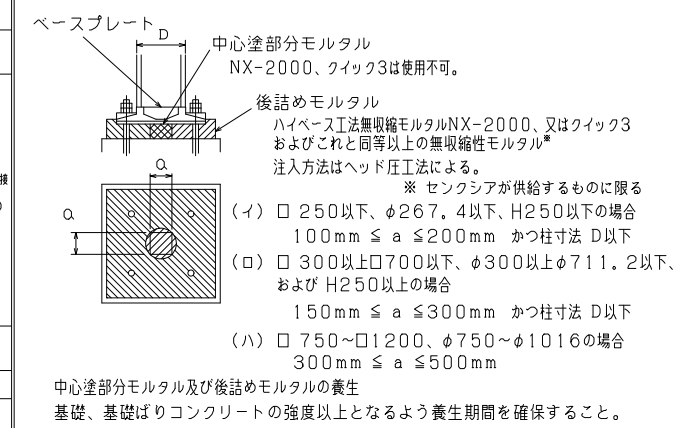
現場施工

(#): センクシアの担当範囲

1. 捨てコンクリート打設
 柱脚部の捨てコンクリートの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。
 2. 墨出し
 3. アンカーボルト搬入 (#)
 4. アンカーボルト据付 (#)



5. 鉄筋配筋・型枠の立込み
 6. 基礎コンクリート打設
 基礎柱形上面の目荒らし・水洗いを行ってください。
 7. 中心塗り部分モルタル施工
 ベースプレート 中心塗部分モルタル NX-2000、クイック3は使用不可。
 後詰めモルタル ハイベース工法無収縮モルタルNX-2000、又はクイック3およびこれと同等以上の無収縮性モルタル ※ センクシアが供給するものに限る
 注入方法はヘッド圧入法による。
 (イ) □ 250以下、φ267、4以下、H250以下の場合 100mm ≤ a ≤ 200mm かつ柱寸法 D以下
 (ロ) □ 300以上□700以下、φ300以上φ711、2以下、および H250以上の場合 150mm ≤ a ≤ 300mm かつ柱寸法 D以下
 (ハ) □ 750~□1200、φ750~φ1016の場合 300mm ≤ a ≤ 500mm



8. 鉄骨建方
 アンカーボルト締付 アンカーボルトは隙間がないよう確実に締め付けを行う。
 9. モルタル注入枠設置 (#)
 後詰めモルタル充填 (#)
 10. アンカーボルト締付 (#)
 予備締め マーキング ナット回転法による本締め (30°回転、許容差: +10° -0°)
 11. モルタル注入枠取り外し
 施工完了後、ハイベースNEO工法のチェックシートに工事記録を記載する。

注意 1. アンカーボルトの設置、無収縮モルタルの充填、これらの施工は、センクシアが定めた認定業者が行うこと。(日本建築センターの評定で義務付けられています。)
 2. アンカーボルト及びナットは加熱、溶接、加工は絶対に行わないでください。
 3. 設置後のアンカーボルトのねじ部は打ちまじらずコンクリートが附着しないようねじ部の保護養生をしてください。
 4. 建て入れ直しのワイヤをアンカーボルトにとらないでください。
 5. 本資料以外の施工方法で行った場合、ハイベースNEOの性能が発揮できなくなります。

QLルーフ屋根設計・施工標準

QLルーフを屋根に用いた場合の設計・施工は、(一社)日本鋼構造協会「デッキプレート床構造設計・施工標準 2018」、床商品カタログ、QLデッキ設計マニュアル・同施工マニュアルによる。

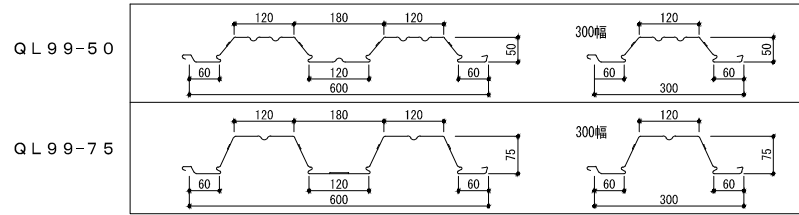
設 計

採用項目に□を記して下さい。

1. 材料/デッキプレート

[ISO 9001認証取得]

商品名	デッキプレート種類	表面処理	材質
QLルーフ	□QL99-75-10Y	▽亜鉛めっき [▽Z12 □Z27]	JIS G 3352 SDP2G
	▽QL99-50-12Y □QL99-75-12Y	□JFEエポキ*1 [□Y18 □Y27]	
	□QL99-50-16Y □QL99-75-16Y	□その他 ()	
	*1 高耐食溶融めっき鋼板		



2. QLルーフと梁(母屋)との接合

*2 下記の接合箇所の項を参照
*3 耐火仕様FP030RF-0064のみφ6×L20以上

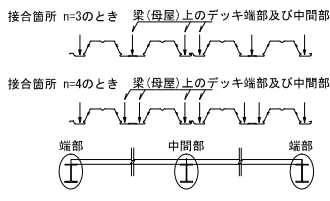
端部*2	中間部*2	接合仕様	接合条件
□n=3 □n=4	□n=3 □n=4	焼抜き栓溶接 (φ18以上)	梁(母屋)板厚 (t) ≥ 6mm
□	□	打込み鉄	2.3mm ≤ 梁(母屋)板厚 (t) < 6mm
□	□	ドリルねじ (φ6×L19以上)*3	その他

接合箇所

◎デッキ幅方向

接合部の作用する荷重に応じて接合箇所の個数を決定する。

デッキ端部梁(母屋)上
Ns=Ws/1.5 Pa かつ3ヶ所/デッキ1枚以上
デッキ中間部梁(母屋)上
Nc=Wc/1.5 Pa かつ3ヶ所/デッキ1枚以上
Pa: 接合部1個当たりの長期許容引張り力 (N)
Ws: デッキ端部梁(母屋)上部に作用する設計最大荷重 (N/m)
Wc: デッキ中間部梁(母屋)上部に作用する設計最大荷重 (N/m)
Ns: デッキ端部梁(母屋)上の接合箇所数/1m幅
Nc: デッキ中間部梁(母屋)上の接合箇所数/1m幅



接合強度一覧

デッキ板厚	焼抜き栓溶接		打込み鉄		ドリルねじ
	端部	中間部	端部・中間部共	端部・中間部共	
1.0mm	975N/ヶ所	3,333N/ヶ所	2,100N/本	1,570N/本	
1.2mm	1,170N/ヶ所	4,000N/ヶ所	2,200N/本		
1.6mm	1,560N/ヶ所	4,310N/ヶ所			

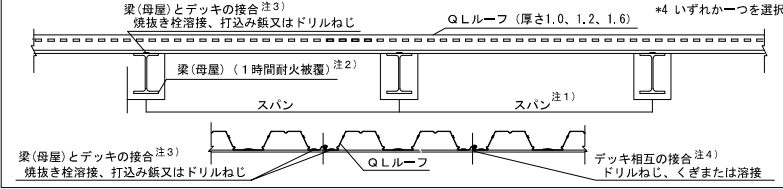
注) 上記方法でデッキと梁(母屋)を接合しても、水平ブレースは削除できません。水平ブレース(屋根側)は別途指示ください。

特記

その他 □ デッキ敷込み時にデッキ嵌合が甘い場合は、適切な処理を施して下さい。(「4. 施工デッキ相互の接合」を参照)

3. 屋根システム耐火仕様

デッキ品名	敷設形式	支持スパン	認定番号	接合(デッキ相互)*4	接合(デッキと母屋)
QL99-75-10Y	単純支持	3,400mm 以下	□FP030RF-2029	□ドリルねじ □スポット溶接 □すみ肉溶接 □くぎ	□焼抜き栓溶接 □打込み鉄 □ドリルねじ (φ6×L19以上)
	連続支持	3,800mm 以下	□FP030RF-2043		
QL99-50-12Y QL99-50-16Y	単純支持	2,800mm 以下	▽FP030RF-0327	▽ドリルねじ ▽スポット溶接 ▽すみ肉溶接 ▽くぎ	▽焼抜き栓溶接 ▽打込み鉄 ▽ドリルねじ (φ6×L19以上)
	連続支持	3,400mm 以下	▽FP030RF-0413		
QL99-75-12Y QL99-75-16Y	単純支持	3,400mm 以下	□FP030RF-0328	□ドリルねじ □スポット溶接 □すみ肉溶接 □くぎ	□焼抜き栓溶接 □打込み鉄 □ドリルねじ (φ6×L20以上)
	連続支持	4,550mm 以下	□FP030RF-0326		
QL99-50-12Y QL99-50-16Y	単純支持	2,650mm 以下	□FP030RF-0064	□ドリルねじ □スポット溶接 □すみ肉溶接 □くぎ	□焼抜き栓溶接 □打込み鉄 □ドリルねじ (φ6×L20以上)
	連続支持	3,350mm 以下			
QL99-75-12Y QL99-75-16Y	単純支持	2,850mm 以下	□FP030RF-0064	□ドリルねじ □スポット溶接 □すみ肉溶接 □くぎ	□焼抜き栓溶接 □打込み鉄 □ドリルねじ (φ6×L20以上)
	連続支持	3,550mm 以下			



注1) スパンとは梁(母屋)の中心間距離を言う。
注2) 梁(母屋)の耐火仕様 梁(母屋)に1時間の耐火性能が要求される場合は、それらに応じた耐火仕様を施す。
注3) 梁(母屋)とデッキ間の接合は、デッキプレート1枚毎に3ヶ所とする。詳細は「2. 梁(母屋)との接合」及び「施工」欄を参照。
注4) デッキ相互の接合については下記の通りとする。

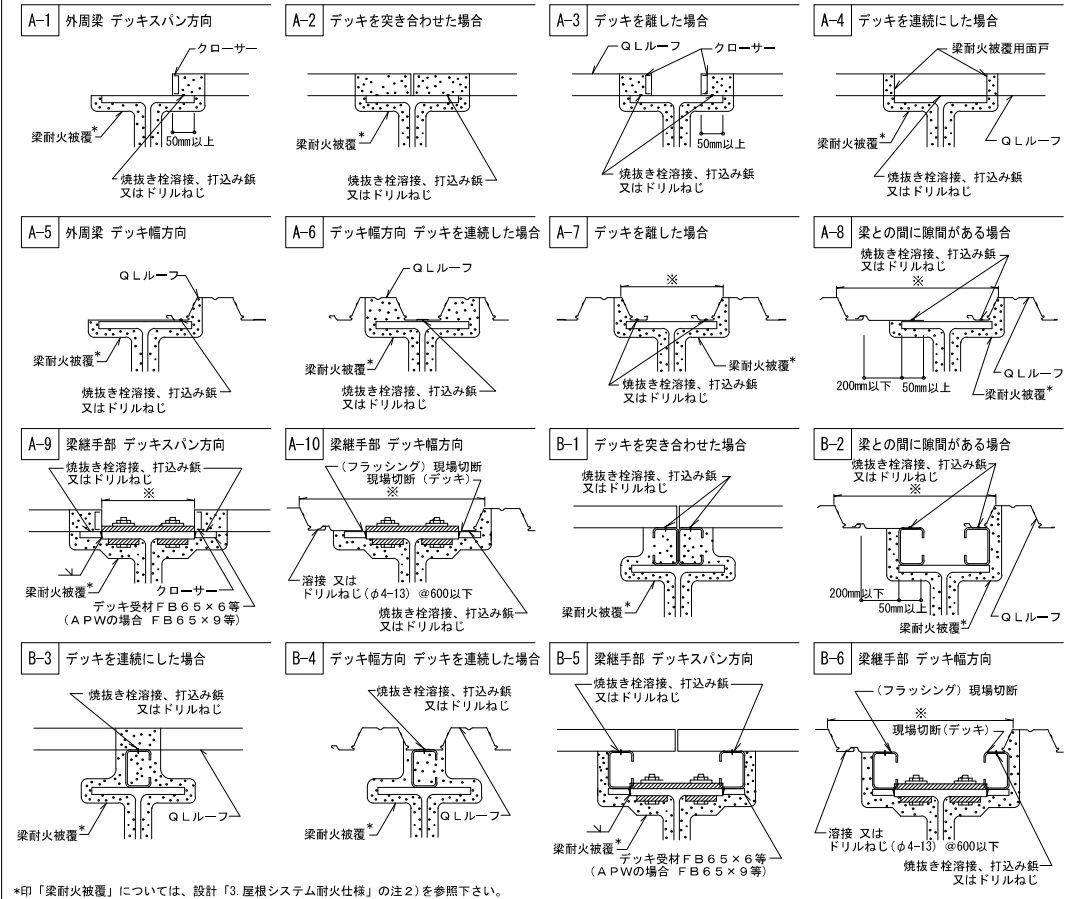
4. デッキ相互の接合

1. ドリルねじ	2. くぎ	接合間隔	
		□認定番号FP030RF-0064: @450mm	□認定番号FP030RF-2029, 2043: @1,000mm
		□その他: QL99-50は、デッキスパン中央に1ヶ所接合する。 但しQL99-50・QL99-75共に、敷込み時に嵌合が甘い場合は、1m以下の接合間隔とする。	

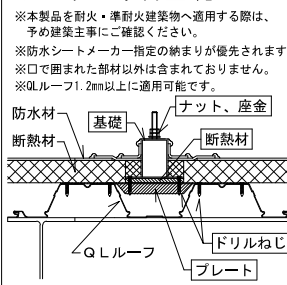
5. アクセサリー

フラッシング	クローサー	天井吊り
FS 	NCS75S-NCS50S CS75-CS50 	QLインサート
デッキ割付の幅調整に用いる。 定尺2.4m、1.1.2mまたは1.6m	デッキの小口ふさぎに用いる。 デッキ小口を連続してふさぐ場合に用いる。定尺2.4m	付置のネジで固定する。 吊り荷重: 98N(100kg)

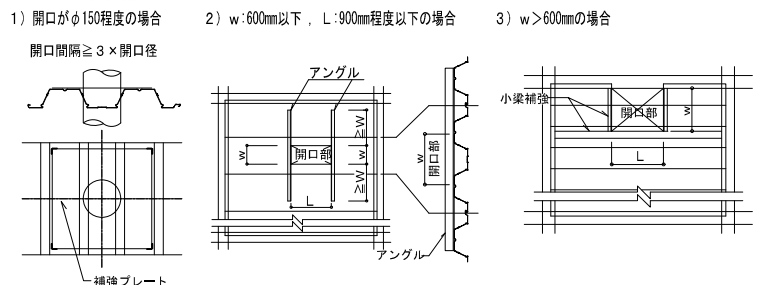
標準納まり



ソーラー架台基礎



開口部補強案



施工順序	敷込み	デッキと梁(母屋)との接合		ドリルねじ	【焼抜き栓溶接】	【打込み鉄】																														
		焼抜き栓溶接	打込み鉄																																	
墨出し ↓ 敷込み仮止め溶接 ↓ デッキと梁(母屋)との接合 ↓ デッキ相互の接合 ↓ 検査	1) 墨出し線に合わせて1枚目のデッキプレートを仮止め溶接した後、順次適当な枚数(5~10枚)ごとに仮止め溶接する。 2) デッキプレートの溝部が各梁(母屋)に乗るように敷込む。(50mm以上) 3) デッキプレートの長さ方向の梁(母屋)のかり幅は、50mm以上に敷込む。	焼抜き栓溶接 —アーク手溶接— 平成14年4月16日国土交通省告示第326号に基づき、下記の仕様とする。 (1) 溶接機: 交流アーク溶接機 AW250A以上 エンジン溶接機 230A以上 (2) 溶接棒: JIS Z 3211のE4316、E4916に定める低水素系被覆アーク溶接棒 棒径4mmφのもの (3) 標準溶接条件: 右表 <table border="1"> <tr> <td>梁フランジ板厚</td> <td>溶接電流</td> </tr> <tr> <td>6mm以上</td> <td>190~230A(標準210A)</td> </tr> </table> (4) 溶接工の資格: JIS Z 3801、JIS Z 3841における基本級の有資格者 (5) 手順・要領: 以下の1~4の順に行う。 <table border="1"> <tr> <th>工程</th> <th>手順・要領</th> </tr> <tr> <td>1 アーク発生</td> <td>デッキを梁(母屋)になじませ(隙間2mm以下)溶接棒をデッキに垂直にしてアークを発生させる。</td> </tr> <tr> <td>2 デッキ焼抜き</td> <td>溶接棒を若干引き上げてアークを飛ばし、径10mm程度の「の」字を描いてデッキを焼抜く。</td> </tr> <tr> <td>3 押し込み・溶着</td> <td>溶接棒を梁(母屋)上まで押し込み、焼抜きの内側をなぞるように円中央へ2~3回転しながら運棒。</td> </tr> <tr> <td>4 整形</td> <td>溶着金属を整え、中央部で溶接棒を引き上げる。スラブを除去して仕上がりを確認。</td> </tr> </table> 溶接時間の目安: 電流値210A(標準)の場合8秒程度	梁フランジ板厚	溶接電流	6mm以上	190~230A(標準210A)	工程	手順・要領	1 アーク発生	デッキを梁(母屋)になじませ(隙間2mm以下)溶接棒をデッキに垂直にしてアークを発生させる。	2 デッキ焼抜き	溶接棒を若干引き上げてアークを飛ばし、径10mm程度の「の」字を描いてデッキを焼抜く。	3 押し込み・溶着	溶接棒を梁(母屋)上まで押し込み、焼抜きの内側をなぞるように円中央へ2~3回転しながら運棒。	4 整形	溶着金属を整え、中央部で溶接棒を引き上げる。スラブを除去して仕上がりを確認。	(1) 使用工具: 鉄打機(打込み鉄専用工具) (2) 鉄: ヒルティ鉄(X-ENP-19 L15: JIS G 3502 ピアノ線相当) (3) 施工指導及び施工: 鉄メーカーが責任施工又は施工指導を行う。 (4) 作業資格: 鉄メーカーの作業資格認定制度に基づき施工技術を修得した作業員が施工する。 (5) 手順・要領: 以下の1~3の順に行う。 <table border="1"> <tr> <th>工程</th> <th>手順・要領</th> </tr> <tr> <td>1 鉄打ち機調整</td> <td>梁(母屋)板厚に合った空砲と威力レベルをセットする。</td> </tr> <tr> <td>2 鉄打ち</td> <td>デッキを梁(母屋)になじませ鉄を打つ。</td> </tr> <tr> <td>3 立上がり長さ確認</td> <td>検査用測定ゲージを用いて立上がり長さを確認する。</td> </tr> </table> 注1. 閑静な場所では発射音の対策に注意。 注2. 詳細は鉄メーカーの施工要領にしたがって施工並びに検査を行う。	工程	手順・要領	1 鉄打ち機調整	梁(母屋)板厚に合った空砲と威力レベルをセットする。	2 鉄打ち	デッキを梁(母屋)になじませ鉄を打つ。	3 立上がり長さ確認	検査用測定ゲージを用いて立上がり長さを確認する。	(1) 規格: JIS B 1124 (2) 寸法(mm): φ6以上×L20以上 梁(母屋)板厚が厚い場合は、デッキと梁(母屋)の下穴を開けた後に、ドリルねじを取り付ける。 注「デッキ相互の接合」に使用するドリルねじは、ねじの寸法(φ4×L13)が異なる。	【事前検査】 適正な溶接を行うため1)または2)の方法で電流値をチェックする。 1) 検流計での計測 2) 溶接棒の消費長さによる確認 — 未使用の規定の溶接棒を用いてアーク長さを約3mmに保持し、10mm程度の円を描いて10秒間溶接した時の溶接棒の消費長さが45~53mmであること。 【溶接後の外観検査】 1) 溶接箇所の確認 2) 焼き切れ、余盛り不足の有無 3) 棒余盛り径: 18mm以上 【不良部の補修】 スラグ除去後、梁にデッキを密着させて再溶接する。不具合箇所に溶着金属を流し込む要領で補修。 【その他】 (1) デッキ相互の嵌合状況 (2) 開口部の補強状況	【事前検査】 梁(母屋)板厚に合った空砲と威力をセットする。 空砲の種類及び選定についてはメーカーに確認する。 【接合後の外観検査】 1) 検査用測定ゲージを用いて立上がり長さを確認する。 <table border="1"> <tr> <th>ヒルティ鉄</th> <th>径</th> </tr> <tr> <td>D</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>d</td> <td>4.5</td> </tr> <tr> <td>φ</td> <td>8.2~9.8</td> </tr> </table> 2) 検査で不合格の場合は増打ちをする。φ: 鉄立上がり長さ 【不良部の補修】 打込み鉄に失敗した鉄の頭部がじゃまされて、増し打ちができない場合は、グライダにてその鉄の頭部とワッシャーを取り除き、その隣でデッキスパン方向10mm以内に増し打ちする。	ヒルティ鉄	径	D	15	d	4.5	φ	8.2~9.8
梁フランジ板厚	溶接電流																																			
6mm以上	190~230A(標準210A)																																			
工程	手順・要領																																			
1 アーク発生	デッキを梁(母屋)になじませ(隙間2mm以下)溶接棒をデッキに垂直にしてアークを発生させる。																																			
2 デッキ焼抜き	溶接棒を若干引き上げてアークを飛ばし、径10mm程度の「の」字を描いてデッキを焼抜く。																																			
3 押し込み・溶着	溶接棒を梁(母屋)上まで押し込み、焼抜きの内側をなぞるように円中央へ2~3回転しながら運棒。																																			
4 整形	溶着金属を整え、中央部で溶接棒を引き上げる。スラブを除去して仕上がりを確認。																																			
工程	手順・要領																																			
1 鉄打ち機調整	梁(母屋)板厚に合った空砲と威力レベルをセットする。																																			
2 鉄打ち	デッキを梁(母屋)になじませ鉄を打つ。																																			
3 立上がり長さ確認	検査用測定ゲージを用いて立上がり長さを確認する。																																			
ヒルティ鉄	径																																			
D	15																																			
d	4.5																																			
φ	8.2~9.8																																			

※ 「QLルーフ」又は同等とする。施工においては使用する製品の仕様、詳細に従うものとする。

梁貫通孔補強材 ダイアレンS設計・施工標準仕様書 BCJ評定-RC0124-08, BCJ評定-SS0056-01

2024.9.30作成

1. 一般事項

- 本仕様書は、ダイアレンSの標準仕様を定めるものであり、各設計における特記仕様は、本仕様書に優先して適用する。
- 本設計仕様記載のない事項については、建築基準法・同施行令、(一財)日本建築センター及び(一社)日本建築学会の関連する諸指針や諸規程、ダイアレンS技術マニュアルによる。

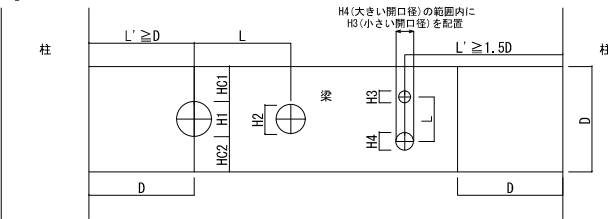
2. 使用材料・貫通孔の適用範囲

(1) 各評定の適用範囲

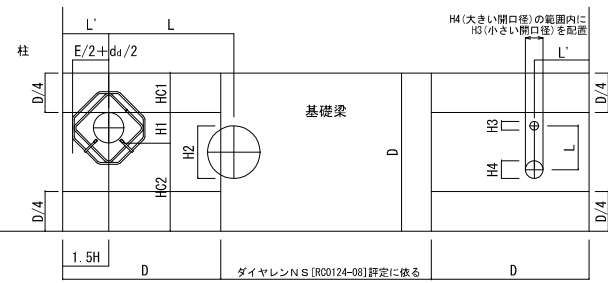
評定番号	ダイアレンS	ダイアレンSを用いた基礎梁端部小開口補強
RC0124-08	[RC0124-08]	[SS0056-01]
対象とする部材	RC造及びSRC造の梁	非降伏のRC造の基礎梁かつ、有効な柱梁接合部に接続する基礎梁※
コンクリート	$f_c = 21\text{N/mm}^2 \sim 100\text{N/mm}^2$	$f_c = 21\text{N/mm}^2 \sim 45\text{N/mm}^2$
鉄筋	主筋：基準強度295~490N/mm ² のJIS鉄筋、490を超え695N/mm ² 以下の大臣認定品 あばら筋：基準強度295~490N/mm ² のJIS鉄筋、490を超え1275N/mm ² 以下の大臣認定品 ダイアレンS：KSS785-K (MSRB-0004)、MK785 (MSRB-0067)	
梁せい(D)	-	$D \geq 750\text{mm}$
開口形状	円形または多角形とする(多角形の場合はその外接円を開口とみなす)	
開口径(外径)(H)	$H \leq 750\text{mm}$ かつ $H \leq D/3$	$H < 350\text{mm}$ かつ $H \leq D/5$
上下に複数開口を設ける場合の合計径(ΣH)	$\Sigma H \leq D/3$	$\Sigma H \leq D/3.75$
柱際から開口中心までの距離(L')	$L' \geq D$	$L' < D$ かつ $L' \geq 1.5H$ かつ $L' \geq E/2 + d_a/2$
隣接する開口の水平及び鉛直方向中心間距離(L)	隣接する開口径の平均値の3倍以上	
へりあき(HC1, HC2)	HC1, HC2 $\geq (E-H)/2 + d_a/2 + t_c$	HC1, HC2 $\geq (E-H)/2 + d_a/2 + t_c$ かつ HC1, HC2 $\geq D/4$

E: ダイアレンSのE寸法
d_a: ダイアレンSの鉄筋呼び径
d: あばら筋の呼び径
t_c: コンクリートのかぶり厚さ(40mm以上)

[RC0124-08]

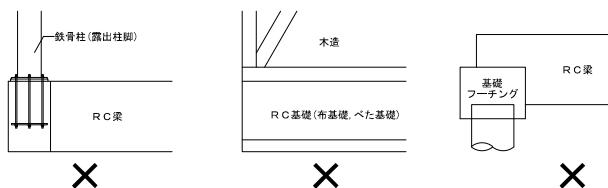


[SS0056-01]



※有効な柱梁接合部に接続する基礎梁とは、梁端部にRC造の柱梁接合部を有する基礎梁をいう。また、SRC造の場合も、壁柱と基礎梁の接合部を有効な柱梁接合部とみなすことができる。なお、以下の基礎梁は対象外とする。

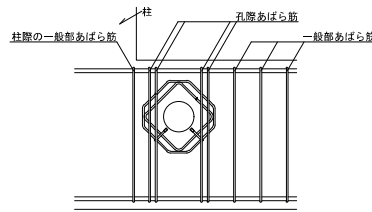
- 鉄骨造及び混構造で鉄骨柱が露出柱脚の場合の基礎梁
- 小規模木造の基礎梁(木造住宅等の布基礎及びべた基礎等)
- 端部にRC造の柱梁接合部がなく、独立基礎又は杭基礎の基礎フーチングのみを有する基礎梁



【対象外とする基礎梁の例】

3. 仕様規定

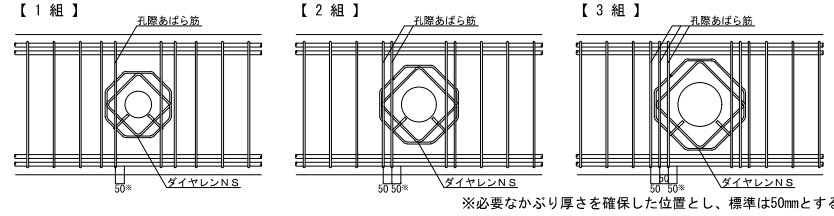
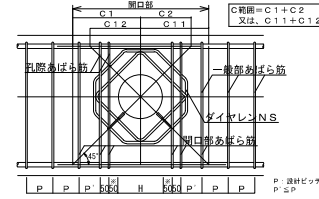
- ダイアレンSの使用枚数は、開口1箇所当たり2枚以上とする。
- 柱際には、孔あばら筋の他、少なくとも1組の一般部あばら筋(第一あばら筋)を配筋する。[SS0056-01]



4. 開口部あばら筋の配筋要領

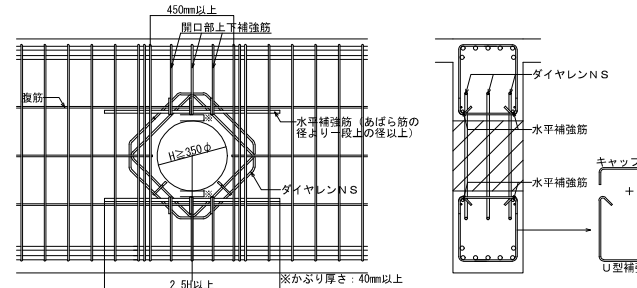
- 開口部に配筋されるあばら筋の組数は、開口が無いとした場合に配置されるあばら筋組数以上とする。
- 孔あばら筋は、一般部あばら筋と同径以上かつ同鋼種とする。[SS0056-01]
- 孔あばら筋の組数は、下表の標準組数以上とする。

開口径	一般部あばら筋比(p _a)	
	1%未満	1%以上
H<150	1組	2組
150≤H<300	2組	3組
300≤H	3組	3組



5. 開口部上下補強要領 (350φ以上の場合)

- 開口の左右に配筋する1組目の孔あばら筋の間隔が梁せいの1/2以上または450mm以上(開口径で350mm以上)になる場合は、開口部上下補強筋と水平補強筋により主筋を拘束するための補強を行う。ただし、水平力による応力を負担しない梁(小梁等)の場合は梁せいの1/2は考慮しなくともよい。
- 開口部上下補強筋は、一般部あばら筋と同径以上かつ同鋼種とし、一般部あばら筋のピッチ以下となるように配筋する。(丸鋼及びインデントは不可)
- 形状にはコ型・U型・H型等があり、コ型補強筋の梁主筋側の重ね長さは「梁幅×2×かぶり厚さ」または35d以上とし、水平補強筋側(梁内側)の重ね長さは12d以上とする。ただし、梁幅が400mm未満もしくはコ型補強筋の梁主筋側重ね長さが25d(dは鉄筋の呼び径)以下の場合は、U型またはH型の形状で補強を行う。
- 水平補強筋は、一般部あばら筋より段上の径以上とし(SD295A程度)、開口径の2.5倍以上の長さとする。



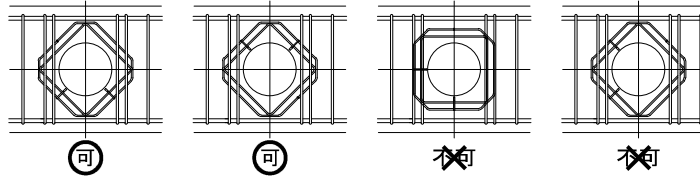
【開口上下部分の補強要領 (U型補強筋で補強する場合の例)】

6. 施工要領例

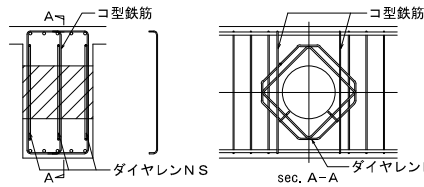
- 型枠上に開口の位置と開口径等を墨出しする。
- 補強設計に必要な孔あばら筋と一般部あばら筋を配筋する。孔あばら筋は、1組目は必要なかぶり厚さを確保した所定の位置に配置し、2組目以降はそれぞれ50mmピッチで配筋する。孔あばら筋と一般部あばら筋の間隔は、設計ピッチ以下とする。
- 孔あばら筋を配筋するのが困難な場合は、東ね配筋にすることができる。(東ね配筋は、2組までは東ねることができるが、3組以上は東ねてはならない。)
- ダイアレンSを左右の孔あばら筋の間から挿入し、孔あばら筋等に4か所以上結束する。
- スリーブをダイアレンSのスリーブ受け筋にセットし、針金等で固定する。
- 開口部周囲のそれぞれの鉄筋のかぶり厚さが適正に確保されていることを確認する。

7. 施工における注意事項

- ダイアレンSはあばら筋に対して斜め45度の傾きをもって必要な耐力が期待できるため、下図の「可」の向きになるように施工すること。



- 補強設計によって中子筋が無い梁に対して3枚以上のダイアレンSが必要になった場合は、右図のようにコ型鉄筋等を開口の左右にそれぞれ1本以上配筋し、この鉄筋にダイアレンSを結束して固定する。



8. ダイアレンS標準製品寸法表

スリーブ径 (対応径)	型	サイズ	寸法						(特記外単位: mm)		
			A	B	C	D	E	F	形状	重量 (kg/枚)	Ho
100φ (H≤115)	I	6	205	115	127	45	289	45	①	0.55	204
	II	8	205	115	127	45	289	45	①	0.85	205
	III	10	205	95	155	55	289	45	②	1.14	206
	IV	13	210	80	183	65	296	48	②	2.01	211
	V	16	230	100	183	65	325	55	③	3.46	227
	V-3R	16	230	154	237	65	455	57	⑤	6.14	292
125φ (H≤141)	I	6	230	140	127	45	325	45	①	0.60	222
	II	8	230	140	127	45	325	45	①	0.94	223
	III	10	235	125	155	55	332	48	②	1.27	227
	IV	13	240	110	183	65	339	50	②	2.26	232
	V	16	240	110	183	65	339	50	③	3.57	234
	V-3R	16	240	164	237	65	469	49	⑤	6.31	299
150φ (H≤166)	I	6	255	165	127	45	360	45	①	0.66	239
	II	8	255	165	127	45	360	45	①	1.03	240
	III	10	260	150	155	55	367	47	②	1.38	245
	IV	13	260	130	183	65	367	47	②	2.41	246
	V	16	265	135	183	65	374	50	③	3.88	251
	V-3R	16	265	189	237	65	504	49	⑤	6.78	316
175φ (H≤191)	I	6	280	190	127	45	395	45	①	0.71	257
	II	8	280	190	127	45	395	45	①	1.12	258
	III	10	285	175	155	55	403	47	②	1.50	263
	IV	13	285	155	183	65	403	47	②	2.61	264
	V	16	290	160	183	65	410	50	③	4.19	269
	V-3R	16	290	214	237	65	540	49	⑤	7.25	334
200φ (H≤216)	I	6	305	215	127	45	431	45	①	0.77	275
	II	8	305	215	127	45	431	45	①	1.20	276
	III	10	310	200	155	55	438	47	②	1.61	280
	IV	13	310	180	183	65	438	47	②	2.81	282
	V	16	320	190	183	65	452	50	③	4.57	290
	V-3R	16	320	244	237	65	582	52	⑤	7.82	355
250φ (H≤270)	I	6	360	270	127	45	509	45	①	0.89	314
	II	8	360	270	127	45	509	45	①	1.40	315
	III	10	360	250	155	55	509	45	②	1.83	316
	IV	13	370	240	183	65	523	50	②	3.29	324
	V	16	370	210	226	80	523	50	②	5.31	326
	V-3R	16	370	276	292	80	683	50	④	9.11	406
300φ (H≤320)	I	6	410	320	127	45	579	45	①	1.01	349
	II	8	410	320	127	45	579	45	①	1.57	350
	III	10	410	300	155	55	579	45	②	2.05	351
	IV	13	420	290	183	65	593	50	②	3.69	359
	V	16	420	260	226	80	593	50	②	5.93	361
	V-3R	16	420	326	292	80	753	50	④	10.04	441
350φ (H≤370)	I	6	460	370	127	45	650	45	①	1.12	384
	II	8	460	370	127	45	650	45	①	1.75	385
	III	10	460	350	155	55	650	45	②	2.28	386
	IV	13	470	340	183	65	664	50	②	4.09	395
	V	16	470	310	226	80	664	50	②	6.55	396
	V-3R	16	470	376	292	80	824	50	④	10.98	476
400φ (H≤420)	I	8	510	420	127	45	721	45	①	1.92	421
	II	10	510	400	155	55	721	45	②	2.50	422
	III	13	520	390	183	65	735	50	②	4.48	430
	IV	16	530	370	226	80	749	55	②	7.31	439
	IV-3R	16	530	436	292	80	909	55	④	12.11	519
	V	16	560	470	127	45	791	45	①	2.10	456
450φ (H≤470)	I	10	560	450	155	55	791	45	②	2.73	457
	III	13	570	440	183	65	806	50	②	4.88	466
	IV	16	580	420	226	80	820	55	②	7.94	474
	IV-3R	16	580	486	292	80	980	55	④	13.04	554
	V	10	610	500	155	55	862	45	②	2.95	492
	III	13	620	490	183	65	876	50	②	5.28	501
500φ (H≤520)	IV	16	630	470	226	80	890	55	②	8.56	509
	IV-3R	16	630	536	292	80	1050	55	④	13.98	589
	II	10	660	550	155	55	933	45	②	3.17	528
	III	13	670	540	183	65	947	50	②	5.68	536
	IV	16	680	520	226	80	961	55	②	9.18	545
	IV-3R	16	680	586	292	80	1121	55	④	14.92	625
600φ (H≤630)	II	10	720	610	155	55	1018	45	②	3.44	570
	III	13	730	600	183	65	1032	50	②	6.16	579
	IV	16	750	590	226	80	1060	60	②	10.07	594
	IV-3R	16	750	656	292	80	1220	60	④	16.24	674
	II	10	770	660	155	55	1088	45	②	3.67	605
	III	13	780	650	183	65	1103	50	②	6.55	614
650φ (H≤680)	IV	16	800	640	226	80	1131	60	②	10.69	630
	IV-3R	16	800	706	292	80	1291	60	④	17.17	710
	II	10	820	710	155	55	1159	45	②	3.89	641
	III	13	830	700	183						

深層混合処理工法特記仕様書

1 工事概要

本地業は、セメントスラリーを用いた機械式攪拌深層混合処理工法による地盤改良地業である。
この工法は、セメント系固化材を原地盤と攪拌混合し、原地盤を固化する方法によって地盤改良を行うものである。

2 一般事項

本地業は、本特記仕様書によるほか、「2018年版 建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針 2018年11月」（(財)日本建築センター、以下指針という）による。

3 特記事項

- コラムの径、掘削深度（改良長+空掘長）、本数配置等は設計図書による。ただし、コラムの径・長さ・本数・位置及びセメントスラリーの配合等について土質や地盤状況により変更した方が適切と判断される場合等は、監督員の承認の上に変更することができる。
- コラムの設計基準強度は $F_c=1700\text{kN/m}^2$ 、設計時想定する変動係数の推定値を25%以下であることについて、公的機関で証明を受けた工法とする。
- 設計の要求する性能を確保するため、適切な配合管理、施工管理および品質検査を実施する。
- 固化材と改良対象土を確実に混合攪拌することができ、相対攪拌装置を装備する施工機械を用いる。
- 中間層としてレンズ状または互層状に分布するN値40~50程度の砂礫及び玉石混じり層（混入率30%程度以下）固結した砂質土及び、中間層に転石（ $\phi 300\text{mm}$ 程度以下）を削孔・攪拌改良施工が可能であること。
- 施工において障害となる地中残存物（既製コンクリート杭・コンクリートガラ $\phi 300\text{mm}$ 程度・セメント改良地盤）の破碎攪拌を行いながら、同時に同一工程で地盤の削孔・攪拌改良が可能であること。
- 工法の選定においては、上記の内容について公的機関における性能評定を有する工法を選定すること。
- 本現場は支持層の選定が困難なため、深層混合処理工法における地盤改良の設計及び施工対応が可能な専門会社を本工事施工業者とすること。

4 配合管理

- セメントスラリーに使用する固化材は、セメント系固化材とする。

(2) 配合強度

配合管理目標変動係数を想定し、「5 品質検査」に規定する抜き取り個所数Nから表1を用いて αt を決め、配合強度 X_f を設定する。

$$X_f = F_c \cdot \alpha t$$

X_f : 配合強度

F_c : 設計基準強度

αt : 割り増し係数

表 1 割り増し係数（ $L_p=80\%$ 、 $V_d=25\%$ の場合）

抜き取りヶ所数 N	1	2	3	4~6	7~8	9~
配合管理目標変動係数 V_c						
25%	2.163	1.918	1.815	1.719	1.651	1.594

(3) W/Cと固化材量

現地採取土により室内配合試験を実施し、配合強度を満足するように決定する。

室内配合試験は事前に試料採取位置・採取土質や配合を明記した試験計画書を提出し、監督員の承認の上実施する。（推定配合量は、特殊土用セメント系固化材 350kg/m³）

$$X_i = X_f / \alpha f_l$$

X_i : 室内配合強度

X_f : 配合強度

αf_l : 現場/室内強度比・・・技術審査証明書により想定する

(4) 六価クロム溶出試験

国土交通省 国官技第16号、国営建第1号（平成13年4月20日）「セメント及びセメント系固化材を使用した改良土の六価クロム溶出試験要領（案）」による六価クロム溶出試験を実施し、試験結果を提出すること。

事前配合試験段階 1検体

5 品質検査

(1) 検査対象群、検査対象層及び調査ヶ所数

- 検査対象群は概ねコラム300本を1単位とし、層厚50cm以上の土層毎に検査対象層を決める。
- 検査対象層は 砂質土・シルト であり設計対象層を 砂質土 とする。
- 検査手法は強度のバラツキを想定する場合は検査手法Aによる。その場合は、選定工法による改良体の強度のバラツキデータを添付すること。
- 事後調査ヶ所数は表2による。

表 2 調査ヶ所数

検査手法A	頭部コア試験	1個所/100コラム
	ボーリングコア試験	1個所/100コラム

(2) コア採取率による調査

- ボーリングコア採取個所全数にて、コア採取率調査による改良体の連続性確認を行なう。
- コア採取率は全長に対して砂質土で95%、粘性土で90%、深さ1m毎に砂質土で90%、粘性土で85%以上であることを確認する。礫等を有する地層はサンプリング時のサンプラーの回転切削により固化部分が崩れるので、コア採取率による連続性の判定は、上述の目安値と地盤条件などを加味して総合的に行なう。

(3) 可否の判定

- 検査対象層についての抜取個所数を N とする。1個所あたり3個の供試体を採取し、その平均強度をその箇所の強度とする。（一軸圧縮試験は公的機関または第三者機関で行うこと。）
- 可否の判定は検査対象群に対するNヶ所（抜取個所数）の一軸圧縮試験結果が、下式を満足する場合を合格と判定する。

$$XN \geq XL = F_c + k_a \cdot \sigma_d = F_c + k_a [F_c \cdot V_d / (1-1.3V_d)]$$

XN : Nヶ所の一軸圧縮強度の平均値

XL : 合格判定値

F_c : 設計基準強度

k_a : 合格判定係数

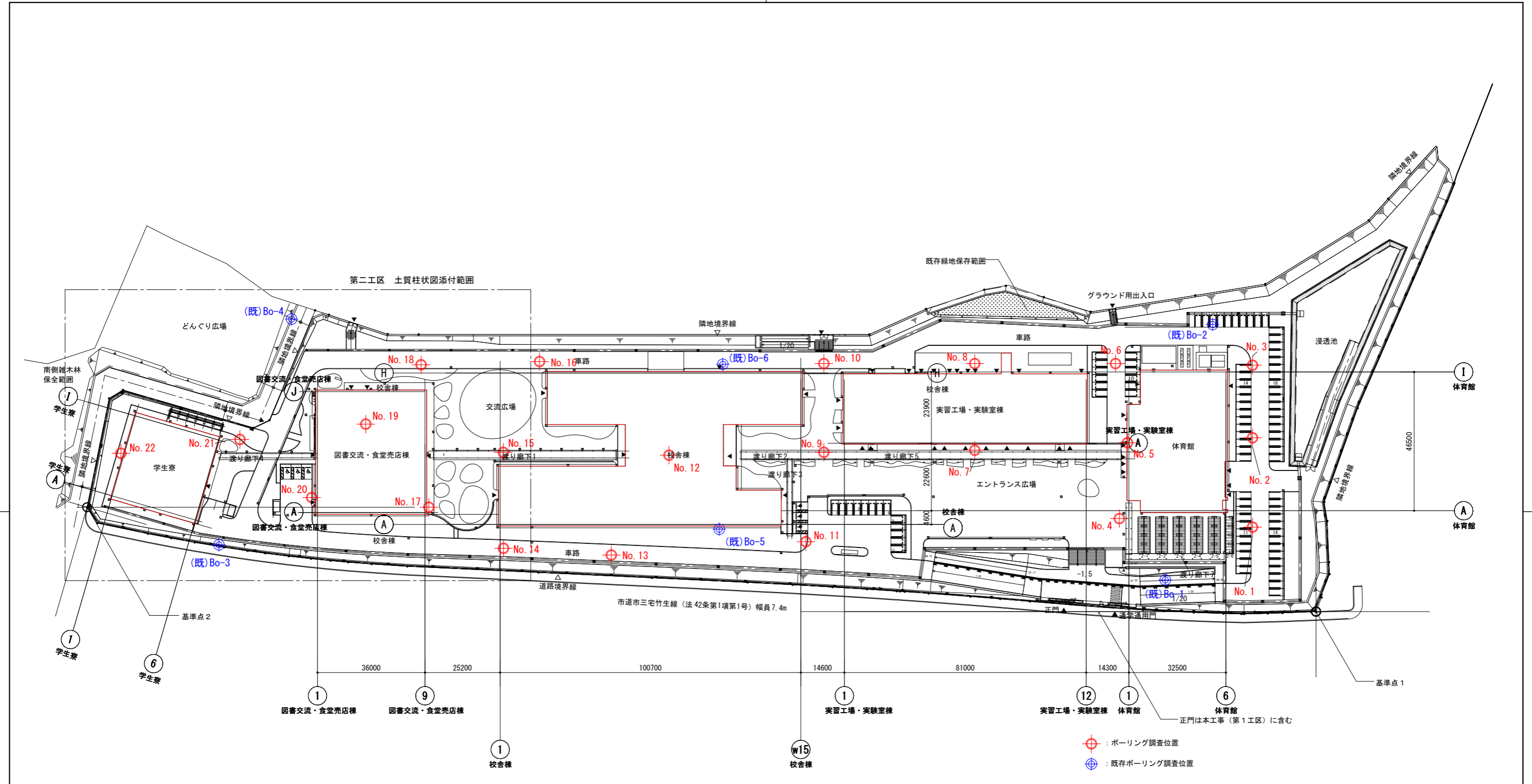
σ_d : 標準偏差 $\sigma_d = V_d \cdot q_{ud}$

V_d : 変動係数・・・技術審査証明書により想定する

表 3 合格判定係数

抜き取りヶ所数 N	1	2	3	4~6	7~8	9~
合格判定係数 k_a	1.9	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3

	公立大学法人 滋賀県立大学 高専開設準備局 総務・施設整備課		株式会社 東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	設計番号 20240631-2 一級建築士 NO.272847 石井 康彦	一級建築士 NO.248486 構造設計一級建築士 NO.4009 木下 隆嗣	一級建築士 NO.334956 設備設計一級建築士 NO.4756 工藤 征志	工事名称 滋賀県立高等専門学校 新築工事(第2工区) 図面名称 地盤改良(深層混合処理工法)特記仕様書 縮尺 A1: ー A3: ー	図面番号 S012
--	-----------------------------------	--	---	--	---	---	--	--------------



ボーリング位置図

⊕ : ボーリング調査位置
⊕ : 既存ボーリング調査位置

公立大学法人 滋賀県立大学 高専開設準備局 総務・施設整備課		株式会社 東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC. 石井 康彦	設計番号 20240631-2 一級建築士 No. 272847 構造設計一級建築士 No. 4009 木下 隆嗣	一級建築士 No. 248486 構造設計一級建築士 No. 4009 木下 隆嗣	一級建築士 No. 334956 設備設計一級建築士 No. 4756 工藤 征志	工事名称 滋賀県立高等専門学校 新築工事 (第2工区)	図面番号 S013
						図面名称 土質柱状図その1	

図書交流・食堂売店棟
1FL-99.12
設計GL-99.02

学生寮
1FL-99.05
設計GL-98.93

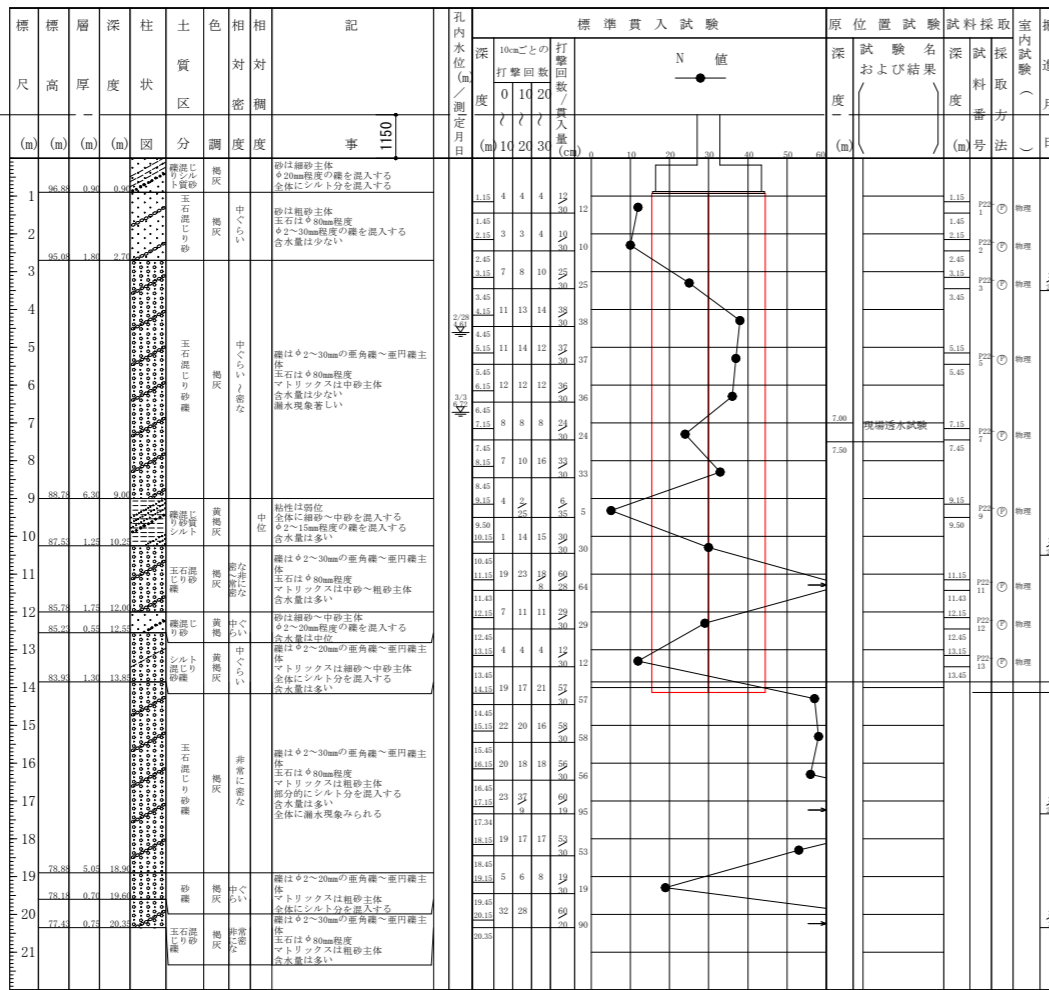
ボーリング柱状図

ボーリング柱状図

調査名 令和6年度第5号専1号 滋賀県立高等専門学校新築工事設計業務委託(地質調査)

ボーリング No. 28-11-25

事業・工事名		調査位置		北緯	
No. 22		滋賀県野洲市三宅		35° 4' 30.7"	
発注機関		調査期間		東経	
公立大学法人 滋賀県立大学		令和 7年 2月 26日 ~ 7年 3月 4日		136° 0' 43.6"	
調査業者名		主任技師		ボーリング責任者	
株式会社 滋賀ソイルコンサルタント 電話 (077-519-1187)		吉川浩司		有園健二	
孔口標高		方		使用機	
H=97.78m		北緯 35° 4' 30.7" 東経 136° 0' 43.6"		D-O-D	
総掘進長		地盤勾配		ハンマー落下用具	
20.35m		水平 0° 鉛直 90°		半自動落下装置	
		エンジン		ポンプ	
		NFD-10		BG-3C	

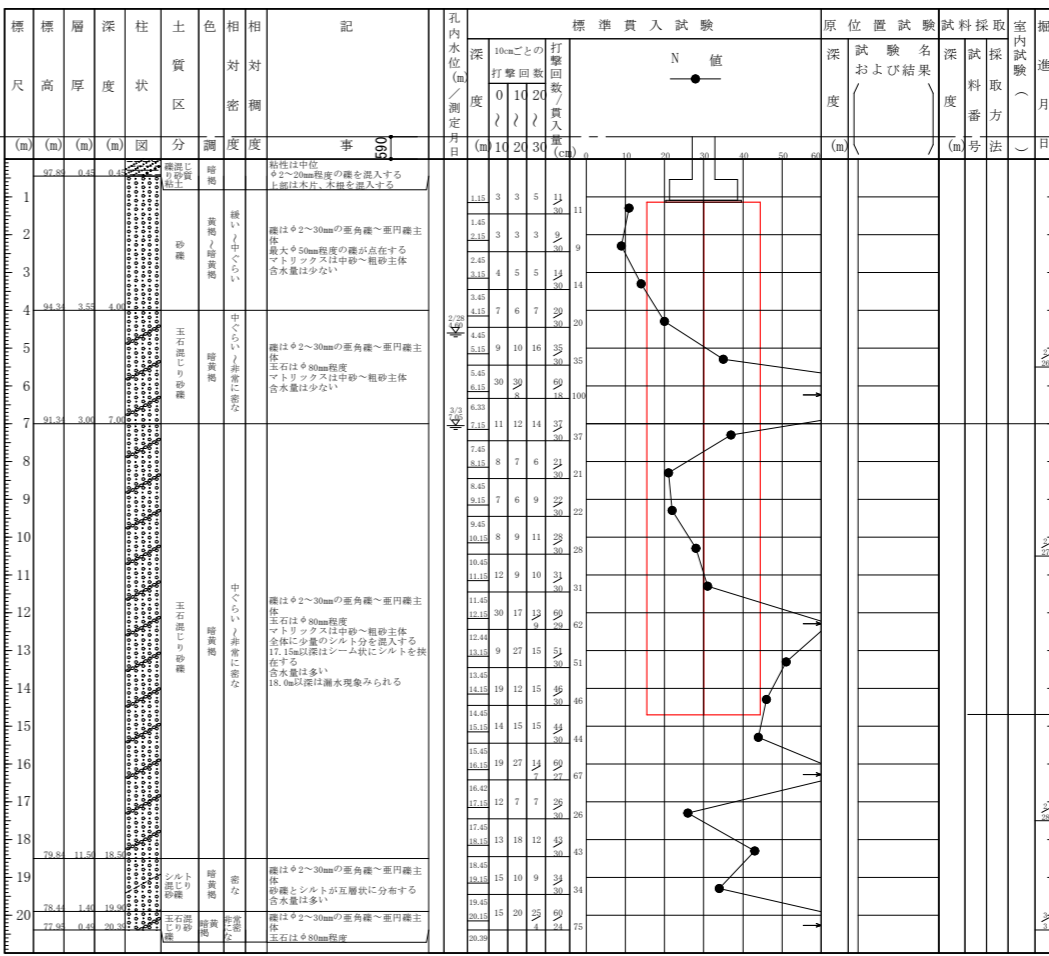


No.22

調査名 令和6年度第5号専1号 滋賀県立高等専門学校新築工事設計業務委託(地質調査)

ボーリング No. 28-11-25

事業・工事名		調査位置		北緯	
No. 21		滋賀県野洲市三宅		35° 4' 32.4"	
発注機関		調査期間		東経	
公立大学法人 滋賀県立大学		令和 7年 2月 26日 ~ 7年 3月 3日		136° 0' 44.4"	
調査業者名		主任技師		ボーリング責任者	
株式会社 滋賀ソイルコンサルタント 電話 (077-519-1187)		吉川浩司		新屋一弥	
孔口標高		方		使用機	
H=98.34m		北緯 35° 4' 32.4" 東経 136° 0' 44.4"		KR-100	
総掘進長		地盤勾配		ハンマー落下用具	
20.39m		水平 0° 鉛直 90°		半自動落下装置	
		エンジン		ポンプ	
		NFD-9		V-6	



No.21

設計GL(学生寮)
(+98.93)

7590
△支持層
15280

公立大学法人 滋賀県立大学
高専開設準備局 総務・施設整備課



株式会社 東畑建築事務所
TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.

設計番号
20240631-2
一級建築士 No. 272847
石井 康彦

一級建築士 No. 248486
構造設計一級建築士 No. 4009
木下 隆嗣

一級建築士 No. 334956
設備設計一級建築士 No. 4756
工藤 征志

工事名称 滋賀県立高等専門学校
新築工事(第2工区)
図面名称 土質柱状図その2

縮尺 A1: 1/30
A3: 1/60

S014

図書交流・食堂売店棟
1FL=99.12
設計GL=99.02
学生寮
1FL=99.05
設計GL=98.93

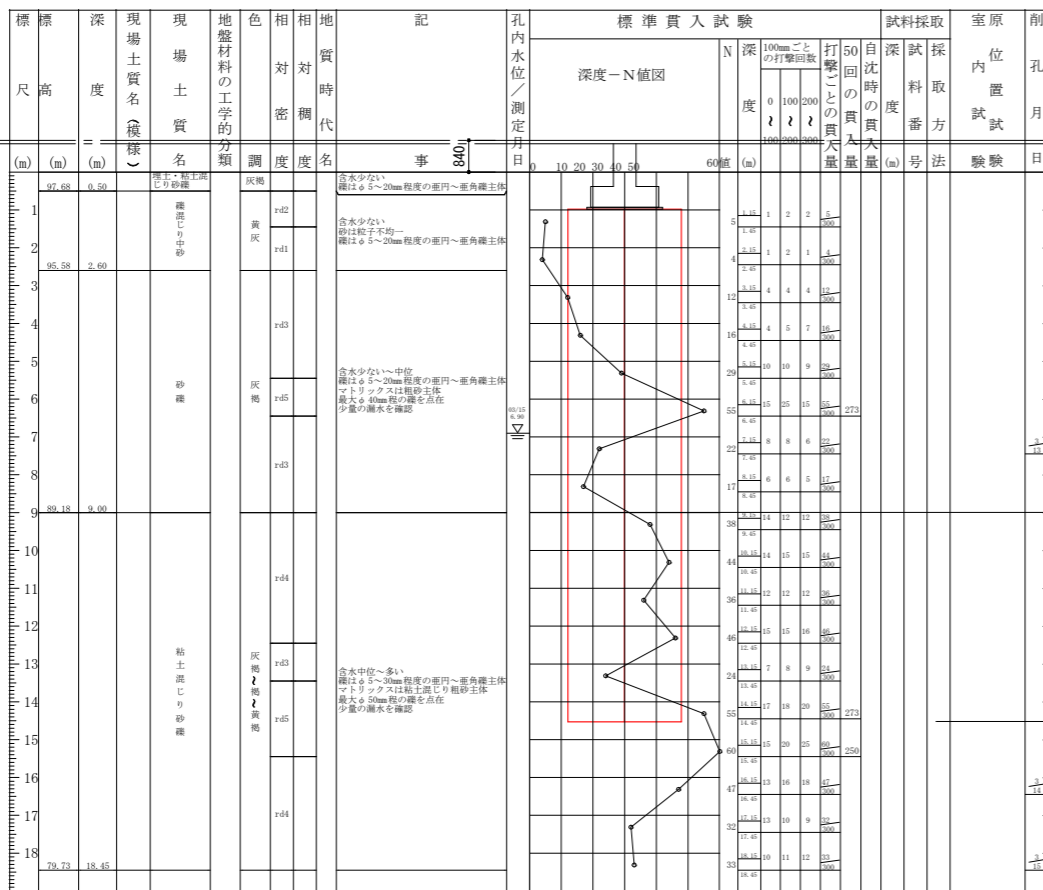
土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調査名（仮称）滋賀県立高等専門学校地質調査業務委託

事業名または工事名

調査目的及び調査対象 建築 構造物基礎

ボーリング名	Bo-3	調査位置	滋賀県野洲市市三宅	北緯	35° 04' 31.54"
発注機関	滋賀県総合企画部	調査期間	2023年3月13日～2023年3月15日	東経	136° 00' 45.42"
孔口標高 T.P.	+98.18m	角	180°	方位	北緯 270° 東 90° 南 180°
総削孔長	18.00m	度	0°	方位	北緯 270° 東 90° 南 180°
試験機	東邦地下工機製 DM-03	ポンプ	東邦地下工機製 BG-2	エンジン	ヤンマー製 NFD-9



既存 No.3

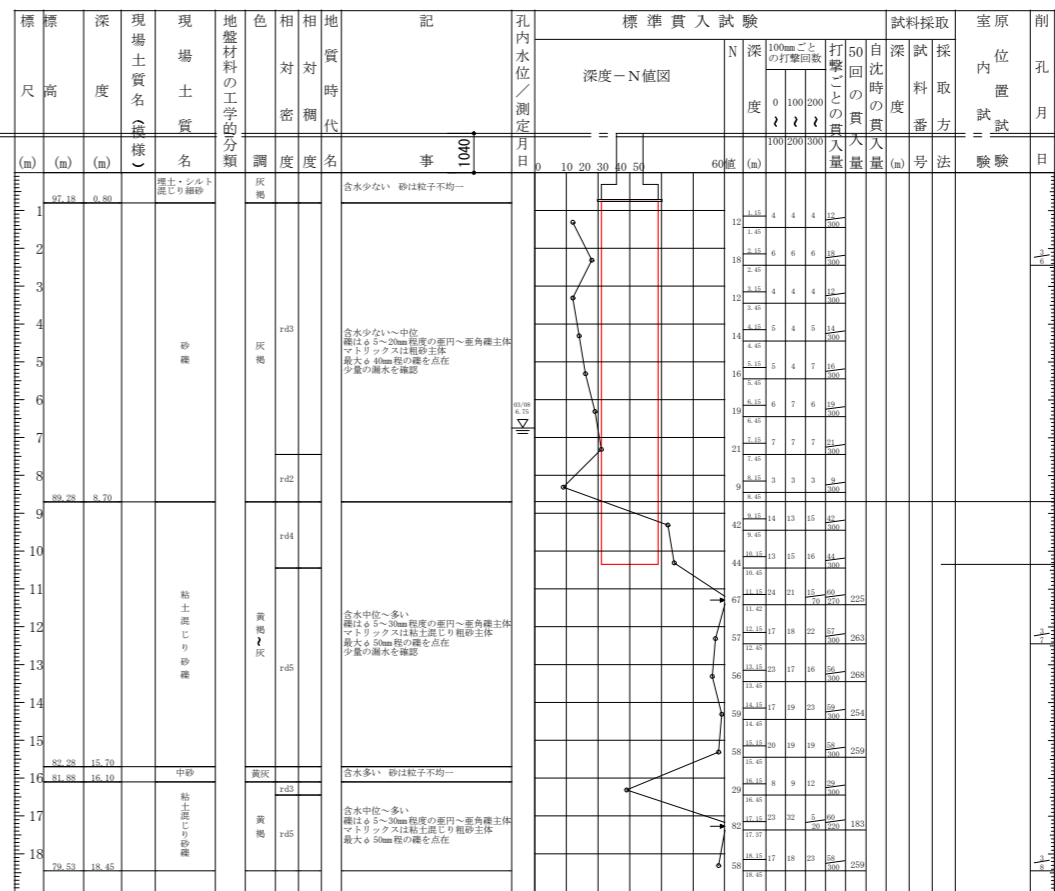
土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調査名（仮称）滋賀県立高等専門学校地質調査業務委託

事業名または工事名

調査目的及び調査対象 建築 構造物基礎

ボーリング名	Bo-4	調査位置	滋賀県野洲市市三宅	北緯	35° 04' 33.14"
発注機関	滋賀県総合企画部	調査期間	2023年3月6日～2023年3月9日	東経	136° 00' 42.96"
孔口標高 T.P.	+97.98m	角	180°	方位	北緯 270° 東 90° 南 180°
総削孔長	18.00m	度	0°	方位	北緯 270° 東 90° 南 180°
試験機	東邦地下工機製 D0-C	ポンプ	東邦地下工機製 BG-3	エンジン	ヤンマー製 NFAD-10



既存 No.4

公立大学法人 滋賀県立大学
高専開設準備局 総務・施設整備課



株式会社 東畑建築事務所
TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.

設計番号
20240631-2
一級建築士 No.272847
石井 康彦

一級建築士 No.248486
構造設計一級建築士 No.4009
木下 隆嗣

一級建築士 No.334956
設備設計一級建築士 No.4756
工藤 征志

工事名称 滋賀県立高等専門学校
新築工事（第2工区）
図面名称 土質柱状図その3

縮尺 A1: 1/30
A3: 1/60

S015

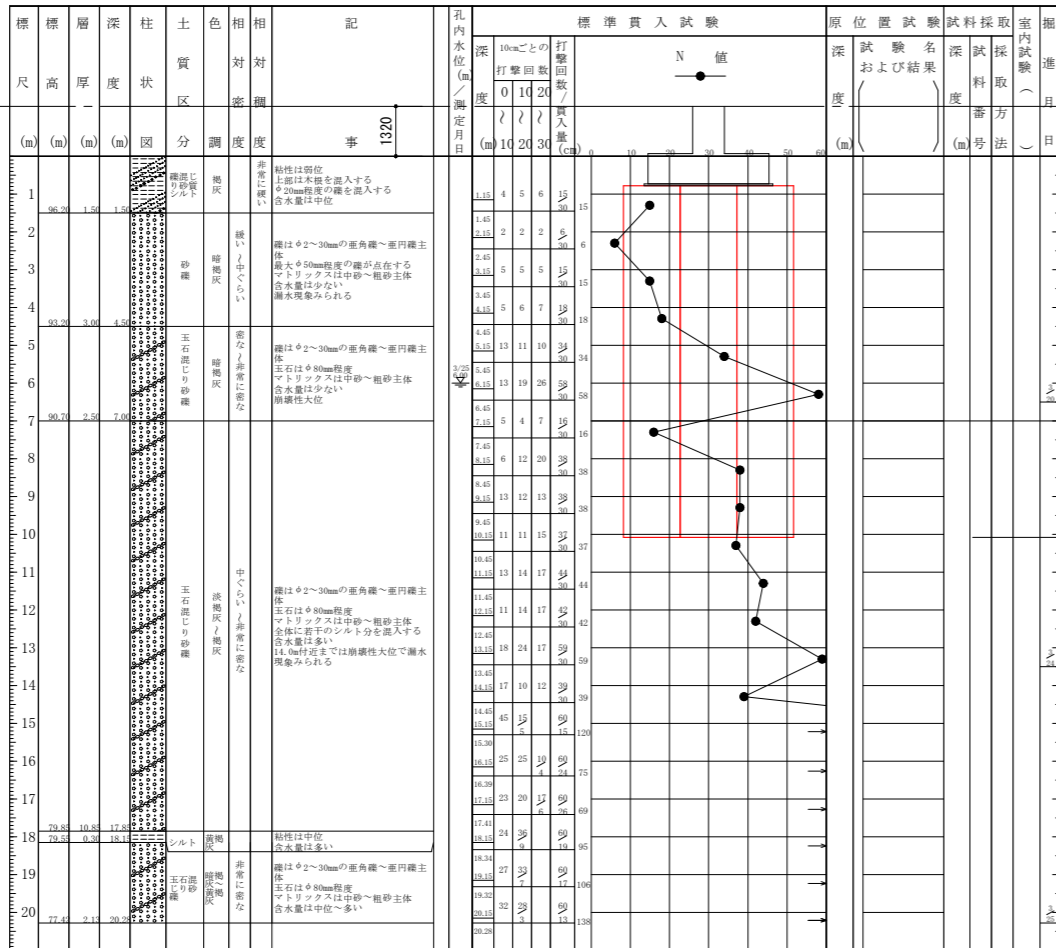
図書交流・食堂売店棟
1FL=99.12
設計GL=99.02
学生寮
1FL=99.05
設計GL=98.93

ボーリング柱状図

調査名 令和6年度第5-高専1号 滋賀県立高等専門学校新築工事設計業務委託(地質調査)

ボーリング No.28-11-25

ボーリング名	No. 20	調査位置	滋賀県野洲市三宅	北緯	35° 4' 32.6"
発注機関	公立大学法人 滋賀県立大学		調査期間	令和7年3月20日～7年3月25日	
調査業者名	株式会社 滋賀ソイルコンサルタント (077-510-1107)	主任技師	吉川浩司	現場代理人	吉川浩司
ボーリング責任者	新屋一弥				
孔口標高	H=97.70m	角	方	地盤勾配	使用機種
総掘進長	20.28m	度	向	配	エンジン
					試験機 KR-100
					ハンマー落下用具
					ポンプ
					エンジン NFD-9
					ポンプ V-6



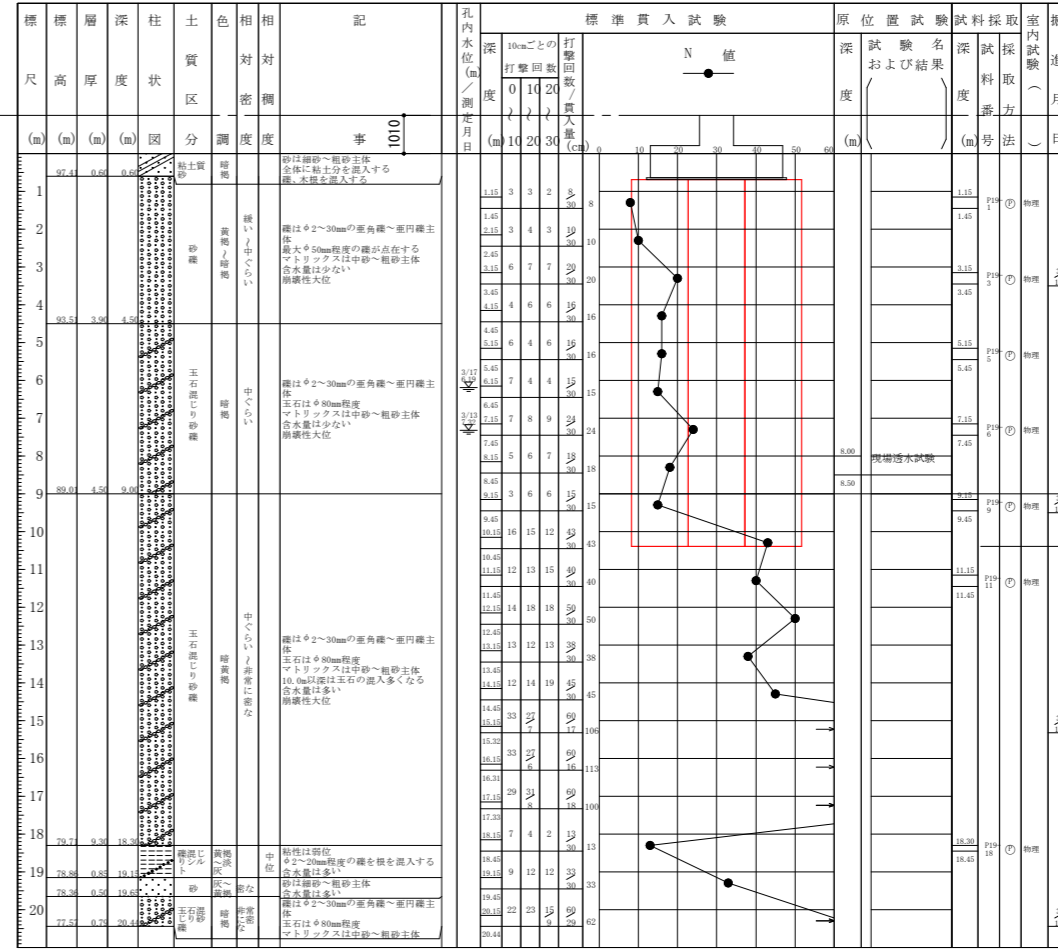
No.20

ボーリング柱状図

調査名 令和6年度第5-高専1号 滋賀県立高等専門学校新築工事設計業務委託(地質調査)

ボーリング No.28-11-25

ボーリング名	No. 19	調査位置	滋賀県野洲市三宅	北緯	35° 4' 33.5"
発注機関	公立大学法人 滋賀県立大学		調査期間	令和7年3月12日～7年3月19日	
調査業者名	株式会社 滋賀ソイルコンサルタント (077-510-1107)	主任技師	吉川浩司	現場代理人	吉川浩司
ボーリング責任者	新屋一弥				
孔口標高	H=98.01m	角	方	地盤勾配	使用機種
総掘進長	20.44m	度	向	配	エンジン
					試験機 KR-100
					ハンマー落下用具
					ポンプ
					エンジン NFD-9
					ポンプ V-6



No.19

公立大学法人 滋賀県立大学
高専開設準備局 総務・施設整備課



株式会社 東畑建築事務所
TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.

設計番号 20240631-2
一級建築士 No.272847
石井 康彦

一級建築士 No.248486
構造設計一級建築士 No.4009
木下 隆嗣

一級建築士 No.334956
設備設計一級建築士 No.4756
工藤 征志

工事名称 滋賀県立高等専門学校
新築工事(第2工区)
図面名称 土質柱状図その4

縮尺 A1: 1/30
A3: 1/60

S016

図書交流・食堂売店棟
1FL=99.12
設計GL=99.02

学生寮
1FL=99.05
設計GL=98.93

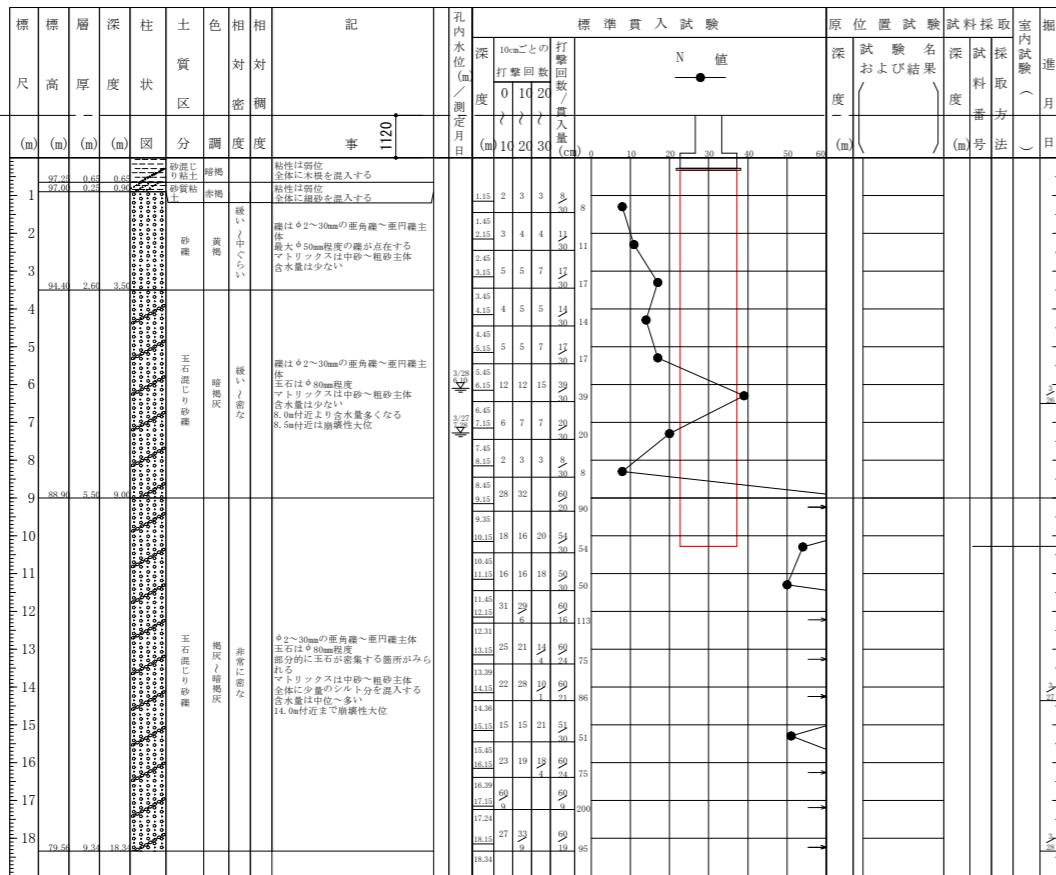
ボーリング柱状図

調査名 令和6年度第S-高専1号 滋賀県立高等専門学校新築工事設計業務委託(地質調査)

ボーリング No. 28-11-25

事業・工事名

ボーリング名	No. 17	調査位置	滋賀県野洲市市三宅	北緯	35° 4' 34.6"
発注機関	公立大学法人 滋賀県立大学	調査期間	令和7年3月26日 ~ 7年3月31日	東経	136° 0' 46.4"
調査業者名	株式会社 滋賀ソイルコンサルタンツ 電話 (077-519-1197)	主任技師	吉川浩司	現場代理人	吉川浩司
コア認定者	吉川浩司	ボーリング責任者	新屋一弥		
孔口標高	H=97.90m	角	27° 0' 0" 上	方	北
総掘進長	18.34m	度	0° 0' 0" 下	向	北
試験機	KR-100	ハンマー落下用具	半自動落下装置		
エンジン	NFD-9	ポンプ	V-6		



No.17

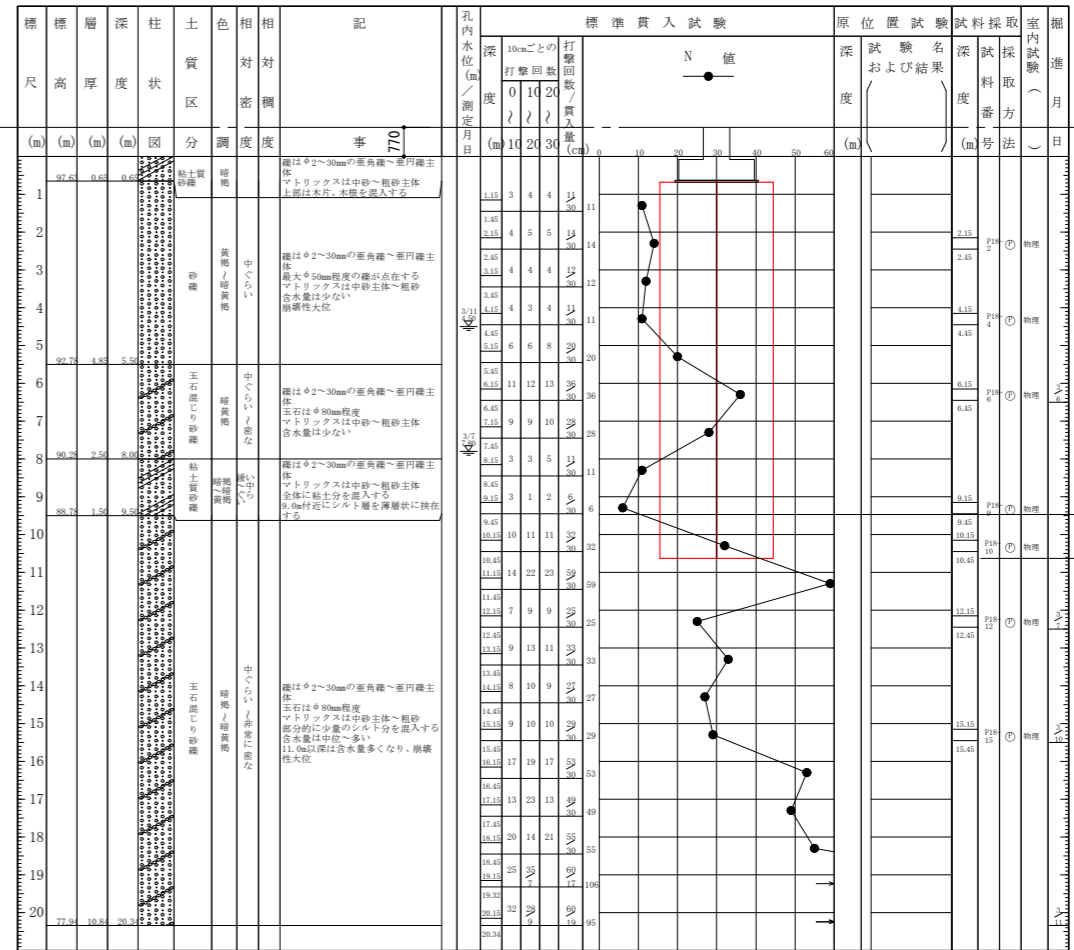
ボーリング柱状図

調査名 令和6年度第S-高専1号 滋賀県立高等専門学校新築工事設計業務委託(地質調査)

ボーリング No. 28-11-25

事業・工事名

ボーリング名	No. 18	調査位置	滋賀県野洲市市三宅	北緯	35° 4' 34.4"
発注機関	公立大学法人 滋賀県立大学	調査期間	令和7年3月4日 ~ 7年3月11日	東経	136° 0' 44.2"
調査業者名	株式会社 滋賀ソイルコンサルタンツ 電話 (077-519-1197)	主任技師	吉川浩司	現場代理人	吉川浩司
コア認定者	吉川浩司	ボーリング責任者	新屋一弥		
孔口標高	H=98.28m	角	18° 0' 0" 上	方	北
総掘進長	20.34m	度	0° 0' 0" 下	向	北
試験機	KR-100	ハンマー落下用具	半自動落下装置		
エンジン	NFD-9	ポンプ	V-6		



No.18

公立大学法人 滋賀県立大学
高専開設準備局 総務・施設整備課



株式会社 東畑建築事務所
TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.

設計番号 20240631-2
一級建築士 No. 272847
石井 康彦

一級建築士 No. 248486
構造設計一級建築士 No. 4009
木下 隆嗣

一級建築士 No. 334956
設備設計一級建築士 No. 4756
工藤 征志

工事名称 滋賀県立高等専門学校
新築工事(第2工区)
図面名称 土質柱状図その5

縮尺 A1: 1/30
A3: 1/60

S017

設計GL(図書交流・食堂売店棟)
(+99.02)

図書交流・食堂売店棟
1FL-99.12
設計GL-99.02

学生寮
1FL-99.05
設計GL-98.93

ボーリング柱状図

ボーリング柱状図

調査名 令和6年度第5号 滋賀県立高等専門学校新築工事設計業務委託(地質調査)

調査名 令和6年度第5号 滋賀県立高等専門学校新築工事設計業務委託(地質調査)

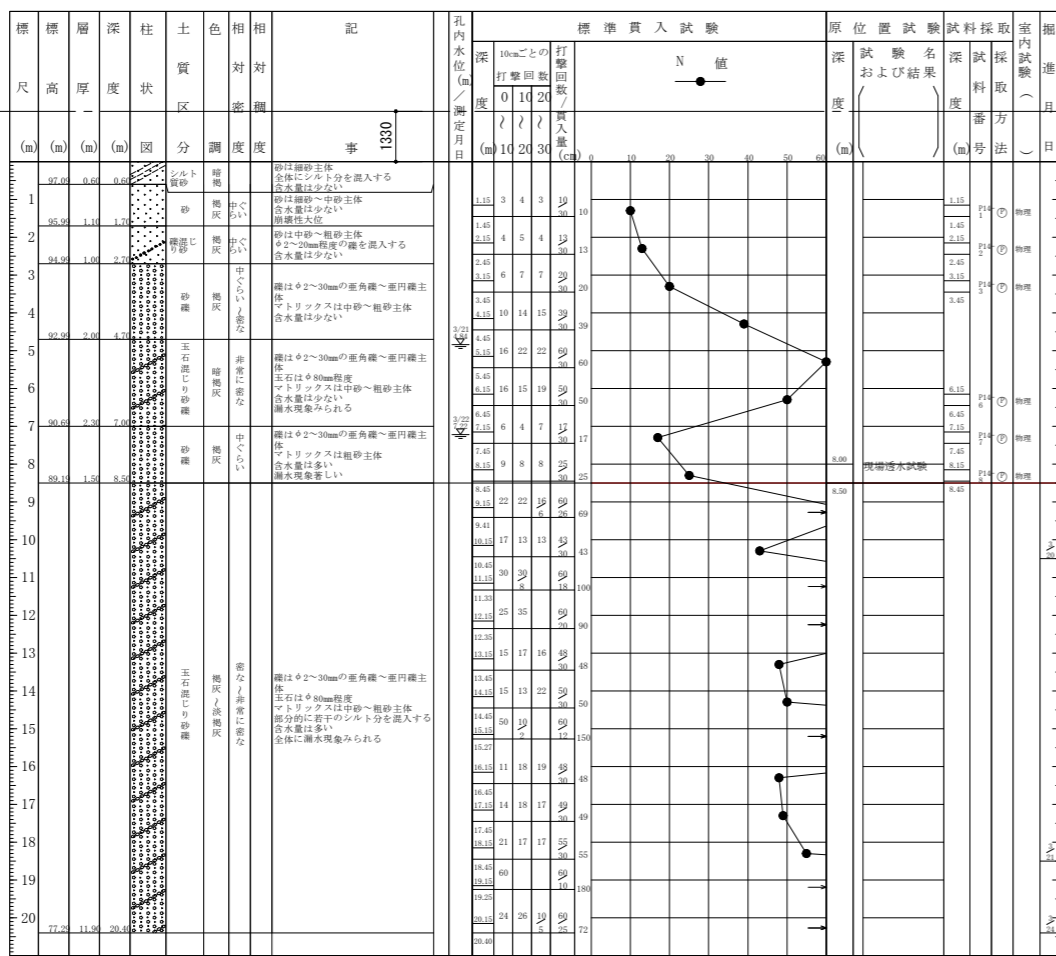
ボーリング No. 28-11-25

ボーリング No. 28-11-25

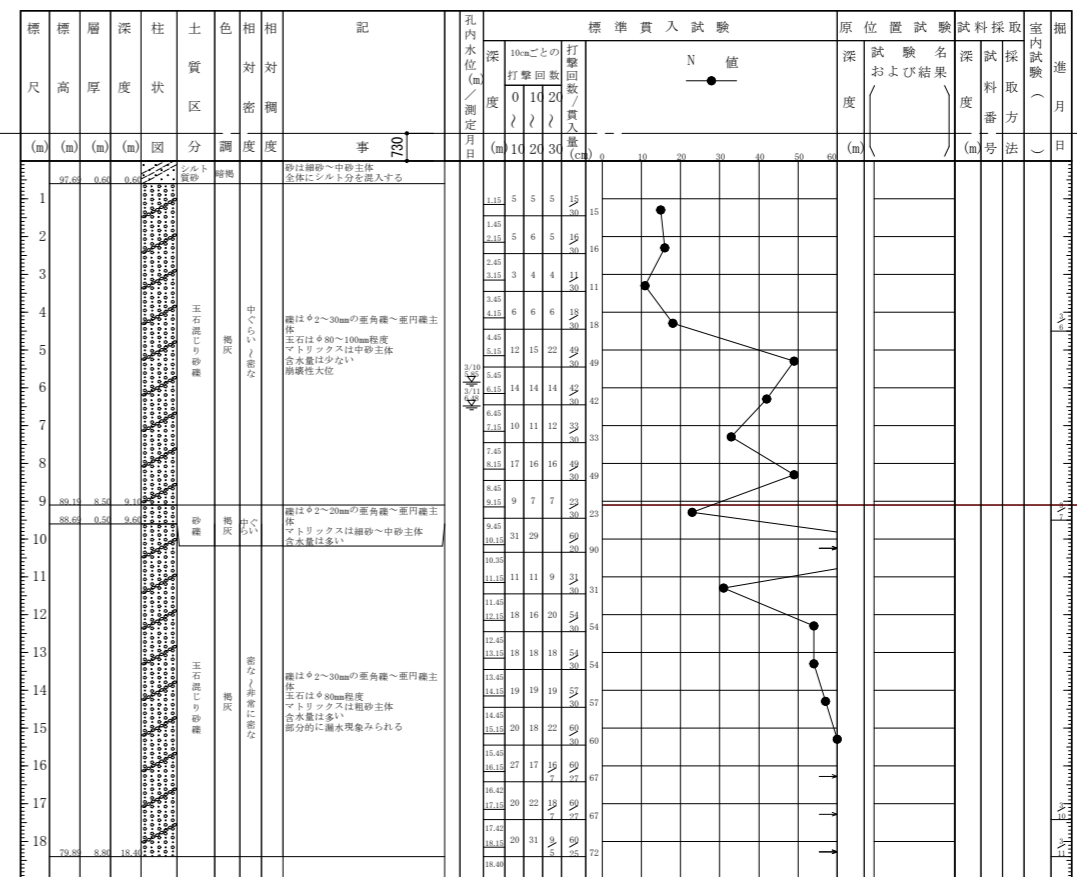
事業・工事名		調査位置		北緯	
No. 14		滋賀県野洲市三宅		35° 4' 35.1"	
発注機関		調査期間		東経	
公立大学法人 滋賀県立大学		令和7年3月19日～7年3月25日		136° 0' 47.3"	
調査業者名		現場代理人		ボーリング責任者	
株式会社 滋賀ソイルコンサルタンツ (077-510-1107)		吉川浩司		有園健二	
主任技師		コピア		ハンマー	
吉川浩司		吉川浩司		落下用具	
孔口標高		試験機		使用機種	
H=97.69m		D-O-D		エンジン	
総掘進長		ポンプ		半自動落下装置	
20.40m		NFD-10		BG-3C	

事業・工事名		調査位置		北緯	
No. 15		滋賀県野洲市三宅		35° 4' 35.5"	
発注機関		調査期間		東経	
公立大学法人 滋賀県立大学		令和7年3月6日～7年3月11日		136° 0' 46.0"	
調査業者名		現場代理人		ボーリング責任者	
株式会社 滋賀ソイルコンサルタンツ (077-510-1107)		吉川浩司		有園健二	
主任技師		コピア		ハンマー	
吉川浩司		吉川浩司		落下用具	
孔口標高		試験機		使用機種	
H=98.29m		D-O-D		エンジン	
総掘進長		ポンプ		半自動落下装置	
18.40m		NFD-10		BG-3C	

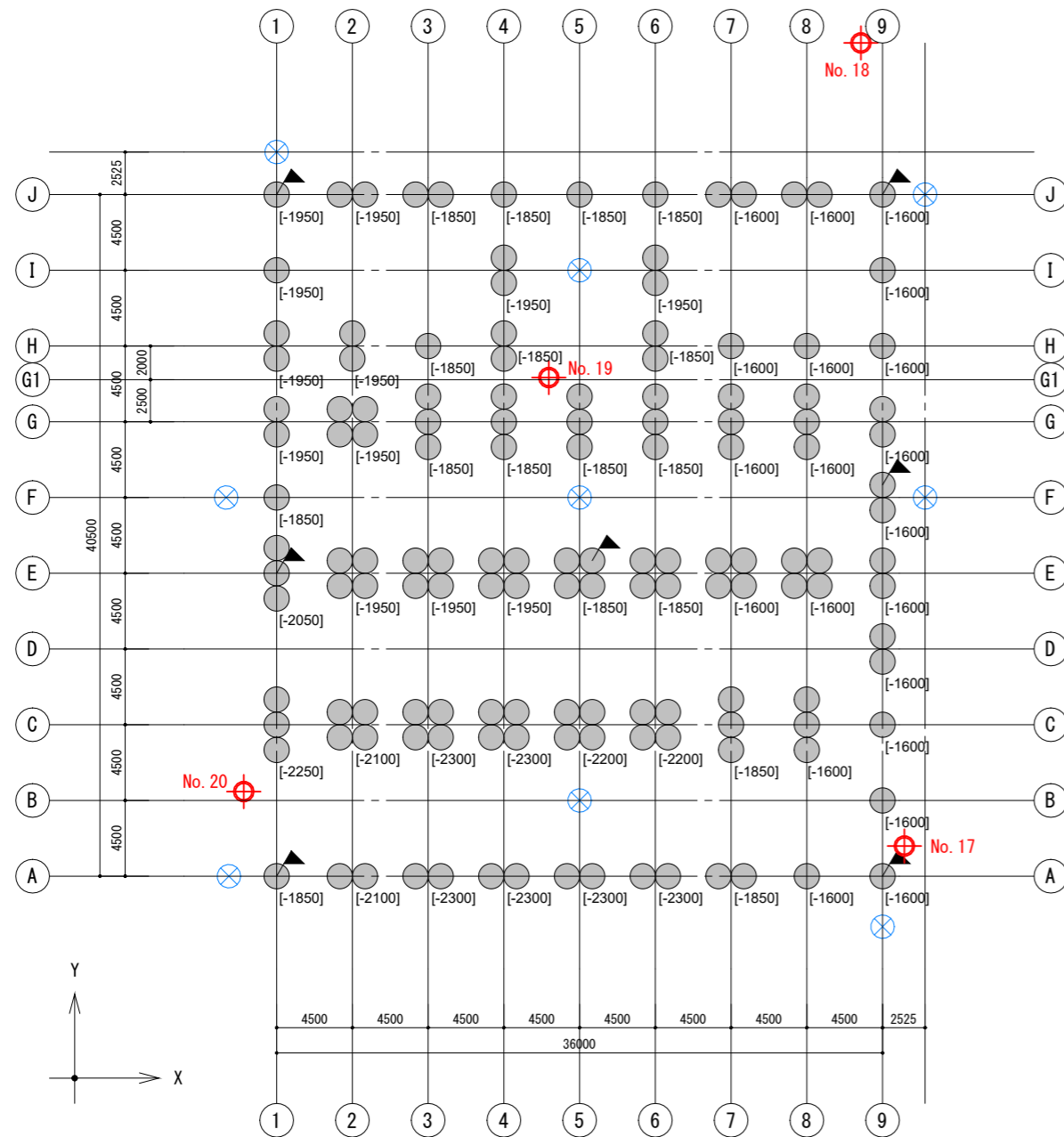
設計GL(図書交流・食堂売店棟)
(+99.02)



No.14(参考)



No.15(参考)



地盤改良伏図

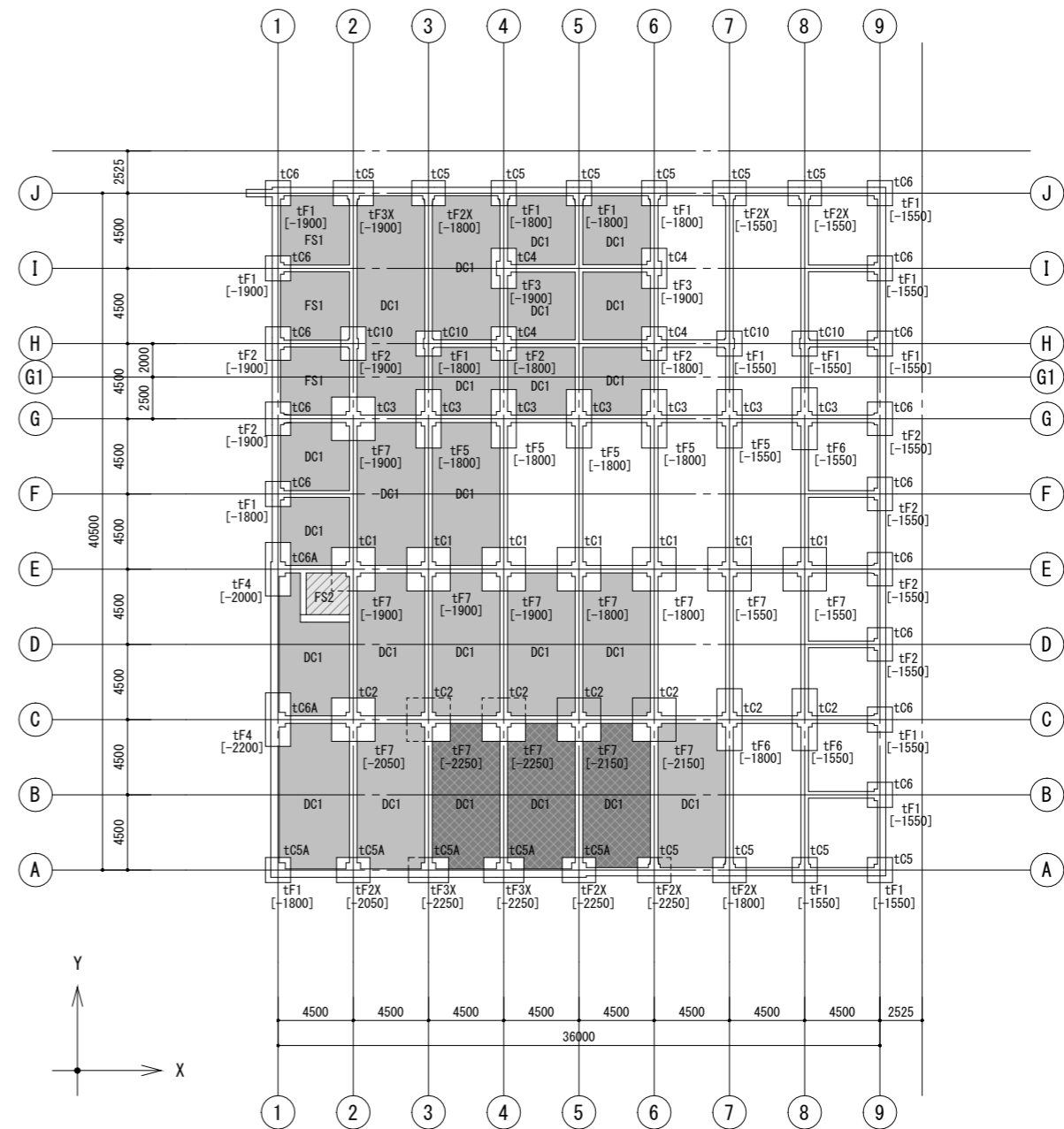
○注 記 (地盤改良伏図)
特記なき限り、下記による。

- 設計GL (=T.P.+99.02) =1FL-100とする。
- 改良径φ1500の深層混合処理工法を採用し、長期許容支持力は350kN/mとする。
- 改良天端レベルは、基礎下端-50とし、[]内数値は、1FLからの改良天端レベルを示す。
- 改良体は接円配置とし、改良体群の圆心=基礎圆心とする。
- 地盤改良長さは、凡例による。
- 支持層の標高は土質柱状図により、支持層天端まで改良すること。

凡 例：想定地盤改良底レベル

●：1FL-11.5 m

- ⊗は試験掘位置(9ヶ所)を示し、本施工に先立ち実施する。
監督員と協議の上、支持層土質の採取・確認を行い支持層の深さを決定する。
- ▲は試験施工位置(7ヶ所)を示し、本施工に先立ち実施する。
施工手順の確認、掘削状況、着底管理等の確認を行う。
- ⊕は地盤調査位置を示す。



基礎伏図

(見下げ図)

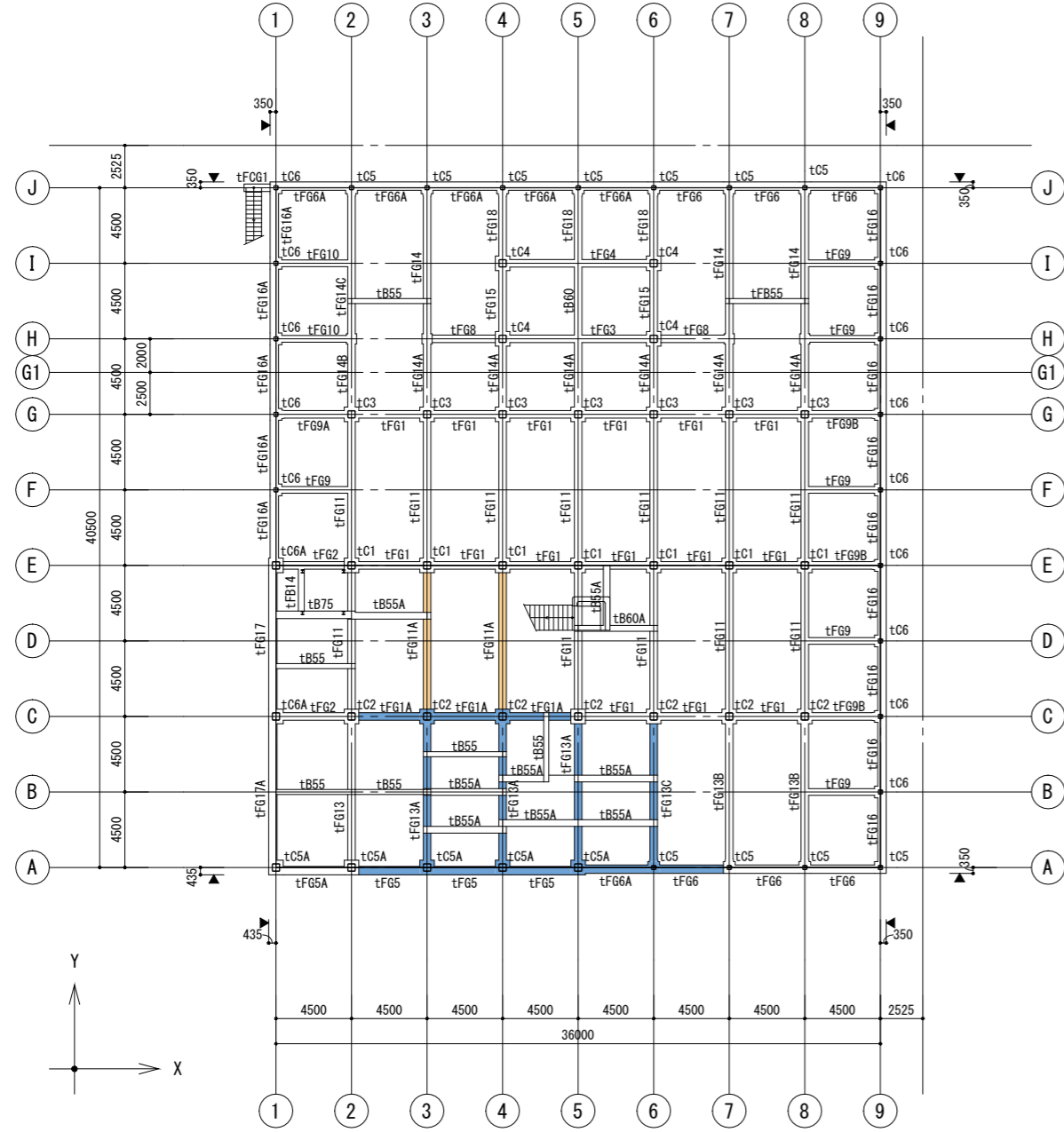
○注 記 (基礎伏図)
特記なき限り、下記による。

- 1FL = 設計GL+100
- 基礎芯=通芯とする。
- []内数値は、1FLからの基礎下端レベルを示す。
- []内数値は、1FLからの基礎天端レベルを示す。
- DC1はビット部土間コンクリートt150を示す。
- 底版天端レベルは、凡例による。
- 底版符号の無い範囲は、埋戻しとする。
- 本図のDC1周囲の基礎梁で、DC1の底レベルより、基礎梁レベルが高い場合は梁底増打とする。

凡 例：底版天端レベル

- ▨：1FL-1250
- ▩：1FL-1550
- ▧：1FL-1800

公立大学法人 滋賀県立大学 高専開設準備局 総務・施設整備課	株式会社 東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	設計番号 20240631-2 一級建築士 No.272847 石井 康彦	一級建築士 No.248486 構造設計一級建築士 No.4009 木下 隆嗣	一級建築士 No.334956 設備設計一級建築士 No.4756 工藤 征志	工事名称 滋賀県立高等専門学校 新築工事(第2工区) 図面名称 【図書交流・食堂売店棟】地盤改良伏図・基礎伏図 縮尺 A1: 1/200 A3: 1/400	図面番号 S101
-----------------------------------	---	--	---	---	---	--------------



1階柱梁伏図(柱梁符号図)

(見下げ図)

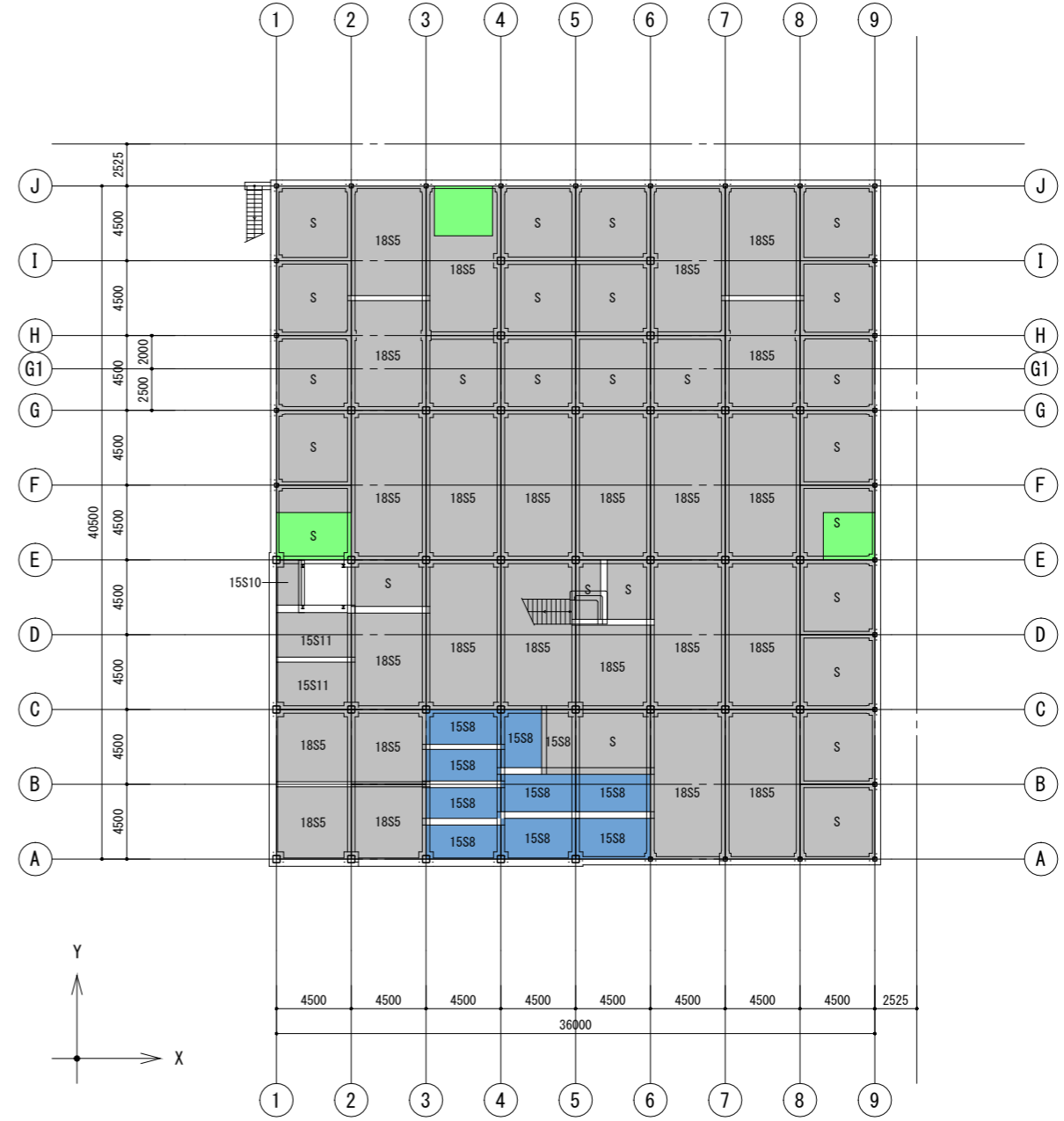
○注記 (1階床伏図)

特記なき限り、下記による。

1. 通芯=基礎芯=柱芯=梁芯を示す。
2. ▶ は梁面を示す。
3. 基礎梁 (FG符号) 天端レベルは1FL-250とする。
4. RC小梁 (B符号) 天端レベルは、スラブ天端レベルと同じとし、RC基礎小梁 (FB符号) 天端レベルは、スラブ底とする。
5. スラブ天端とRC梁天端が異なる場合は、梁上増打ちとする。

凡例：基礎梁天端レベル

- : 1FL-500
- : 1FL-250~500 (勾配付き、方向は軸組図による)



1階床伏図(スラブ符号図)

○注記 (1階床伏図)

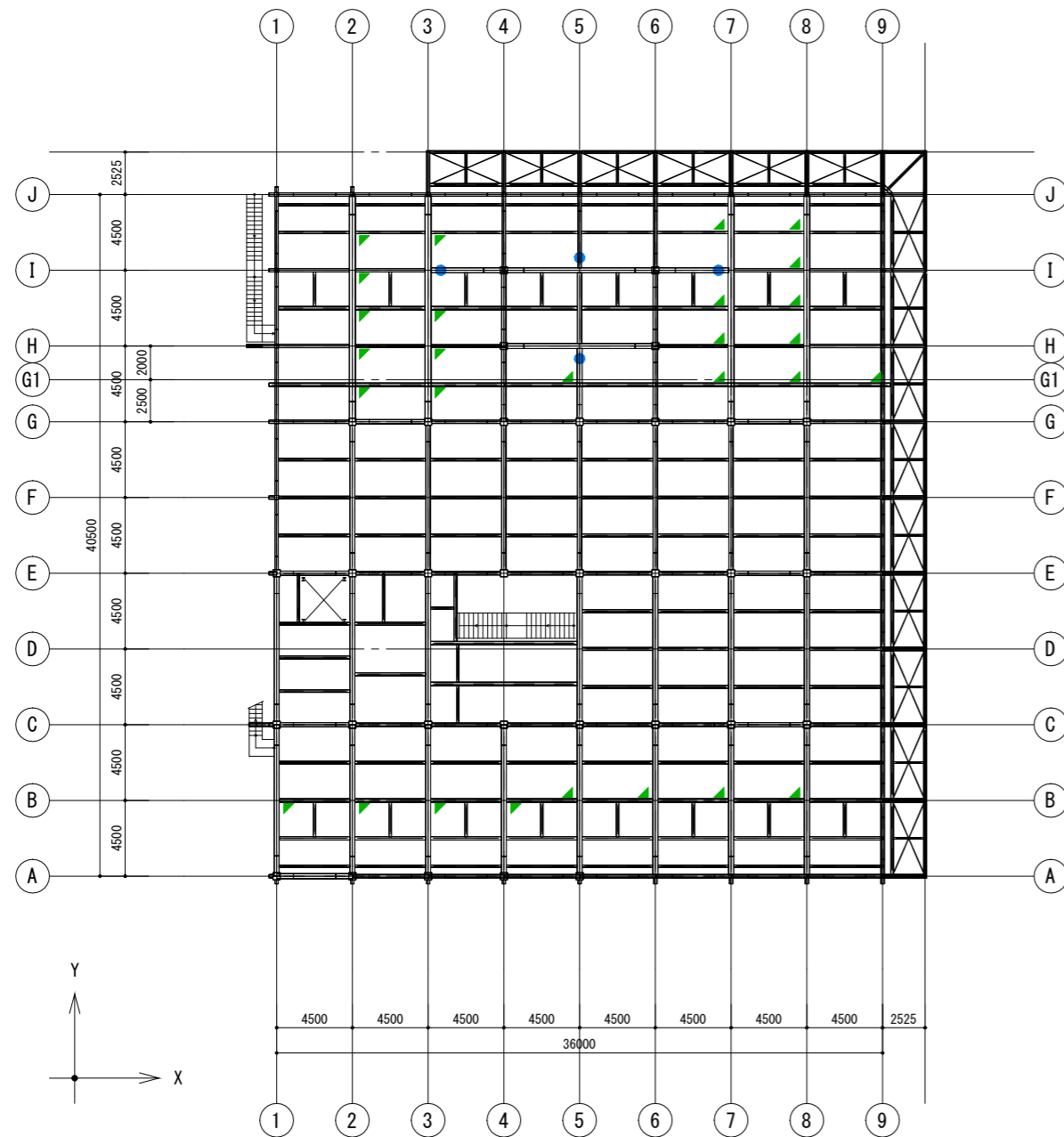
特記なき限り、下記による。

1. スラブ符号例 (DC・FSの配筋及び厚さは詳細図による)
 (B) S (I) 在来型枠スラブ (S, CS符号) 配筋種別 (S004図による)
 └─ スラブ厚 (cm)
2. スラブ符号SIは18S10を示す。

凡例：スラブ天端レベル

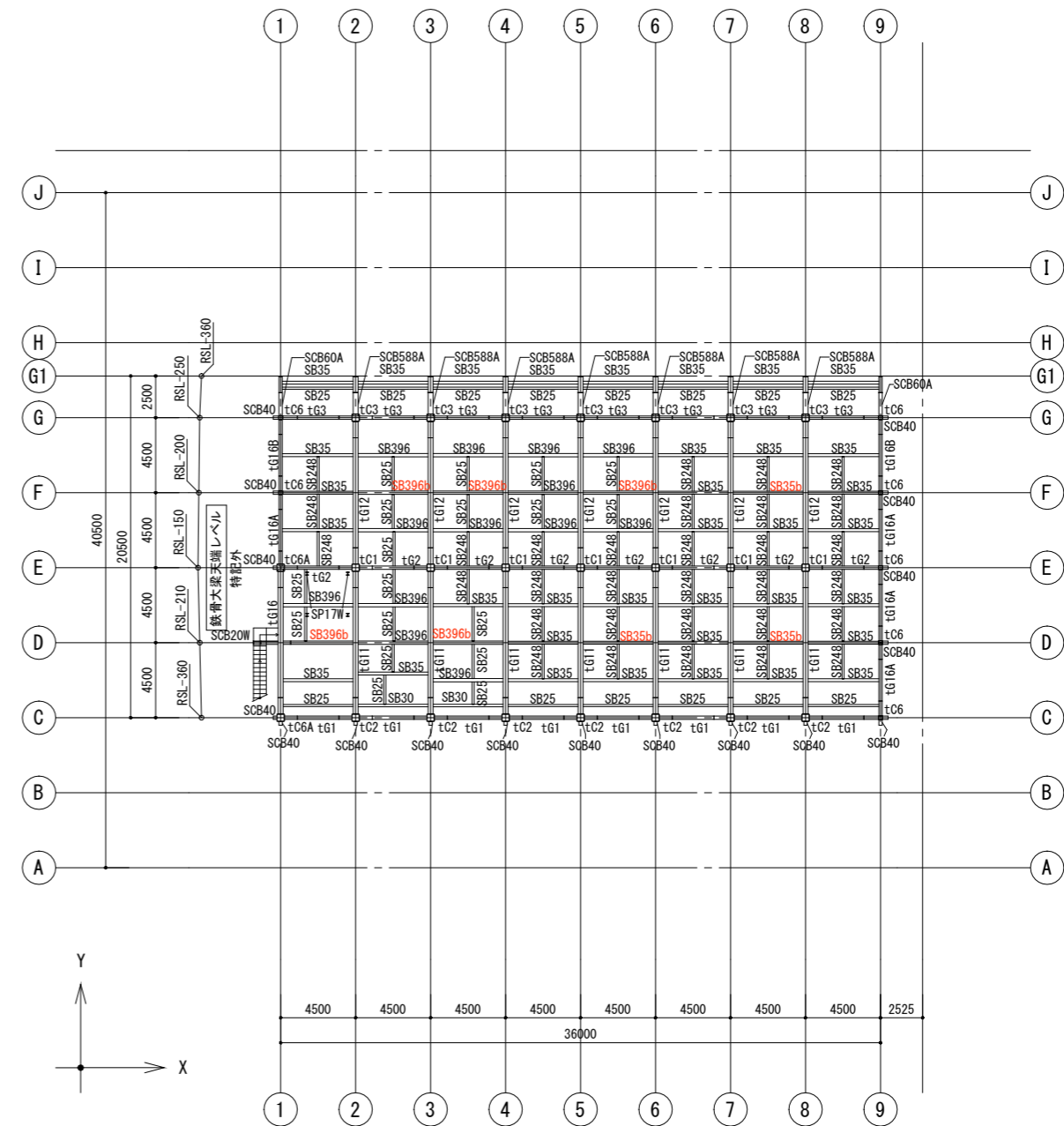
- : 1FL-15
- : 1FL-50
- : 1FL-250
- : スラブ無し

公立大学法人 滋賀県立大学 高専開設準備局 総務・施設整備課	株式会社 東畑建築事務所 TOMIYAMA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	設計番号 20240631-2 一級建築士 No.272847 石井 康彦	一級建築士 No.248486 構造設計一級建築士 No.4009 木下 隆嗣	一級建築士 No.334956 設備設計一級建築士 No.4756 工藤 征志	工事名称 滋賀県立高等専門学校 新築工事(第2工区) 図面名称 【図書交流・食堂売店棟】 1階床伏図(柱梁符号図・スラブ符号図) 縮尺 A1: 1/200 A3: 1/400	図面番号 S102
-----------------------------------	---	--	---	---	---	--------------



2階床伏図(接合部仕様図)

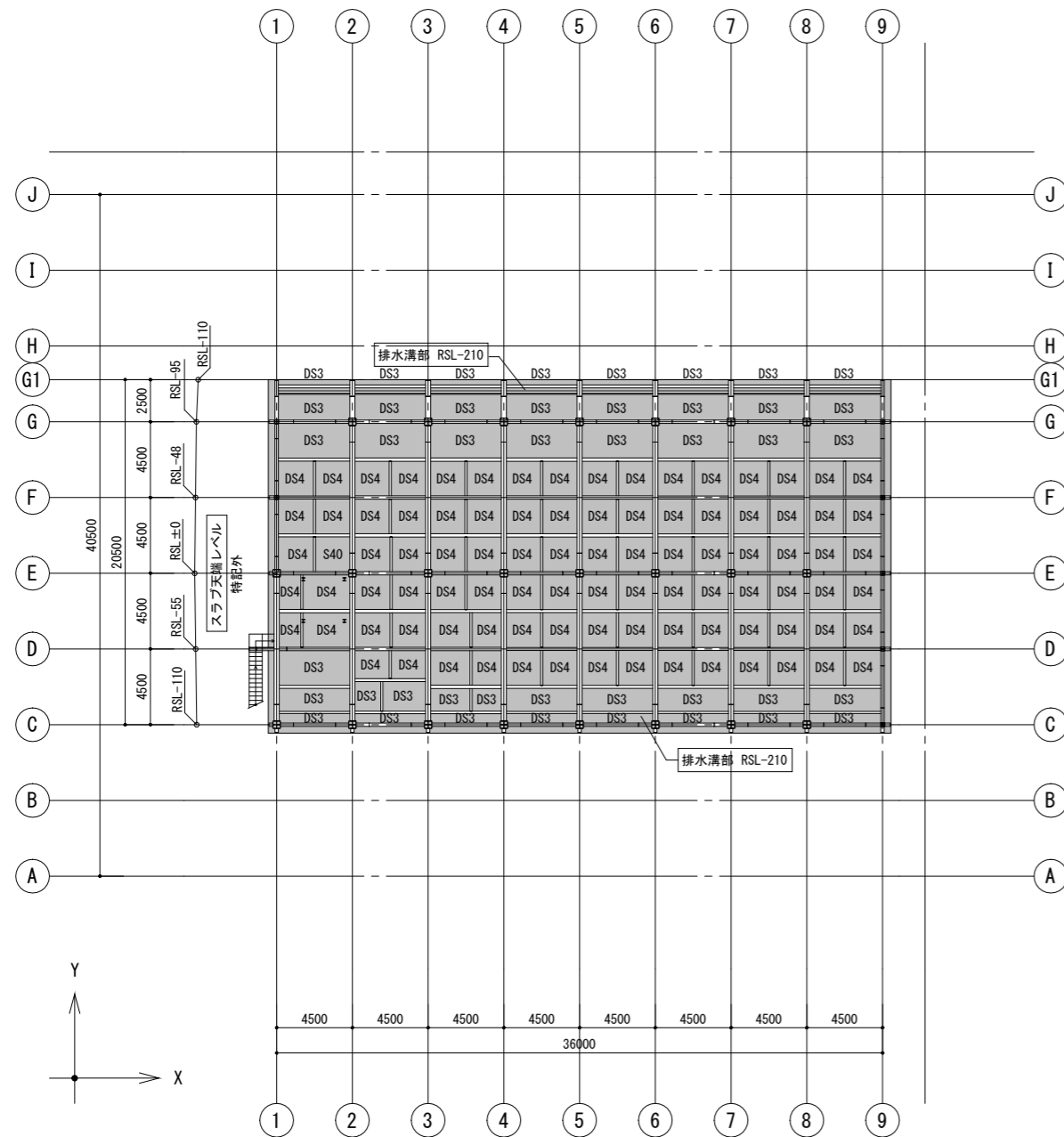
凡 例：接合部仕様
 ◆：剛接合
 ●：ピン接合
 ▲：大梁の横補剛(方柱タイプ)
 右図：SCB(CG)符号とSB符号の剛接合
 記号なし：大梁(G符号)、片持梁(SCG, SCB符号)は剛接合、小梁(SB符号)はピン接合



R階柱梁伏図(柱梁符号図)

○注 記 (R階床伏図)
 特記なき限り、下記による。
 1. 通芯=柱芯=梁芯(ウェブ芯)とする。
 2. 鉄骨大梁天端レベルは図示による。
 3. 鉄骨小梁天端レベルは、原則としてスラブ下端とする。

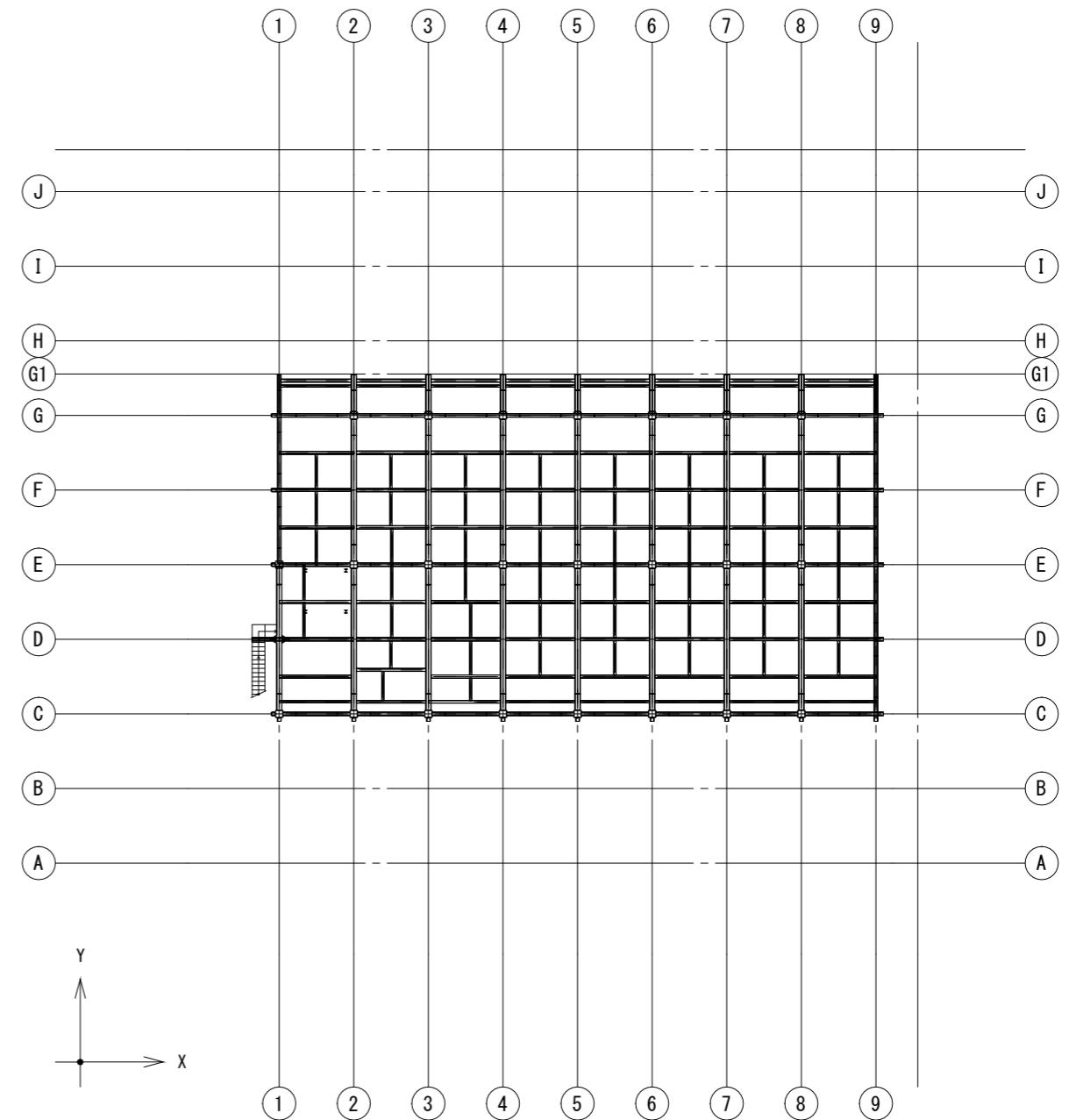
公立大学法人 滋賀県立大学 高専開設準備局 総務・施設整備課		株式会社 東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	設計番号 20240631-2 一級建築士 No. 272847 石井 康彦	一級建築士 No. 248486 構造設計一級建築士 No. 4009 木下 隆嗣	一級建築士 No. 334956 設備設計一級建築士 No. 4756 工藤 征志	工事名称 滋賀県立高等専門学校 新築工事(第2工区) 図面名称 【図書交流・食堂売店棟】2階床伏図(接合部仕様図) ・R階床伏図(柱梁符号図) 縮尺 A1: 1/200 A3: 1/400	図面番号 S104
-----------------------------------	--	---	---	---	---	---	--------------



R階床伏図(スラブ符号図)

○注記(床)

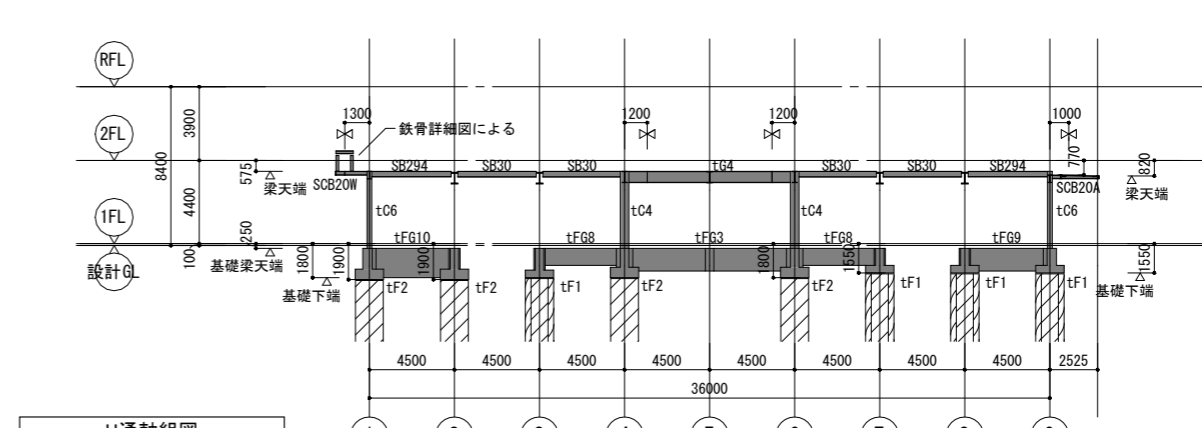
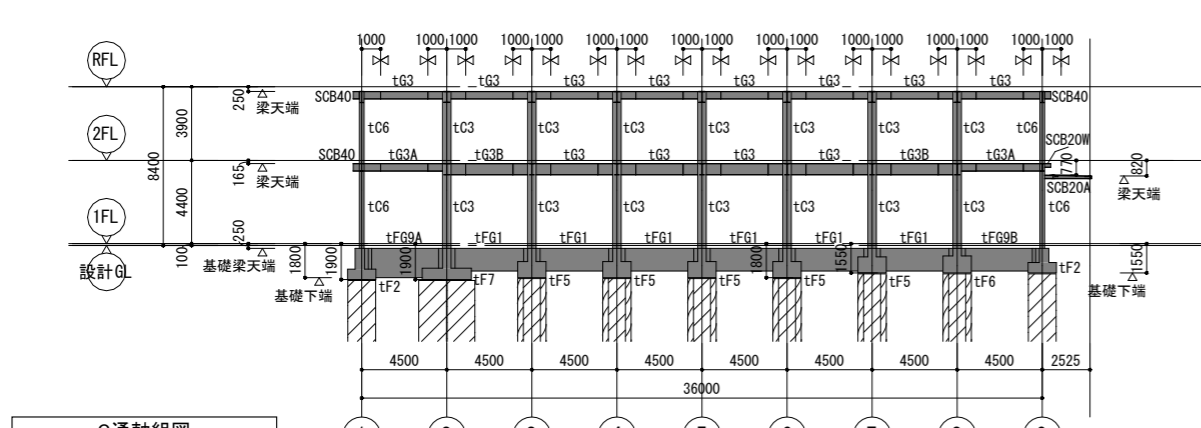
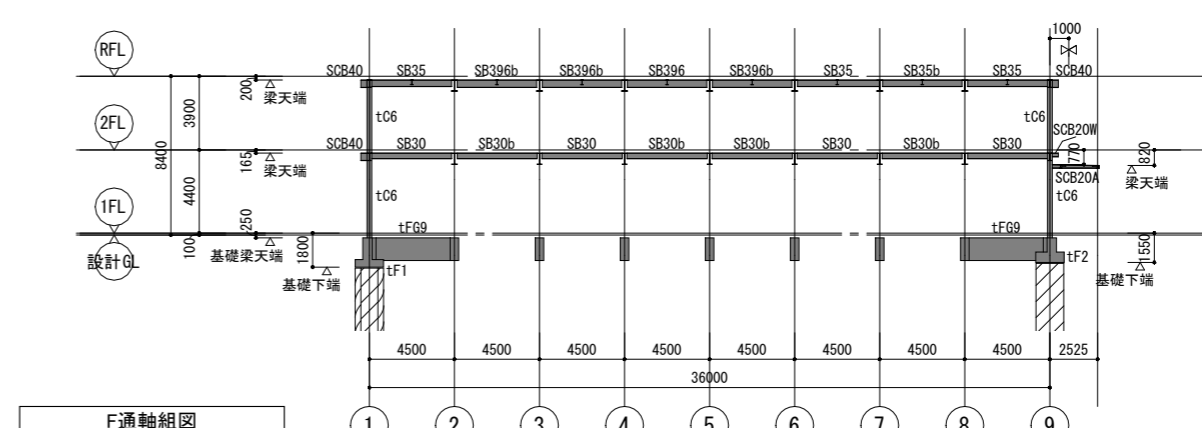
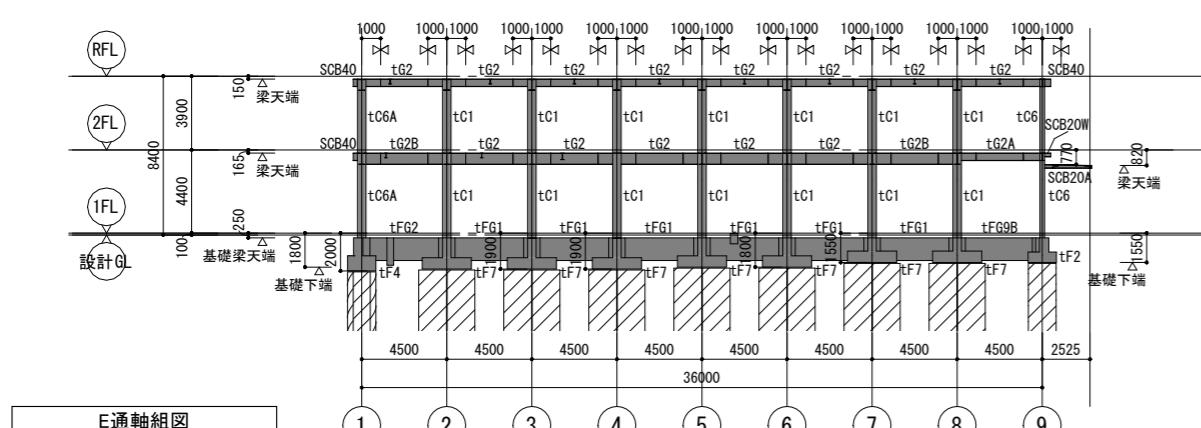
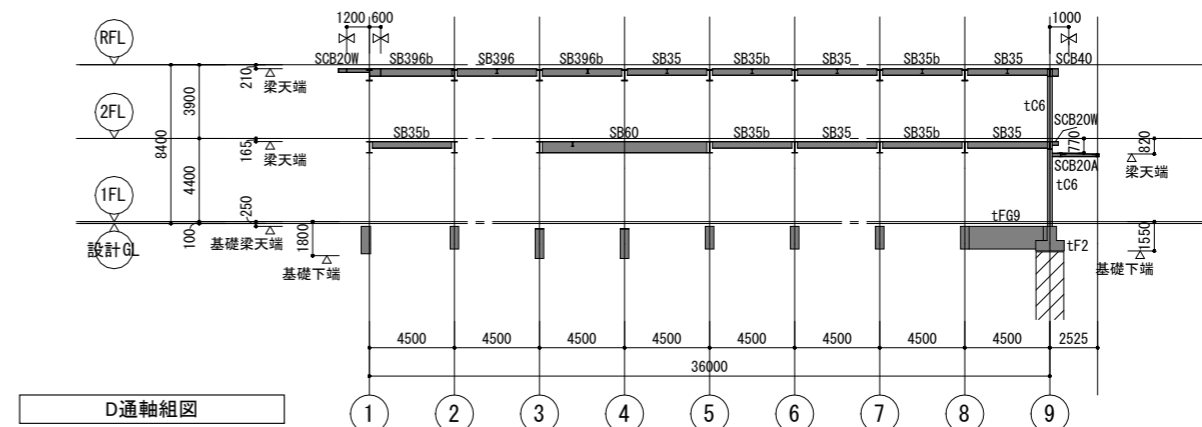
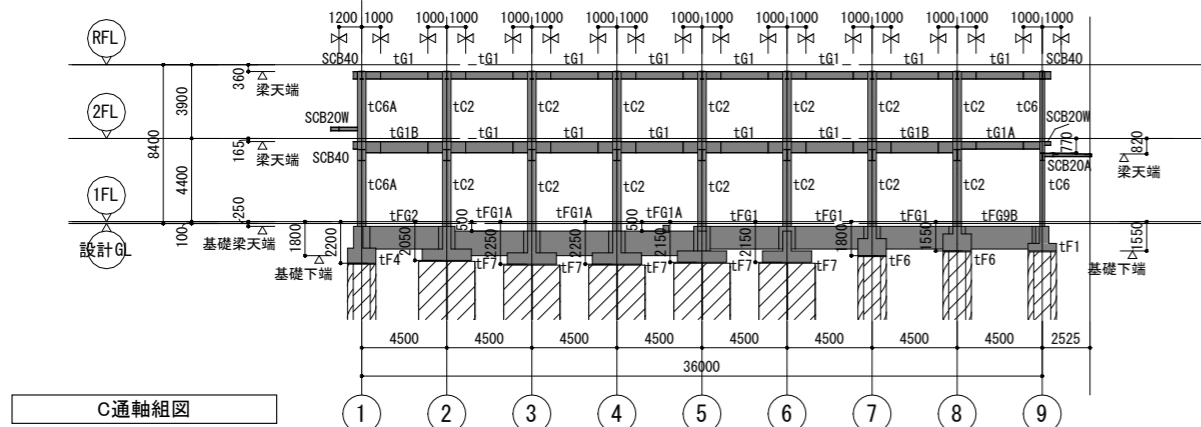
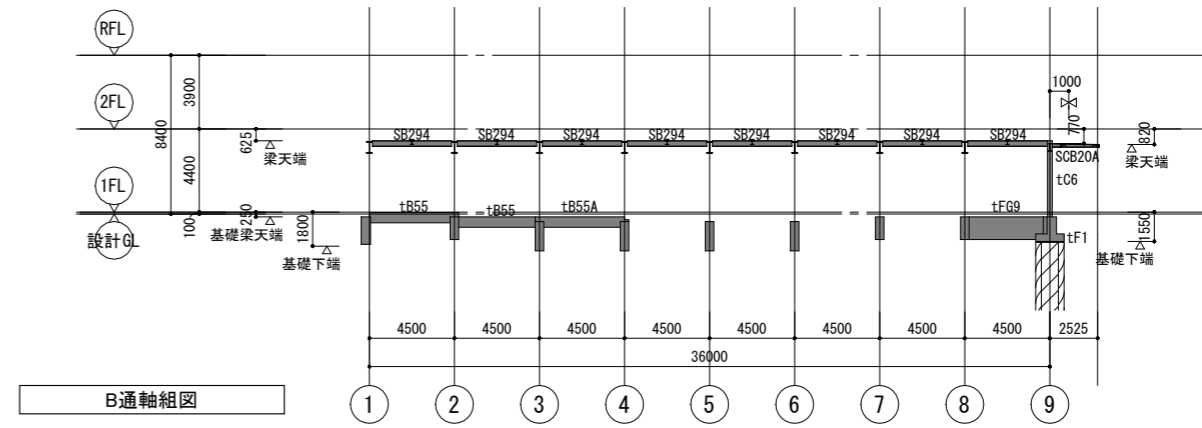
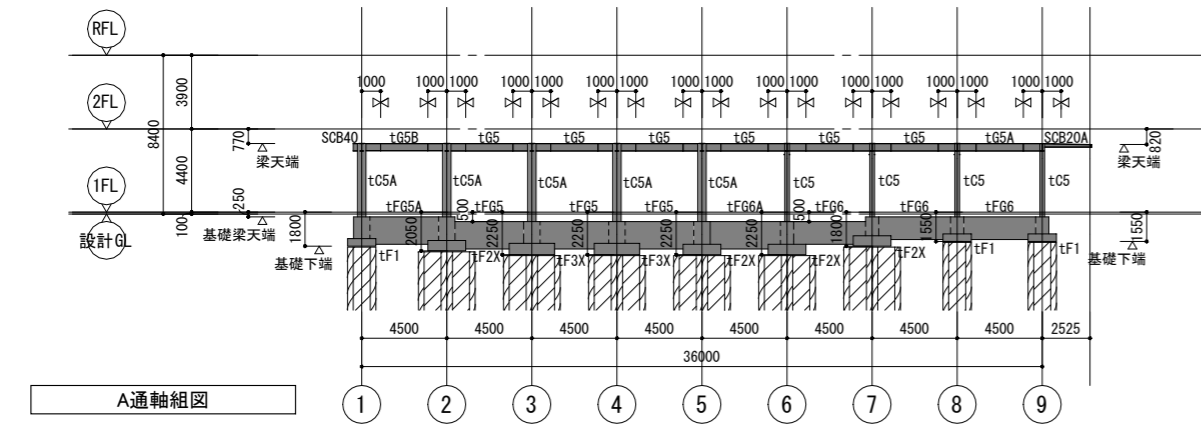
- 特記なき限り、下記による。
- 1. 通芯=柱芯=梁芯(ウェブ芯)とする。
- 2. 鉄骨小梁天端レベルは、原則としてスラブ下端とする。
- 3. スラブ下端と鉄骨梁天端が異なる場合は、デッキスラブ段差仕様による。
- 4. ←はスラブ用デッキの敷き方向を示し、特記のない場合は敷き方向をY方向とする。
- 5. ○→は、スラブ勾配を示す。
- 6. □内数値はスラブレベルを示す。
- 7. スラブ符号DSはDS3を示す。
- 8. 排水溝部は文字で示す。



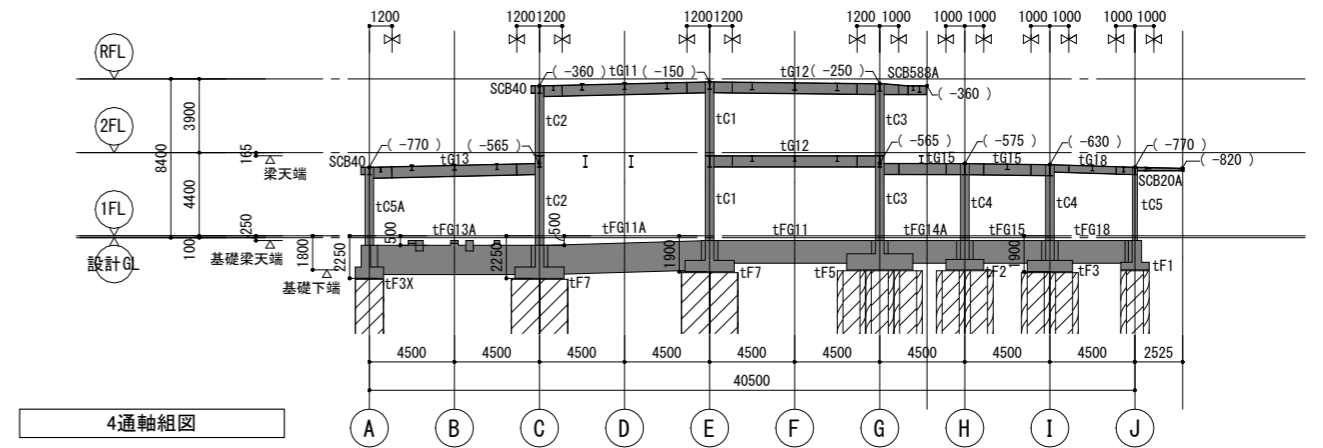
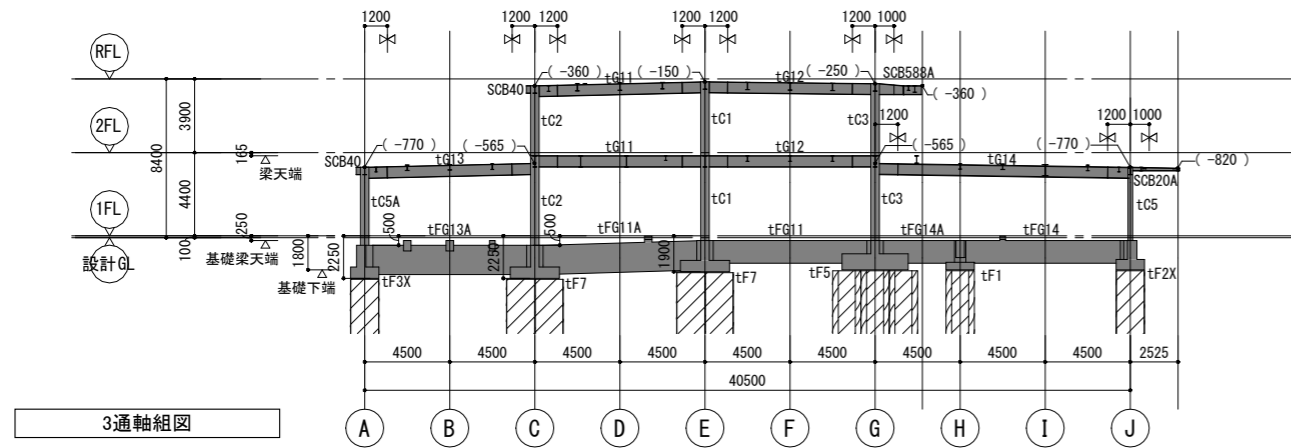
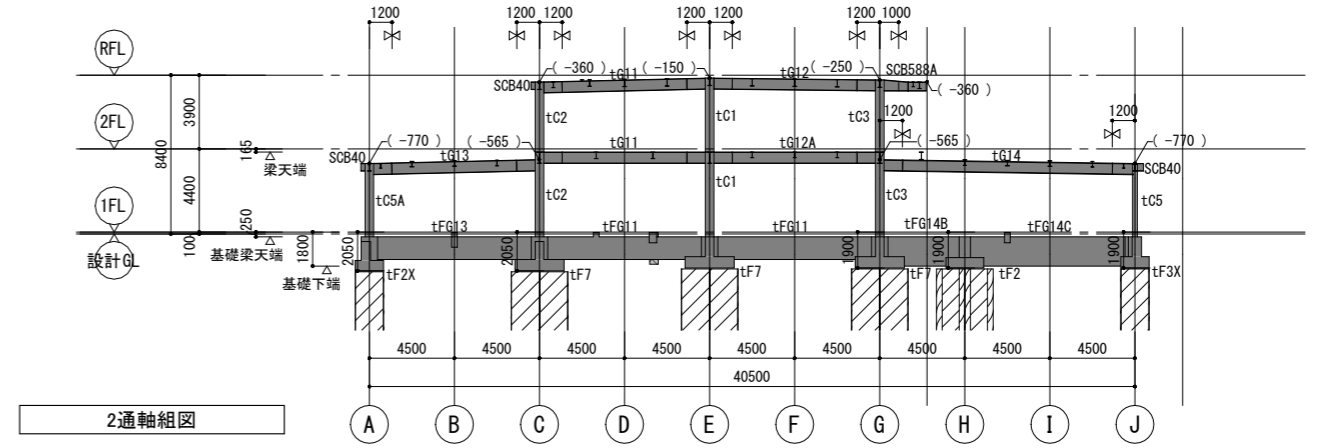
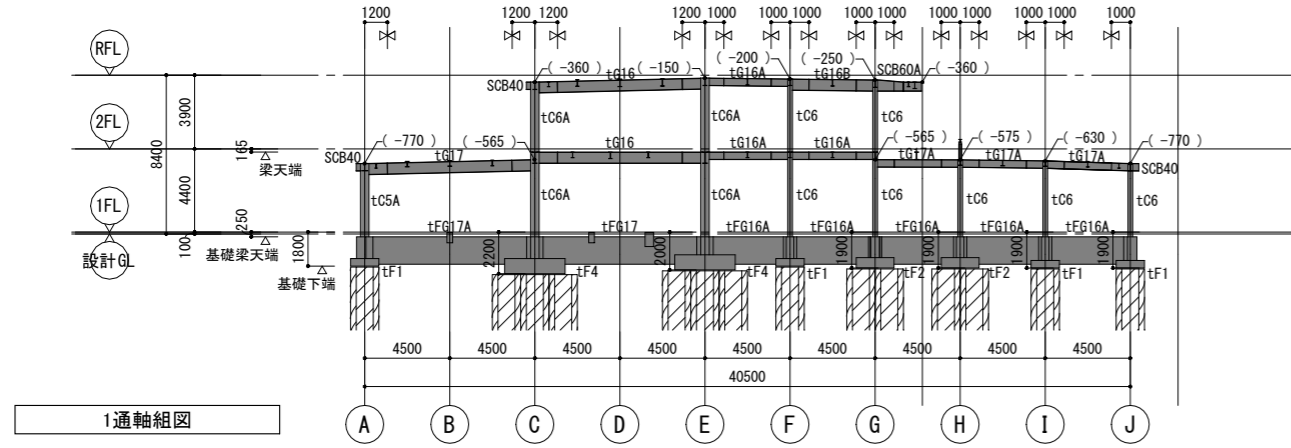
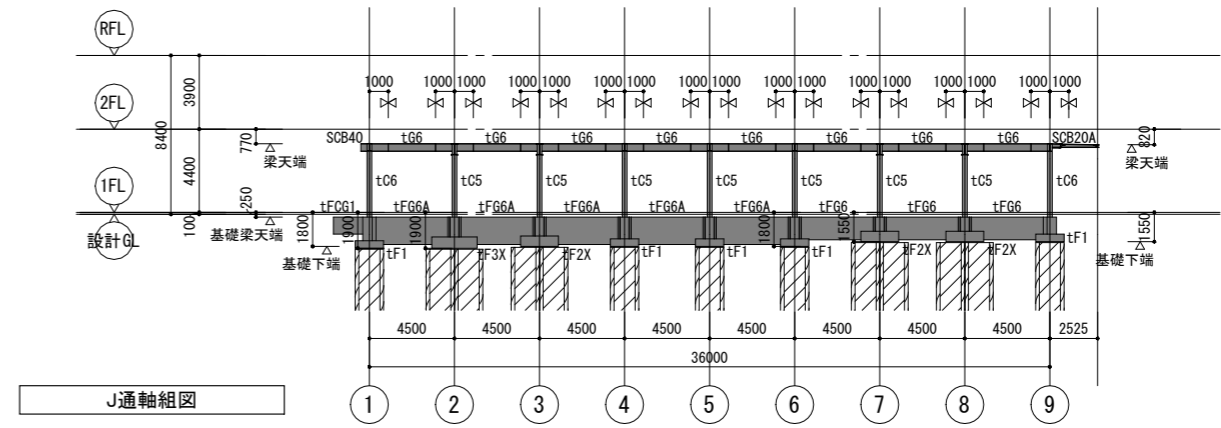
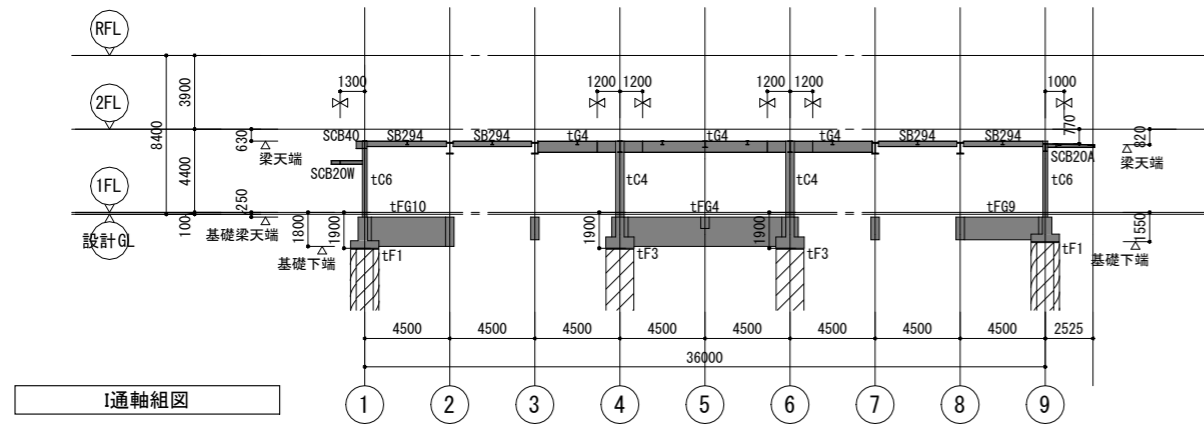
R階床伏図(接合部仕様図)

凡例：接合部仕様

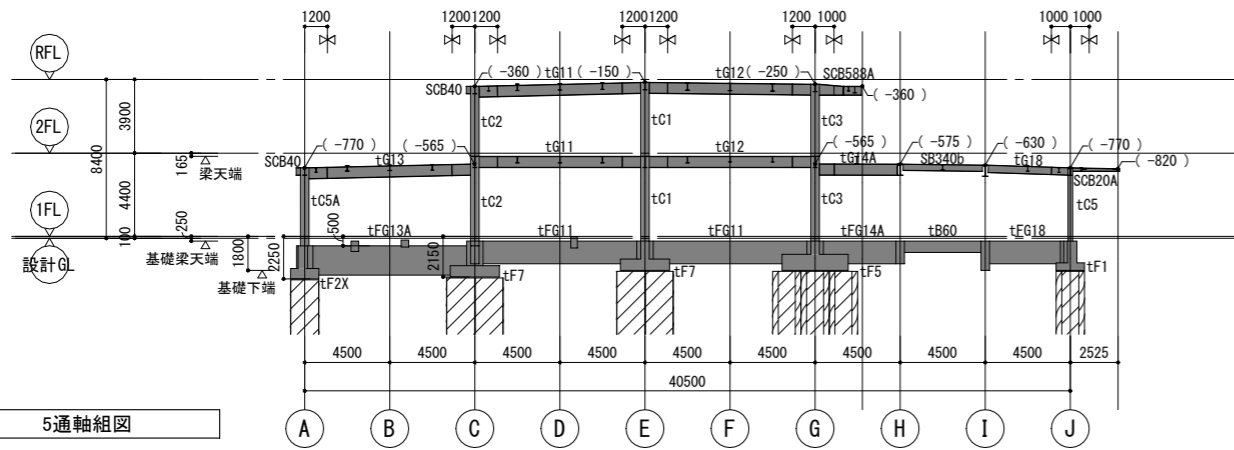
- ◆：剛接合
- ：ピン接合
- ▲：大梁の横補剛(方杖タイプ)
- 右図：SCB(CG)符号とSB符号の剛接合
- 記号なし：大梁(G符号)は剛接合、片持梁(SCG, SOB符号)は剛接合、小梁(SB符号)はピン接合



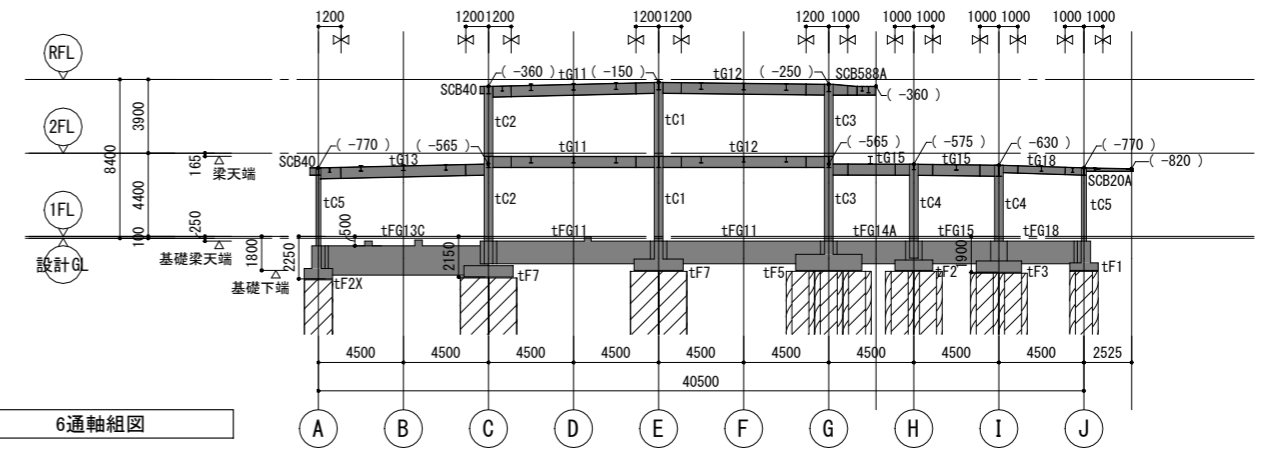
公立大学法人 滋賀県立大学 高専開設準備局 総務・施設整備課			株式会社 東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.		設計番号 20240631-2	工事名称 滋賀県立高等専門学校 新築工事(第2工区)	図面番号 S106
			一級建築士 No.272847 石井 康彦	一級建築士 No.248486 構造設計一級建築士 No.4009 木下 隆嗣	一級建築士 No.334956 設備設計一級建築士 No.4756 工藤 征志	図面名称 【図書交流・食堂売店棟】軸組図 その1 縮尺 A1: 1/200 A3: 1/400	



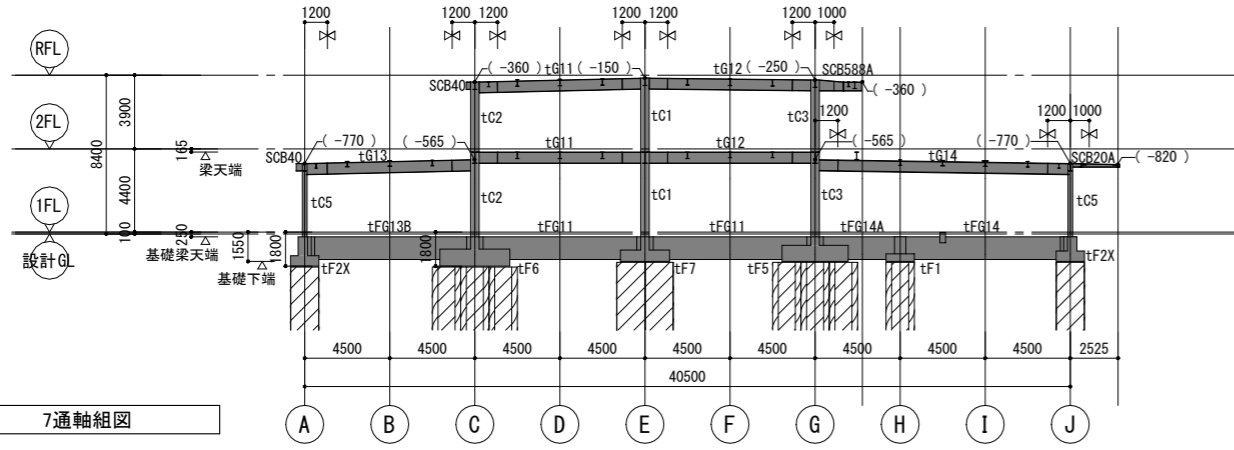
公立大学法人 滋賀県立大学 高専開設準備局 総務・施設整備課		株式会社 東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	設計番号 20240631-2	工事名称 滋賀県立高等専門学校 新築工事(第2工区)	図面番号 S107
			一級建築士 No.248486 構造設計一級建築士 No.4009 石井 康彦	一級建築士 No.334956 設備設計一級建築士 No.4756 工藤 征志	



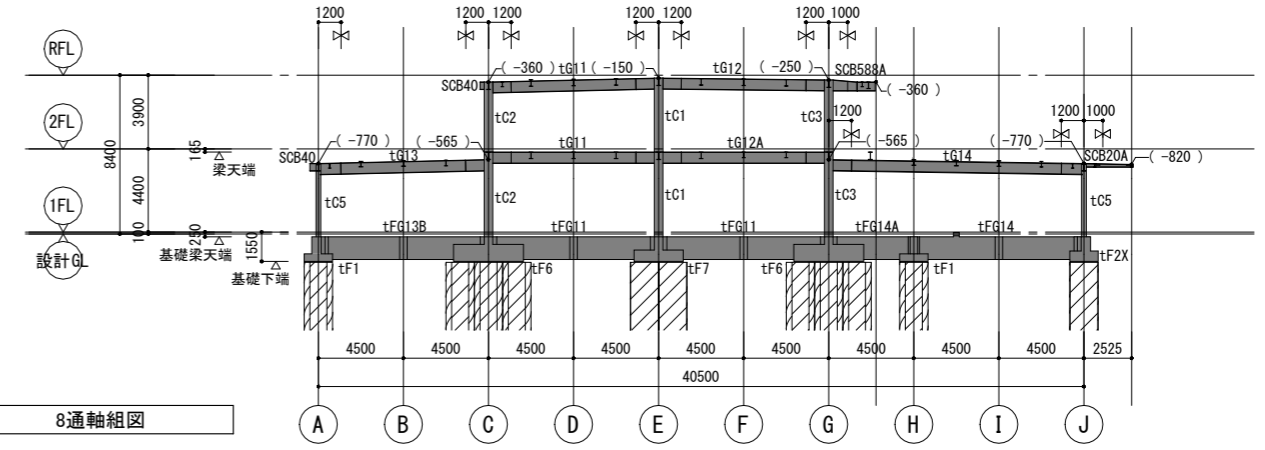
5通軸組図



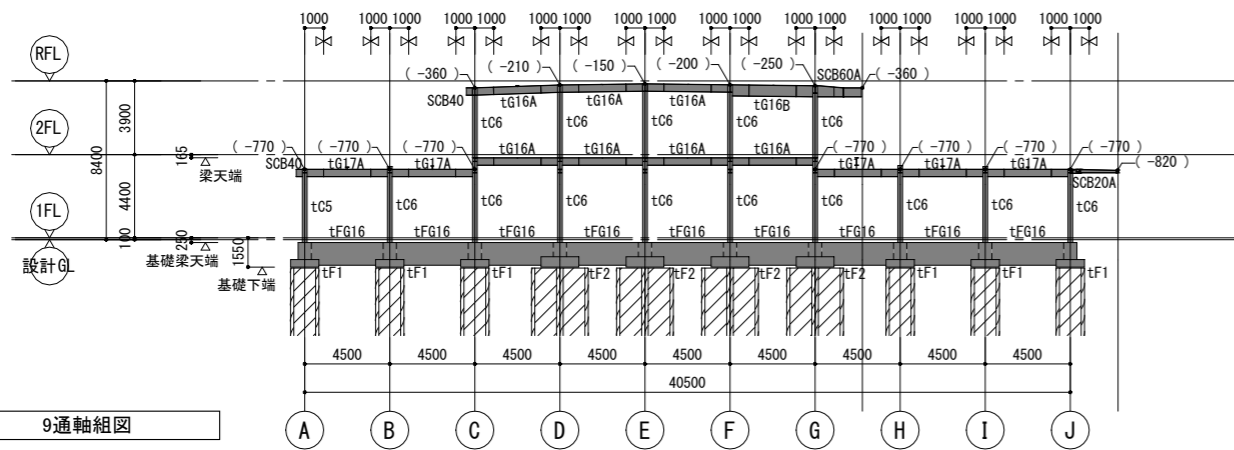
6通軸組図



7通軸組図



8通軸組図



9通軸組図

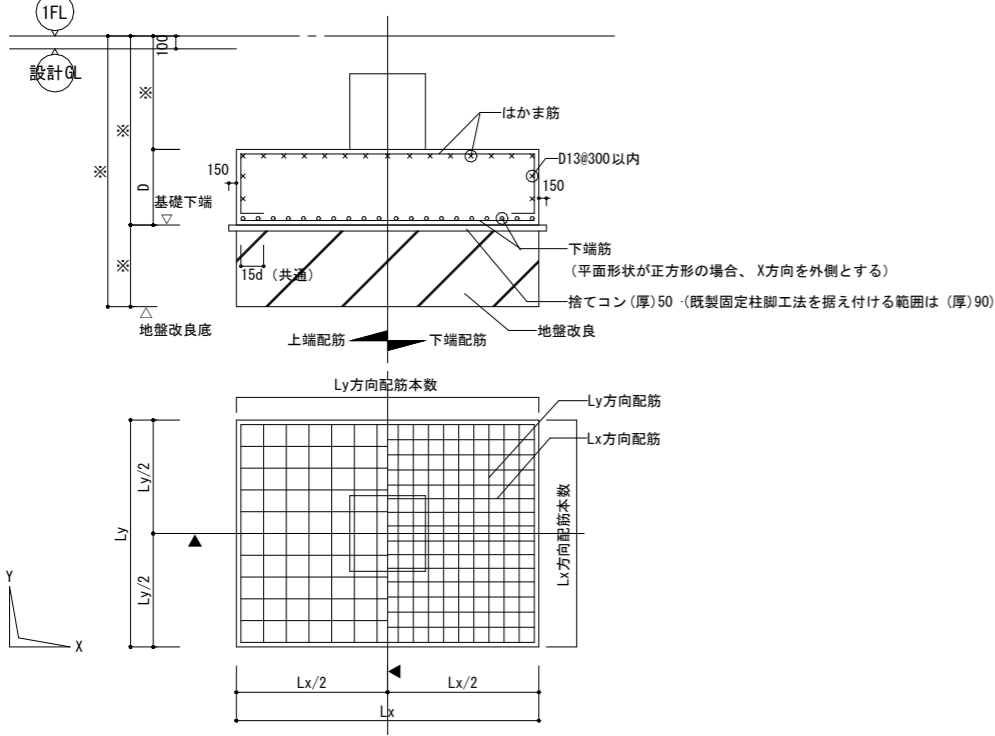
- 軸組図共通事項
 特記なき限り、下記による。
 1. △ : 梁天端レベルを示す。
 2. ※ : 鉄骨現場継手位置を示す。
 3. 通芯=基礎芯=柱芯とする。
 4. 継手は二次部材と干渉する場合、現場溶接継手とする。
 5. BPL下端レベルは、取合う梁のうち最も高い基礎梁天端 +50とする。
 6. ()内数値は、RFLからの梁の天端レベルを示す。
 7. 基礎梁天端とスラブ天端、及び、梁下端と土間コンクリート下端との差がある部分は、梁増打とし、増打表現は省略する。

公立大学法人 滋賀県立大学 高専開設準備局 総務・施設整備課	株式会社 東畑建築事務所 TOMIYAMA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	設計番号 20240631-2	一級建築士 No.248486 構造設計一級建築士 No.4009 木下 隆嗣	一級建築士 No.334956 設備設計一級建築士 No.4756 工藤 征志	工事名称 滋賀県立高等専門学校 新築工事(第2工区) 図面名称 【図書交流・食堂売店棟】軸組図 その3 縮尺 A1: 1/200 A3: 1/400	図面番号 S108
		石井 康彦	一級建築士 No.334956 設備設計一級建築士 No.4756 工藤 征志	図面名称 【図書交流・食堂売店棟】軸組図 その3 縮尺 A1: 1/200 A3: 1/400	図面番号 S108	

基礎詳細図 1/50

特記のない場合は下記による。

1. ◀ は、基礎芯を示す。
2. ※寸法は、地盤改良伏図及び軸組図による。



基礎配筋表

1. 幅止筋はD10@1000とする。
2. 配筋は長辺方向主筋を上下共に最外縁鉄筋とする。

符号	Lx (mm)	Ly (mm)	D (mm)	Lx方向 下端主筋	Ly方向 下端主筋	はかま筋
tF1	1500	1500	400	8-D16	8-D16	D13@300
tF2	1500	2000	550	10-D16	8-D19	D13@300
tF2X	2000	1500	550	8-D19	10-D16	D13@300
tF3	1500	2400	600	12-D16	8-D19	D13@300
tF3X	2400	1500	600	8-D19	12-D16	D13@300
tF4	1500	3200	800	16-D16	10-D22	D13@300
tF5	1500	3500	850	18-D16	10-D22	D13@300
tF6	1500	3700	900	19-D16	10-D25	D13@300
tF7	2600	2600	600	14-D19	14-D19	D13@300

底版断面表

1. 幅止筋はD10@1000とする。
2. 地業は捨てコン(厚)50 + 砂利地業(厚)60とする。

底版 符号	スラブ 厚	短辺方向・主筋		長辺方向・配力筋		備考
		上端筋	下端筋	上端筋	下端筋	
DC1	150	D13@200	-	D13@200	-	土間コン(シングル配筋)
FS1	250	D13@150	D13@150	D13@150	D13@150	防火水槽
FS2	300	D13@150	D13@150	D13@150	D13@150	EVビット

基礎断面表

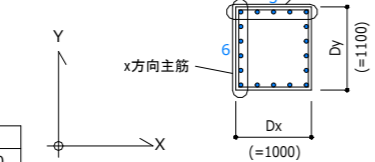
特記のない場合は下記による。

1. 帯筋はH形とする。
2. ハイバースNE0工法の場合、主筋は柱頭フックなしとする。
3. Ltは主筋の下部定着長さを示す。詳細は「雑配筋図」参照。

断面	主筋	x方向	y方向	帯筋
1000×1100	18-D25	6	5	□-D13@100

符号	断面	主筋	x方向	y方向	帯筋	備考
tC1, tC2, tC3, tC4, tC5A, tC6A	870×870	16-D25	5	5	□-D13@100	Lt=520
tC5, tC6	700×700	20-D19	6	6	□-D13@100	Lt=330
tC10	600×600	16-D22	5	5	□-D13@100	

基礎断面リスト凡例

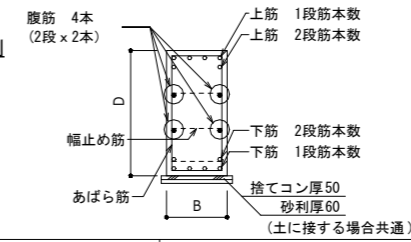


基礎梁断面表

特記のない場合は下記による。

1. 幅止筋 D10 → @1000
2. 梁端部主筋カットオフ筋の長さは、1/4 L0+15d とする。
(L0は梁の内法寸法、dは鉄筋の呼び径)
3. 梁端部ハンチ長さは礎柱面から 400とする。

RC梁断面リスト凡例



断面 B×D	主筋径	上端筋			下端筋			あばら筋			腹筋
		左端	中央	右端	左端	中央	右端	左端	中央	右端	
500 × 1000	D00	4/2	4/2	4/2	4/2	4/2	4/2	2-D13 @200	2-D13 @200	2-D13 @200	2-2-D13

符号	断面 B×D			主筋径	上端筋				下端筋				あばら筋			腹筋		
	左端	中央	右端		左端	中央	右端	カットオフ長さ 左端 右端	左端	中央	右端	左端	中央	右端				
tFG1	450×1200	450×1200	450×1200	D25	4/1	4/1	4/1											2-D13@200
tFG1A	450×1300	450×1300	450×1300	D25	4/1	4/1	4/1											2-D13@200
tFG2	450×1200	450×1200	450×1200	D25	4/4	4/4	4/4											2-D13@150
tFG3	450×1200	450×1200	450×1200	D25	4/3	4/4	4/3	2500	2500									2-D13@200
tFG4	450×1550	450×1550	450×1550	D25	4/2	4/0	4/2											2-D13@200
tFG5	500×1450	500×1450	500×1450	D25	4/1	4/1	4/1											2-D13@200
tFG5A	500×1450	500×1450	500×1450	D25	4/2	4/2	4/2											2-D13@200
tFG6	500×1200	500×1200	500×1200	D25	4/0	4/0	4/0											2-D13@200
tFG6A	500×1450	500×1450	500×1450	D25	4/0	4/0	4/0											2-D13@200
tFG8	450×900	450×900	450×900	D25	4/1	4/1	4/1											2-D13@200
tFG9	400×1200	400×1200	400×1200	D25	3/1	3/1	3/1											2-D13@200
tFG9A	600×1550	450×1550	450×1550	D25	4/0	4/0	4/0											2-D13@150
tFG9B	450×1200	450×1200	600×1200	D25	4/0	4/0	4/0											2-D13@200
tFG10	400×1550	400×1550	400×1550	D25	3/1	3/1	3/1											2-D13@200
tFG11	450×1200	450×1200	450×1200	D25	4/3	4/0	4/3											2-D13@150
tFG11A	450×1550	450×1550	450×1550	D25	4/2	4/0	4/2											2-D13@200
tFG13	450×1200	450×1200	450×1200	D25	4/4	4/2	4/4	2750	2750									2-D13@150
tFG13A	450×1550	450×1550	450×1550	D25	4/3	4/0	4/3											3-D13@150
tFG13B	600×1200	450×1200	450×1200	D25	4/0	4/3	4/3											2-D13@150
tFG13C	600×1550	450×1550	450×1550	D25	4/0	4/0	4/2											2-D13@200
tFG14	450×1200	450×1200	600×1200	D25	4/2	4/0	4/0											2-D13@200
tFG14A	450×1200	450×1200	450×1200	D25	4/3	4/3	4/3											2-D13@200
tFG14B	450×1550	450×1550	450×1550	D25	4/4	4/4	4/4											2-D13@125
tFG14C	450×1550	450×1550	600×1550	D25	4/4	4/2	4/0	3100	0									2-D13@150
tFG15	450×1200	450×1200	450×1200	D25	4/0	4/0	4/0											2-D13@200
tFG16	500×1200	500×1200	500×1200	D25	4/0	4/0	4/0											2-D13@200
tFG16A	500×1450	500×1450	500×1450	D25	4/0	4/0	4/0											2-D13@200
tFG17	500×1450	500×1450	500×1450	D25	4/2	4/0	4/2											2-D13@200
tFG17A	500×1450	500×1450	500×1450	D25	4/3	4/0	4/3	2500	2500									2-D13@150
tFG18	450×1200	450×1200	600×1200	D25	4/0	4/0	4/0											2-D13@200

基礎小梁・小梁断面表

符号	断面 B×D			主筋径	上端筋			下端筋			あばら筋			腹筋
	左端	中央	右端		左端	中央	右端	左端	中央	右端	左端	中央	右端	
tB55	300×550	300×550	300×550	D22	3/0	3/0	3/0	3/0	3/0	3/0	2-D10@200	2-D10@200	2-D10@200	0-2-D10
tB55A	400×550	400×550	400×550	D22	4/0	4/0	4/0	4/0	4/0	4/0	2-D13@200	2-D13@200	2-D13@200	0-2-D10
tB60	450×600	450×600	450×600	D25	4/0	4/0	4/0	4/0	4/0	4/0	2-D13@200	2-D13@200	2-D13@200	1-2-D10
tB60A	350×600	350×600	350×600	D22	4/0	3/0	4/0	4/0	4/0	4/0	2-D10@200	2-D10@200	2-D10@200	1-2-D10
tB75	450×750	450×750	450×750	D22	4/0	4/0	4/0	4/1	4/1	4/1	2-D13@150	2-D13@150	2-D13@150	1-2-D10
tFB14	350×1450	350×1450	350×1450	D22	3/0	3/0	3/0	3/2	3/2	3/2	2-D13@150	2-D13@150	2-D13@150	3-2-D13
tFB55	300×550	300×550	300×550	D22	3/0	3/0	3/0	3/0	3/0	3/0	2-D10@200	2-D10@200	2-D10@200	0-2-D10

片持梁断面表

符号	断面 B×D		主筋径	上端筋		下端筋		あばら筋		腹筋
	左端	右端		左端	右端	左端	右端			
tFCG1	450×900	450×900	D25	3/0	3/0	3/0	3/0	2-D13@200	2-D13@200	2-2-D10

公立大学法人 滋賀県立大学

高専開校準備局 総務・施設整備課



株式会社 東畑建築事務所
TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.

設計番号
20240631-2
一級建築士 No.272847
石井 康彦

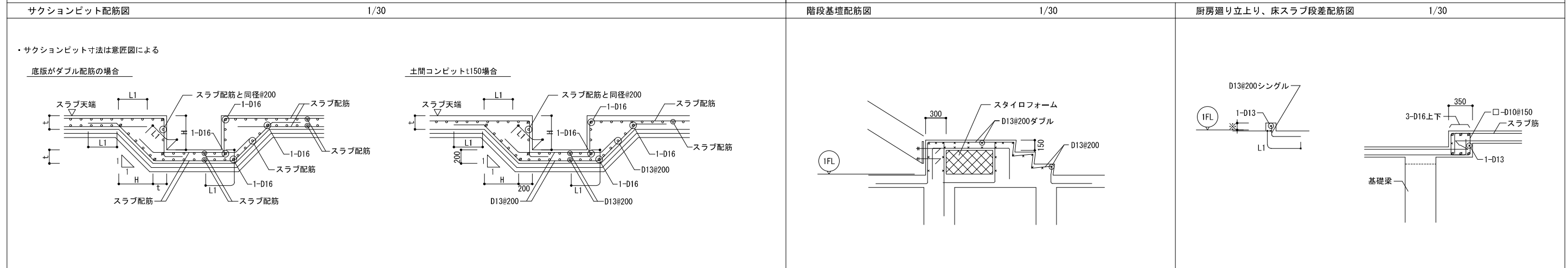
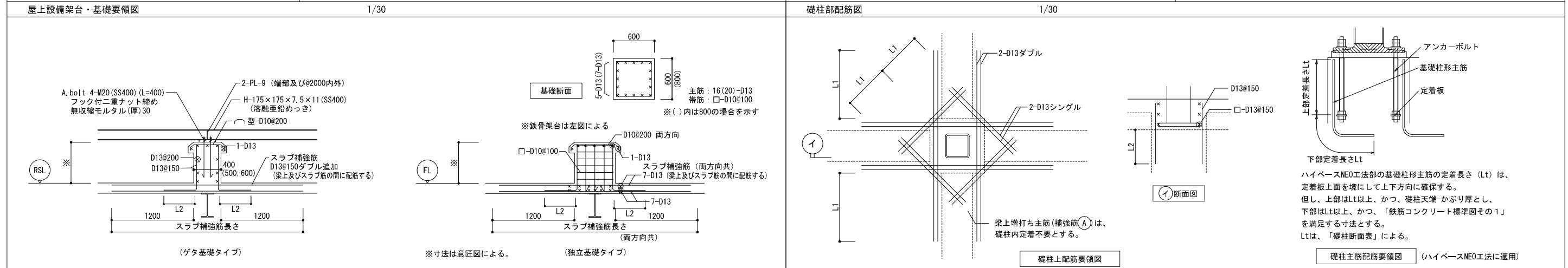
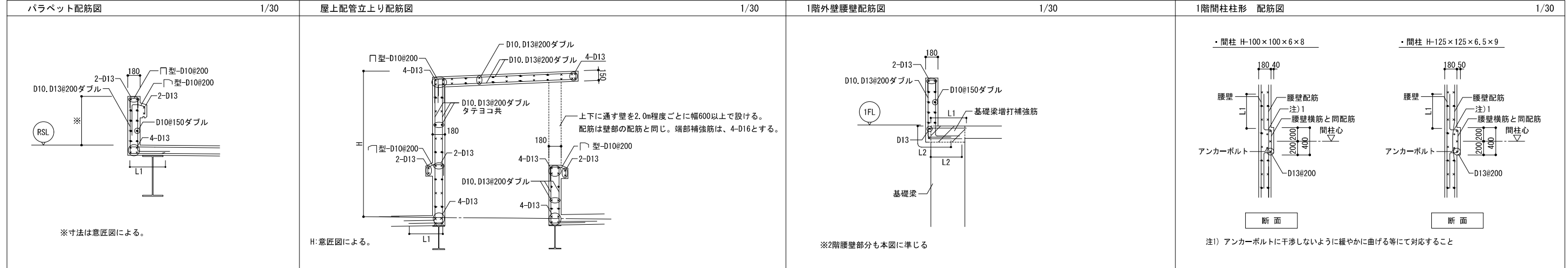
一級建築士 No.248486
構造設計一級建築士 No.4009
木下 隆嗣

一級建築士 No.334956
設備設計一級建築士 No.4756
工藤 征志

工事名称 滋賀県立高等専門学校
新築工事(第2工区)

図面名称
【図書交流・食堂売店棟】基礎・RC部材断面表
縮尺 A1: 1/200
A3: 1/400

S109



鉄骨柱断面表

○注 記

- 特記なき限り、下記による。
- 1. 断面寸法において、□：角形鋼管を示す。
- 2. 屋外露出部は、溶融亜鉛めっきとする。

階	H×B×t(鋼種)	備考
tC1		
2FL	□-450×450×19(BCR295)	
1FL	□-450×450×25(BCR295)	柱脚：GB450-8-36 (ハイベースNEO工法)
tC2		
2FL	□-450×450×16(BCR295)	
1FL	□-450×450×25(BCR295)	柱脚：GB450-8-36 (ハイベースNEO工法)
tC3		
2FL	□-450×450×19(BCR295)	
1FL	□-450×450×25(BCR295)	柱脚：GB450-8-36 (ハイベースNEO工法)
tC4		
1FL	□-450×450×22(BCR295)	柱脚：GB450-8-36 (ハイベースNEO工法)
tC5		
1FL	□-250×250×16(BCR295)	柱脚：EB250-4-36 (ハイベースNEO工法)
tC5A		
1FL	□-450×450×19(BCR295)	柱脚：GB450-8-36 (ハイベースNEO工法)
tC6		
2FL	□-250×250×16(BCR295)	
1FL	□-250×250×16(BCR295)	柱脚：EB250-4-36 (ハイベースNEO工法)
tC6A		
2FL	□-450×450×16(BCR295)	
1FL	□-450×450×22(BCR295)	柱脚：GB450-8-36 (ハイベースNEO工法)

鉄骨大梁断面表

○注 記

- 特記なき限り、下記による。
- 1. Hは外法一定H形鋼、及び、JIS H形鋼を示す。
- 2. 屋外露出部は、溶融亜鉛めっきとする。

階	断面			鋼材種別
	左端	中央	右端	
tG1				
RFL	H-400×200×8×13	H-400×200×8×13	H-400×200×8×13	SN400B
2FL	H-600×200×11×17	H-600×200×11×17	H-600×200×11×17	SN400B
tG1A				
2FL	H-400×200×8×13	H-400×200×8×13	H-400×200×8×13	SN400B
tG1B				
2FL	H-600×250×12×16	H-600×250×12×16	H-600×250×12×16	SN400B
tG2				
RFL	H-400×200×8×13	H-400×200×8×13	H-400×200×8×13	SN400B
2FL	H-600×200×11×17	H-600×200×11×17	H-600×200×11×17	SN400B
tG2A				
2FL	H-400×200×8×13	H-400×200×8×13	H-400×200×8×13	SN400B
tG2B				
2FL	H-600×250×12×16	H-600×250×12×16	H-600×250×12×16	SN400B
tG3				
RFL	H-400×200×8×13	H-400×200×8×13	H-400×200×8×13	SN400B
2FL	H-600×200×11×17	H-600×200×11×17	H-600×200×11×17	SN400B
tG3A				
2FL	H-400×200×8×13	H-400×200×8×13	H-400×200×8×13	SN400B
tG3B				
2FL	H-600×250×12×16	H-600×250×12×16	H-600×250×12×16	SN400B
tG4				
2FL	H-600×300×12×19	H-600×300×12×19	H-600×300×12×19	SN490B
tG5				
2FL	H-400×200×8×13	H-400×200×8×13	H-400×200×8×13	SN400B
tG5A				
2FL	H-400×200×8×13	H-400×200×8×13	H-400×200×8×13	SN400B
tG5B				
2FL	H-390×300×10×16	H-390×300×10×16	H-390×300×10×16	SN400B
tG6				
2FL	H-400×200×8×13	H-400×200×8×13	H-400×200×8×13	SN400B
tG11				
RFL	H-588×300×12×20	H-588×300×12×20	H-588×300×12×20	SN490B
2FL	H-600×300×12×19	H-600×300×12×19	H-600×300×12×19	SN490B
tG12				
RFL	H-588×300×12×20	H-588×300×12×20	H-588×300×12×20	SN490B
2FL	H-600×250×12×19	H-600×250×12×19	H-600×250×12×19	SN490B
tG12A				
2FL	H-600×300×12×19	H-600×300×12×19	H-600×300×12×19	SN490B
tG13				
2FL	H-600×300×12×19	H-600×300×12×19	H-600×300×12×19	SN490B
tG14				
2FL	BH-600×350×12×32	BH-600×350×12×32	BH-600×350×12×32	SN490B
tG14A				
2FL	H-600×300×12×19	H-600×300×12×19	H-600×300×12×19	SN490B
tG15				
2FL	H-600×250×12×19	H-600×250×12×19	H-600×250×12×19	SN490B
tG16				
RFL	H-588×300×12×20	H-588×300×12×20	H-588×300×12×20	SN490B
2FL	H-600×300×12×19	H-600×300×12×19	H-600×300×12×19	SN490B
tG16A				
RFL	H-400×200×8×13	H-400×200×8×13	H-400×200×8×13	SN400B
2FL	H-400×200×8×13	H-400×200×8×13	H-400×200×8×13	SN400B
tG16B				
RFL	H-600×200×11×17	H-600×200×11×17	H-600×200×11×17	SN400B
tG17				
2FL	H-600×300×12×19	H-600×300×12×19	H-600×300×12×19	SN490B
tG17A				
2FL	H-400×200×8×13	H-400×200×8×13	H-400×200×8×13	SN400B
tG18				
2FL	H-400×200×8×13	H-400×200×8×13	H-400×200×8×13	SN400B

鉄骨二次部材断面表

○注 記

- 特記なき限り、下記による。
- 1. 添え板およびガセットプレートは主材と同材質とする。
- 2. 特記が無い場合、ボルトはトルシア形高力ボルト S10Tとする。
- 3. 屋外露出部は溶融亜鉛めっきとし、ボルトは溶融亜鉛めっき高力ボルト F8T相当とする。
- 4. 「仕口欄」が空欄の場合、「鉄骨接合部要領図」による。

符号	断面	鋼材種別	仕口(ピン接合)	備考
SB15A	BH-150×150×9×22	SS400	GPL-12 2-M20	
SB15W	H-150×150×7×10	SS400		
SB25	H-250×125×6×9	SS400		
SB30	H-300×150×6.5×9	SS400		
SB30b	H-300×150×6.5×9	SS400	GPL-9 3x2-M22	横補剛
SB35	H-350×175×7×11	SS400		
SB35b	H-350×175×7×11	SS400	GPL-9 4x2-M20	横補剛
SB40	H-400×200×8×13	SS400		
SB60	H-600×200×11×17	SS400		
SB148	H-148×100×6×9	SS400		
SB194	H-194×150×6×9	SS400		
SB248	H-248×124×5×8	SS400	GPL-9 2-M20	Pc=90
SB294	H-294×200×8×12	SS400		
SB340b	H-340×250×9×14	SS400	GPL-9 3x2-M22	横補剛
SB396	H-396×199×7×11	SS400		
SB396b	H-396×199×7×11	SS400	GPL-12 4x2-M20	横補剛

SCB15A	BH-150×150×9×22	SS400	GPL-12 2-M20	
SCB20W	H-200×200×8×12	SS400		
SCB40	H-400×200×8×13	SS400		

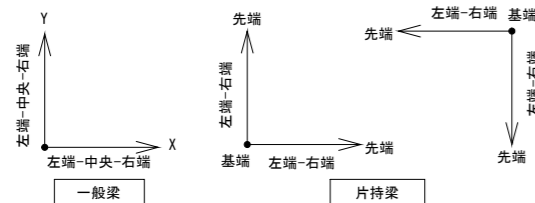
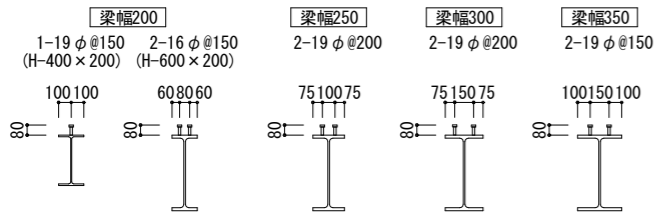
SCB20A	BH-200~150×200×9×22	SS400		
SCB60A	BH-600~490×200×12×19	SS400		
SCB588A	BH-588~478×300×12×20	SS400		

V20	M20(ターンバックル付ブレース)	SNR400B	GPL-9 1-M20	羽子板 PL-9 とする
-----	-------------------	---------	-------------	--------------

SP17W	H-175×175×7.5×11	SS400	GPL-9 2-M20	接合部は詳細図による
-------	------------------	-------	-------------	------------

梁上スタッド要領

- 径、配置、本数は下図による。
- スタッドジベル高さは、原則 H=80mmとする。
- 鉄骨天端とデッキ下端レベルが異なる場合は S115図による。
- 梁上スタッドジベルは、添板上は不要とする。ただし、必要本数を両側に振り分けること。(材軸方向ピッチは 7.5d以上とする)
- 梁上スタッドジベルは、スラブの取付かない範囲は不要とする。



公立大学法人 滋賀県立大学
高専開校準備局 総務・施設整備課



株式会社 東畑建築事務所
TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.

設計番号
20240631-2
一級建築士 No.272847
石井 康彦

一級建築士 No.248486
構造設計一級建築士 No.4009
木下 隆嗣

一級建築士 No.334956
設備設計一級建築士 No.4756
工藤 征志

工事名称 滋賀県立高等専門学校
新築工事(第2工区)

図面名称
【図書交流・食堂売店棟】鉄骨部材断面表
縮尺 A1:
A3:

図面番号

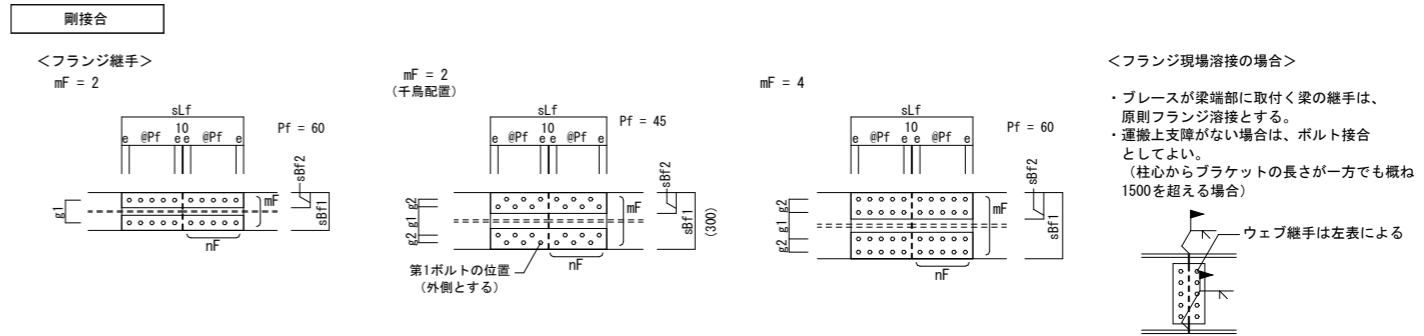
S111

鉄骨梁継手・仕口表 (S10T, F10T に適用)																											
断面	材質	ボルト径	剛接合											ピン接合													
			フランジ						ウェブ					ボルト径	ボルト			ガセットプレート		ボルト径	ウェブ						
			ボルト		添板		sLf	ボルト		添板			mW		nW	Pc	gt	gBw	mW		nW	gt	gBw				
			nF	mF	stf1	stf2		mW	nW	Pc	stw	sBw												sLw			
H-100x100x6x8	400N級	M16	2	2	16	0	290	1	2	60	9	50	350	M16	1	2	60	9	80								
H-125x125x6.5x9	400N級	M20	3	2	12	0	410	1	2	60	6	80	350	M20	1	2	60	9	80								
H-148x100x6x9	400N級	M16	2	2	16	0	290	1	2	60	6	80	290	M20	1	2	60	9	100								
H-150x150x7x10	400N級	M20	2	2	9	9	290	1	2	60	9	80	350	M20	1	2	60	9	100								
H-175x175x7.5x11	400N級	M20	2	2	9	9	290	1	2	60	9	80	290	M20	1	2	60	9	120								
H-194x150x6x9	400N級	M20	2	2	9	12	290	2	1	60	6	140	170	M20	2	1	60	9	140								
H-200x100x5.5x8	400N級	M16	2	2	16	0	290	2	1	60	6	140	170	M20	2	1	60	9	140								
H-200x200x8x12	400N級	M20	2	2	9	9	290	2	1	60	6	140	230	M20	2	1	60	9	140								
H-244x175x7x11	400N級	M20	2	2	9	9	290	2	1	60	9	140	170	M20	2	1	90	9	170								
H-250x125x6x9	400N級	M16	2	2	9	12	290	2	2	60	6	140	290	M20	2	1	90	9	170								
H-294x200x8x12	400N級	M20	3	2	9	9	410	3	1	60	9	200	170	M20	3	1	60	9	200								
H-300x150x6.5x9	400N級	M20	2	2	9	9	290	2	1	120	6	200	170	M20	3	1	60	9	200								
H-340x250x9x14	400N級	M22	3	2	12	12	410	3	1	60	9	200	170	M22	3	1	60	12	200								
H-350x175x7x11	400N級	M20	2	2	9	9	290	3	1	90	6	260	170	M20	4	1	60	9	260								
H-390x300x10x16	400N級	M22	3	2	12	12	350	3	1	90	9	260	170	M22	4	1	60	16	260								
H-396x199x7x11	400N級	M20	3	2	9	9	410	4	1	60	9	260	170	M20	4	1	60	12	260								
H-400x200x8x13	400N級	M20	3	2	9	9	410	4	1	60	9	260	170	M20	4	1	60	12	260								
H-440x300x11x18	400N級	M22	4	2	12	12	440	5	1	60	9	320	170	M22	5	1	60	12	320								
H-446x199x8x12	400N級	M22	3	2	12	12	410	5	1	60	12	320	170	M22	5	1	60	12	320								
H-450x200x9x14	400N級	M22	3	2	12	12	410	4	1	60	12	260	170	M22	5	1	60	12	320								
H-488x300x11x18	400N級	M22	4	2	12	12	440	5	1	60	12	320	170	M22	6	1	60	12	380								
H-496x199x9x14	400N級	M22	3	2	12	12	410	5	1	60	9	320	170	M22	6	1	60	12	380								
H-500x200x10x16	400N級	M22	3	2	12	12	410	4	1	90	9	350	170	M22	6	1	60	12	380								
H-588x300x12x20	400N級	M22	4	2	12	16	440	7	1	60	9	440	170	M22	7	1	60	12	440								
H-596x199x10x15	400N級	M22	3	2	12	12	410	7	1	60	9	440	170	M22	7	1	60	12	440								
H-600x200x11x17	400N級	M22	3	2	12	12	410	7	1	60	9	440	170	M22	7	1	60	12	440								

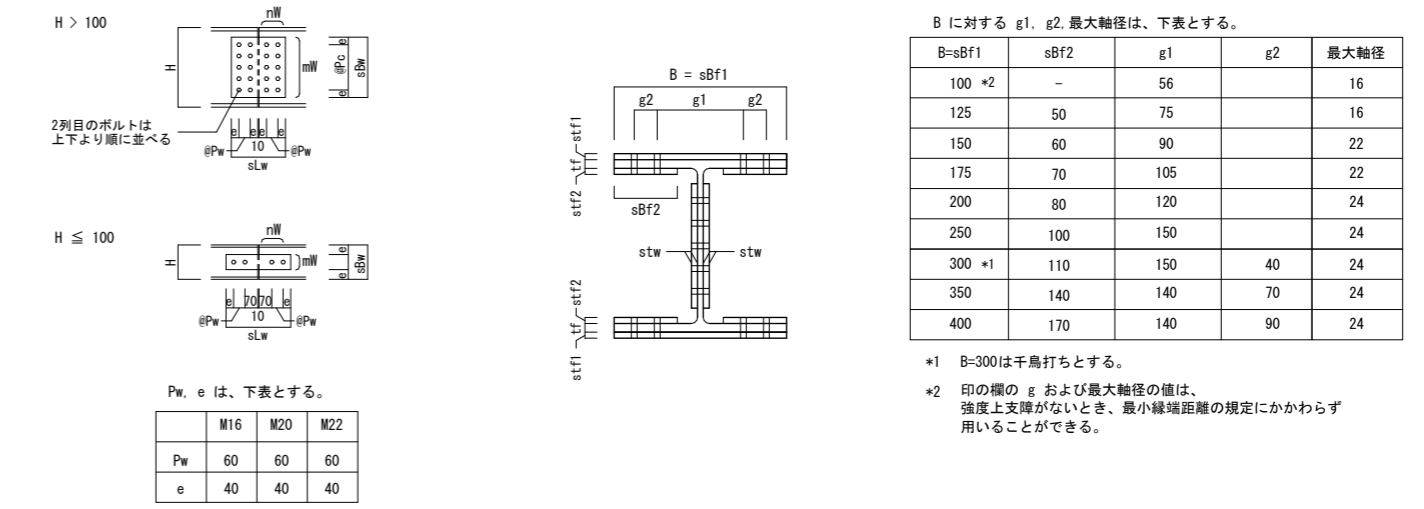
鉄骨梁継手・仕口表 (F8T に適用)																											
断面	材質	ボルト径	剛接合											ピン接合													
			フランジ						ウェブ					ボルト径	ボルト			ガセットプレート		ボルト径	ウェブ						
			ボルト		添板		sLf	ボルト		添板			mW		nW	Pc	gt	gBw	mW		nW	gt	gBw				
			nF	mF	stf1	stf2		mW	nW	Pc	stw	sBw												sLw			
H-200x200x8x12	400N級	M20	3	2	9	9	410	2	1	60	6	140	170	M20	2	1	60	9	160								

鉄骨大梁継手・仕口表 (S10T, F10T に適用)																											
断面	材質	ボルト径	剛接合											ピン接合													
			フランジ						ウェブ					ボルト径	ボルト			ガセットプレート		ボルト径	ウェブ						
			ボルト		添板		sLf	ボルト		添板			mW		nW	Pc	gt	gBw	mW		nW	gt	gBw				
			nF	mF	stf1	stf2		mW	nW	Pc	stw	sBw												sLw			
H-588x300x12x20	SN490B	M22	5	2	12	16	530	5	2	90	9	440	290	5	2	16	440										
H-600x250x12x16	SN400B	M22	4	2	12	12	530	7	1	60	9	440	170	7	1	16	440										
H-600x250x12x19	SN490B	M22	5	2	12	16	650	5	2	90	9	440	290	5	2	16	440										
H-600x300x12x19	SN490B	M22	5	2	12	16	530	5	2	90	9	440	290	5	2	16	440										
BH-600x350x12x32	SN490B	M22	5	4	19	22	650	5	2	90	9	440	290	5	2	16	440										
BH-588~478x300x12x20	SS400	M22	4	2	12	16	440	4	2	90	12	350	290														
BH-600~490x200x12x19	SS400	M22	3	2	12	16	410	6	1	60	12	380	170														

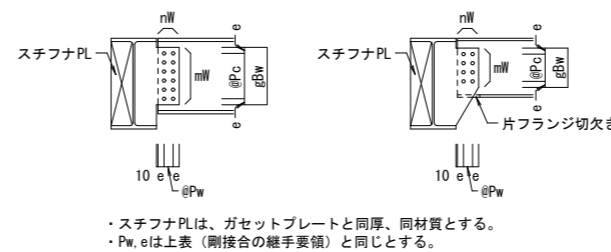
鉄骨梁継手要領



<ウェブ継手>



ピン接合



小梁仕口要領図

(標準タイプ) (標準タイプ(H1<175)) (H1≧300,かつ,H2>200の場合) (ボルト2列打ちの場合) ※b付符号に適用

・スチフナPLは、ガセットプレートと同厚以上とする。
 ・p, eは、下表とする。

	M16	M20	M22
p	60	60	60
e	40	40	40

※「接合部要領図」内 Pc=pとする

小梁仕口段差要領図

レベル差が生じる場合の納まりを示し、「小梁仕口要領図」を基本とし、下図と組合せる。

(h≦50の場合) (h>50の場合)

大梁横補剛要領図

① ボルトタイプ

② 方杖タイプ

※特記外は上図と同じ
 H-400の場合は、鉄骨詳細図参照

○注記(詳細図共通)

- 特記が無い場合、鋼材の材質は、SS400とする。
- 特記が無い場合、ボルトはトルシア形高力ボルト S10Tとする。

小梁・片持梁スタッドジベル取付要領図

・適用範囲は、スラブの取り付く範囲とする。
 ・スタッドジベルの高さは、原則H=80mmとする。
 鉄骨天端とスラブ下端レベルが異なる場合は、S115図による。

JIS H形鋼: 1-φ16 @200 2-φ16 @300
 外法一定H形鋼, SB**b 1-φ19 @200 2-φ19 @200

梁幅200以下 梁幅250以上

間柱ピン接合要領図(鋼管以外)

スチフナPL

※他に図示がある場合、当該図による。

・スチフナPLは、ガセットプレートと同厚以上とする。
 ・p, eは、特記が無い場合下表とする。

	M16	M20	M22
p1	60	60	60
p2	60	60	60
e1	40	40(50)	40(55)
e2	40	40	40

間柱軸方向ボルトが3本以上並ばない場合は、()内数値を適用
 e3: クリアランスのみの場合: 10
 すみ肉溶接の場合: 15~20

ブレース接合要領図

・P, eは、下表とする。

	M16	M20	M22
P	60	60	60
e	40	50	50

間柱柱脚詳細図 1/30

符号	tep3	tep4	tep7, 8, 9, 10
断面	H-125×125×6.5×9	H-100×100×6×8	山形鋼
形状			
ベースプレート	BPL-16×165×200	BPL-16×150×200	図示
アンカーボルト	A.bolt 2-M20 L=500 フック付き	A.bolt 2-M20 L=500 フック付き	図示
リブプレート	-	-	-
無収縮モルタル	30	30	-

○注記

- 特記が無い場合、鋼材の材質は、SS400とする。
- アンカーボルトがコンクリートに埋込まれない場合は座金を溶接する。

SCB20A 継手要領図 1/30

屋上目隠し壁 鋼縁要領図 1/30

※@4.5m/2=2.25m毎(以下)で支持する

SP17W接合部 詳細図 1/30

① 断面図

自動ドア支持材 詳細図 1/30

※3か所共、本図による。

※スパン4500の両側に吊り材を設ける

① 断面図

シャッター支持材要領図

符 号	DS1	DS2	DS3	DS4		
断 面						
デッキプレート	型枠用デッキプレート	型枠用デッキプレート	型枠用デッキプレート	型枠用デッキプレート		
備 考						

○注 記
1. 型枠用デッキプレート板厚は、「S007 型枠用デッキプレート標準図」参照とする。

デッキプレート受材

タイプA

タイプB

受材 (タイプA)

- $h \leq 50$
L-75x75x6
- $100 < h \leq 130$
[-150x75x6, 5x10]
- $180 < h \leq 200$
[-250x90x9x13]
- $50 < h \leq 70$
L-90x90x6
- $130 < h \leq 150$
[-180x75x7x10, 5]
- $200 < h$ (片側)
PL-9
- $70 < h \leq 100$
[-125x65x6x8]
- $150 < h \leq 180$
[-200x80x7, 5x11]
- $200 < h$ (両側)
フランジ PL12, ヌブ PL-9

仕口部デッキプレート受け要領図

フランジ天端補え
PL-9x50
長さはデッキ割付寸法による

継手部

デッキプレート 端部補足材

デッキ床の端部が梁フランジ端部より外側にくる場合は、下記要領でコンクリート止め部材、及び補強部材を設けること。

デッキプレート スラブ端部 配筋要領図

(下記の配筋かつ、接続するスラブ鉄筋量のうち多い方)
LD ≤ 300 D10 @スラブ上端筋と同ピッチ
300 < LD ≤ 600 D13 @スラブ上端筋と同ピッチ
下端筋について、デッキスラブがトラス筋付きデッキスラブの場合、下端筋は上端筋と同じとする。
(主筋、配力筋とも同じ)

デッキ段差部配筋要領

デッキスラブ段差部配筋図

シア鉄筋要領

等厚スラブ (シア鉄筋配筋不可の場合)

デッキスラブ ひび割れ補強筋要領図

柱廻り補強筋
2-D13 柱廻り補強筋

トラス筋付きデッキ用
2-D13 柱廻り補強筋

梁上ひび割れ防止筋
梁上補強筋 D10@200 (L=1000+B)

- 梁の両側にデッキが付く場合に適用する。
- デッキ敷方向に関わらず適用する。
- 大梁上部に適用する。

<型枠用デッキ、ネラス筋付きデッキ用>

共通事項

- 溶接記号は、突合わせ溶接か、すみ肉溶接かの区別を示し、開先形状は、「溶接標準図」による。
- 特記がない場合、鋼材材質は下記とする。
大梁：SN490B
柱：BCR295
- ダイヤフラムは通しダイヤフラム、及び、内ダイヤフラムとし、本図に準じる。原則として、梁フランジが取合う場合は通しダイヤフラムとする。
仕口パネル部の強度が梁の強度より上位、かつ、仕口部の最上部、最下部のダイヤフラム以外の中段部のダイヤフラムのうち、向かい合う辺の1方向のみにフランジが取付く場合は、内ダイヤフラムとしてよい。
- 梁フランジ完全溶け込み溶接部はノンスラップ形式とする。
- ⊠ は、柱心を示す。
- ⊡ は、ウェブ心を示す。
- ⊠印は、現場継手位置を示し、寸法は軸組図による。
- ※寸法は、伏図および軸組図による。

仕口部仕様詳細
(各図に記載がある場合は記載内容による)

- A** ・通しダイヤフラムの材質
SN490C
(t > 40の場合、TMCP325C (大臣認定品) とする。)
- ・板厚は、集合する梁フランジの最大板厚の2サイズアップかつ、柱断面最大板厚の1サイズダウン以上、かつ16mm以上とする。
梁フランジは、通しダイヤフラムの厚み内で溶接すること。
- B** ・内ダイヤフラムの材質は下記とする。
SN490B (取付く梁の強度に関わらず)
- ・厚みは梁フランジ厚の1サイズアップを標準とする。
- C** ・仕口部パネルの材質、断面
BCR295のみに取付く場合：BCR295
・パネル部の材質がBCR295に取付くSN490Bの梁ウェブのすみ肉溶接サイズは、S006図の1.2倍以上とすること。

ダイヤフラム板厚表

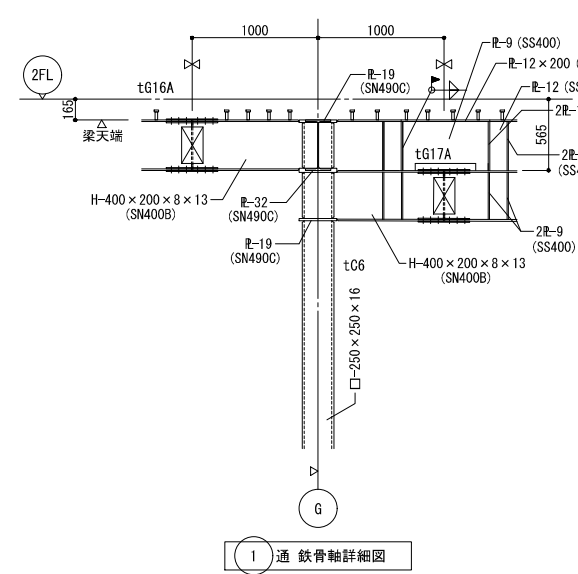
T	ダイヤフラム板厚	T	ダイヤフラム板厚	T	ダイヤフラム板厚
9	16	17	25	25	32
11	19	18	25	26	32
12	19	19	25	28	36
13	19	20	28	32	40
14	22	21	28	36	45
15	22	22	28	40	50
16	22	24	32		

注) Tは取り付く大梁フランジのうち最大の厚みとする。
尚、同一のダイヤフラムで梁せいの差によりフランジ位置にずれが生じる場合は、フランジ内面から外面までの合計に6mm以上加えた数値とする。

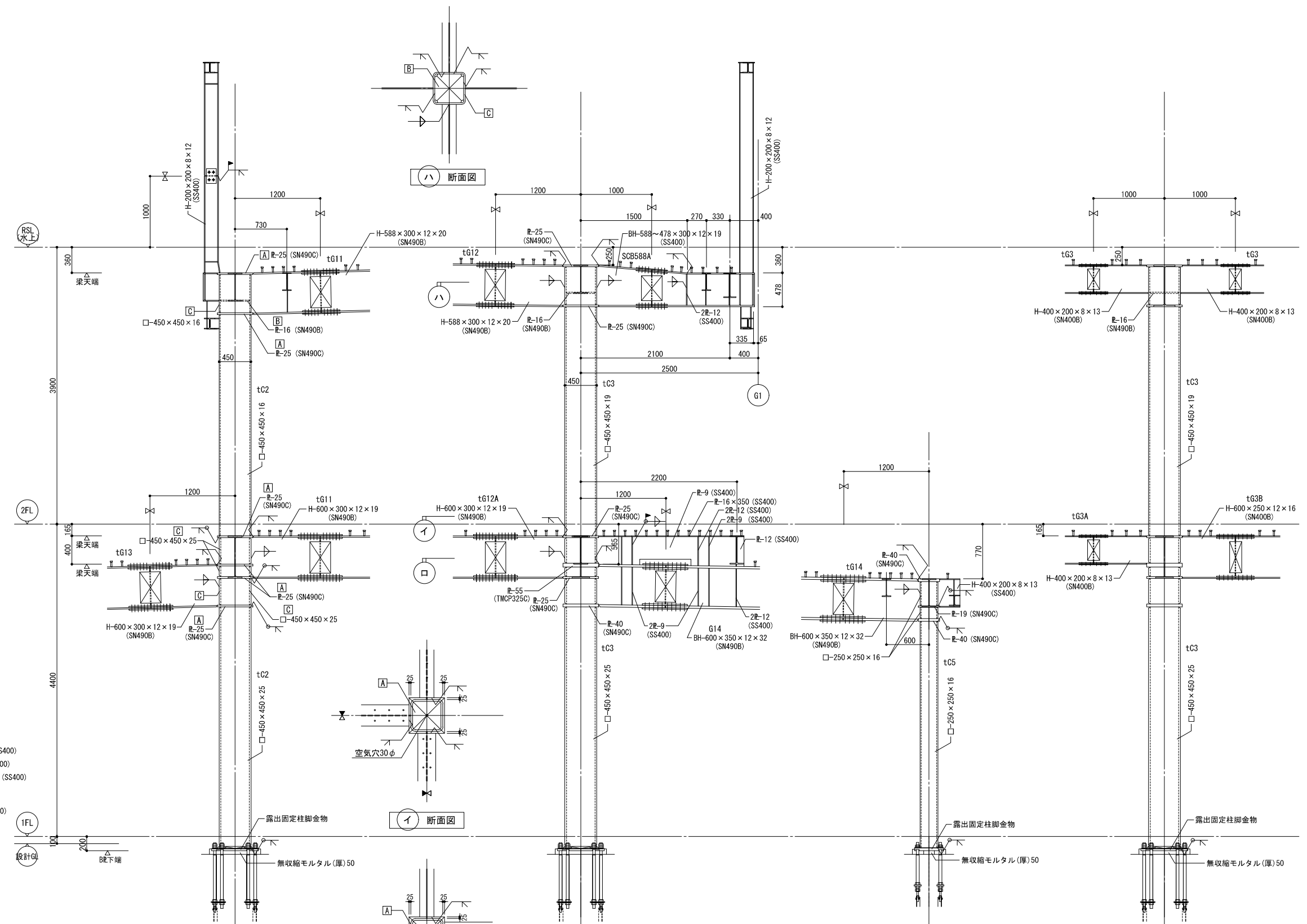
補強PL対照表

T	同厚	1/2t up	T	同厚	1/2t up	T	同厚	1/2t up
5	6	9	13	16	19	21	22	25
6	6	9	14	16	19	22	22	25
7	9	12	15	16	19	23	25	28
8	9	12	16	16	19	24	25	28
9	9	12	17	19	22	25	25	28
10	12	16	18	19	22	26	28	32
11	12	16	19	19	22	27	28	32
12	12	16	20	22	25	28	28	32

注) Tは母材の板厚



1) 通 鉄骨軸詳細図



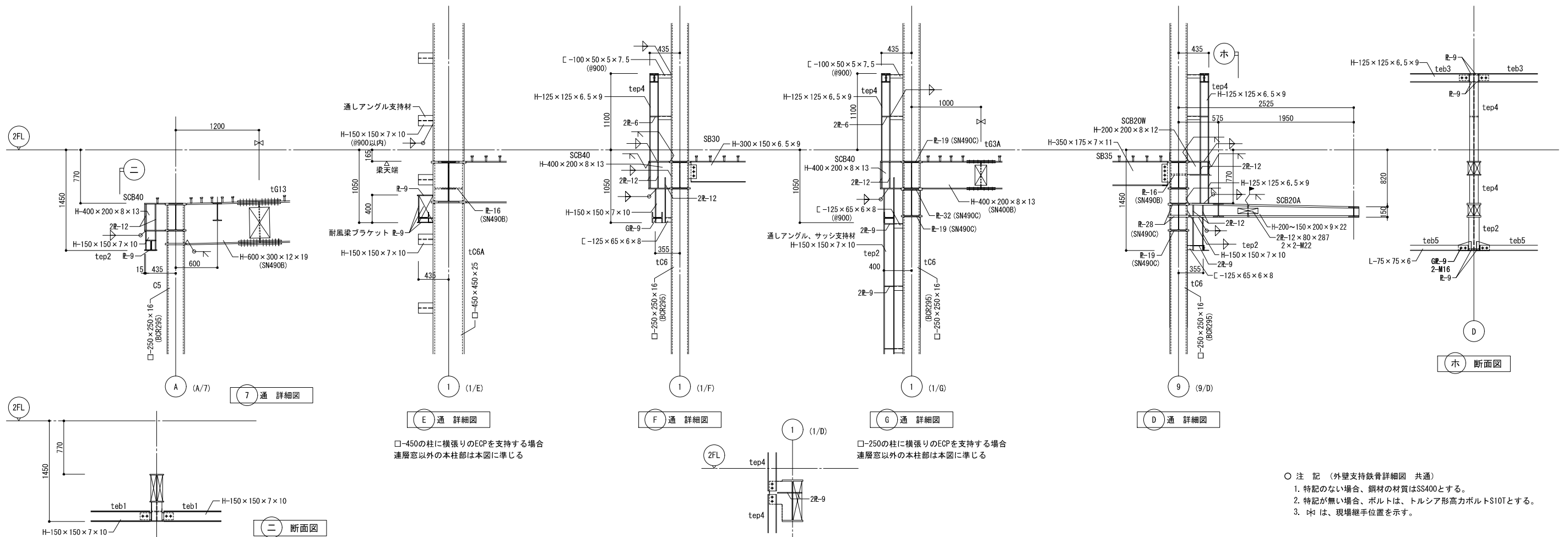
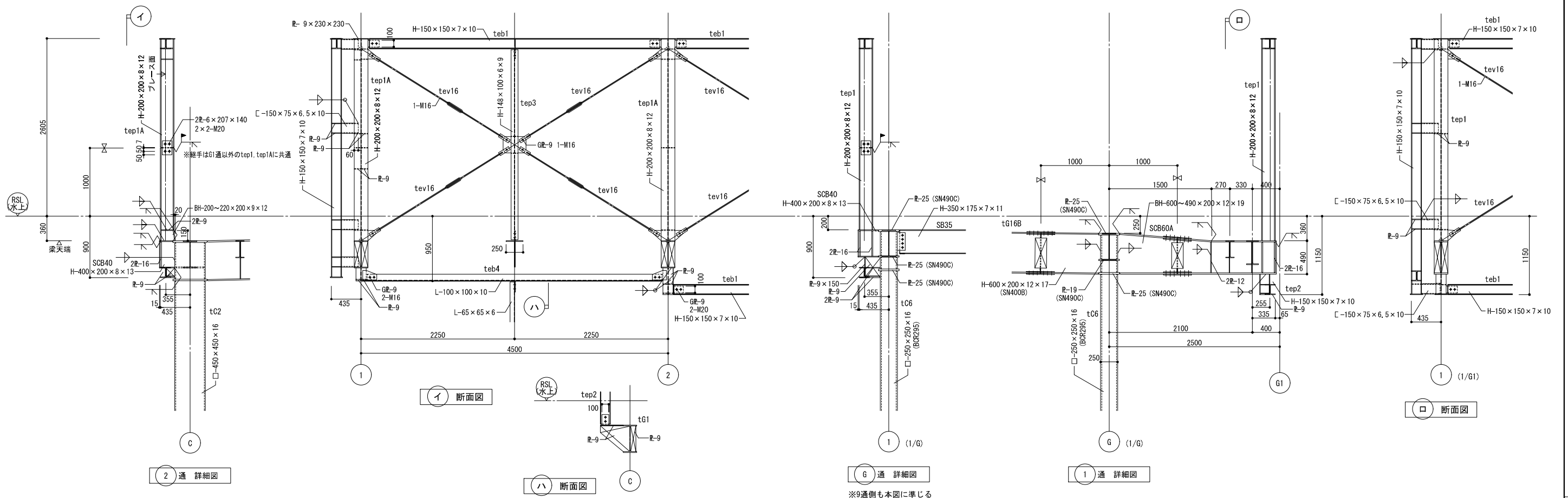
ハ) 断面図

イ) 断面図

ロ) 断面図

2) 通 鉄骨軸詳細図

3) 通 鉄骨軸詳細図



公立大学法人 滋賀県立大学
高専開設準備局 総務・施設整備課



株式会社 東畑建築事務所
TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.

設計番号
20240631-2
一級建築士 NO.272847
石井 康彦

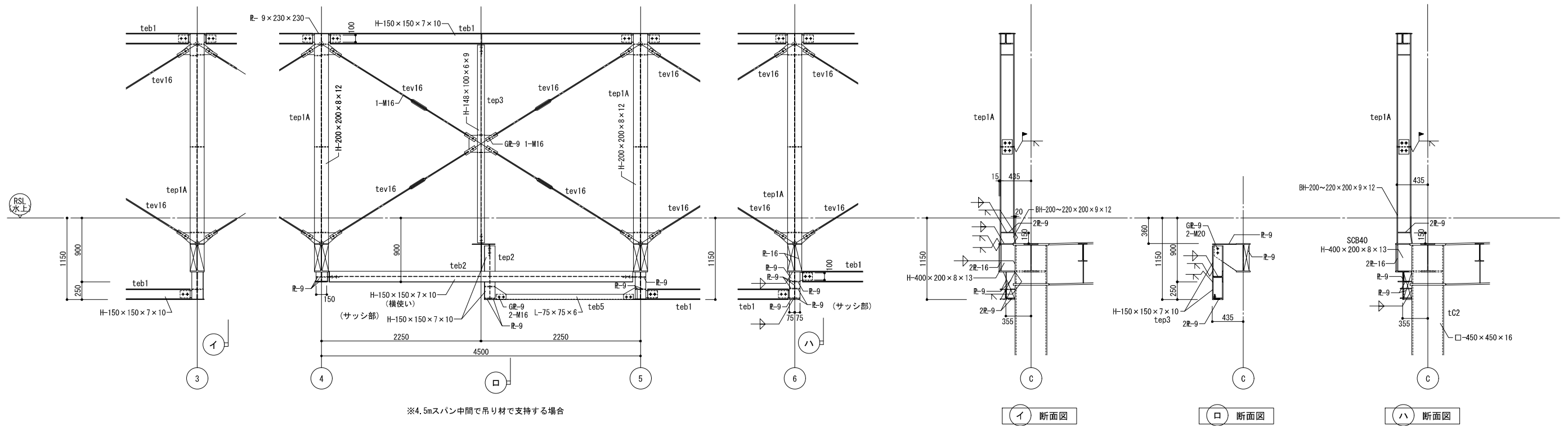
一級建築士 NO.248486
構造設計一級建築士 NO.4009
木下 隆嗣

一級建築士 NO.334956
設備設計一級建築士 NO.4756
工藤 征志

工事名称 滋賀県立高等専門学校
新築工事(第2工区)

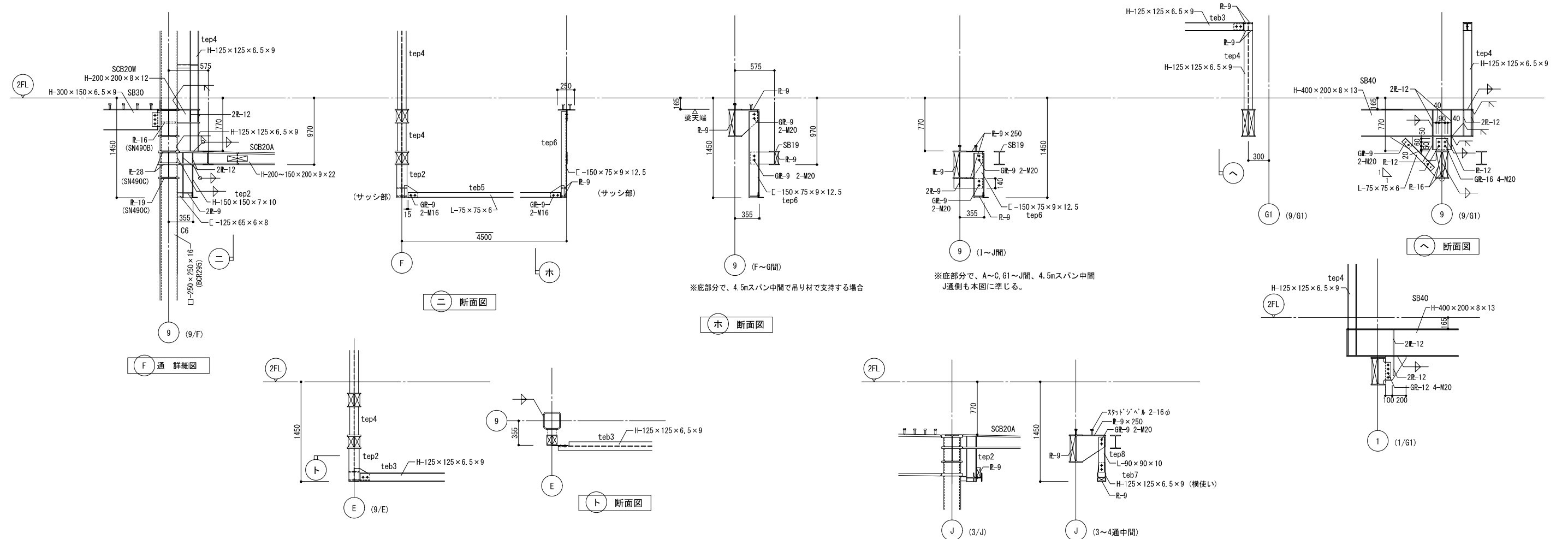
図面名称 【図書交流・食堂売店棟】 鉄骨詳細図 その1
縮尺 A1: 1/30
A3: 1/60

図面番号
S116



※4.5mスパン中間で吊り材で支持する場合

C 通 詳細図



※底部分で、4.5mスパン中間で吊り材で支持する場合

※底部分で、A~C, G1~J間、4.5mスパン中間 J通側も本図に準じる。

F 通 詳細図

イ 断面図

ハ 断面図

E (9/E) 断面図

ト 断面図

J (3/J) 断面図

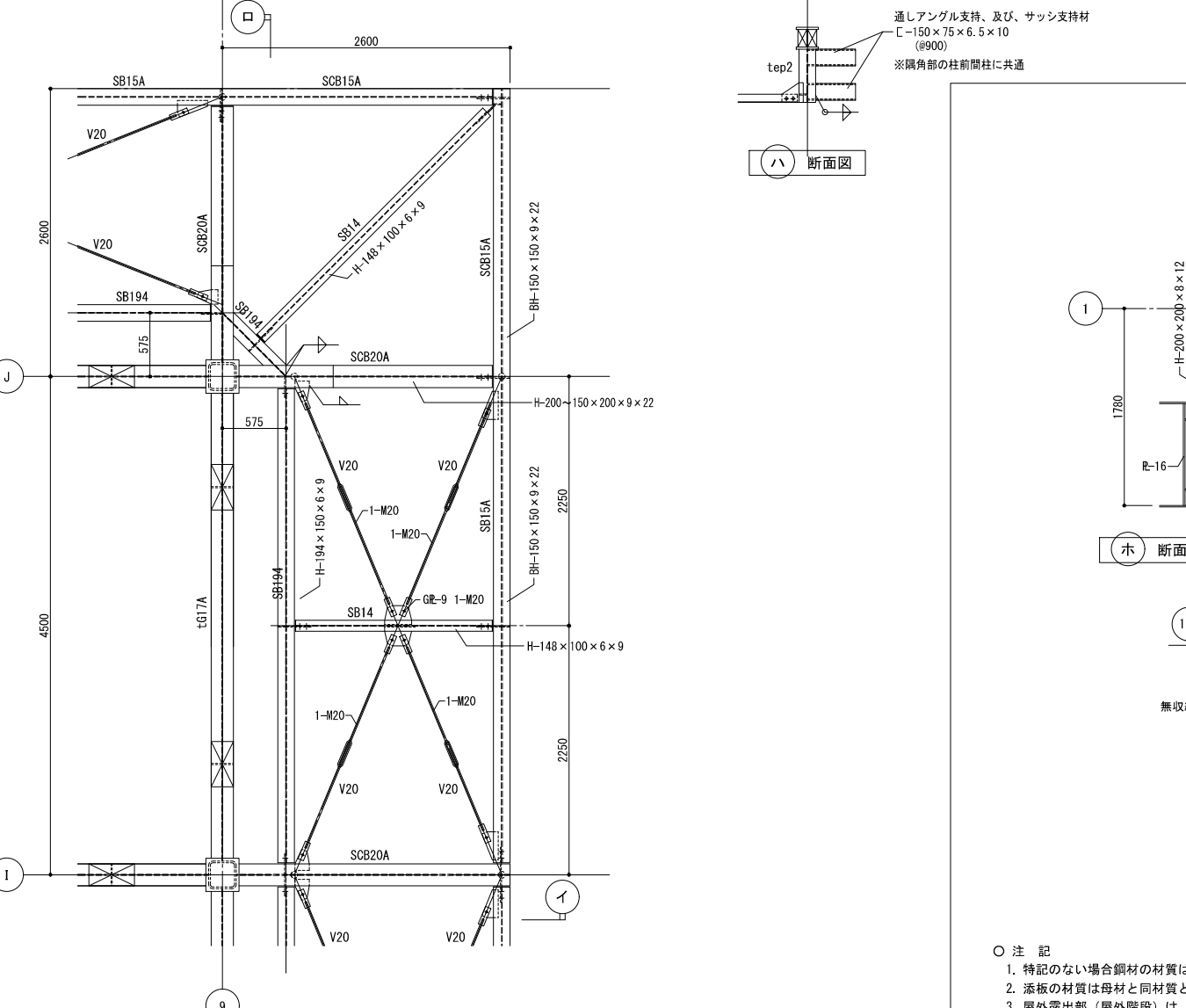
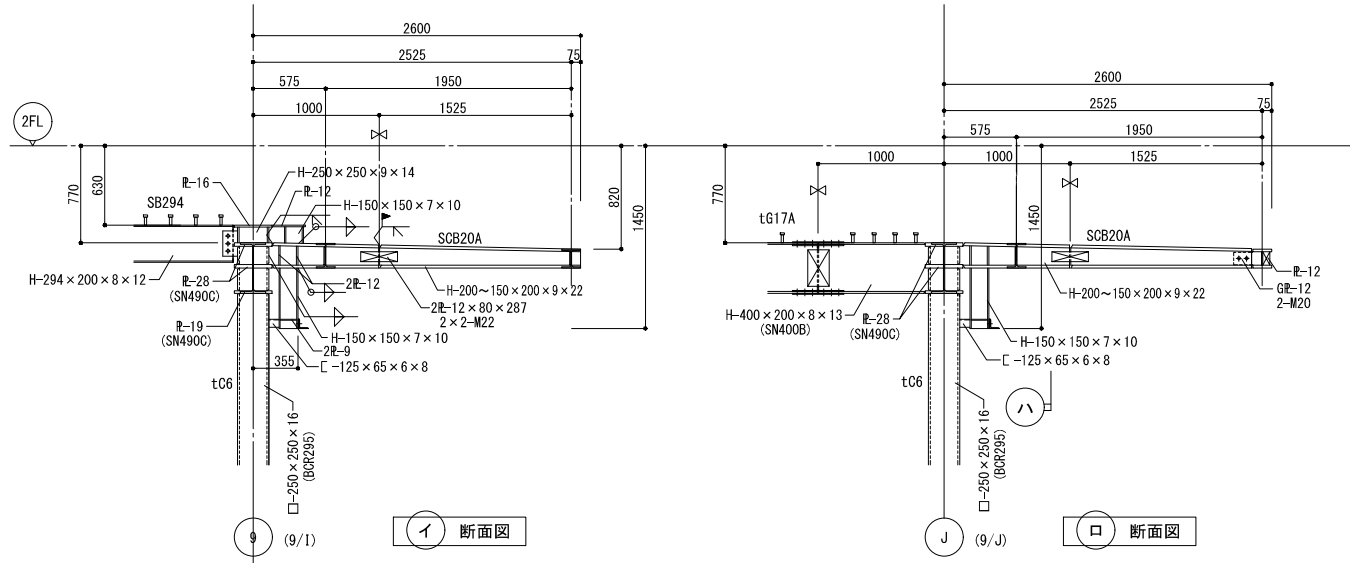
J (3~4通中間) 断面図

ハ 断面図

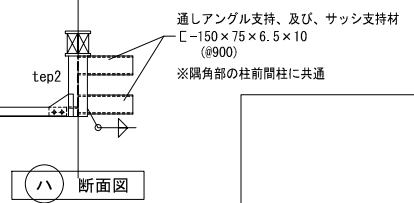
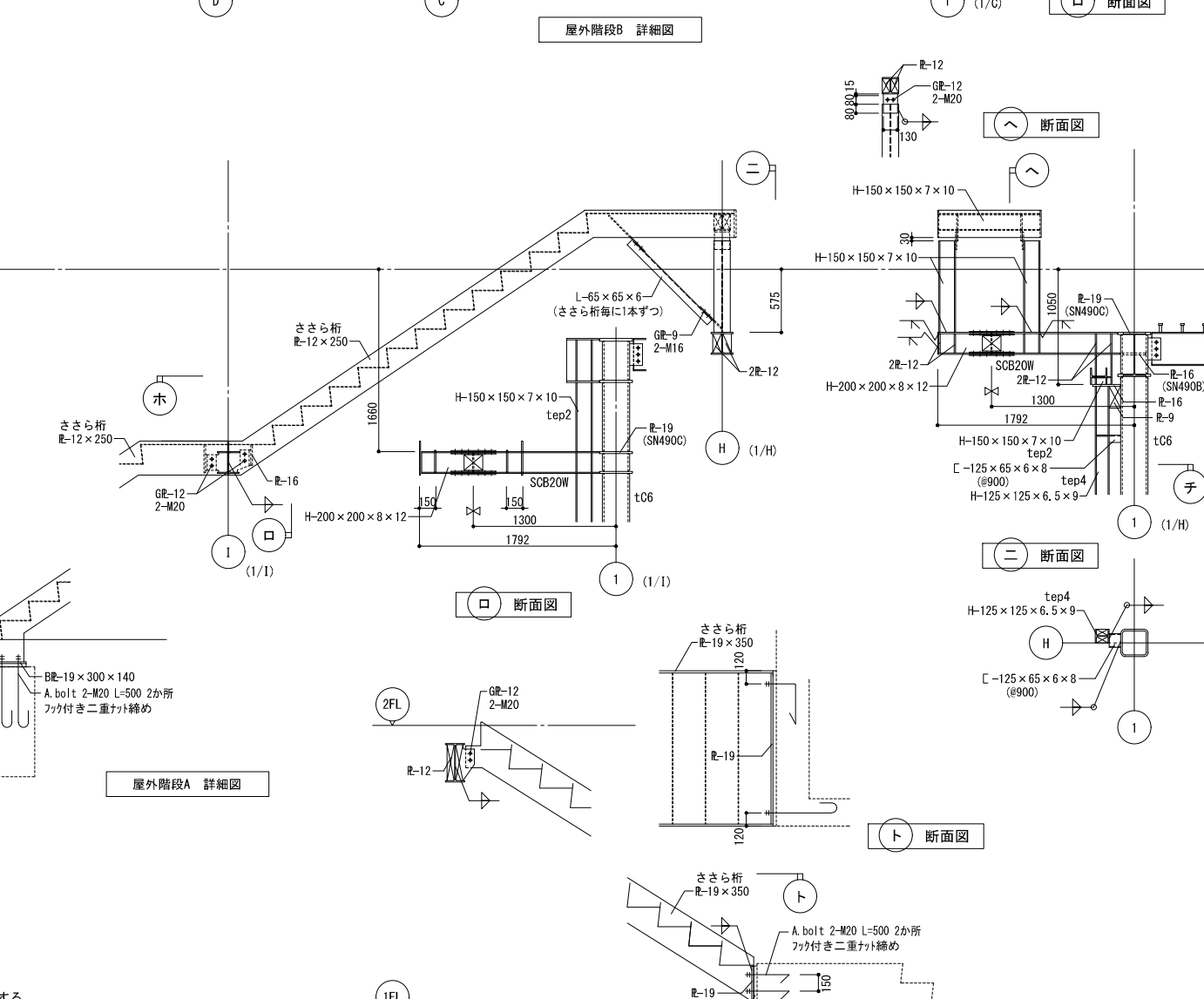
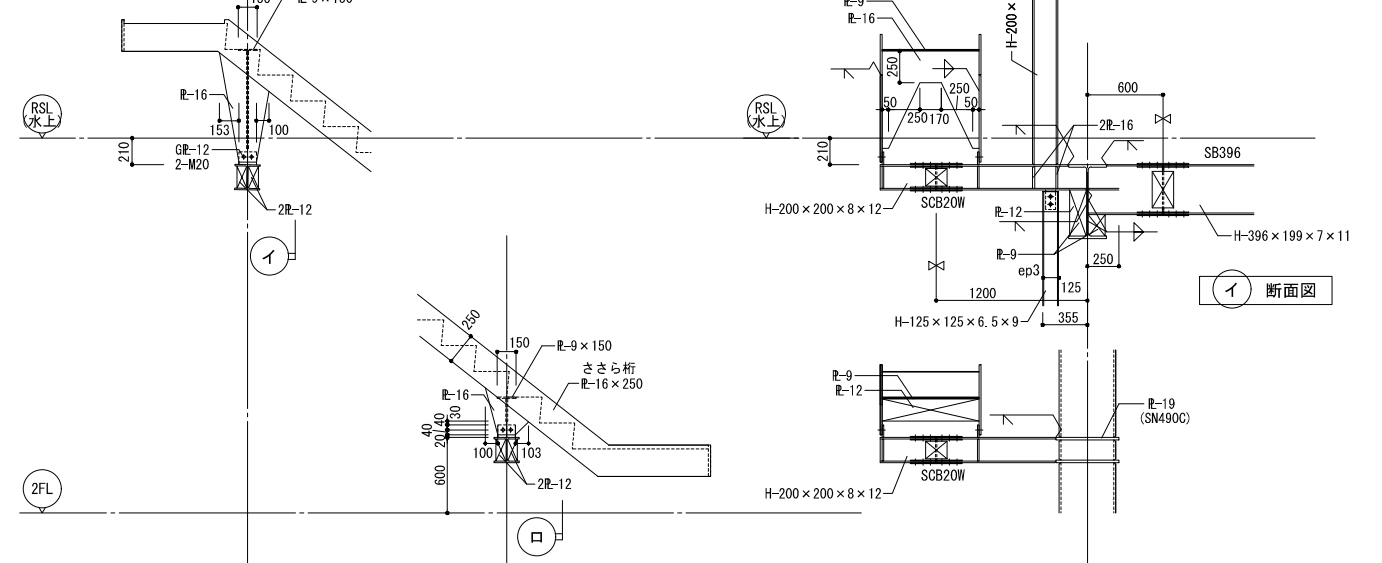
1 (1/G1) 断面図

公立大学法人 滋賀県立大学 高専開設準備局 総務・施設整備課		株式会社 東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	設計番号 20240631-2 一級建築士 NO.272847 石井 康彦	一級建築士 NO.248486 構造設計一級建築士 NO.4009 木下 隆嗣	一級建築士 NO.334956 設備設計一級建築士 NO.4756 工藤 征志	工事名称 滋賀県立高等専門学校 新築工事(第2工区) 図面名称 【図書交流・食堂売店棟】 鉄骨詳細図 その2 縮尺 A1: 1/30 A3: 1/60	図面番号 S117
-----------------------------------	--	---	--	---	---	---	--------------

庇 鉄骨詳細図



鉄骨階段 詳細図



- 注記
1. 特記のない場合鋼材の材質は、SS400とする。
 2. 添板の材質は母材と同材質とする。
 3. 屋外露出部（屋外階段）は、溶融亜鉛めっきとする。
 4. ボルトは下記とする。
屋内：トルシア形高力ボルトS10T
屋外露出部：溶融亜鉛めっき高力ボルトF8T相当
 5. ㍑は、現場継手位置を示す。

- 注記（外壁支持鉄骨詳細図 共通）
1. 特記のない場合、鋼材の材質はSS400とする。
 2. 特記が無い場合、ボルトは、トルシア形高力ボルトS10Tとする。
 3. ㍑は、現場継手位置を示す。

公立大学法人 滋賀県立大学
高専開設準備局 総務・施設整備課



株式会社 東畑建築事務所
TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.

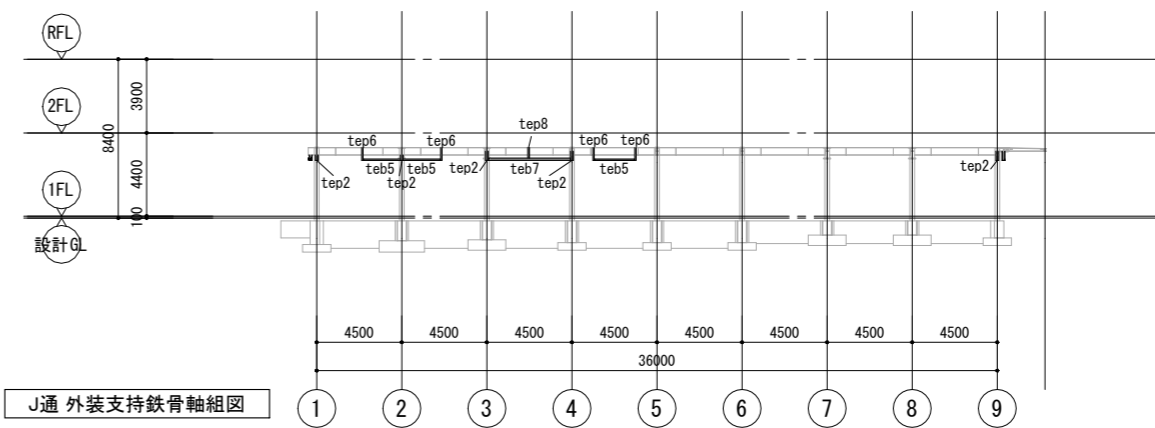
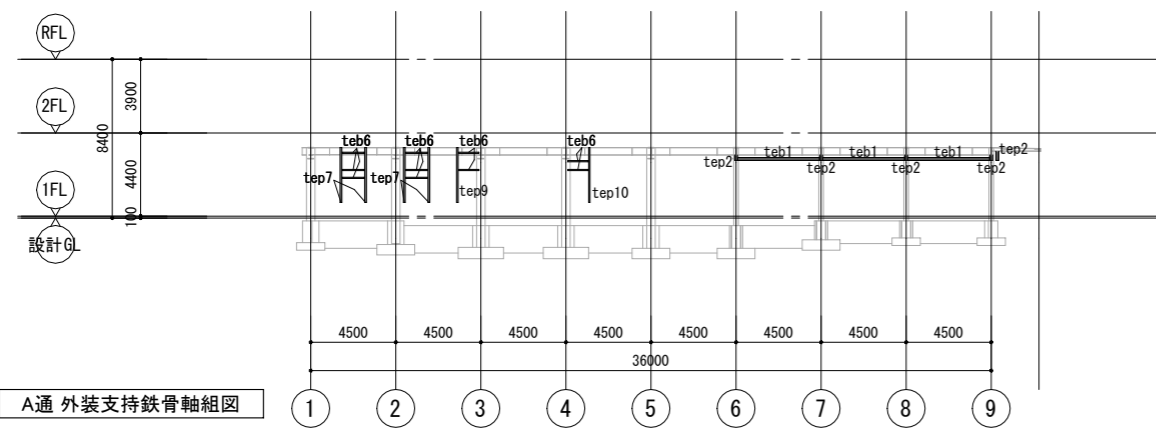
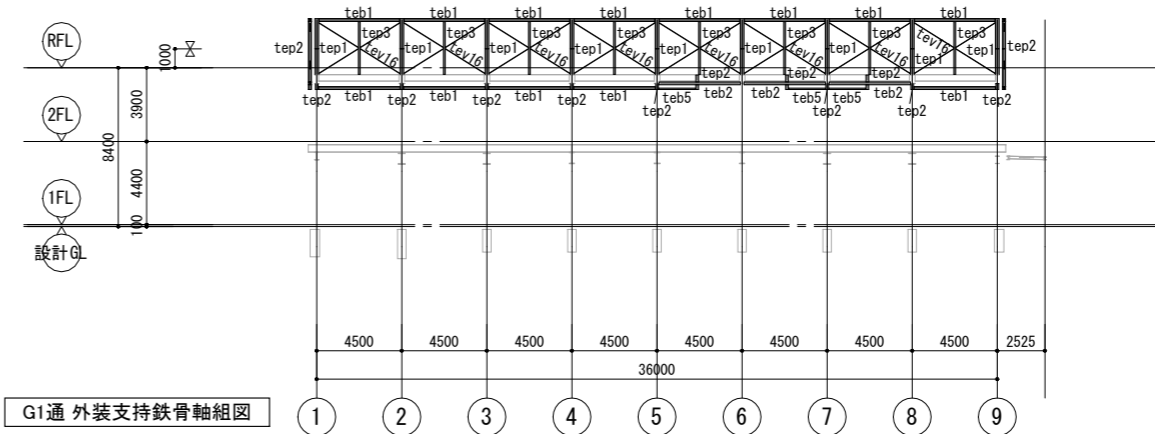
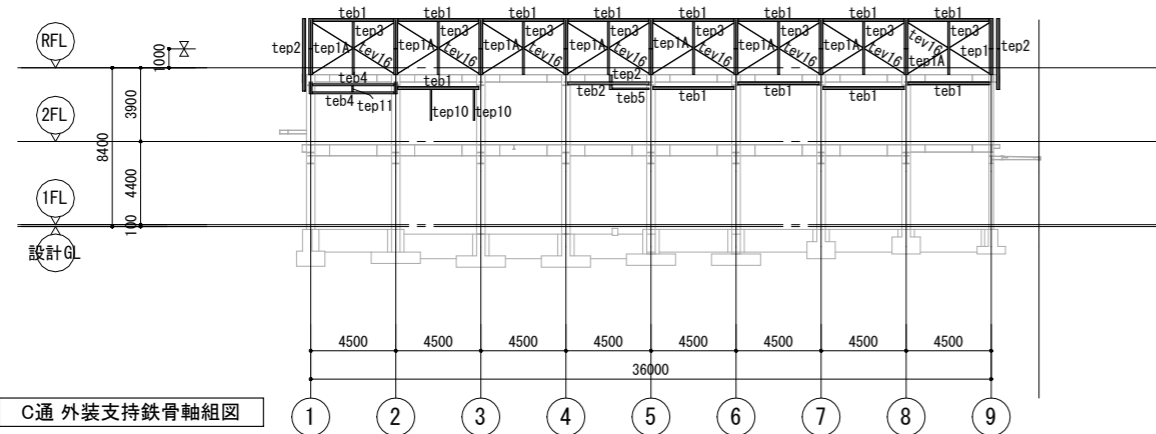
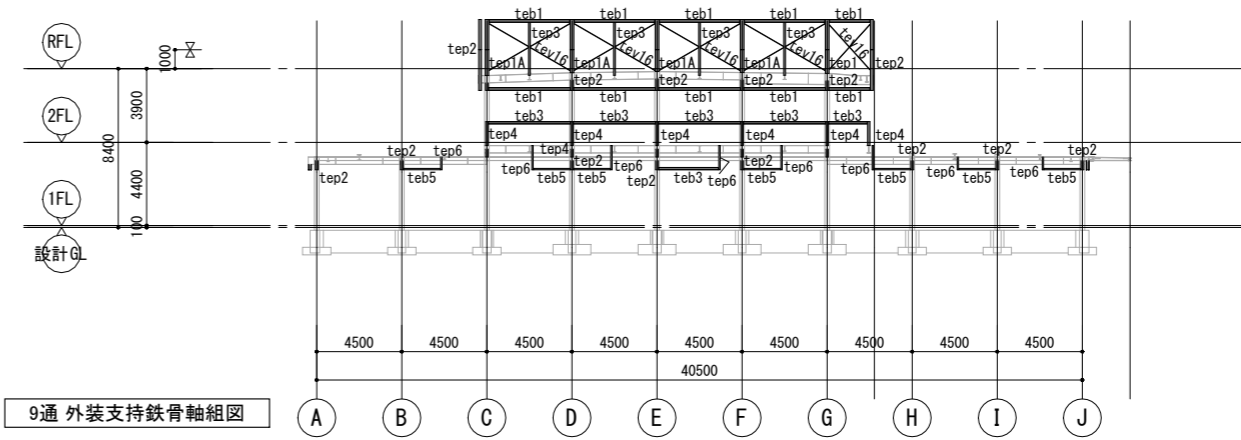
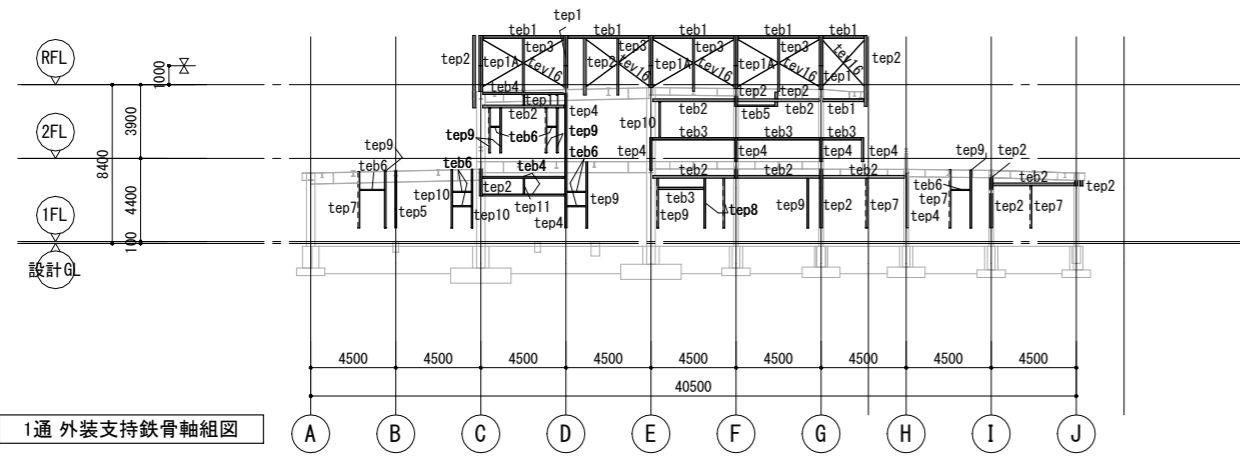
設計番号 20240631-2
一級建築士 NO.272847
石井 康彦

一級建築士 NO.248486
一級建築士 NO.334956
構造設計一級建築士 NO.4756
設備設計一級建築士 NO.4756
木下 隆綱
工藤 征志

工事名称 滋賀県立高等専門学校
新築工事(第2工区)

図面番号 S118

図面名称 【図書交流・食堂売店棟】 鉄骨詳細図 その3
縮尺 A1: 1/30
A3: 1/60



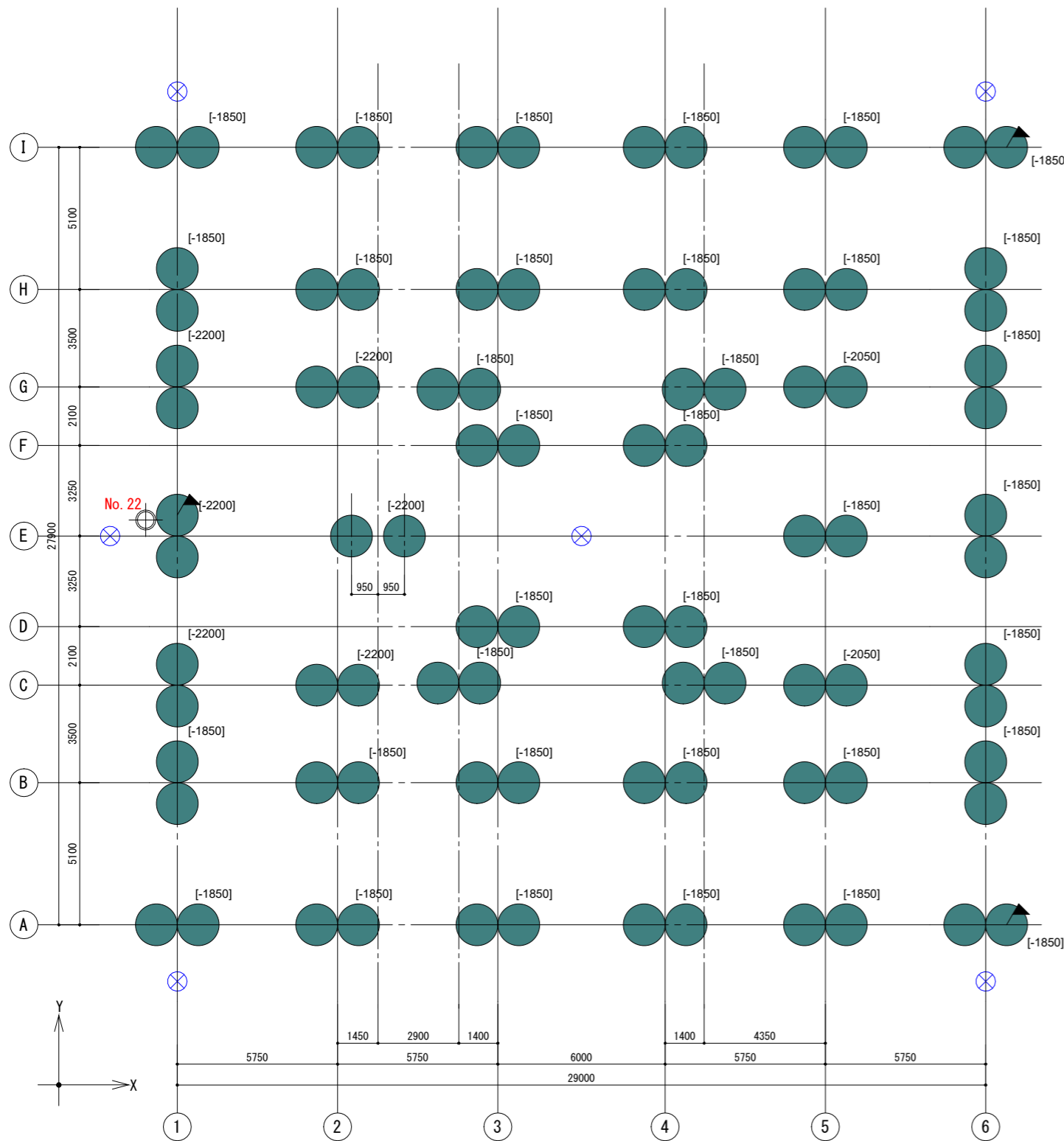
○注 記
 1. 接合部の仕様は本図断面表による他、鉄骨詳細図参照。
 2. ※は、鉄骨現場継手位置を示す。

符号	鋼材種別	断面	仕口
teb1	SS400	H-150×150×7×10	GPL-9 2-M20
teb2	SS400	H-150×150×7×10 (横使い)	GPL-9 2-M20
teb3	SS400	H-125×125×6.5×9	GPL-9 2-M20
teb4	SS400	L-100×100×10×10	GPL-9 2-M20
teb5	SS400	L-75×75×6×6	GPL-9 2-M16
teb6	SS400	L-65×65×6×6	GPL-9 2-M16
teb7	SS400	H-125×125×6.5×9 (横使い)	GPL-9 2-M20

符号	鋼材種別	断面	仕口
tep1	SS400	H-200x200x8x12	継手は詳細図による
tep1A	SS400	BH-200~220x200x8x12	継手は詳細図による
tep2	SS400	H-150x150x7x10	GPL-9 2-M20
tep3	SS400	H-148x100x6x9	GPL-9 2-M20
tep4	SS400	H-125x125x6.5x9	GPL-9 2-M20
tep5	SS400	H-100x100x6x8	GPL-9 2-M20

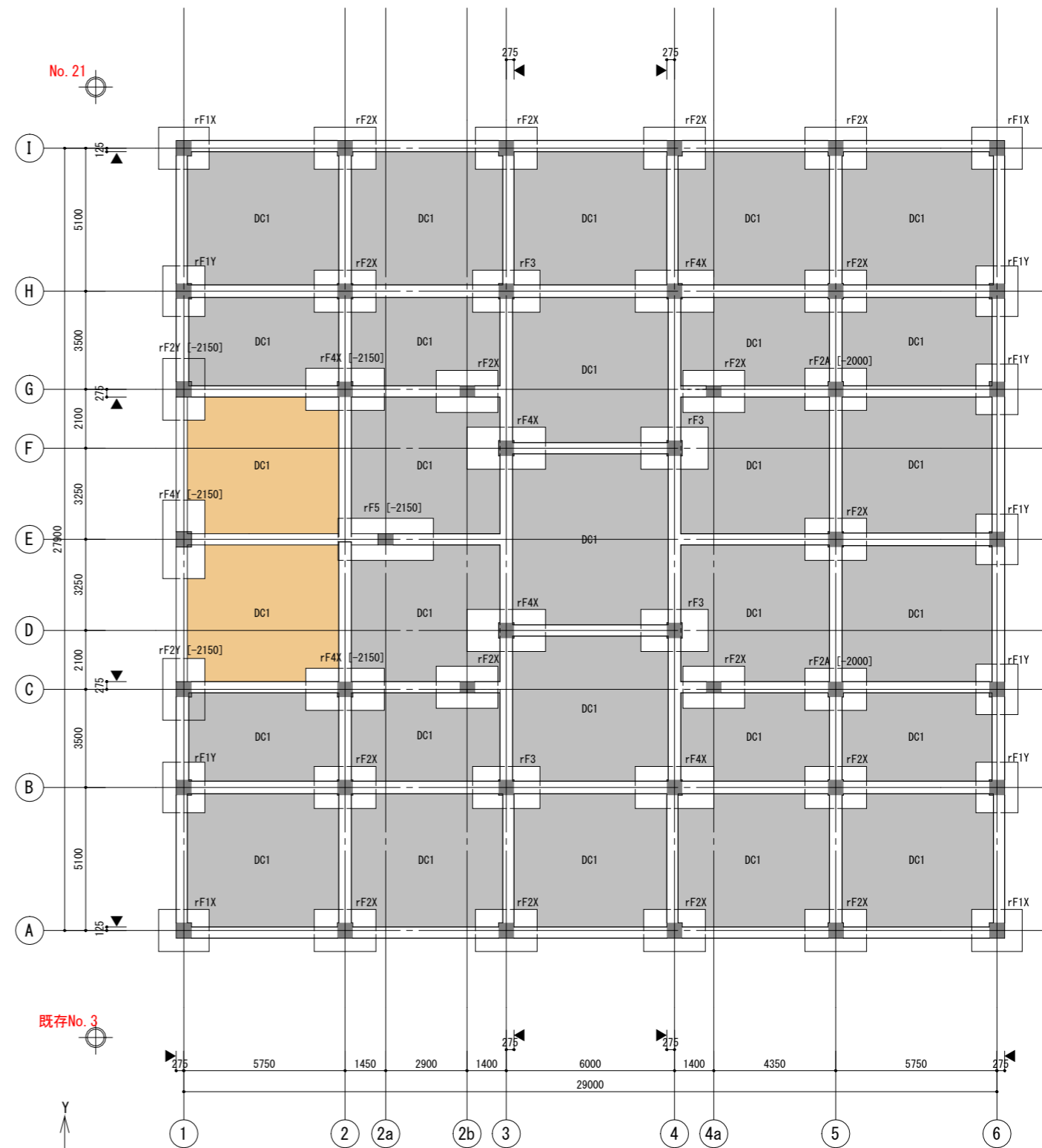
符号	鋼材種別	断面	仕口
tep6	SS400	C-150x75x9x12.5	GPL-9 2-M20
tep7	SS400	L-100x100x10x10	GPL-9 2-M20
tep8	SS400	L-90x90x10x10	GPL-9 2-M20
tep9	SS400	L-90x90x7x7	GPL-9 2-M20
tep10	SS400	L-75x75x6x6	GPL-9 2-M20
tep11	SS400	L-65x65x6x6	GPL-9 2-M16

符号	鋼材種別	断面	仕口
tev16	SNR400B	M16 (ターンバックル付きブレース)	GPL-9 1-M16 羽子板 PL-9 とする



地盤改良伏図

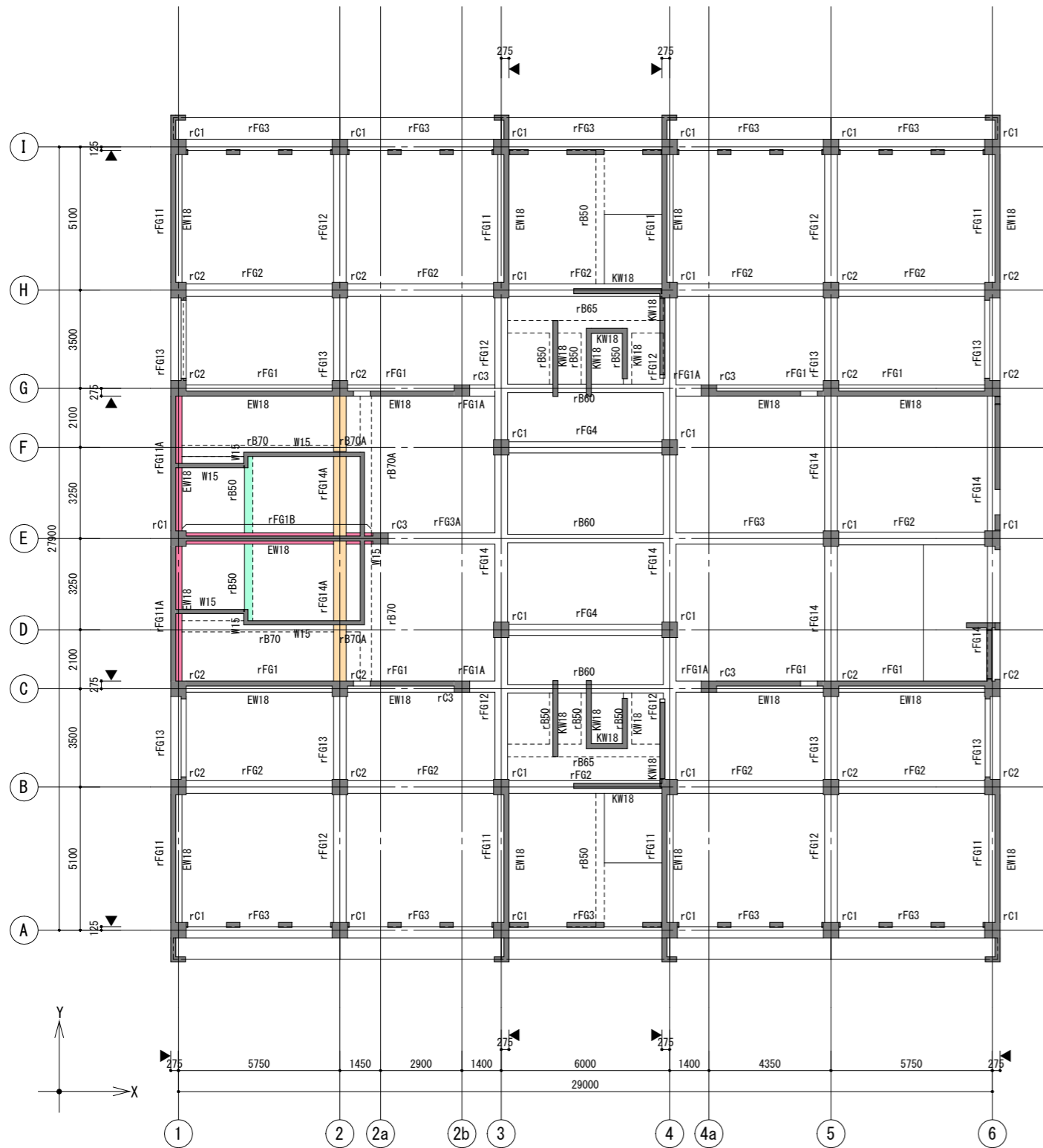
- 注 記 (地盤改良伏図)
 特記なき限り、下記による。
 1. 設計GL (=T.P.+98.93) = IFL-120とする。
 2. 改良径φ1500の深層混合処理工法を採用し、長期許容支持力は350kN/mとする。
 3. 改良天端レベルは、基礎下端-50とし、[]内数値は、設計GLからの改良天端レベルを示す。
 4. 改良体は接円配置とし、改良体群の圆心=基礎圆心とする。
 5. 地盤改良長さは、凡例による。
 6. 支持層の標高は土質柱状図により、支持層天端まで改良すること。
 7. ⊗は試験据位置 (6ヶ所)を示し、本施工に先立ち実施する。
 監督員と協議の上、支持層土質の採取・確認を行い、支持層の深さを決定する。
 8. ▲は試験施工位置 (3ヶ所)を示し、本施工に先立ち実施する。
 施工手順の確認、掘削状況、着底管理等の確認を行う。
 9. ⊕は地盤調査位置を示す。
- 凡 例：想定地盤改良底レベル
 ■ : IFL-15.4m



基礎伏図
(見下げ図)

- 注 記 (基礎伏図)
 特記なき限り、下記による。
 1. IFL = 設計GL+120
 2. 基礎芯=通芯とする。
 3. 基礎下端レベルは、IFL-1800とする。
 4. DC1はビット部土間コンクリート t150を示す。
 5. 底版天端レベルは、IFL-1550とする。
 6. ▶は梁面を示す。
- 凡 例：スラブ天端レベル
 ■ : IFL-1550
 ■ : IFL-1900

公立大学法人 滋賀県立大学 高専開設準備局 総務・施設整備課	株式会社 東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC. 石井 康彦	設計番号 20240631-2 一級建築士 No.272847 構造設計一級建築士 No.4009 木下 隆嗣	一級建築士 No.248486 構造設計一級建築士 No.4009 木下 隆嗣	一級建築士 No.334956 設備設計一級建築士 No.4756 工藤 征志	工事名称 滋賀県立高等専門学校 (第2工区)新築工事 図面名称 【学生寮】地盤改良伏図・基礎伏図 縮尺 A1: 1/100 A3: 1/200	図面番号 S201
-----------------------------------	--	---	---	---	---	--------------



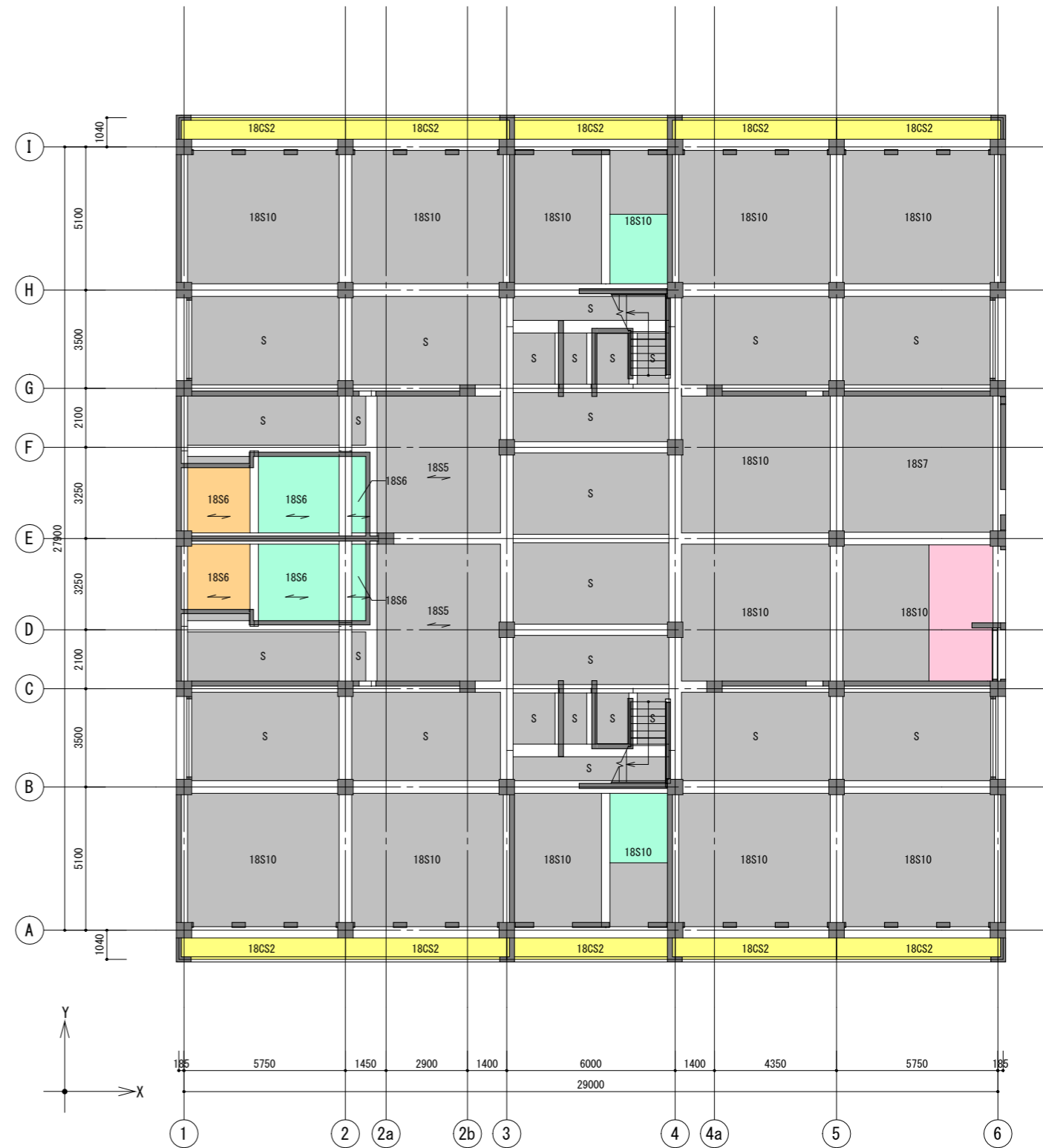
1階柱梁伏図(柱梁符号図)
(見下げ図)

○注 記 (1階床伏図)

- 特記なき限り、下記による。
1. 通芯=基礎芯=柱芯=梁芯を示す。
 2. 黒三角は梁面を示す。
 3. 基礎梁 (FG符号) 天端レベルは1FL-200とする。
 4. RC小梁 (B符号) 天端レベルは、スラブ天端レベルと同じとし、RC基礎小梁 (FB符号) 天端レベルは、スラブ底とする。
 5. スラブ天端とRC梁天端が異なる場合は、梁上増打ちとする。
 6. 壁符号はW18とする。

凡 例 : 梁天端レベル

- : 1FL-250
- : 1FL-450
- : 1FL-700



1階床伏図(スラブ符号図)
(見下げ図)

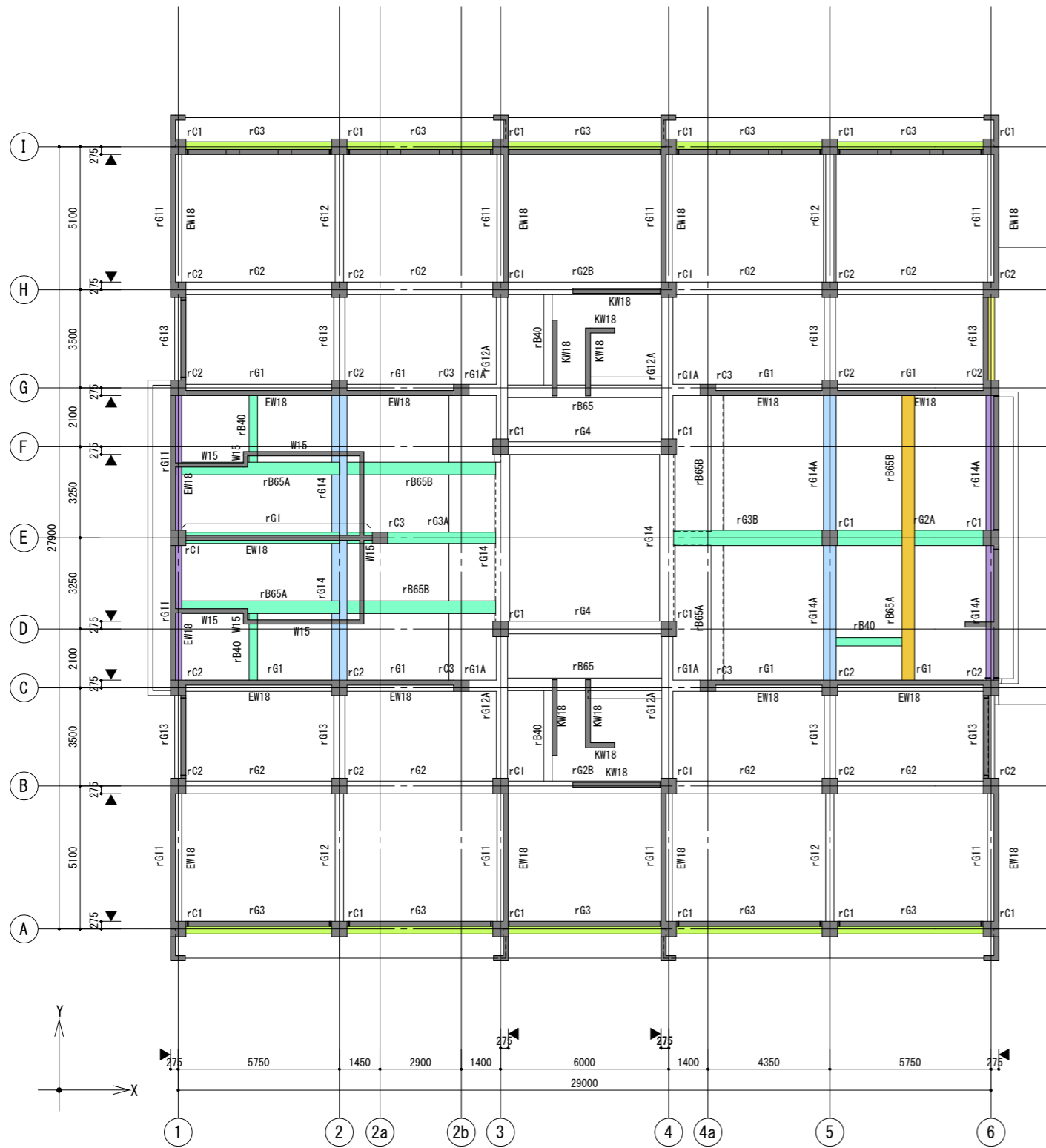
○注 記 (1階床伏図)

- 特記なき限り、下記による。
1. スラブ符号例 (DC・FSの配筋及び厚さは詳細図による)
 (18 S 11) — 在来型枠スラブ (S, CS符号) 配筋種別 (S004図による)
 — スラブ厚 (cm)
 2. スラブ符号Sは15S11を示す。
 3. 主筋方向はY方向とする。
 4. — はスラブ主筋方向を示す。

凡 例 : スラブ天端レベル

- : 1FL-15
- : 1FL-35
- : 1FL-50
- : 1FL-250
- : 1FL-490

公立大学法人 滋賀県立大学 高専開設準備局 総務・施設整備課	株式会社 東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC. 石井 康彦	設計番号 20240631-2 一級建築士 No.272847 構造設計一級建築士 No.4009 木下 隆嗣	一級建築士 No.248486 構造設計一級建築士 No.4009 木下 隆嗣	一級建築士 No.334956 設備設計一級建築士 No.4756 工藤 征志	工事名称 滋賀県立高等専門学校 (第2工区) 新築工事 図面名称 【学生寮】1階床伏図(柱梁符号図・スラブ符号図) 縮尺 A1: 1/100 A3: 1/200	図面番号 S202
-----------------------------------	--	---	---	---	---	--------------



2階柱梁伏図(柱梁符号図)
(見上げ図)

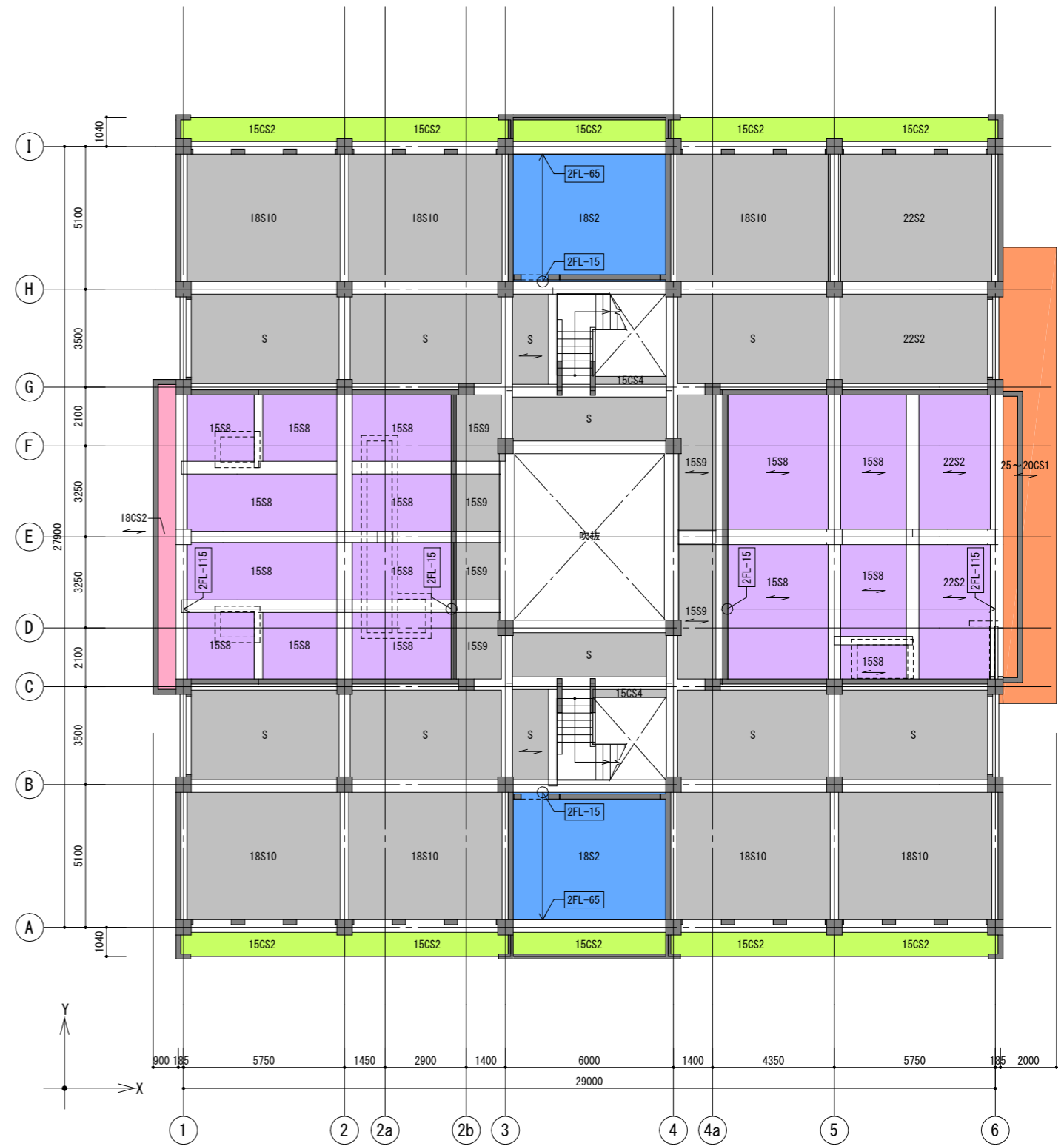
○注 記 (2階床伏図)

特記なき限り、下記による。

1. 通芯=基礎芯=柱芯=梁芯を示す。
2. 黒三角は梁面を示す。
3. 大梁 (G符号) 天端レベルは2FL-30とする。
4. RC小梁 (B符号) 天端レベルは、スラブ天端レベルと同じとし、
5. スラブ天端とRC梁天端が異なる場合は、梁上増打ちとする。
6. 壁符号はW18とする。

凡 例：梁天端レベル

- :2FL-60
- :2FL-65
- :2FL-90
- :2FL-115
- :2FL-300
- :2FL-30~-115



2階床伏図(スラブ符号図)
(見下げ図)

○注 記 (2階床伏図)

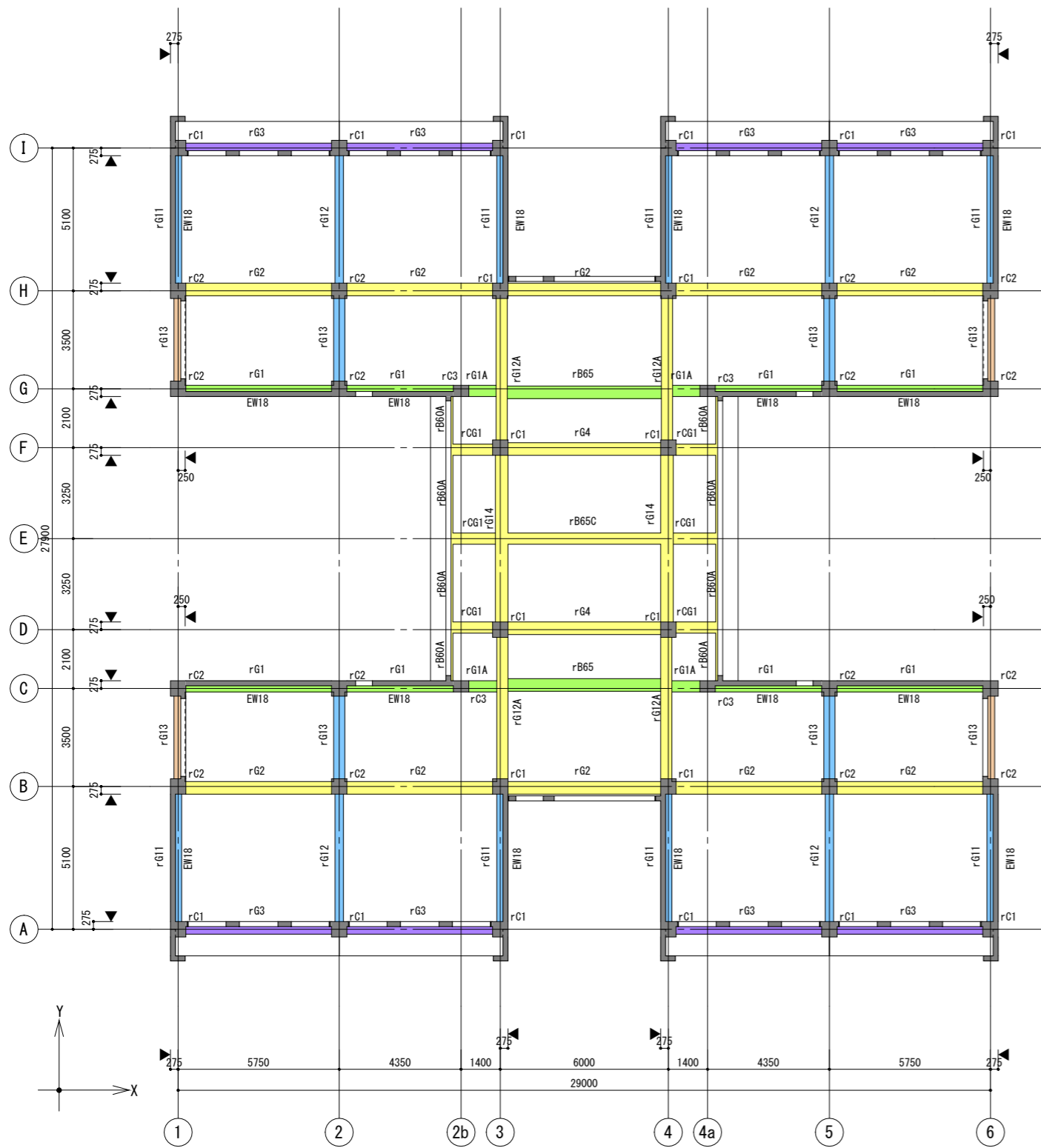
特記なき限り、下記による。

1. スラブ符号例 (DC・FSの配筋及び厚さは詳細図による)
(18 S 11) — 在来型枠スラブ (S, CS符号) 配筋種別 (S004図による)
 └─ スラブ厚 (cm)
2. スラブ符号 Sは15S11を示す。
3. 主筋方向はY方向とする。
4. ← はスラブ主筋方向を示す。

凡 例：スラブ天端レベル

- :2FL-15
- :2FL-65
- :2FL-115
- :2FL-15~-65
- :2FL-15~-115
- :2FL-150~-200
- :スラブ無し

公立大学法人 滋賀県立大学 高専開設準備局 総務・施設整備課	株式会社 東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC. 石井 康彦	設計番号 20240631-2 一級建築士 No.272847 構造設計一級建築士 No.4009 木下 隆嗣	一級建築士 No.248486 設備設計一級建築士 No.4756 工藤 征志	工事名称 滋賀県立高等専門学校 (第2工区)新築工事 図面名称 【学生寮】2階床伏図(柱梁符号図・スラブ符号図) 縮尺 A1: 1/100 A3: 1/200	図面番号 S203
-----------------------------------	--	---	---	---	--------------



R階柱梁伏図(柱梁符号図)
(見上げ図)

○注 記 (R階床伏図)
特記なき限り、下記による。

1. 通芯=基礎芯=柱芯=梁芯を示す。
2. ▲ は梁面を示す。
3. スラブ天端とRC梁天端が異なる場合は、梁上増打ちとする。
4. 壁符号はW18とする。

凡 例：梁天端レベル

- :RSL (水上)-10
- :RSL (水上)-50
- :RSL (水上)-100
- :RSL (水上)-125
- :RSL (水上)-10~-100



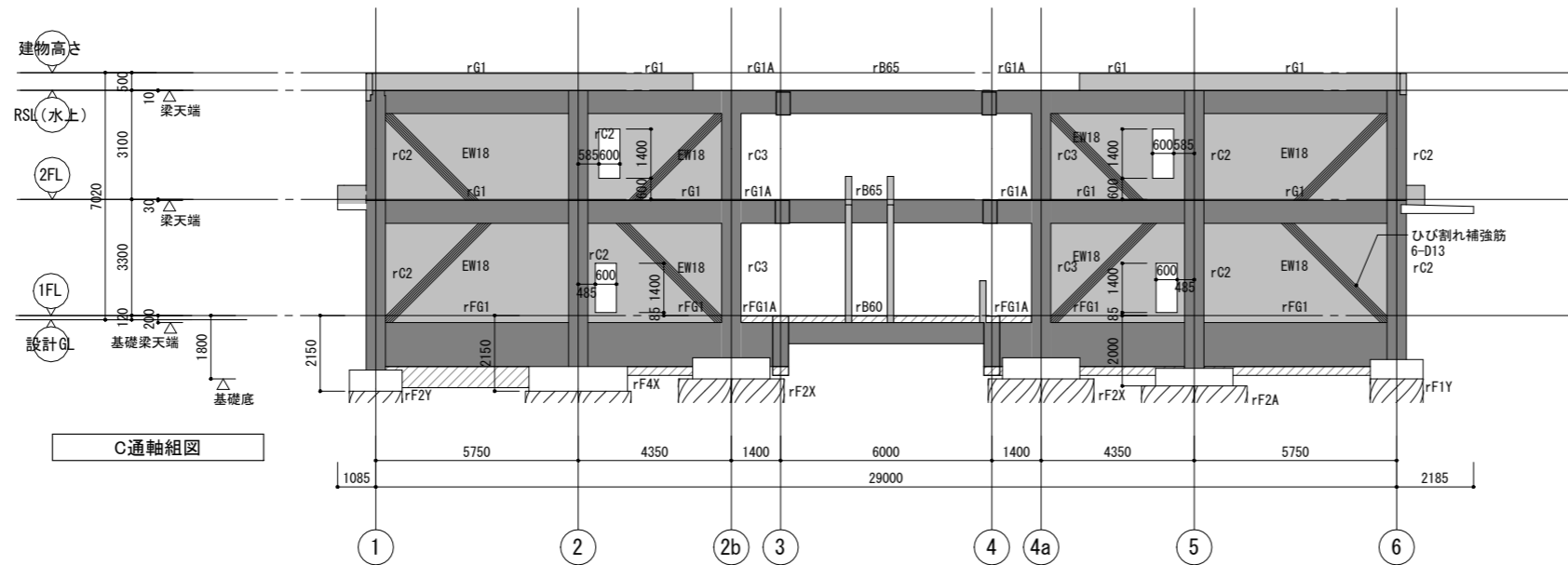
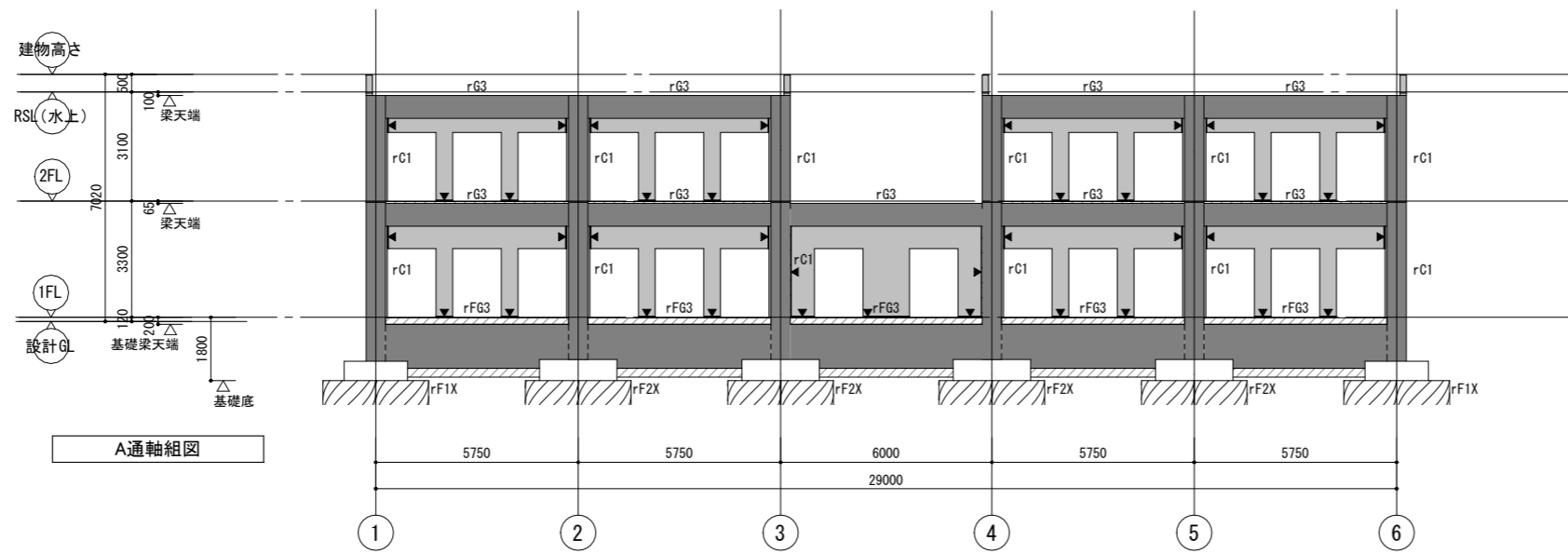
R階床伏図(スラブ符号図)
(見下げ図)

○注 記 (R階床伏図)
特記なき限り、下記による。

1. スラブ符号例 (DC・FSの配筋及び厚さは詳細図による)
⑮ S ⑰ — 在来型スラブ (S, CS符号) 配筋種別 (S004図による)
 └─ スラブ厚 (cm)
2. スラブ符号 Sは15S11を示す。
3. 主筋方向はY方向とする。
4. ← はスラブ主筋方向を示す。

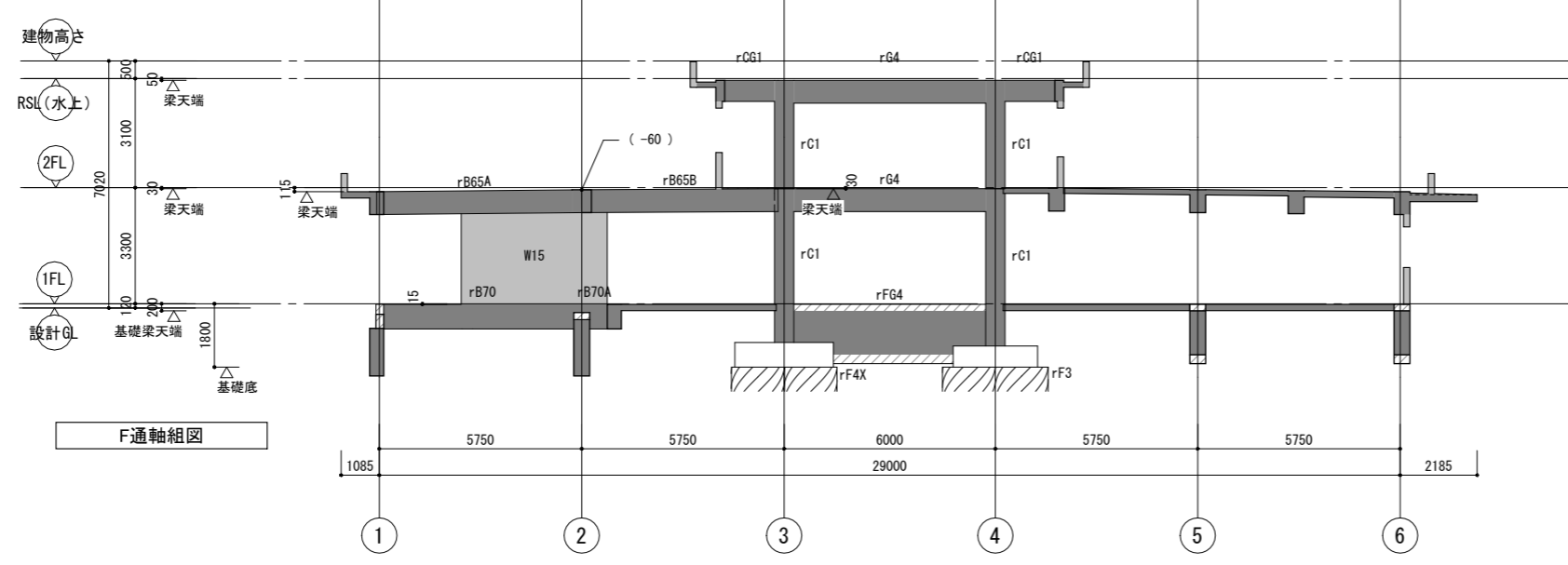
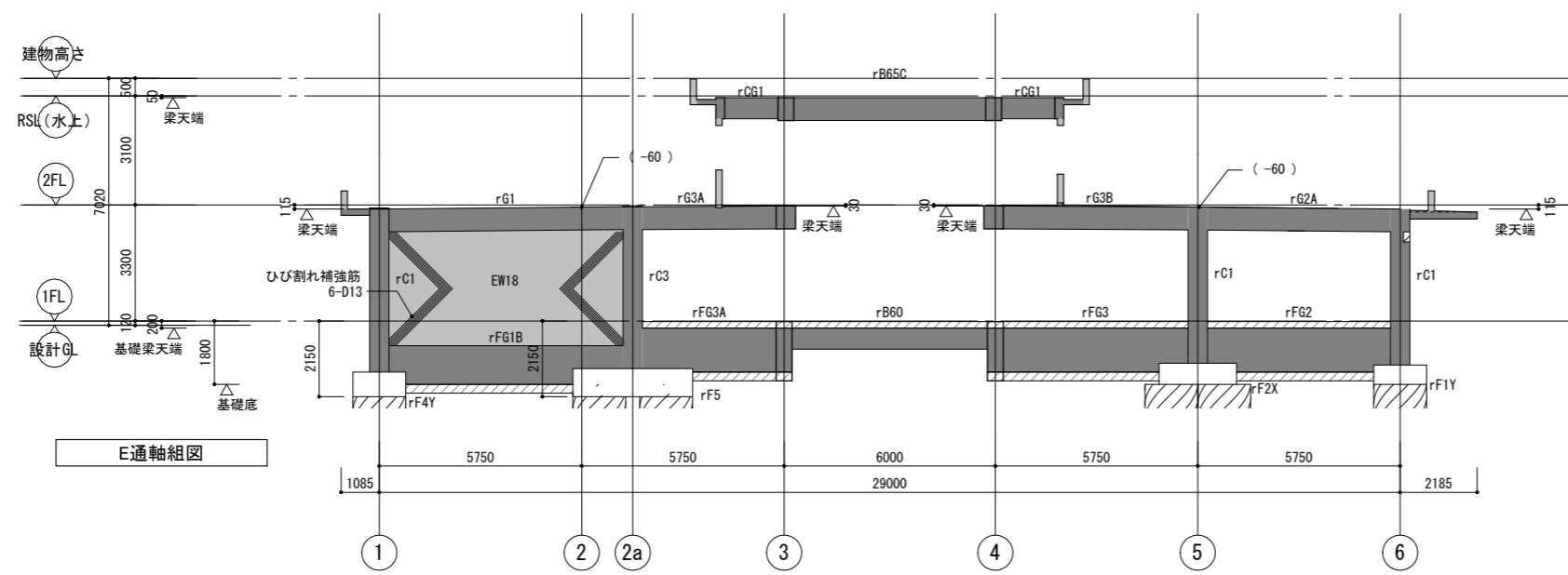
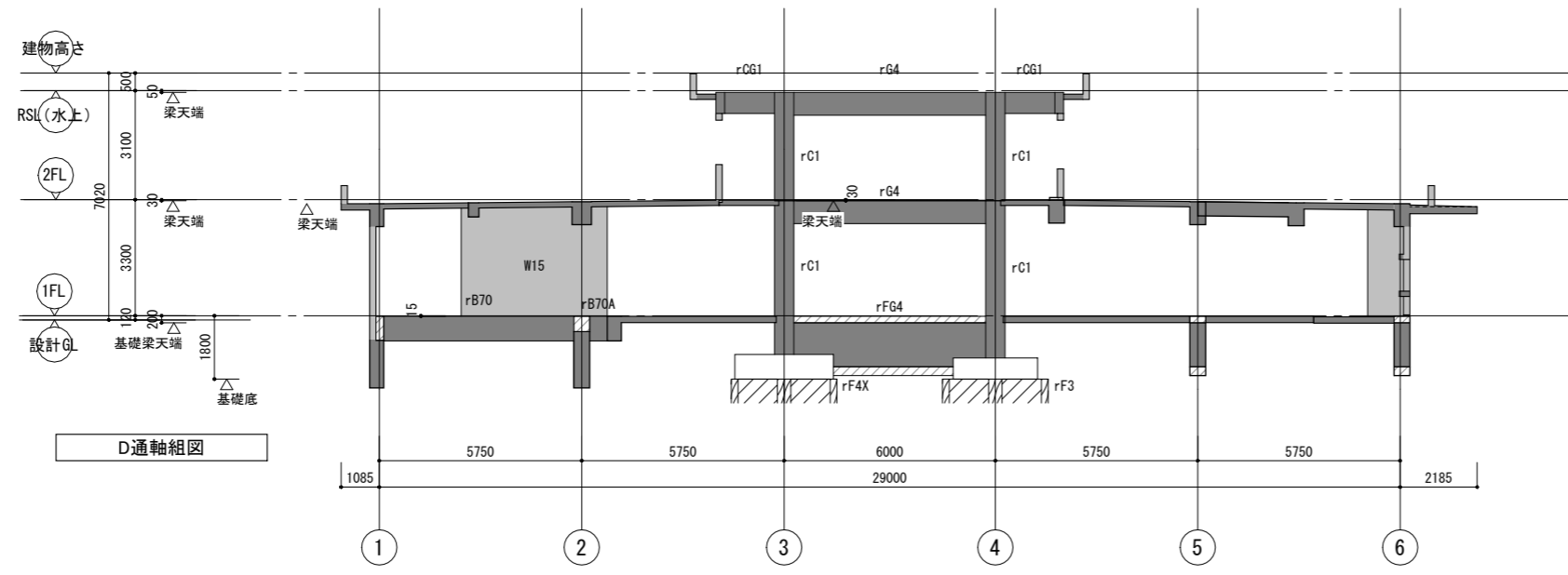
凡 例：スラブ天端レベル

- :RSL (水上)-150
- :RSL (水上)-100
- :RSL (水上)-50
(上部勾配増打ち RSL (水上)-50~±0)
- :RSL (水上)-100~±0



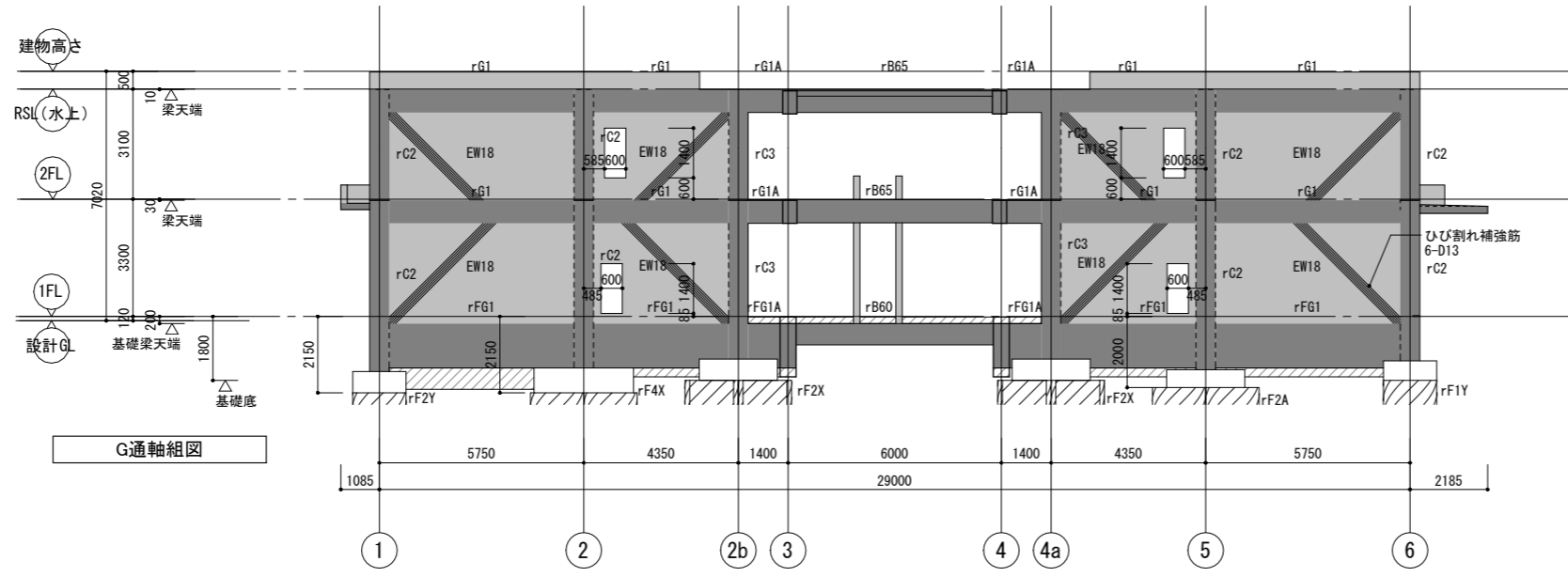
- 軸組図共通事項
 特記なき限り、下記による。
 1. 通芯=基礎芯=柱芯とする。
 2. 壁符号はW18とする。
 3. 印は増打部分を示す。
 4. 印は構造スリットを示す。
 5. ひび割れ補強筋は、柱・梁にL2定着とする。

公立大学法人 滋賀県立大学 高専開設準備局 総務・施設整備課		株式会社 東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	設計番号 20240631-2	一級建築士 No.248486 構造設計一級建築士 No.4009 石井 康彦	一級建築士 No.334956 設備設計一級建築士 No.4756 工藤 征志	工事名称 滋賀県立高等専門学校 (第2工区) 新築工事 図面名称 【学生寮】 軸組図 その1	図面番号 S205
			縮尺 A1: 1/100 A3: 1/200				

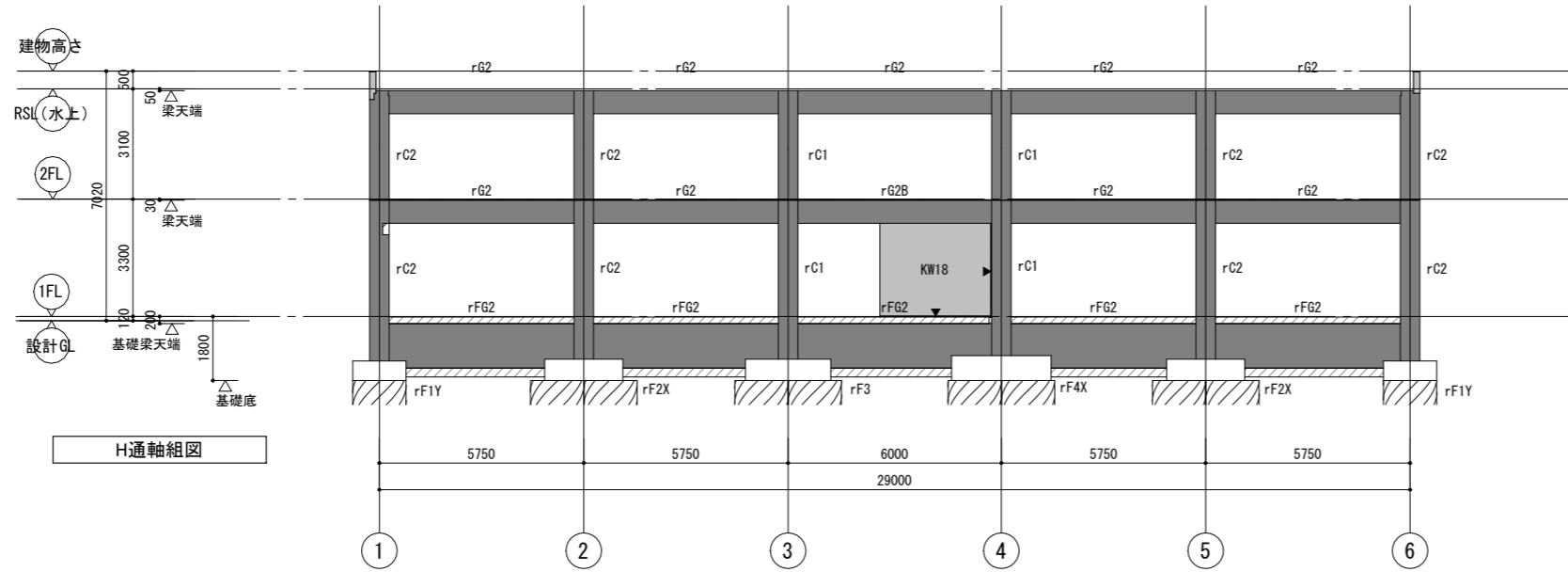


- 軸組図共通事項
 特記なき限り、下記による。
 1. 通芯=基礎芯=柱芯とする。
 2. 壁符号はW18とする。
 3. 印は増打部分を示す。
 4. 印は構造スリットを示す。
 5. ひび割れ補強筋は、柱・梁にL2定着とする。

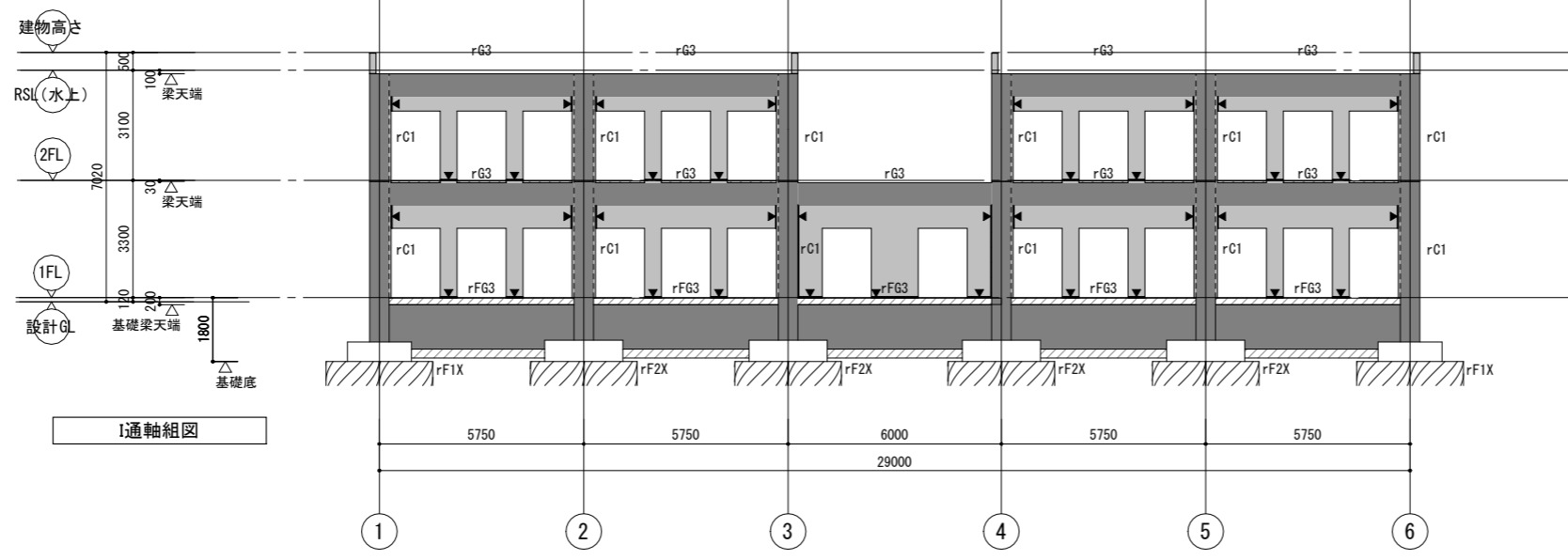
公立大学法人 滋賀県立大学 高専開設準備局 総務・施設整備課	株式会社 東畑建築事務所 TOMIYAMA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	設計番号 20240631-2	一級建築士 No.248486	一級建築士 No.334956	工事名称 滋賀県立高等専門学校 (第2工区)新築工事 図面名称 【学生寮】軸組図 その2 縮尺 A1: 1/100 A3: 1/200	図面番号 S206
		一級建築士 No.272847 石井 康彦	構造設計一級建築士 No.4009 木下 隆嗣	設備設計一級建築士 No.4756 工藤 征志		



G軸組図



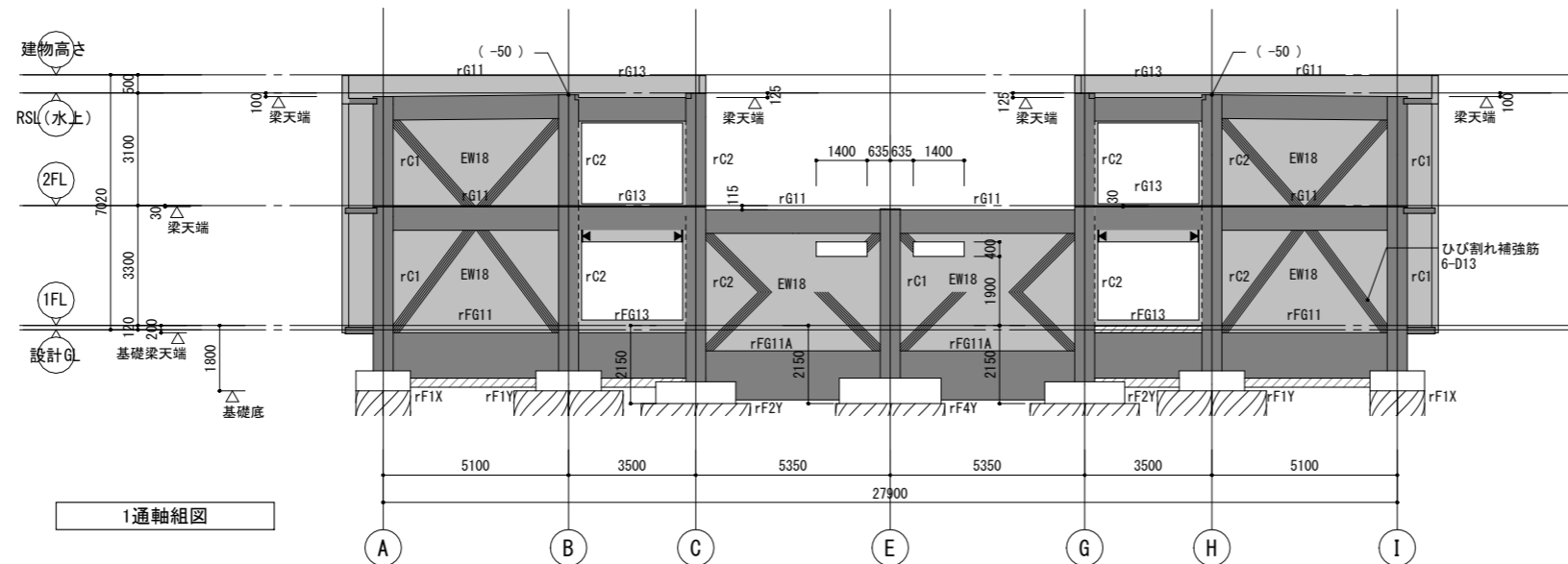
H軸組図



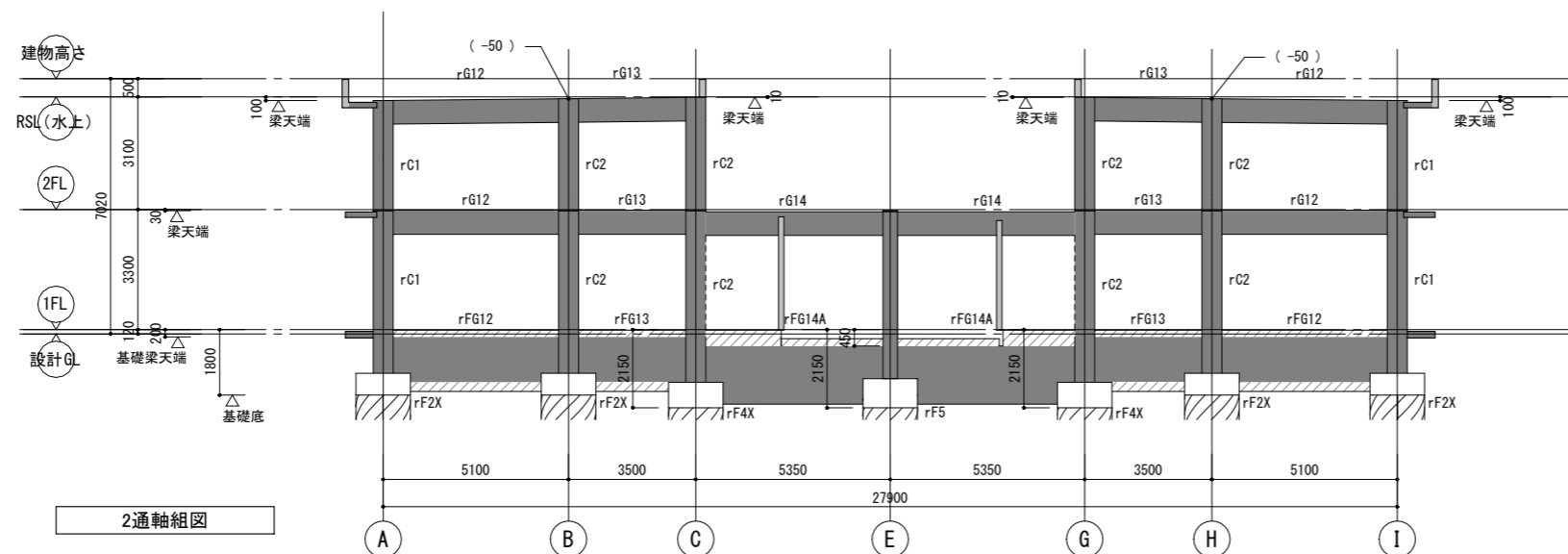
I軸組図

- 軸組図共通事項
 特記なき限り、下記による。
 1. 通芯=基礎芯=柱芯とする。
 2. 壁符号はW18とする。
 3. 印は増打部分を示す。
 4. 印は構造スリットを示す。
 5. ひび割れ補強筋は、柱・梁にL2定着とする。

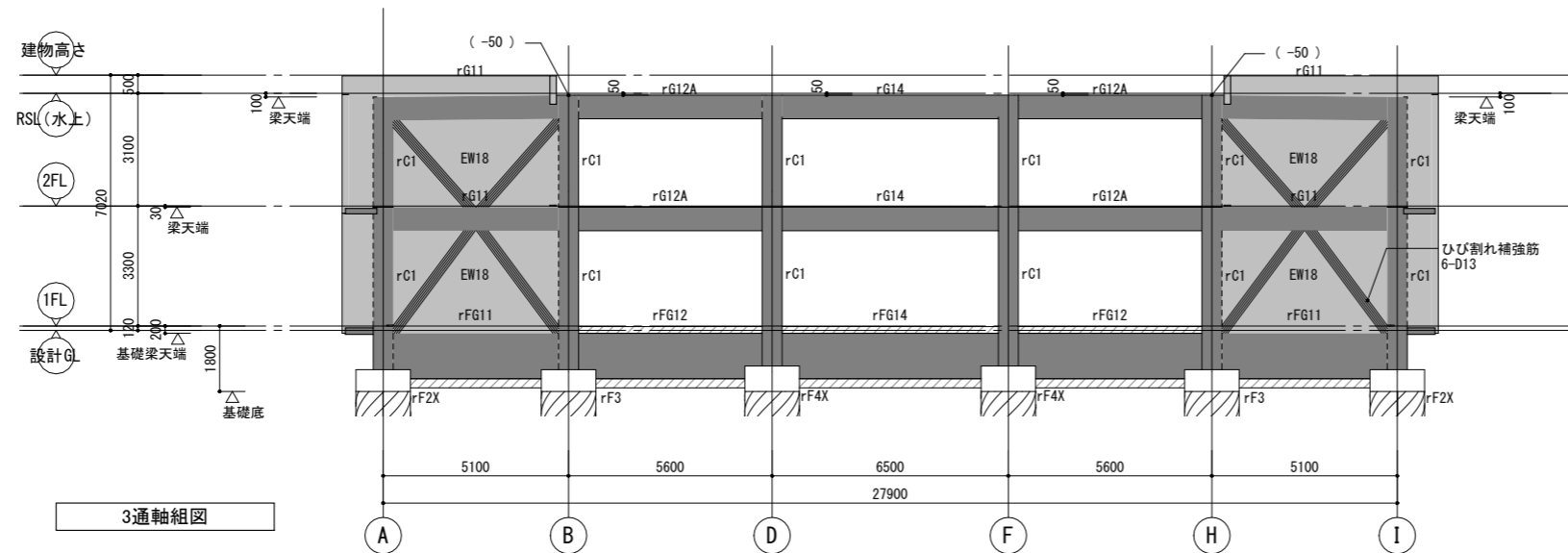
公立大学法人 滋賀県立大学 高専開設準備局 総務・施設整備課		株式会社 東畑建築事務所 TOMIYAMA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	設計番号 20240631-2	一級建築士 No.248486 構造設計一級建築士 No.4009 木下 隆嗣	一級建築士 No.334956 設備設計一級建築士 No.4756 工藤 征志	工事名称 滋賀県立高等専門学校 (第2工区)新築工事 図面名称 【学生寮】軸組図 その3	図面番号 S207
			石井 康彦	縮尺 A1: 1/100 A3: 1/200			



1通軸組図



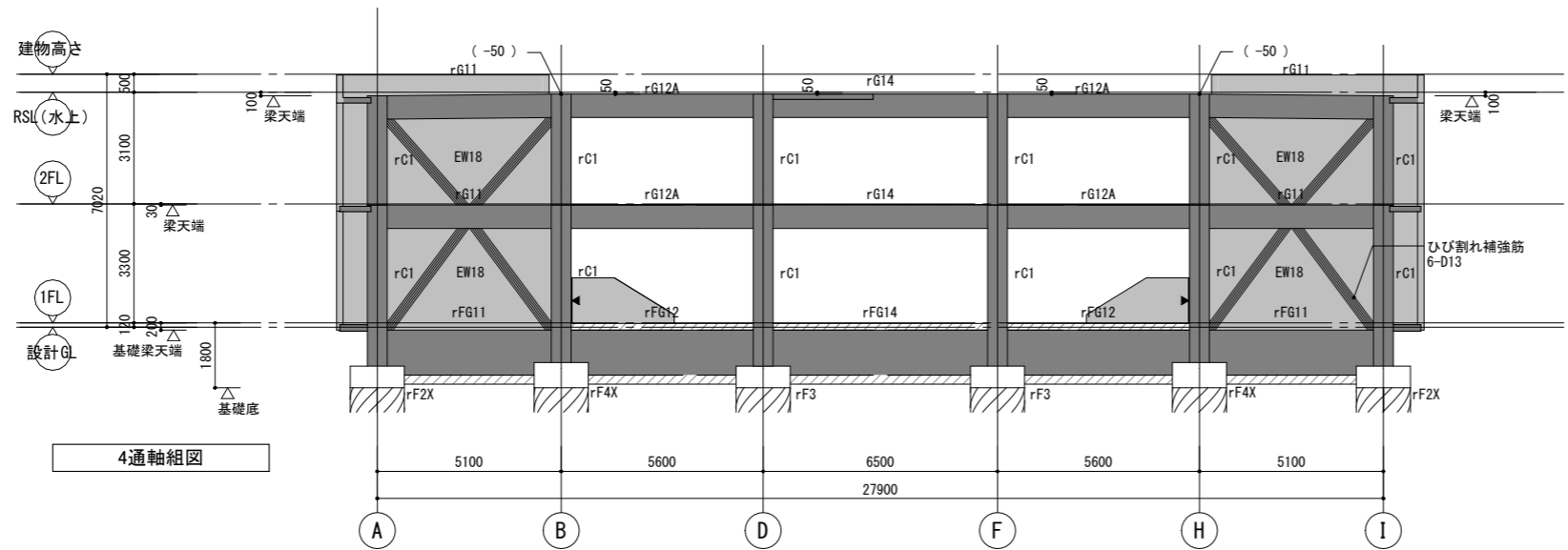
2通軸組図



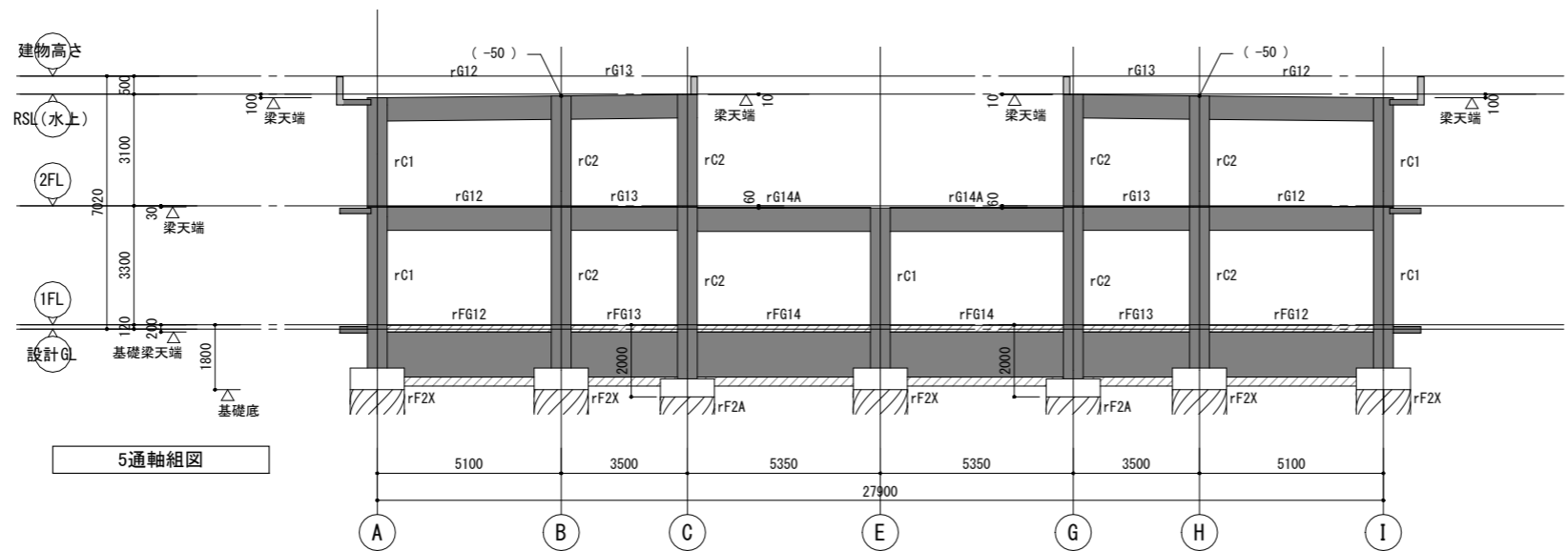
3通軸組図

- 軸組図共通事項
 特記なき限り、下記による。
 1. 通芯=基礎芯=柱芯とする。
 2. 壁符号はW18とする。
 3. 印は増打部分を示す。
 4. 印は構造スリットを示す。
 5. ひび割れ補強筋は、柱・梁にL2定着とする。

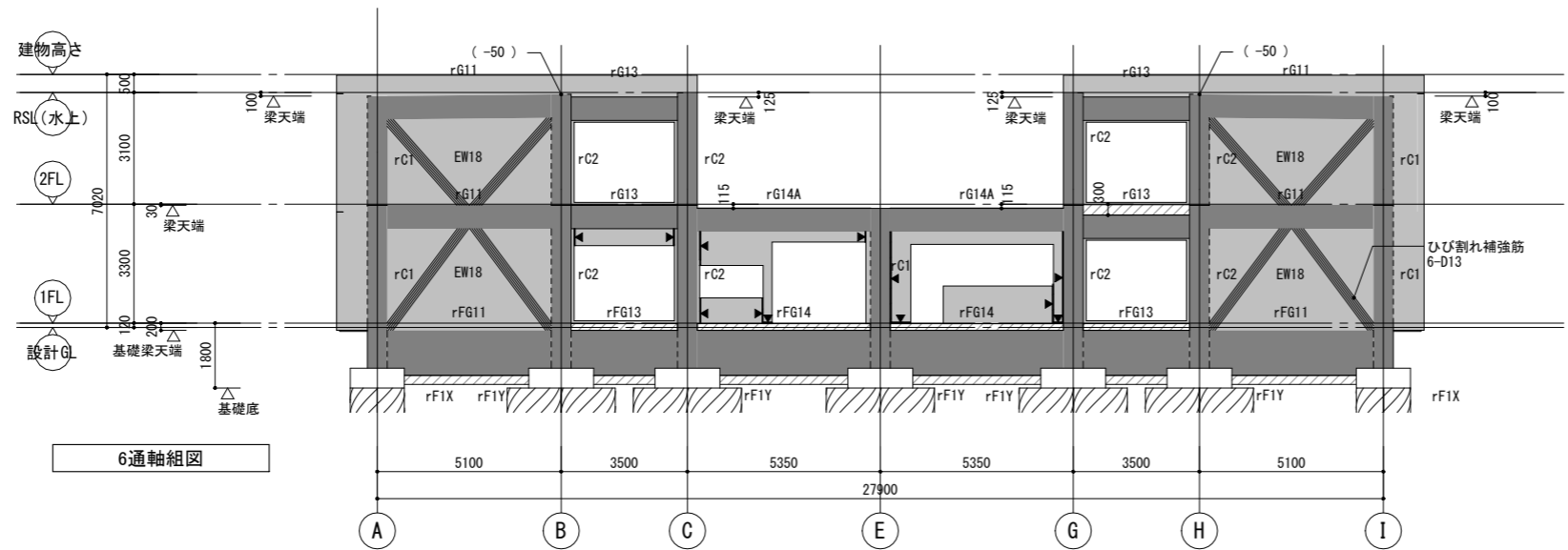
公立大学法人 滋賀県立大学 高専開設準備局 総務・施設整備課		 株式会社 東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	設計番号 20240631-2	一級建築士 No.248486 構造設計一級建築士 No.4009 石井 康彦	一級建築士 No.334956 設備設計一級建築士 No.4756 工藤 征志	工事名称 滋賀県立高等専門学校 (第2工区)新築工事 図面名称 【学生寮】軸組図 その4	縮尺 A1: 1/100 A3: 1/200	図面番号 S208
			木下 隆嗣	図面番号 S208				



4通軸組図



5通軸組図



6通軸組図

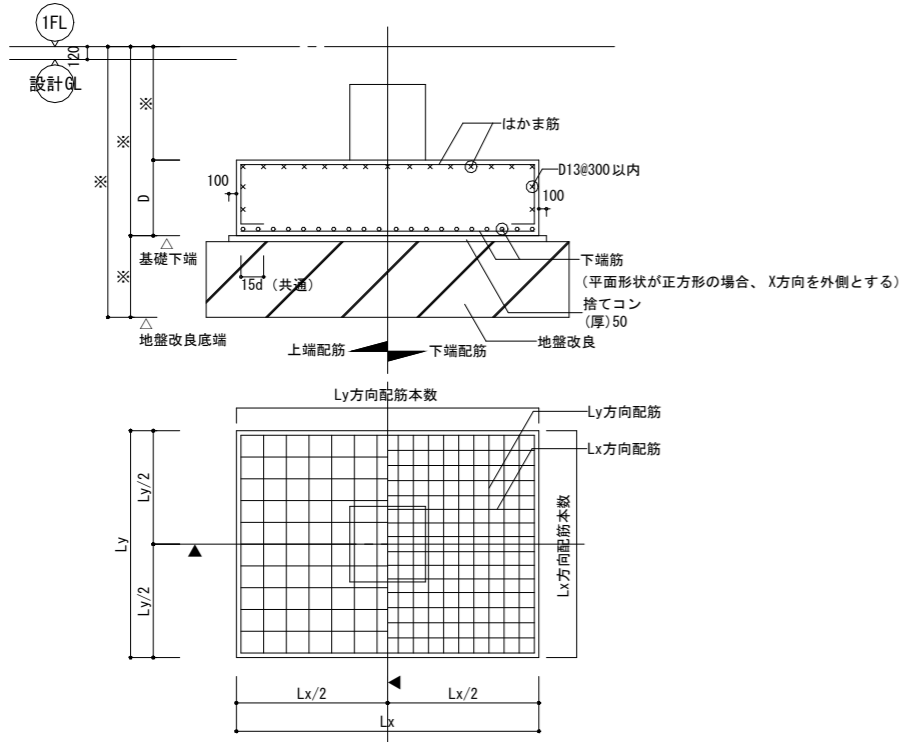
- 軸組図共通事項
 特記なき限り、下記による。
 1. 通芯=基礎芯=柱芯とする。
 2. 壁符号はW18とする。
 3. 印は増打部分を示す。
 4. 印は構造スリットを示す。
 5. ひび割れ補強筋は、柱・梁にL2定着とする。

公立大学法人 滋賀県立大学 高専開設準備局 総務・施設整備課		株式会社 東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	設計番号 20240631-2	一級建築士 No.248486	一級建築士 No.334956	工事名称 滋賀県立高等専門学校 (第2工区)新築工事 図面名称 【学生寮】軸組図 その5 縮尺 A1: 1/100 A3: 1/200	図面番号 S209
			一級建築士 No.272847 石井 康彦	構造設計一級建築士 No.4009 木下 隆嗣	設備設計一級建築士 No.4756 工藤 征志		

基礎詳細図 1/50

特記のない場合は下記による。

- ◀ は、基礎芯を示す。
- ※寸法は、地盤改良伏図及び軸組図による。

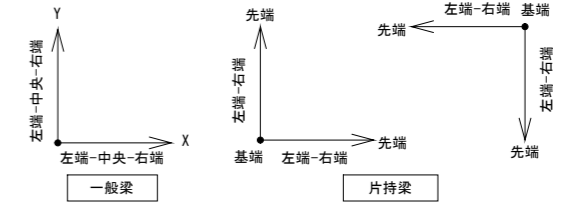
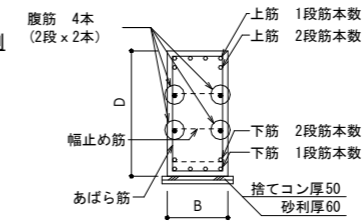


基礎梁断面表

特記のない場合は下記による。

- 幅止め筋 D10- 〓 @1000
- 梁端部主筋カットオフ筋の長さは、 $1/4 L0+15d$ とする。
(L0は梁の内法寸法、dは鉄筋の呼び径)

RC梁断面リスト凡例



断面 B×D	主筋径	上端筋				下端筋				あばら筋			腹筋
		左端	中央	右端	カットオフ長さ	左端	中央	右端	カットオフ長さ	左端	中央	右端	
500 × 1000	D00	4/2	4/2	4/2	左端 右端	4/2	4/2	4/2	左端 右端	2 - D13 #200	2 - D13 #200	2 - D13 #200	2 - 2-D13

符号	断面 B×D			主筋径	上端筋				下端筋				あばら筋			腹筋	
	始端	中央	終端		始端	中央	終端	カットオフ長さ	始端	中央	終端	カットオフ長さ	始端	中央	終端		
rFG1	400 × 1250	400 × 1250	400 × 1250	D19	4/1	4/1	4/1		4/1	4/1	4/1		2-D13#200	2-D13#200	2-D13#200	3- 2-D13	
rFG1A	400 × 1250	400 × 1250	400 × 1250	D19	3/0	3/0	3/0		3/0	3/0	3/0		2-D13#200	2-D13#200	2-D13#200	3- 2-D13	
rFG1B	400 × 1100	400 × 1100	400 × 1100	D19	4/1	4/1	4/1		4/1	4/1	4/1		2-D13#200	2-D13#200	2-D13#200	2- 2-D13	
rFG2	450 × 1250	450 × 1250	450 × 1250	D19	3/2	3/0	3/2	2300	2300	3/1	3/0	3/1		2-D13#200	2-D13#200	2-D13#200	3- 2-D13
rFG3	400 × 1250	400 × 1250	400 × 1250	D19	4/0	4/0	4/0		3/0	3/0	3/0		2-D13#200	2-D13#200	2-D13#200	3- 2-D13	
rFG3A	400 × 1250	400 × 1250	400 × 1250	D19	4/2	4/0	4/0	2000		4/0	4/0	4/0		2-D13#200	2-D13#200	2-D13#200	3- 2-D13
rFG4	400 × 1250	400 × 1250	400 × 1250	D19	4/0	4/0	4/0		4/0	4/0	4/0		2-D13#200	2-D13#200	2-D13#200	3- 2-D13	
rFG11	400 × 1250	400 × 1250	400 × 1250	D19	4/1	4/1	4/1		4/1	4/1	4/1		2-D13#200	2-D13#200	2-D13#200	3- 2-D13	
rFG11A	400 × 1350	400 × 1350	400 × 1350	D19	3/0	3/0	3/0		3/0	3/0	3/0		2-D13#200	2-D13#200	2-D13#200	3- 2-D13	
rFG12	450 × 1250	450 × 1250	450 × 1250	D19	5/0	5/0	5/0		4/0	4/0	4/0		2-D13#200	2-D13#200	2-D13#200	3- 2-D13	
rFG13	450 × 1250	450 × 1250	450 × 1250	D19	3/0	3/0	3/0		3/0	3/0	3/0		2-D13#150	2-D13#150	2-D13#150	3- 2-D13	
rFG14	450 × 1250	450 × 1250	450 × 1250	D19	5/2	5/0	5/2	2100	2100	5/0	5/0	5/0		2-D13#200	2-D13#200	2-D13#200	3- 2-D13
rFG14A	450 × 1600	450 × 1600	450 × 1600	D19	5/2	5/0	5/2	2300	2300	5/0	5/0	5/0		2-D13#200	2-D13#200	2-D13#200	4- 2-D13

基礎配筋表

符号	Lx (mm)	Ly (mm)	D (mm)	Lx方向 下端主筋	Ly方向 下端主筋	はかま筋
rF1X	1800	1500	550	8-D16	10-D13	D13#300
rF1Y	1500	1800	550	10-D13	8-D16	D13#300
rF2A	2200	1500	500	8-D19	12-D13	D13#300
rF2X	2200	1500	600	8-D19	12-D13	D13#300
rF2Y	1500	2200	600	12-D13	8-D19	D13#300
rF3	2400	1500	600	8-D19	13-D13	D13#300
rF4X	2800	1500	700	8-D22	15-D13	D13#300
rF4Y	1500	2800	700	15-D13	8-D22	D13#300
rF5	3400	1500	800	11-D22	18-D13	D13#300

底版断面表

底版 符号	スラブ 厚	短辺方向・主筋		長辺方向・配筋		備考
		上端筋	下端筋	上端筋	下端筋	
DC1	150	D13#200		D13#200		土間コンクリート (シングル配筋)

公立大学法人 滋賀県立大学
高専開設準備局 総務・施設整備課



株式会社 東畑建築事務所
TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.

設計番号
20240631-2
一級建築士 No. 272847
石井 康彦

一級建築士 No. 248486
構造設計一級建築士 No. 4009
木下 隆嗣

一級建築士 No. 334956
設備設計一級建築士 No. 4756
工藤 征志

工事名称 滋賀県立高等専門学校
(第2工区) 新築工事
図面名称 【学生寮】基礎・RC部材断面表

縮尺 A1:
A3:

S210

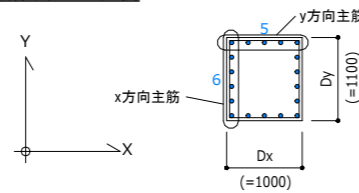
柱断面表

特記のない場合は下記による。

1. パネルゾーン帯筋は□-D13@100とする。

階	断面	主筋	x方向	y方向	帯筋
	1000×1100	22-D25	6	7	□-D13@100

柱断面リスト凡例



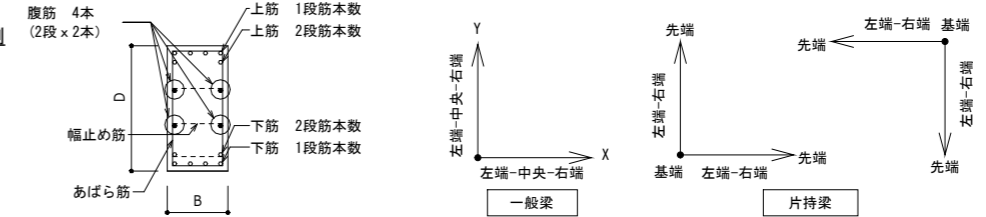
階	断面	主筋	x方向	y方向	帯筋	備考
rC1						
2FL	550×550	16-D19	5	5	□-D13@100	
1FL	550×550	16-D19	5	5	□-D13@100	
rC2						
2FL	550×550	16-D19	5	5	□-D13@100	
1FL	550×550	16-D19	5	5	□-D13@100	
rC3						
2FL	550×400	14-D19	4	5	□-D13@100	
1FL	550×400	14-D19	4	5	□-D13@100	

大梁断面表

特記のない場合は下記による。

1. 幅止め筋 D10-「」@1000
2. 梁端部主筋カットオフ筋の長さは、1/4 L0+15d とする。
(L0は梁の内法寸法、dは鉄筋の呼び径)

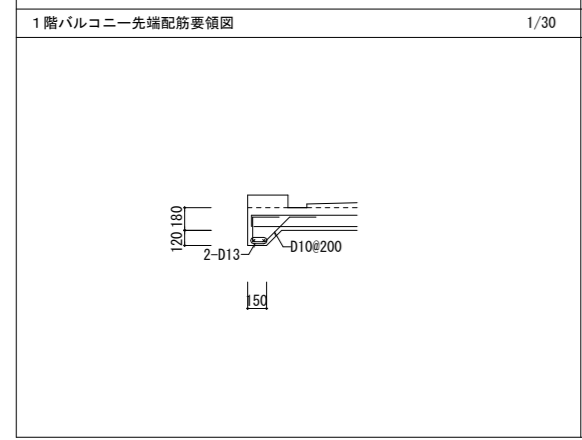
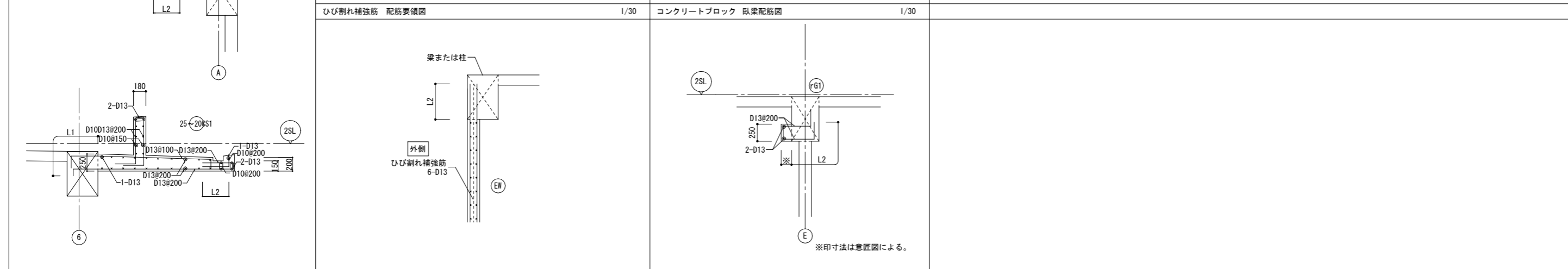
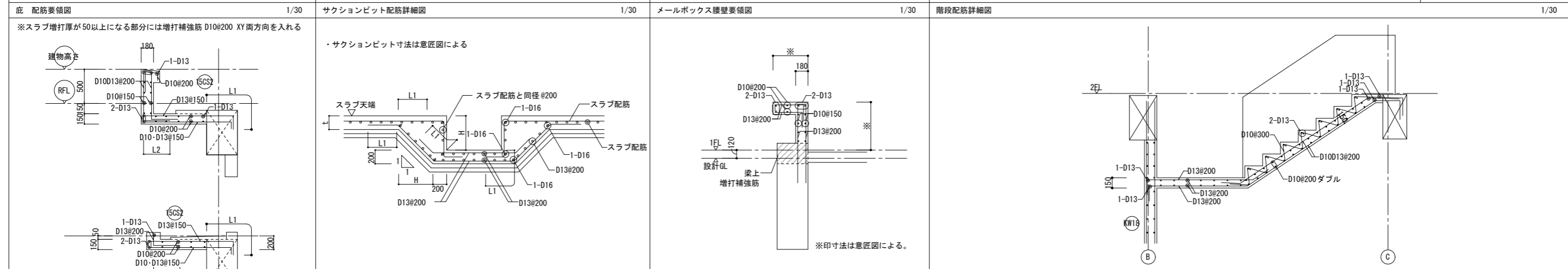
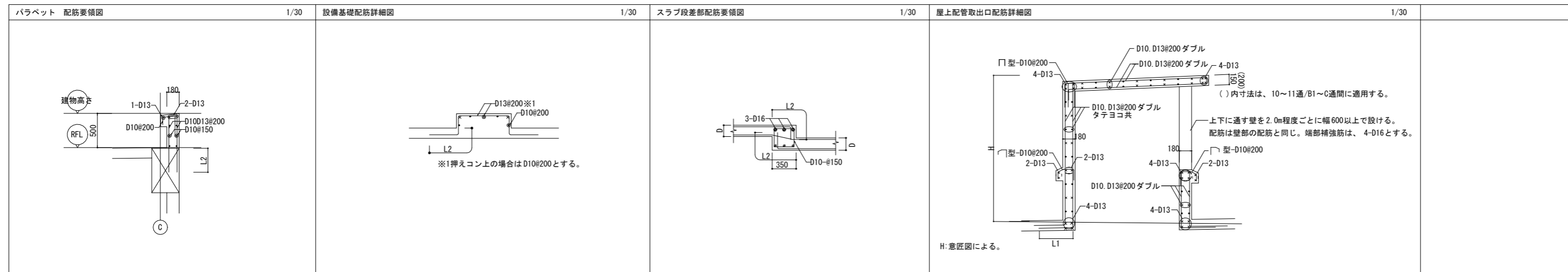
RC梁断面リスト凡例

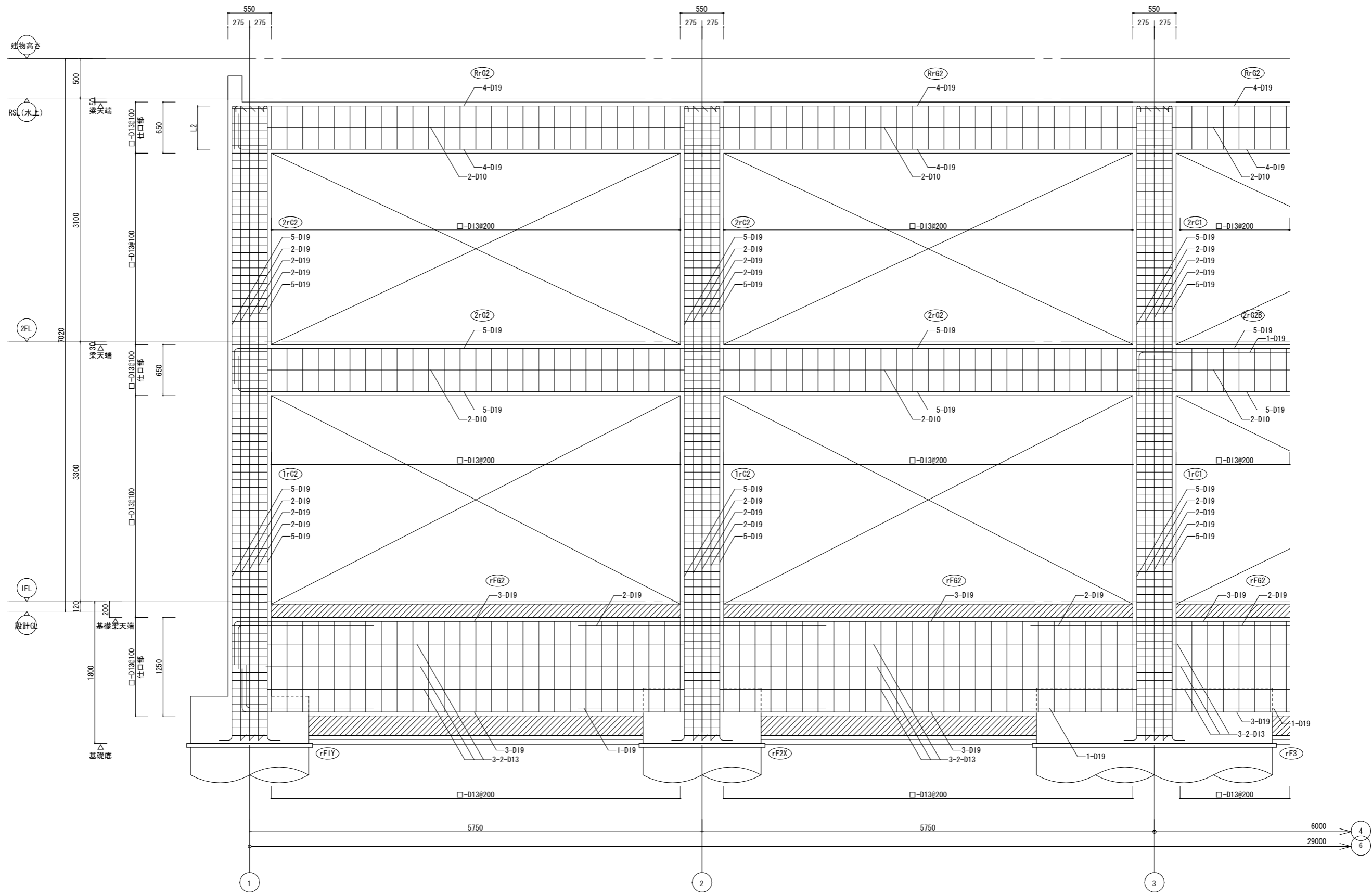


階	断面 B×D	主筋径	上端筋			下端筋			あばら筋			腹筋						
			左端	中央	右端	左端	中央	右端	左端	中央	右端							
階	断面 B×D	主筋径	上端筋			下端筋			あばら筋			腹筋						
			始端	中央	終端	始端	中央	終端	始端	中央	終端							
階	断面 B×D	主筋径	上端筋			下端筋			あばら筋			腹筋						
			始端	中央	終端	始端	中央	終端	始端	中央	終端							
rG1	RSL (水上)	400×650	400×650	400×650	D19	4/0	4/0	4/0				2-D13@200	2-D13@200	2-D13@200	1- 2-D10			
	2FL	400×650	400×650	400×650	D19	4/0	4/0	4/0				2-D13@200	2-D13@200	2-D13@200	1- 2-D10			
rG1A	RSL (水上)	400×650	400×650	400×650	D19	4/1	4/1	4/1				2-D13@200	2-D13@200	2-D13@200	1- 2-D10			
	2FL	400×650	400×650	400×650	D19	4/1	4/1	4/1				2-D13@200	2-D13@200	2-D13@200	1- 2-D10			
rG2	RSL (水上)	450×650	450×650	450×650	D19	4/0	4/0	4/0				2-D13@200	2-D13@200	2-D13@200	1- 2-D10			
	2FL	450×650	450×650	450×650	D19	5/0	5/0	5/0				2-D13@200	2-D13@200	2-D13@200	1- 2-D10			
rG2A	2FL	550×650	550×650	550×650	D19	6/4	6/4	6/0	0			2-D13@200	2-D13@200	2-D13@200	1- 2-D10			
rG2B	2FL	450×650	450×650	450×650	D19	5/1	5/1	5/1				2-D13@200	2-D13@200	2-D13@200	1- 2-D10			
rG3	RSL (水上)	450×650	450×650	450×650	D19	4/1	4/0	4/1				2-D13@200	2-D13@200	2-D13@200	1- 2-D10			
	2FL	450×650	450×650	450×650	D19	5/1	5/0	5/1				2-D13@200	2-D13@200	2-D13@200	1- 2-D10			
rG3A	2FL	400×650	400×650	400×650	D19	4/2	4/2	4/2				2-D13@200	2-D13@200	2-D13@200	1- 2-D10			
rG3B	2FL	550×650	550×650	550×650	D19	6/0	6/0	6/5	1800	6/0	6/0	6/0	0		2-D13@200	2-D13@200	2-D13@200	1- 2-D10
rG4	RSL (水上)	450×650	450×650	450×650	D19	5/0	5/0	5/0				2-D13@200	2-D13@200	2-D13@200	1- 2-D10			
	2FL	450×650	450×650	450×650	D19	4/0	4/0	4/0				2-D13@200	2-D13@200	2-D13@200	1- 2-D10			
rG11	RSL (水上)	400×650	400×650	400×650	D19	4/0	4/0	4/0				2-D13@200	2-D13@200	2-D13@200	1- 2-D10			
	2FL	400×650	400×650	400×650	D19	4/0	4/0	4/0				2-D13@200	2-D13@200	2-D13@200	1- 2-D10			
rG12	RSL (水上)	300×650	300×650	300×650	D19	3/0	3/0	3/0				2-D13@200	2-D13@200	2-D13@200	1- 2-D10			
	2FL	300×650	300×650	300×650	D19	3/0	3/0	3/0				2-D13@150	2-D13@150	2-D13@150	1- 2-D10			
rG12A	RSL (水上)	400×650	400×650	400×650	D19	4/0	4/0	4/0				2-D13@200	2-D13@200	2-D13@200	1- 2-D10			
	2FL	400×650	400×650	400×650	D19	4/0	4/0	4/0				2-D13@150	2-D13@150	2-D13@150	1- 2-D10			
rG13	RSL (水上)	400×650	400×650	400×650	D19	4/0	4/0	4/0				2-D13@200	2-D13@200	2-D13@200	1- 2-D10			
	2FL	400×650	400×650	400×650	D19	4/0	4/0	4/0				4-D13@150	4-D13@150	4-D13@150	1- 2-D10			
rG14	RSL (水上)	450×650	450×650	450×650	D19	5/2	5/0	5/2				2-D13@200	2-D13@200	2-D13@200	1- 2-D10			
	2FL	550×650	550×650	550×650	D19	6/5	6/2	6/5	2000	2000	6/0	6/2	6/0		2-D13@150	2-D13@150	2-D13@150	1- 2-D10
rG14A	2FL	450×650	450×650	450×650	D19	5/0	5/0	5/0				2-D13@150	2-D13@150	2-D13@150	1- 2-D10			
rG61	RSL (水上)	400×600		400×600	D19	5/3		5/3				5/0	5/0		2-D13@200		2-D13@200	1- 2-D10

小梁断面表

符号	断面 B×D			主筋径	上端筋			下端筋			あばら筋			腹筋
	始端	中央	終端		始端	中央	終端	始端	中央	終端	始端	中央	終端	
rB40	300×400	300×400	300×400	D19	3/0	3/0	3/0	3/0	3/0	3/0	2-D10@200	2-D10@200	2-D10@200	0- 2-D10
rB50	300×500	300×500	300×500	D22	3/0	3/0	3/0	3/0	3/0	3/0	2-D10@200	2-D10@200	2-D10@200	0- 2-D10
rB60	300×600	300×600	300×600	D19	3/1	3/0	3/1	3/0	3/1	3/0	2-D10@200	2-D10@200	2-D10@200	1- 2-D10
rB60A	250×600	250×600	250×600	D22	2/0	2/0	2/0	2/0	2/0	2/0	2-D10@200	2-D10@200	2-D10@200	1- 2-D10
rB65	450×650	450×650	450×650	D19	5/0	5/0	5/0	5/0	5/3	5/0	2-D13@200	2-D13@200	2-D13@200	1- 2-D10
rB65A	450×650	450×650	450×650	D22	5/0	5/0	5/2	5/0	5/0	5/0	2-D13@200	2-D13@200	2-D13@200	1- 2-D10
rB65B	450×650	450×650	450×650	D22	5/2	5/0	5/0	5/0	5/0	5/0	2-D13@200	2-D13@200	2-D13@200	1- 2-D10
rB65C	400×650	400×650	400×650	D19	5/3	5/0	5/3	5/0	5/0	5/0	2-D13@200	2-D13@200	2-D13@200	1- 2-D10
rB70	400×700	400×700	400×700	D22	4/0	4/0	4/2	4/0	4/1	4/0	2-D13@200	2-D13@200	2-D13@200	1- 2-D10
rB70A	400×700	400×700	400×700	D22	4/2	4/2	4/2	4/0	4/0	4/0	2-D13@200	2-D13@200	2-D13@200	1- 2-D10

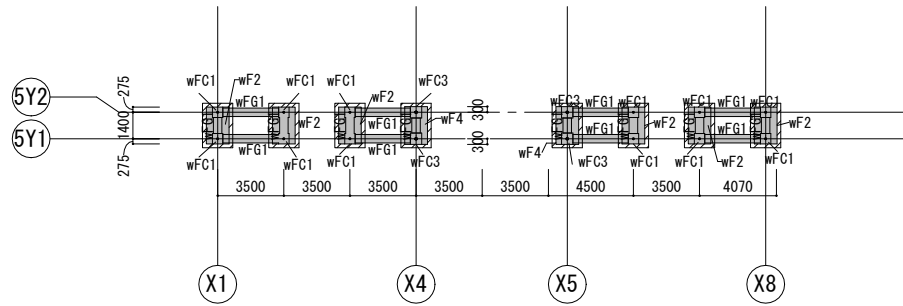




B通架構配筋図

特記なき限り、下記による。
 1. 印は増打部分を示す。

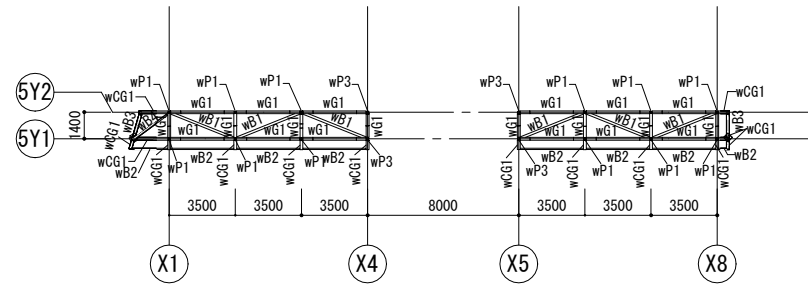
公立大学法人 滋賀県立大学 高専開校準備局 総務・施設整備課		設計番号 20240631-2	一級建築士 No. 248486	一級建築士 No. 334956	工事名称 滋賀県立高等専門学校 (第2工区) 新築工事	図面番号 S213
		一級建築士 No. 272847	構造設計一級建築士 No. 4009	一級建築士 No. 4756	図面名称 【学生寮】架構配筋図	
		石井 康彦	木下 隆嗣	工藤 征志	縮尺 A1: 1/50 A3: 1/100	



基礎伏図

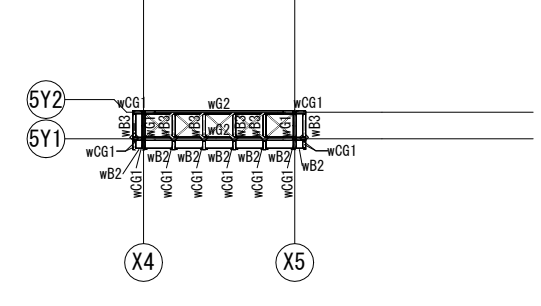
○注記
 特記なき限り、下記による。
 ・1FL(学)は学生寮の1FL(99.05)を示す。
 ・通芯=基礎芯=柱芯=梁芯とする。
 ・基礎底レベルは軸組図による。
 ・基礎梁天端レベルは1FL(学)-350とする。
 ・は地盤改良範囲を示し、長期許容支持力は60kN/m²とする。
 地盤改良の仕様、品質管理等は、「渡り廊下構造図その2」による。

屋根伏図(水上B,C)2



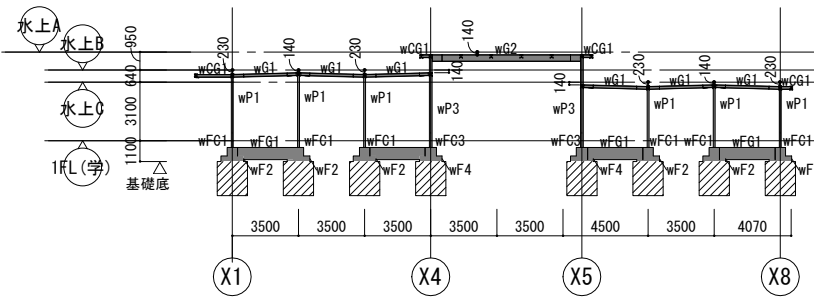
屋根伏図(水上B,C)

○注記(屋根伏図共通)
 特記なき限り、下記による。
 ・通芯=柱芯=梁芯(ウェブ芯)とする。
 ・鉄骨梁端部の接合部は原則として、大梁、片持梁(wG, wCG符号)は剛接合、小梁(wB符号)はピン接合とし、図中の表記は省略する。
 ・梁天端レベルは軸組図による。

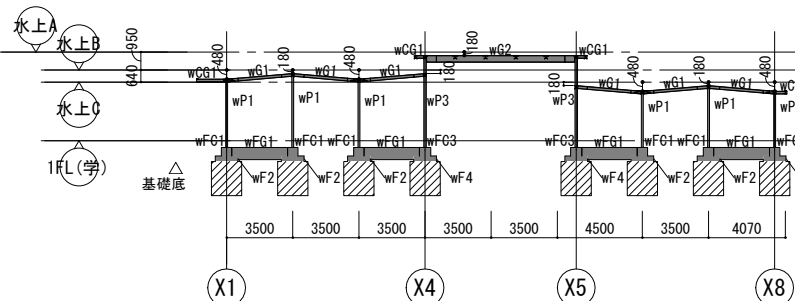


屋根伏図(水上A)

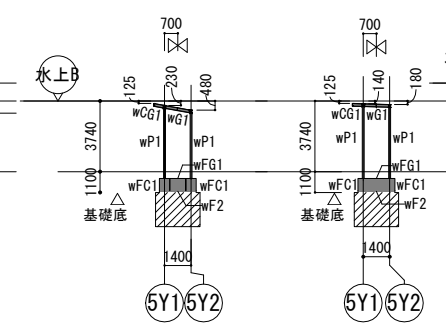
○注記(水上3)
 特記なき限り、下記による。
 ・水平ブレース(屋根面)はHV1とする。



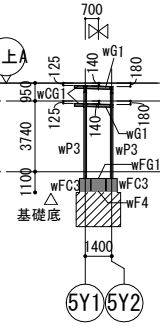
Y1通軸組図



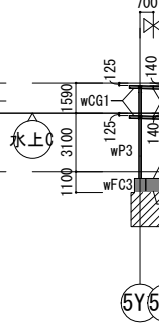
Y2通軸組図



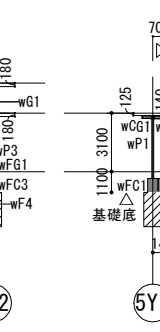
X1通軸組図



X2通軸組図



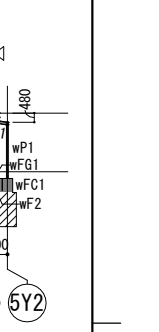
X4通軸組図



X5通軸組図



X7通軸組図



X8通軸組図

○注記(軸組図共通事項)
 特記なき限り、下記による。
 ・1FL(学)は学生寮の1FL(99.05)を示す。
 ・基礎梁天端は、1FL(学)-350、BPL下端は1FL(学)-320とする。
 ・大梁、片持梁(wG, wCG符号)の継手位置は通芯から600とする。
 片持梁の継手は、長さ1200を超える部材の基端側に設ける。
 ・は継手位置を示す。
 ・は地盤改良(浅層改良)を示し、改良層は1FL(学)-2800とする。

基礎断面表

符号	厚	幅	主筋	配力筋	はかま筋
wF2	300	1200	D13@200	D13@200	D13@200
wF4	300	1200	D13@200	D13@200	D13@200

礎柱断面表 注記

特記のない場合は下記による。
 ・帯筋はH形とする。

基礎梁断面表

特記のない場合は下記による。
 1. 幅止め筋 D10- \rightarrow @1000

符号	断面(Dx x Dy)	主筋			帯筋	備考
		径	x方向本数	y方向本数		
wFC1	550 x 550	D19	5	5	2-2-D10@125	
wFC3	600 x 600	D19	5	5	2-2-D10@125	

符号	断面 B x D	主筋径	上端筋			下端筋			あばら筋	腹筋
			左端	中央	右端	左端	中央	右端		
wFG1	450 x 650	D19	4/0	4/0	4/0	4/0	4/0	4/0	2-D13@200	2-2-D10

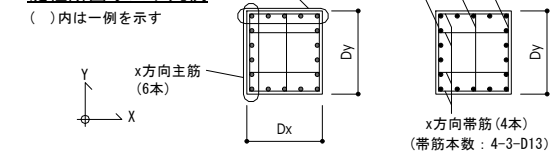
鉄骨部材断面表

符号	断面	鋼材種別	備考
wB1	H-125x125x6.5x9	SS400	
wB2	[-125x65x6x8	SS400	
wB3	H-150x150x7x10	SS400	
wB4	L-65x65x6x6	SS400	
wCG1	H-150x150x7x10	SS400	
wG1	H-150x150x7x10	SS400	
wG2	H-350x175x7x11	SS400	

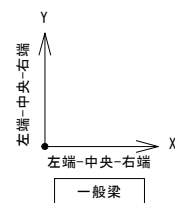
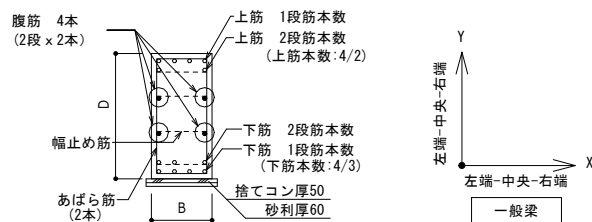
wP1	○-101.6x8.1	STK400	BPL:25x270x270 Abolt:4-M20
wP3	○-139.8x6.6	STK400	BPL:28x300x300 Abolt:4-M20

HV1	φ20	SS400	ターンバックル付き
-----	-----	-------	-----------

礎柱断面リスト凡例



RC梁断面リスト凡例



公立大学法人 滋賀県立大学
 高専開設準備局 総務・施設整備課



株式会社 東畑建築事務所
 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.

設計番号
 20240631-2
 一級建築士 No.2728847
 石井 康彦

一級建築士 No.248486
 構造設計一級建築士 No.4009
 木下 隆嗣

一級建築士 No.334956
 設備設計一級建築士 No.4756
 工藤 征志

工事名称 滋賀県立高等専門学校
 新築工事(第2工区)

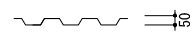
図面名称 渡り廊下 構造図その1

縮尺 A1: 1/200
 A3: 1/400

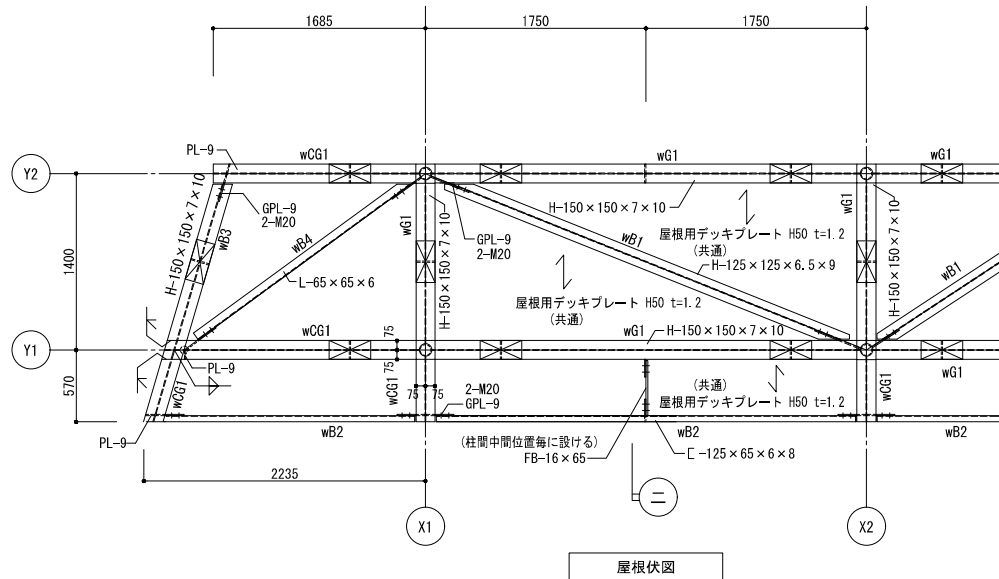
図面番号

S301

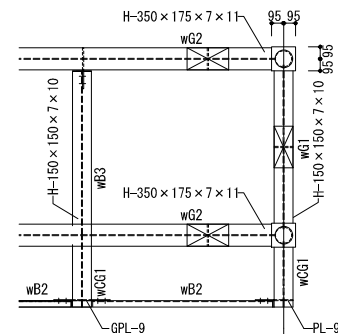
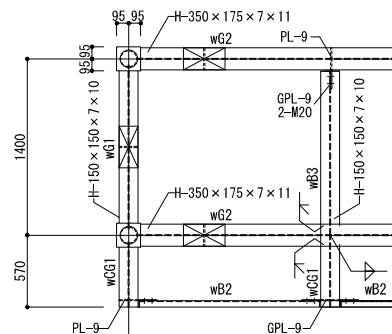
屋根用デッキプレート



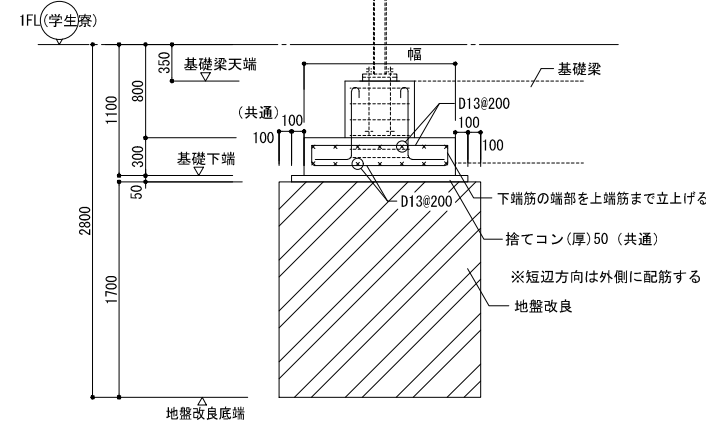
t=1.2 30分耐火認定品
詳細な仕様は、「屋根用デッキプレート標準図」による



屋根伏図(水上A)



継手仕様(梁:H-350x175)
フランジ 4×4-M20 外:2PL-9×150×330
内:4PL-12×60×330
ウェブ 3×2-M20 2PL-6×170×260
(ボルト:F8T)

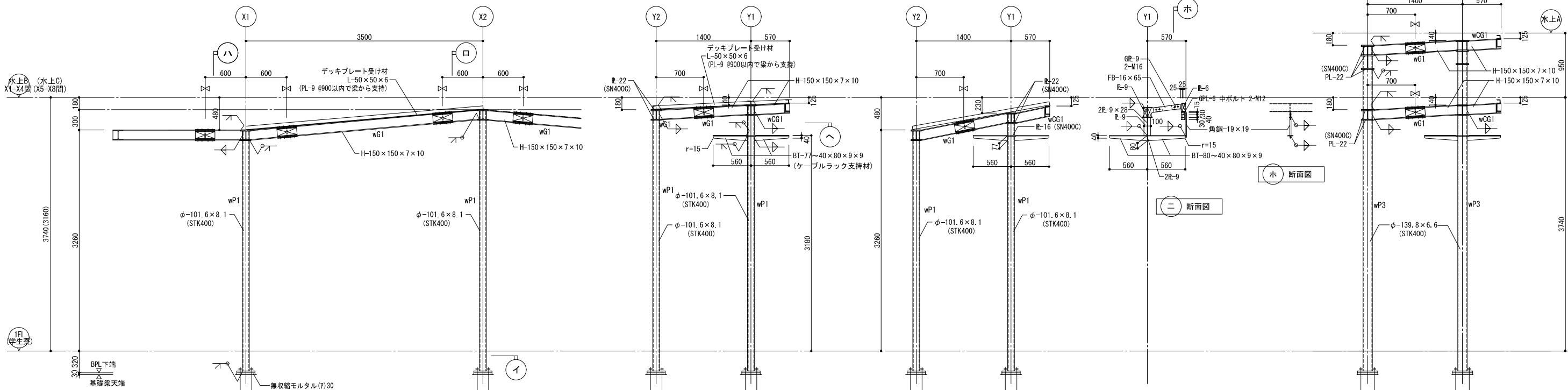


○地盤改良仕様

工法 : セメント系固化剤による浅層混合処理工法
改良目標値 : 長期許容支持力 60kN/m² (Fc=180kN/m²)
(平板荷重試験 計3ヶ所 (ゾーン毎に1か所ずつ))
固化剤添加量 : 100kg/m³程度

- ・適用基準: 「改訂版 建築物のための改良地盤の設計および品質管理指針」。
- ・現場施工に先立ち、原地盤土による室内配合試験を行い固化剤配合量を決定のこと。固化剤は六価クロム低溶出型を使用する。
- ・現場施工に先立ち、六価クロム溶出試験を行うこと。(環境庁告示第46号の試験方法1による。)
- ・改良地盤より供試体を探取し一軸圧縮試験を行い強度を確認のこと。
- ・本工事に先立ち、施工計画書を作成し、監督員の承諾を受けること。
- ・アルカリ性成分を含む水分が場外、雨水側溝等に流出しないように対策を行うこと。
- ・本施工に先立ち、試掘を行い支持地盤の確認を行うこと。

渡り廊下4: 3か所程度



継手仕様(梁:H-150x150)
フランジ 4×4-M20 外:2PL-9×150×330
内:4PL-12×60×330
ウェブ 2×2-M20 2PL-6×100×290
(ボルト:F8T)

Y2通軸組図

(SM490A) BPL-25×270×270
A.bolt 4-M20 (ABR400) L=400
定着板 PL-12×60×60 二重ナット締め

○注記

1. 特記のない場合、鋼材の材質はSS400とする。
2. 鋼材は、溶融垂鉛めっきとする。
3. ボルトは溶融垂鉛めっき高力ボルトF8T相当とする。
4. ※は、現場継手位置を示す。
5. デッキプレート受け材は、屋根、谷部梁WB1上にも設ける。
6. ケーブルラック支持材は、渡り廊下1,2の柱位置、柱中間点、端部はね出し部先端に設ける。

BPL-28×300×300(SM490A)
A.bolt 4-M20 (ABR400) L=400
二重ナット締め 定着板 PL-12×60×60